

茨城県教育財団文化財調査報告第452集

那珂市

下大賀遺跡 2

一般国道118号道路改築
事業地内埋蔵文化財報告書Ⅱ

令和3年3月

茨城県常陸大宮土木事務所
公益財団法人茨城県教育財団

國家教育委員會 財團文化財調查報告第一號 國家教育委員會 財團文化財調查報告第一號

茨城県教育財団文化財調査報告第452集

那珂市

しも おお が
下大賀遺跡 2

一般国道118号道路改築
事業地内埋蔵文化財報告書Ⅱ

令和3年3月

茨城県常陸大宮土木事務所
公益財団法人茨城県教育財団

序

公益財団法人茨城県教育財団は、国や県などの各事業者から委託を受けて埋蔵文化財の発掘調査と整理業務を実施することを主な目的として、昭和52年に調査課が設置されて以来、数多くの遺跡の発掘調査を実施し、その成果として発掘調査報告書を刊行してきました。

この度、茨城県常陸大宮土木事務所による一般国道118号道路改築事業に伴って実施した、那珂市下大賀遺跡の発掘調査報告書を刊行する運びとなりました。

今回の調査区は当遺跡の東部にあたり、古墳時代から奈良・平安時代にかけての竪穴建物跡や掘立柱建物跡などが確認でき、当地域の集落の様相が明らかになりました。本書が、歴史研究の学術資料としてはもとより、郷土の歴史に対する理解を深め、教育・文化の向上のための資料として広く活用いただければ幸いです。

最後になりますが、発掘調査から本書の刊行に至るまで、多大な御協力を賜りました委託者であります茨城県常陸大宮土木事務所に対して厚く御礼申し上げますとともに、茨城県教育委員会、那珂市教育委員会をはじめ、御指導、御協力をいただきました関係各位に対し、心から感謝申し上げます。

令和3年3月

公益財団法人茨城県教育財団

理事長 柴原 宏 一

例 言

1 本書は、茨城県常陸大宮土木事務所の委託により、公益財団法人茨城県教育財団が平成25・28・29・31・令和元年度に発掘調査を実施した、茨城県那珂市瓜連1476-26番地ほか^{（上掲あり）}に所在する下大貫遺跡の発掘調査報告書である。

2 発掘調査期間及び整理期間は以下のとおりである。

調査 平成25年5月1日～6月30日

平成28年10月1日～平成29年3月31日

平成29年4月3日～平成30年3月31日

平成31年4月1日～令和元年6月30日

整理 令和2年4月1日～令和3年3月31日

3 発掘調査は、平成25年度は調査課長白田正子、平成28・29・31・令和元年度は副参事兼調査課長白田正子のもと、以下の者が担当した。

平成25年度

首席調査員兼班長 綿引 英樹

次席調査員 齋藤 和浩 調査員 内田 勇樹

平成28年度

首席調査員兼班長 奥沢 哲也 平成28年10月1日～10月31日

首席調査員兼班長 駒澤 悦郎 平成28年11月1日～平成29年3月31日

次席調査員 永井 敦

調査員 盛野 浩一 平成28年10月1日～10月31日

調査員 内堀 団 平成28年11月1日～平成29年3月31日

平成29年度

首席調査員兼班長 奥沢 哲也

次席調査員 永井 敦

調査員 見越 広幸 嘱託調査員 宮内 良隆

嘱託調査員 海老澤 稔 嘱託調査員 荒井 保雄

平成31・令和元年度

首席調査員兼班長 櫻井 完介

次席調査員 田村 雅樹

4 嘱託調査員 荒井 保雄

5 整理及び本書の執筆・編集は、整理課長小林和彦のもと、嘱託調査員野田良直が担当した。

本書の執筆分担は、下記のとおりである。

嘱託調査員 野田 良直 第1章～第3章、第1節～第4節

株式会社 イビソク 第3章第3節4(3)

6 本書の作成にあたり、鉄製品の保存処理及び短刀木質部樹種同定については、株式会社イビソクに委託し、その成果は、第3章第3節4(3)に掲載した。

- 7 下記の金属製品の保存処理については、バリノ・サーヴェイ株式会社に委託した。
第 198 号竪穴建物跡出土の鑿状工具 2 点、第 238 号竪穴建物跡出土の丸轆 1 点、第 1237 号土坑出土の刀子 1 点、第 1359 号土坑出土の刀子 1 点、第 1359 号土坑出土の刀子 1 点
- 8 下記の金属製品の保存処理については、埋蔵文化財の保存処理 いしかわに委託した。
第 204 号竪穴建物跡出土の鉄鏝 1 点、第 212 号竪穴建物跡出土の鋤先 1 点
- 9 当遺跡から出土した須恵器の産地・年代等については、ひたちなか市生活・文化・スポーツ公社 埋蔵文化財調査センター所長 佐々木義則氏にご指導いただいた。
- 10 出土した一部の石器・石製品の材質については、茨城大学名誉教授（地質学）・日立市郷土博物館特別専門職田切美智雄氏にご指導いただいた。
- 11 本遺跡の出土遺物及び実測図・写真等は、茨城県埋蔵文化財センターにて保管されている。

凡 例

- 1 当遺跡の地区設定は、日本平面直角座標第IX系座標に準拠し、X = + 56,840 m、Y = + 54,360 mの交点を基準点 (A 1a1) とした。なお、この原点は、世界測地系 (測地成果 2011) による基準点である。

この基準点を基に遺跡範囲内を東西・南北各々 40 m四方の大調査区に分割し、さらに、この大調査区を東西・南北に各々10等分し、4 m四方の小調査区を設定した。








大調査区の名称は、アルファベットと算用数字を用い、北から南へA、B、C…、西から東へ1、2、3…とし、「A 1区」のように呼称した。さらに小調査区は、北から南へa、b、c…、西から東へ1、2、3…0と小文字を付し、名称は、大調査区の名称を冠して「A 1a1区」のように呼称した。

- 2 実測図、遺構・遺物一覧等で使用した記号は次のとおりである。

遺構	P-ピット PG-ピット群 SA-柱穴列 SB-掘立柱建物跡 SD-溝跡 SE-井戸跡 SF-道路跡 SI-竪穴建物跡 SK-土坑 TP-陥し穴
土層	K-攪乱
土層解説	ローム-ロームブロック 焼土-焼土ブロック 粘土-粘土ブロック 粘-粘性 締-締まり サイズは「大・中・小・粒」で、炭化物については「材・物・粒」で表記した。 含有量 A-多量 B-中量 C-少量 D-微量 粘性・締まり A-強い B-普通 C-弱い

- 3 遺構・遺物実測図の作成方法については、次のとおりである。

- (1) 遺構全体図は 400 分の 1、各遺構の実測図は原則として 60 分の 1 の縮尺とした。種類や大きさにより異なる場合は、個々に縮尺をスケールで表示した。
- (2) 遺物実測図は、原則として 3 分の 1 の縮尺とした。種類や大きさにより異なる場合は、個々に縮尺をスケールで表示した。
- (3) 遺構・遺物実測図中の表示は、次のとおりである。

	焼土・灰釉・施釉・施釉断面		炉・火床面・黒色処理		
	竈部材 (竈掘方覆土)・粘土		柱痕跡・柱あたり		
	須恵器断面		凝灰質泥岩		朱書
●土器 ○土製品 □石器・石製品 △金属製品 - - - - 硬化面					

- 4 土層観察と遺物における色調の判定は、『新版標準土色帖』(小山正忠・竹原秀雄編著 日本色研事業株式会社)を使用した。

- 5 遺構・遺物一覧の表記は、次のとおりである。

- (1) 計測値の単位はm、cm、gで示した。なお、現存値は()を、推定値は[]を付けて示した。
- (2) 遺物番号は遺構ごとの通し番号とし、本文、挿図、表、写真図版に記した番号と同一とした。
- (3) 遺物一覧の備考の欄は、残存率、写真図版番号及びその他必要と思われる事項を記した。

- 6 竪穴建物跡の「主軸」は、炉・竈を通る軸線とし、主軸方向は、その他の遺構の長軸(径)方向と共に、座標北からみて、どの方向にどれだけ振れているかを角度で表示した(例 N - 10° - E)。

- 7 今回報告する遺構の調査年次及び、整理の段階で遺構名・調査区を変更・欠番にしたものは以下のとおりである。

平成 25 年度調査 (2013)

SI13, SK26 ~ 47, SD 9, PG 7

平成 28 年度調査 (2016)

SK701 ~ 758・760・768, SD 2 ~ 5・24・25, PG11 ~ 13

平成 29 年度調査 (2017)

SI197 ~ 223・225 ~ 247, SB21 ~ 23, SA 4, SK760・1139・1239 ~ 1451・1457・1458・1461・1466・1469 ~ 1480・1482・1484 ~ 1490・1492 ~ 1498, SD12 ~ 15・32 ~ 36, PG15 ~ 28

平成 31 ~ 令和元年度調査 (2019)

SI251・252, SB25, SA 5・6, SK1631 ~ 1666, SD 7・8・43, SF 1, PG32 ~ 40

変 更

SK760 → SE 6, SK40 → TP 3, SK1637 → TP 4, SK1643 → TP 5, SK1646 → TP 6, SK1649 → TP 7, SK1661 → TP 8, SK701 ~ 723・732・733 → PG11, SK734・735・739 ~ 751・753・PG13 → PG12, SK1252 ~ 1254・1256 ~ 1260・1277・1301・1302・1304・1307・PG16 → PG15, SK1296・PG22 → PG18, PG19 → PG20, SK1312・1313・1318・1322 → PG23, SK1400・1401・1404 ~ 1409・1416・1422・1424・1426・1428 ~ 1432・1434 ~ 1436・1442 ~ 1446 → PG26, SA 5・6・PG35 → PG32, PG34 → PG36, SK1325 ~ 1330・1332 ~ 1341・1343 ~ 1346 → PG41, SK1268 → 第 1 号掘り込み遺構

調査区は本整理が、当財団「第 399 集」の調査区の延長上にあるため、平成 31・令和元年度調査 (2019) は調査 A 区、平成 25 年度調査 (2013) は調査 B 区、平成 28 年度調査 (2016) の南部地区、平成 29 年度調査 (2017) の 3 区を調査 C 区、平成 29 年度調査 (2017) の 2 区を調査 D 区に変更した。

欠 番

SK754・759・1371・1380 ~ 1382・1467・1468・1481・1483・1491

目 次

序	
例 言	
凡 例	
下大賀遺跡の概要	1
第1章 調査経緯	3
第1節 調査に至る経緯	3
第2節 調査経過	4
第2章 位置と環境	5
第1節 位置と地形	5
第2節 歴史的環境	5
第3章 調査の成果	11
第1節 調査の概要	11
第2節 基本層序	11
第3節 遺構と遺物	12
1 縄文時代の遺構と遺物	12
陥し穴	12
2 古墳時代の遺構と遺物	15
竪穴建物跡	15
3 奈良・平安時代の遺構と遺物	17
(1) 竪穴建物跡	17
(2) 掘立柱建物跡	131
(3) 土 坑	134
4 中世の遺構と遺物	145
(1) 掘立柱建物跡	145
(2) 井戸跡	147
(3) 土 坑	148
第1651号土坑出土遺物の樹種同定(短刀付着木質部)	149
5 その他の遺構と遺物	151
(1) 柱穴列	151
(2) 土 坑	151
(3) 溝 跡	175
(4) 道路跡	178
(5) ビット群	179
(6) 掘り込み遺構	188
6 遺構外出土遺物	190
第4節 総 括	191
写真図版	PL 1～PL44
抄 録	
付 図	

挿 図 目 次

第 1 図	下大賀道路周辺道路分布図 (国土地理院25,000分の1〔常陸大宮・石塚〕) …… 8	第 61 図	第217号堅穴建物跡実測図 …… 69
第 2 図	下大賀道路調査区設定図 (那珂市都市計画図2,500分の1) …… 10	第 62 図	第217号堅穴建物跡出土遺物実測図 …… 71
第 3 図	基本土層図 …… 11	第 63 図	第218号堅穴建物跡・出土遺物実測図 …… 72
第 4 図	第 3号陥し穴実測図 …… 12	第 64 図	第219号堅穴建物跡実測図 …… 73
第 5 図	第 4号陥し穴実測図 …… 12	第 65 図	第219号堅穴建物跡・出土遺物実測図 …… 74
第 6 図	第 5号陥し穴実測図 …… 13	第 66 図	第219号堅穴建物跡出土遺物実測図 …… 75
第 7 図	第 6号陥し穴実測図 …… 13	第 67 図	第220号堅穴建物跡実測図 …… 76
第 8 図	第 7号陥し穴実測図 …… 14	第 68 図	第220号堅穴建物跡出土遺物実測図 …… 77
第 9 図	第 8号陥し穴実測図 …… 14	第 69 図	第221号堅穴建物跡・出土遺物実測図 …… 79
第 10 図	第243号堅穴建物跡実測図 …… 15	第 70 図	第221号堅穴建物跡出土遺物実測図 …… 80
第 11 図	第243号堅穴建物跡・出土遺物実測図 …… 16	第 71 図	第222号堅穴建物跡・出土遺物実測図 …… 81
第 12 図	第13号堅穴建物跡実測図 …… 17	第 72 図	第223号堅穴建物跡・出土遺物実測図 …… 83
第 13 図	第13号堅穴建物跡・出土遺物実測図 …… 18	第 73 図	第223号堅穴建物跡出土遺物実測図 …… 84
第 14 図	第197号堅穴建物跡実測図 (1) …… 19	第 74 図	第225号堅穴建物跡実測図 …… 84
第 15 図	第197号堅穴建物跡実測図 (2) …… 20	第 75 図	第225号堅穴建物跡出土遺物実測図 …… 85
第 16 図	第197号堅穴建物跡出土遺物実測図 …… 21	第 76 図	第226号堅穴建物跡・出土遺物実測図 …… 86
第 17 図	第198号堅穴建物跡実測図 …… 23	第 77 図	第227号堅穴建物跡実測図 …… 87
第 18 図	第198号堅穴建物跡出土遺物実測図 …… 24	第 78 図	第227号堅穴建物跡出土遺物実測図 …… 88
第 19 図	第199号堅穴建物跡実測図 …… 26	第 79 図	第228号堅穴建物跡実測図 …… 89
第 20 図	第199号堅穴建物跡出土遺物実測図 (1) …… 27	第 80 図	第228号堅穴建物跡出土遺物実測図 …… 90
第 21 図	第199号堅穴建物跡出土遺物実測図 (2) …… 28	第 81 図	第229号堅穴建物跡実測図 …… 91
第 22 図	第200号堅穴建物跡実測図 …… 30	第 82 図	第229号堅穴建物跡出土遺物実測図 …… 92
第 23 図	第200号堅穴建物跡・出土遺物実測図 …… 31	第 83 図	第230号堅穴建物跡・出土遺物実測図 …… 93
第 24 図	第201号堅穴建物跡実測図 …… 32	第 84 図	第231号堅穴建物跡実測図 …… 94
第 25 図	第201号堅穴建物跡・出土遺物実測図 …… 33	第 85 図	第231号堅穴建物跡出土遺物実測図 …… 95
第 26 図	第202号堅穴建物跡実測図 …… 34	第 86 図	第232号堅穴建物跡実測図 …… 96
第 27 図	第202号堅穴建物跡・出土遺物実測図 …… 35	第 87 図	第232号堅穴建物跡出土遺物実測図 …… 97
第 28 図	第203号堅穴建物跡実測図 …… 36	第 88 図	第233号堅穴建物跡実測図 …… 98
第 29 図	第203号堅穴建物跡出土遺物実測図 …… 37	第 89 図	第234号堅穴建物跡実測図 …… 99
第 30 図	第204号堅穴建物跡実測図 …… 38	第 90 図	第234号堅穴建物跡出土遺物実測図 …… 100
第 31 図	第204号堅穴建物跡出土遺物実測図 (1) …… 39	第 91 図	第235号堅穴建物跡実測図 …… 101
第 32 図	第204号堅穴建物跡出土遺物実測図 (2) …… 40	第 92 図	第235号堅穴建物跡出土遺物実測図 …… 102
第 33 図	第205号堅穴建物跡・出土遺物実測図 …… 41	第 93 図	第236号堅穴建物跡実測図 …… 103
第 34 図	第206号堅穴建物跡実測図 (1) …… 42	第 94 図	第236号堅穴建物跡出土遺物実測図 …… 104
第 35 図	第206号堅穴建物跡実測図 (2) …… 43	第 95 図	第237号堅穴建物跡実測図 …… 105
第 36 図	第206号堅穴建物跡出土遺物実測図 (1) …… 44	第 96 図	第237号堅穴建物跡出土遺物実測図 …… 106
第 37 図	第206号堅穴建物跡出土遺物実測図 (2) …… 45	第 97 図	第238号堅穴建物跡実測図 …… 107
第 38 図	第207号堅穴建物跡・出土遺物実測図 …… 47	第 98 図	第238号堅穴建物跡・出土遺物実測図 …… 108
第 39 図	第208号堅穴建物跡実測図 …… 48	第 99 図	第238号堅穴建物跡出土遺物実測図 …… 109
第 40 図	第209号堅穴建物跡実測図 …… 49	第100 図	第239号堅穴建物跡実測図 …… 110
第 41 図	第209号堅穴建物跡出土遺物実測図 …… 50	第101 図	第239号堅穴建物跡出土遺物実測図 …… 111
第 42 図	第210号堅穴建物跡実測図 (1) …… 51	第102 図	第240号堅穴建物跡実測図 …… 111
第 43 図	第210号堅穴建物跡実測図 (2) …… 52	第103 図	第240号堅穴建物跡・出土遺物実測図 …… 112
第 44 図	第210号堅穴建物跡出土遺物実測図 (1) …… 53	第104 図	第241号堅穴建物跡実測図 …… 113
第 45 図	第210号堅穴建物跡出土遺物実測図 (2) …… 54	第105 図	第241号堅穴建物跡出土遺物実測図 …… 114
第 46 図	第211号堅穴建物跡実測図 (1) …… 54	第106 図	第242号堅穴建物跡実測図 (1) …… 115
第 47 図	第211号堅穴建物跡実測図 (2) …… 55	第107 図	第242号堅穴建物跡・出土遺物実測図 …… 116
第 48 図	第211号堅穴建物跡出土遺物実測図 …… 55	第108 図	第242号堅穴建物跡出土遺物実測図 …… 117
第 49 図	第212号堅穴建物跡実測図 …… 56	第109 図	第244号堅穴建物跡実測図 (1) …… 118
第 50 図	第212号堅穴建物跡・出土遺物実測図 …… 57	第110 図	第244号堅穴建物跡実測図 (2) …… 119
第 51 図	第212号堅穴建物跡出土遺物実測図 …… 58	第111 図	第244号堅穴建物跡掘方実測図 …… 120
第 52 図	第213号堅穴建物跡実測図 …… 60	第112 図	第244号堅穴建物跡出土遺物実測図 …… 121
第 53 図	第213号堅穴建物跡出土遺物実測図 …… 61	第113 図	第245号堅穴建物跡実測図 …… 122
第 54 図	第214号堅穴建物跡実測図 …… 62	第114 図	第245号堅穴建物跡出土遺物実測図 …… 123
第 55 図	第214号堅穴建物跡・掘方実測図 …… 63	第115 図	第246号堅穴建物跡実測図 …… 124
第 56 図	第214号堅穴建物跡出土遺物実測図 (1) …… 64	第116 図	第246号堅穴建物跡出土遺物実測図 …… 125
第 57 図	第214号堅穴建物跡出土遺物実測図 (2) …… 65	第117 図	第247号堅穴建物跡・出土遺物実測図 …… 126
第 58 図	第215号堅穴建物跡実測図 …… 66	第118 図	第251号堅穴建物跡実測図 …… 127
第 59 図	第216号堅穴建物跡実測図 …… 67	第119 図	第251号堅穴建物跡出土遺物実測図 …… 128
第 60 図	第216号堅穴建物跡・出土遺物実測図 …… 68	第120 図	第252号堅穴建物跡・掘方実測図 …… 129
		第121 図	第21号掘立柱建物跡実測図 …… 131
		第122 図	第21号掘立柱建物跡出土遺物実測図 …… 132

第123回	第22号掘立柱建物跡実測図(1).....	133
第124回	第22号掘立柱建物跡・出土遺物実測図.....	134
第125回	第124号土坑・出土遺物実測図.....	135
第126回	第124号土坑実測図.....	135
第127回	第124号土坑・出土遺物実測図.....	135
第128回	第126号土坑・出土遺物実測図.....	136
第129回	第127号土坑・出土遺物実測図.....	137
第130回	第129号土坑実測図.....	137
第131回	第129号土坑出土遺物実測図.....	138
第132回	第129号土坑・出土遺物実測図.....	138
第133回	第129号土坑・出土遺物実測図.....	139
第134回	第130号土坑・出土遺物実測図.....	139
第135回	第130号土坑実測図.....	140
第136回	第131号土坑・出土遺物実測図.....	140
第137回	第132号土坑実測図.....	141
第138回	第132号土坑出土遺物実測図.....	142
第139回	第134号土坑・出土遺物実測図.....	143
第140回	第136号土坑実測図.....	143
第141回	第136号土坑出土遺物実測図.....	144
第142回	第148号土坑・出土遺物実測図.....	144
第143回	第23号掘立柱建物跡実測図.....	146
第144回	第25号掘立柱建物跡実測図.....	147
第145回	第6号井戸跡・出土遺物実測図.....	148
第146回	第165号土坑実測図.....	148
第147回	第165号土坑出土遺物実測図.....	149
第148回	第4号柱穴列実測図.....	151
第149回	その他の土坑実測図(1).....	151
第150回	その他の土坑実測図(2).....	152
第151回	その他の土坑実測図(3).....	153
第152回	その他の土坑実測図(4).....	154
第153回	その他の土坑実測図(5).....	155
第154回	その他の土坑実測図(6).....	156
第155回	その他の土坑実測図(7).....	157
第156回	その他の土坑実測図(8).....	158
第157回	その他の土坑実測図(9).....	159

第158回	その他の土坑実測図 00.....	160
第159回	その他の土坑実測図 01.....	161
第160回	その他の土坑実測図 02.....	162
第161回	その他の土坑実測図 03.....	163
第162回	その他の土坑実測図 04.....	164
第163回	その他の土坑実測図 05.....	165
第164回	その他の土坑実測図 06.....	166
第165回	その他の土坑実測図 07.....	167
第166回	その他の土坑実測図 08.....	168
第167回	その他の土坑実測図 09.....	169
第168回	その他の土坑実測図 09.....	170
第169回	その他の溝跡実測図(1).....	175
第170回	その他の溝跡実測図(2).....	176
第171回	第3・4・8・12号溝跡出土遺物実測図.....	177
第172回	第1号道路跡実測図.....	178
第173回	第28号ピット群出土遺物実測図.....	184
第174回	第1号掘り込み遺構出土遺物実測図.....	188
第175回	第1号掘り込み遺構実測図.....	189
第176回	遺構外出土遺物実測図.....	190
第177回	遺跡周辺(静神社、玉川、久慈川).....	191
第178回	I期竪穴建物跡の規模・主軸方向.....	192
第179回	II期D区4棟 竪穴建物跡の規模・主軸方向.....	192
第180回	II期C区3棟 竪穴建物跡の規模・主軸方向.....	193
第181回	III期D区2棟 竪穴建物跡の規模・主軸方向.....	193
第182回	III期C区6棟 竪穴建物跡の規模・主軸方向.....	193
第183回	IV期D区7棟 竪穴建物跡の規模・主軸方向.....	194
第184回	IV期D区南部3棟 竪穴建物跡の規模・主軸方向.....	194
第185回	IV期C区北部8棟 竪穴建物跡の規模・主軸方向.....	195
第186回	IV期C区北部6棟 竪穴建物跡の規模・主軸方向.....	195
第187回	IV期A・B区3棟 竪穴建物跡の規模・主軸方向.....	196
第188回	V期D区3棟 竪穴建物跡の規模・主軸方向.....	196
第189回	V期C区5棟 竪穴建物跡の規模・主軸方向.....	196
第190回	集落常置園と出土遺物(管状土器、紡錘車、丸鏡、鏃先).....	197
第191回	当遺跡から出土している壁柱穴を伴う竪穴建物跡.....	199
第192回	竪穴建物跡から出土した黒土器、朱着土器、ヘラ記号.....	200

挿 表 目 次

第 1 表	下大貫道跡周辺道跡一覽……………	9	第 53 表	第 21 号掘立柱建物跡出土遺物一覽……………	132
第 2 表	縄文時代隔し穴一覽……………	14	第 54 表	第 22 号掘立柱建物跡出土遺物一覽……………	134
第 3 表	第 243 号竪穴建物跡出土遺物一覽……………	16	第 55 表	奈良・平安時代掘立柱建物跡一覽……………	134
第 4 表	第 13 号竪穴建物跡出土遺物一覽……………	19	第 56 表	第 1240 号土坑出土遺物一覽……………	135
第 5 表	第 197 号竪穴建物跡出土遺物一覽……………	22	第 57 表	第 1242 号土坑出土遺物一覽……………	136
第 6 表	第 198 号竪穴建物跡出土遺物一覽……………	25	第 58 表	第 1264 号土坑出土遺物一覽……………	136
第 7 表	第 199 号竪穴建物跡出土遺物一覽……………	28	第 59 表	第 1270 号土坑出土遺物一覽……………	137
第 8 表	第 200 号竪穴建物跡出土遺物一覽……………	32	第 60 表	第 1290 号土坑出土遺物一覽……………	138
第 9 表	第 201 号竪穴建物跡出土遺物一覽……………	33	第 61 表	第 1291 号土坑出土遺物一覽……………	138
第 10 表	第 202 号竪穴建物跡出土遺物一覽……………	35	第 62 表	第 1297 号土坑出土遺物一覽……………	139
第 11 表	第 203 号竪穴建物跡出土遺物一覽……………	37	第 63 表	第 1305 号土坑出土遺物一覽……………	139
第 12 表	第 204 号竪穴建物跡出土遺物一覽……………	40	第 64 表	第 1311 号土坑出土遺物一覽……………	140
第 13 表	第 205 号竪穴建物跡出土遺物一覽……………	42	第 65 表	第 1321 号土坑出土遺物一覽……………	141
第 14 表	第 206 号竪穴建物跡出土遺物一覽……………	43	第 66 表	第 1394 号土坑出土遺物一覽……………	143
第 15 表	第 207 号竪穴建物跡出土遺物一覽……………	47	第 67 表	第 1396 号土坑出土遺物一覽……………	144
第 16 表	第 209 号竪穴建物跡出土遺物一覽……………	51	第 68 表	第 1484 号土坑出土遺物一覽……………	145
第 17 表	第 210 号竪穴建物跡出土遺物一覽……………	52	第 69 表	奈良・平安時代土坑一覽……………	145
第 18 表	第 211 号竪穴建物跡出土遺物一覽……………	56	第 70 表	中世の掘立柱建物跡一覽……………	147
第 19 表	第 212 号竪穴建物跡出土遺物一覽……………	59	第 71 表	第 6 号井戸跡出土遺物一覽……………	148
第 20 表	第 213 号竪穴建物跡出土遺物一覽……………	60	第 72 表	第 1651 号土坑出土遺物一覽……………	149
第 21 表	第 214 号竪穴建物跡出土遺物一覽……………	65	第 73 表	その他の土坑一覽……………	170
第 22 表	第 216 号竪穴建物跡出土遺物一覽……………	69	第 74 表	第 3 号溝跡出土遺物一覽……………	177
第 23 表	第 217 号竪穴建物跡出土遺物一覽……………	70	第 75 表	第 4 号溝跡出土遺物一覽……………	177
第 24 表	第 218 号竪穴建物跡出土遺物一覽……………	73	第 76 表	第 8 号溝跡出土遺物一覽……………	177
第 25 表	第 219 号竪穴建物跡出土遺物一覽……………	75	第 77 表	第 12 号溝跡出土遺物一覽……………	177
第 26 表	第 220 号竪穴建物跡出土遺物一覽……………	77	第 78 表	その他の溝跡一覽……………	178
第 27 表	第 221 号竪穴建物跡出土遺物一覽……………	78	第 79 表	第 6 号ビット群一覽……………	179
第 28 表	第 222 号竪穴建物跡出土遺物一覽……………	82	第 80 表	第 11 号ビット群一覽……………	179
第 29 表	第 223 号竪穴建物跡出土遺物一覽……………	82	第 81 表	第 12 号ビット群一覽……………	180
第 30 表	第 225 号竪穴建物跡出土遺物一覽……………	85	第 82 表	第 15 号ビット群一覽……………	180
第 31 表	第 226 号竪穴建物跡出土遺物一覽……………	87	第 83 表	第 17 号ビット群一覽……………	181
第 32 表	第 227 号竪穴建物跡出土遺物一覽……………	88	第 84 表	第 18 号ビット群一覽……………	181
第 33 表	第 228 号竪穴建物跡出土遺物一覽……………	90	第 85 表	第 20 号ビット群一覽……………	181
第 34 表	第 229 号竪穴建物跡出土遺物一覽……………	92	第 86 表	第 21 号ビット群一覽……………	182
第 35 表	第 230 号竪穴建物跡出土遺物一覽……………	93	第 87 表	第 23 号ビット群一覽……………	182
第 36 表	第 231 号竪穴建物跡出土遺物一覽……………	95	第 88 表	第 24 号ビット群一覽……………	182
第 37 表	第 232 号竪穴建物跡出土遺物一覽……………	97	第 89 表	第 25 号ビット群一覽……………	183
第 38 表	第 234 号竪穴建物跡出土遺物一覽……………	100	第 90 表	第 26 号ビット群一覽……………	183
第 39 表	第 235 号竪穴建物跡出土遺物一覽……………	102	第 91 表	第 27 号ビット群一覽……………	184
第 40 表	第 236 号竪穴建物跡出土遺物一覽……………	104	第 92 表	第 28 号ビット群一覽……………	184
第 41 表	第 237 号竪穴建物跡出土遺物一覽……………	106	第 93 表	第 28 号ビット群出土遺物一覽……………	185
第 42 表	第 238 号竪穴建物跡出土遺物一覽……………	109	第 94 表	第 32 号ビット群一覽……………	185
第 43 表	第 239 号竪穴建物跡出土遺物一覽……………	110	第 95 表	第 33 号ビット群一覽……………	186
第 44 表	第 240 号竪穴建物跡出土遺物一覽……………	112	第 96 表	第 36 号ビット群一覽……………	186
第 45 表	第 241 号竪穴建物跡出土遺物一覽……………	114	第 97 表	第 37 号ビット群一覽……………	187
第 46 表	第 242 号竪穴建物跡出土遺物一覽……………	117	第 98 表	第 38 号ビット群一覽……………	187
第 47 表	第 244 号竪穴建物跡出土遺物一覽……………	121	第 99 表	第 39 号ビット群一覽……………	187
第 48 表	第 245 号竪穴建物跡出土遺物一覽……………	123	第 100 表	第 40 号ビット群一覽……………	188
第 49 表	第 246 号竪穴建物跡出土遺物一覽……………	125	第 101 表	第 41 号ビット群一覽……………	188
第 50 表	第 247 号竪穴建物跡出土遺物一覽……………	126	第 102 表	第 1 号掘り込み遺構出土遺物一覽……………	189
第 51 表	第 251 号竪穴建物跡出土遺物一覽……………	128	第 103 表	遺構外出土遺物一覽……………	190
第 52 表	奈良・平安時代竪穴建物跡一覽……………	129			

写真図版目次

PL.1	平成 31・令和元年度 A区調査終了状況	PL10	第 228 号竪穴建物跡
PL.1	平成 25 年度 B区調査終了状況	PL10	第 229 号竪穴建物跡
PL.2	平成 28・29 年度 C区調査終了状況	PL10	第 232 号竪穴建物跡 遺物出土状況
PL.2	平成 29 年度 D区調査終了状況	PL10	第 232 号竪穴建物跡 竈
PL.3	第 3 号隔し穴	PL10	第 232 号竪穴建物跡
PL.3	第 4 号隔し穴	PL10	第 233 号竪穴建物跡
PL.3	第 5 号隔し穴	PL11	第 234 号竪穴建物跡 遺物出土状況
PL.3	第 6 号隔し穴	PL11	第 234 号竪穴建物跡
PL.3	第 7 号隔し穴	PL11	第 235 号竪穴建物跡
PL.3	第 8 号隔し穴	PL11	第 236 号竪穴建物跡 遺物出土状況 (1)
PL.3	第 243 号竪穴建物跡遺物出土状況	PL11	第 236 号竪穴建物跡 遺物出土状況 (2)
PL.3	第 243 号竪穴建物跡	PL11	第 236 号竪穴建物跡
PL.4	第 13 号竪穴建物跡 竈	PL11	第 237 号竪穴建物跡 遺物出土状況
PL.4	第 13 号竪穴建物跡	PL11	第 237 号竪穴建物跡
PL.4	第 197 号竪穴建物跡 遺物出土状況	PL12	第 238 号竪穴建物跡 遺物出土状況
PL.4	第 197 号竪穴建物跡	PL12	第 238 号竪穴建物跡 竈遺物出土状況
PL.4	第 198 号竪穴建物跡 遺物出土状況	PL12	第 238 号竪穴建物跡
PL.4	第 198 号竪穴建物跡	PL12	第 239 号竪穴建物跡 竈
PL.4	第 199 号竪穴建物跡 遺物出土状況	PL12	第 239 号竪穴建物跡
PL.4	第 199 号竪穴建物跡	PL12	第 240 号竪穴建物跡 遺物出土状況
PL.5	第 200 号竪穴建物跡 竈遺物出土状況	PL12	第 240 号竪穴建物跡
PL.5	第 200 号竪穴建物跡	PL12	第 241 号竪穴建物跡 遺物出土状況
PL.5	第 201 号竪穴建物跡 遺物出土状況	PL13	第 241 号竪穴建物跡
PL.5	第 201 号竪穴建物跡	PL13	第 242 号竪穴建物跡
PL.5	第 202 号竪穴建物跡 竈遺物出土状況	PL13	第 244 号竪穴建物跡 竈遺物出土状況
PL.5	第 202 号竪穴建物跡	PL13	第 244 号竪穴建物跡 掘方
PL.5	第 203 号竪穴建物跡	PL13	第 245 号竪穴建物跡
PL.5	第 204 号竪穴建物跡	PL13	第 246 号竪穴建物跡 竈遺物出土状況
PL.6	第 205 号竪穴建物跡 遺物出土状況	PL13	第 246 号竪穴建物跡
PL.6	第 205 号竪穴建物跡	PL13	第 247 号竪穴建物跡 遺物出土状況
PL.6	第 206 号竪穴建物跡 遺物出土状況	PL14	第 247 号竪穴建物跡
PL.6	第 206 号竪穴建物跡	PL14	第 251 号竪穴建物跡 竈
PL.6	第 207 号竪穴建物跡 竈	PL14	第 251 号竪穴建物跡
PL.6	第 207 号竪穴建物跡	PL14	第 252 号竪穴建物跡
PL.6	第 209 号竪穴建物跡 竈	PL14	第 1240 号土坑
PL.6	第 209 号竪穴建物跡	PL14	第 1241 号土坑 遺物出土状況
PL.7	第 210 号竪穴建物跡 竈遺物出土状況	PL14	第 1242 号土坑
PL.7	第 210 号竪穴建物跡	PL14	第 1264 号土坑 遺物出土状況
PL.7	第 211 号竪穴建物跡	PL15	第 1270 号土坑
PL.7	第 212 号竪穴建物跡 遺物出土状況	PL15	第 1290 号土坑
PL.7	第 212 号竪穴建物跡 竈遺物出土状況	PL15	第 1291 号土坑
PL.7	第 212 号竪穴建物跡	PL15	第 1305 号土坑
PL.7	第 213 号竪穴建物跡 遺物出土状況 (1)	PL15	第 1321 号土坑 遺物出土状況
PL.7	第 213 号竪穴建物跡 遺物出土状況 (2)	PL15	第 1321 号土坑
PL.8	第 213 号竪穴建物跡	PL15	第 1394 号土坑 遺物出土状況
PL.8	第 214 号竪穴建物跡 竈遺物出土状況	PL15	第 1395 号土坑 遺物出土状況
PL.8	第 214 号竪穴建物跡	PL16	第 1484 号土坑 遺物出土状況
PL.8	第 215・226 号竪穴建物跡	PL16	第 25 号榎立柱建物跡
PL.8	第 216 号竪穴建物跡 遺物出土状況	PL16	第 1651 号土坑
PL.8	第 216 号竪穴建物跡	PL16	第 30 号土坑
PL.8	第 217 号竪穴建物跡 遺物出土状況	PL16	第 46 号土坑
PL.8	第 217 号竪穴建物跡	PL16	第 1239 号土坑
PL.9	第 218 号竪穴建物跡 遺物出土状況	PL16	第 1248 号土坑
PL.9	第 218 号竪穴建物跡	PL16	第 1271 号土坑
PL.9	第 219 号竪穴建物跡 竈遺物出土状況	PL17	第 1276 号土坑
PL.9	第 219 号竪穴建物跡	PL17	第 1284 号土坑
PL.9	第 220 号竪穴建物跡 竈遺物出土状況	PL17	第 1285 号土坑
PL.9	第 220 号竪穴建物跡	PL17	第 1289 号土坑
PL.9	第 221・222 号竪穴建物跡	PL17	第 1295 号土坑
PL.9	第 223 号竪穴建物跡 竈遺物出土状況	PL17	第 1323・1324 号土坑
PL.10	第 223 号竪穴建物跡 掘方	PL17	第 1348 号土坑
PL.10	第 228 号竪穴建物跡 遺物出土状況	PL17	第 1351 号土坑

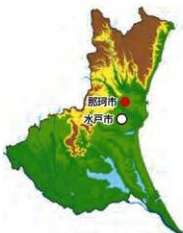
PL18	第1352号土坑	PL23	第20号ビット群
PL18	第1357号土坑	PL23	第21号ビット群
PL18	第1360号土坑	PL23	第23号ビット群
PL18	第1366号土坑	PL23	第26号ビット群
PL18	第1367号土坑	PL23	第28号ビット群
PL18	第1374号土坑	PL24	第32号ビット群
PL18	第1375号土坑	PL24	第33号ビット群
PL18	第1376号土坑	PL24	第36号ビット群
PL19	第1377号土坑	PL24	第37号ビット群
PL19	第1379号土坑	PL24	第38号ビット群
PL19	第1383号土坑	PL24	第39号ビット群
PL19	第1388号土坑	PL24	第40号ビット群
PL19	第1390号土坑	PL24	第1号掘り込み遺構
PL19	第1392号土坑	PL25	第243・13・197・198号竪穴建物跡出土土器
PL19	第1393号土坑	PL26	第199号竪穴建物跡出土土器
PL19	第1412号土坑	PL27	第200・201・202・204号竪穴建物跡出土土器
PL20	第1417号土坑	PL28	第204・205・206号竪穴建物跡出土土器
PL20	第1441号土坑	PL29	第206号竪穴建物跡出土土器
PL20	第1448・1449号土坑	PL30	第209・210・211・212号竪穴建物跡出土土器
PL20	第1458号土坑	PL31	第212・213・214号竪穴建物跡出土土器
PL20	第1636号土坑	PL32	第214・216・217号竪穴建物跡出土土器
PL20	第1638号土坑	PL33	第217・219・220号竪穴建物跡出土土器
PL20	第1639号土坑	PL34	第220・222・223・225号竪穴建物跡出土土器
PL20	第1654号土坑	PL35	第225・226・227・228・229・232号竪穴建物跡出土土器
PL21	第1656号土坑		
PL21	第1658号土坑	PL36	第232・234・238・241号竪穴建物跡出土土器
PL21	第1660号土坑	PL37	第238・242号竪穴建物跡出土土器
PL21	第3号溝跡 遺物出土状況	PL38	第242・244号竪穴建物跡出土土器
PL21	第4号溝跡 遺物出土状況	PL39	第242・244・246号竪穴建物跡出土土器
PL21	第7号溝跡	PL40	第246号竪穴建物跡、第1321・1395・1484号土坑、第12号溝跡、遺構外出土土器
PL21	第8号溝跡 尖頭器出土状況	PL41	第199・206・213・214・234・246号竪穴建物跡出土土製品
PL21	第9号溝跡	PL42	第242-251号竪穴建物跡、第1395号土坑出土土製品、第199・212・246号竪穴建物跡、遺構外出土土器、石製品
PL22	第14号溝跡		
PL22	第15号溝跡	PL43	第197・200・210・214・218・220・222・226・229・244・251号竪穴建物跡出土土器、
PL22	第24・25号溝跡		第198・242・246号竪穴建物跡出土陶彩洋
PL22	第32・33号溝跡	PL44	第198・204・206・212・214・218・219・221・238・242・244号竪穴建物跡、
PL22	第35号溝跡		第1395・1651号土坑、遺構外出土金属製品
PL22	第43号溝跡		
PL22	第1号道路跡		
PL22	第12号ビット群		
PL23	第15号ビット群		
PL23	第17号ビット群		
PL23	第18号ビット群		

しも おお が 下大賀遺跡の概要

遺跡の位置と調査の目的

下大賀遺跡は那珂市の北部、玉川と久慈川が合流する地点から西へ約2 kmに位置し、玉川右岸の標高43 mの台地上に立地しています。

一般国道118号道路改築事業に伴い、遺跡の内容を図や写真に記録して保存するため、平成25年度に1,713 m²、平成28年度に1,080 m²、平成29年度に6,646 m²、平成31・令和元年度に2,662 m²の発掘調査を行いました。



遺跡の調査の内容

当遺跡は、東西約2.3 km、南北約1 kmにわたる広大な範囲が埋蔵文化財包蔵地として登録されています。平成25～令和元年度に調査が行われました。

今回の調査は遺跡東部のA区～D区にあたり、竪穴建物跡53棟、掘立柱建物跡4棟、井戸跡1基、土坑245基、溝跡19条、道路跡1条、ピット群22か所などを確認しました。



平成29年度調査D区全景（南部から）



遺構作業風景



第198号竪穴建物跡竈遺物出土状況



第244号竪穴建物跡・第23号掘立柱建物跡



出土した墨書・朱書土器、ヘラ記号のある土器

調査の成果

今回の調査区では、古墳時代から平安時代にかけて集落が営まれていたことがわかりました。奈良・平安時代の竪穴建物跡は調査区の北部に集中しており、調査区で確認した東西に延びる溝跡は、集落を区画する溝や水路のような溝と考えられます。墨書土器や腰帯具の出土から、役人層が存在する集落の可能性がります。また、竪穴建物跡から出土した墨書土器の文字は吉祥句または方位・記号の意味を含めた文字などにかかわるものであり、これらの文字資料は、地域の集落の様相を考察する上で、貴重な資料になると考えられます。

奈良・平安時代にかけて、水害がなく水の確保ができた台地上の縁辺部に水路や陸路などの要所として、集落域が広がっていったものと考えられます。今回の調査によって、奈良・平安時代には人口が集中する拠点的な集落として営まれていたことがわかりました。

集落跡や出土遺物等から、当時の社会の一端が垣間みられます。

第1章 調査経緯

第1節 調査に至る経緯

茨城県常陸大宮土木事務所は、那珂市において、一般国道118号の道路改築事業を進めている。

平成12年7月17日、茨城県大宮土木事務所長（現茨城県常陸大宮土木事務所長）は、茨城県教育委員会教育長あてに、一般国道118号道路改築事業地内における埋蔵文化財の所在の有無及びその取り扱いについて照会した。これを受けて茨城県教育委員会は、平成18年6月30日及び平成21年7月9日に現地踏査を、平成23年8月30日及び9月1日、平成28年11月25日及び12月16日に試掘調査を実施し、遺跡の所在を確認した。茨城県教育委員会教育長は、平成23年10月31日及び平成29年1月6日に茨城県常陸大宮土木事務所長あてに、事業地内に下大賀遺跡が所在すること、及びその取り扱いについて別途協議が必要であることを回答した。

平成25年1月17日、平成28年2月15日、平成29年2月1日及び平成31年1月24日、茨城県常陸大宮土木事務所長は、茨城県教育委員会教育長あてに、文化財保護法第94条に基づく土木工事のための通知を提出した。平成25年2月5日、平成28年2月17日、平成29年2月8日及び平成31年2月14日、茨城県教育委員会教育長は、茨城県常陸大宮土木事務所長あてに、現状保存が困難であることから記録保存のための発掘調査が必要であると判断し、工事着手前に発掘調査を実施するよう通知した。

平成25年2月15日、平成28年2月19日、平成29年2月13日及び平成31年2月18日、茨城県常陸大宮土木事務所長は、茨城県教育委員会教育長あてに、一般国道118号道路改築事業に係る埋蔵文化財発掘調査の実施についての協議書を提出した。平成25年2月20日、平成28年2月22日、平成29年2月17日及び平成31年2月19日、茨城県教育委員会教育長は、発掘調査の範囲及び面積等について回答し、併せて調査機関として公益財団法人茨城県教育財団を紹介した。

公益財団法人茨城県教育財団は、茨城県常陸大宮土木事務所長から埋蔵文化財発掘調査事業について委託を受け、平成25年5月1日から6月30日、平成28年10月1日から平成29年3月31日、平成29年4月3日から平成30年3月31日まで及び平成31年4月1日から令和元年6月30日まで発掘調査を実施した。

第2節 調査経過

下大賀遺跡の調査は、平成25年5月1日から6月30日までの2か月間、平成28年10月1日から平成29年3月31日までの6か月間、平成29年4月3日から平成30年3月31日までの12か月間及び平成31年4月1日から令和元年6月30日までの3か月間にわたって実施した。以下、その概要を表で記載する。

(1) 平成25年5月1日から6月30日

工程	期間	5月	6月
調査準備 表土除去 遺構確認		■	■
遺構調査		■	■
遺物洗浄 写真整理		■	■
撤収			■

(2) 平成28年10月1日から平成29年3月31日

工程	期間	10月	11月	12月	1月	2月	3月
調査準備 表土除去 遺構確認		■			■		
遺構調査		■	■	■	■	■	■
遺物洗浄 写真整理		■	■	■	■	■	■
撤収							■

(3) 平成29年4月3日から平成30年3月31日

工程	期間	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
調査準備 表土除去 遺構確認		■	■			■				■	■		
遺構調査		■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
遺物洗浄 写真整理		■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
撤収													■

(4) 平成31年4月1日から令和元年6月30日

工程	期間	4月	5月	6月
調査準備 表土除去 遺構確認		■	■	
遺構調査		■	■	■
遺物洗浄 写真整理		■	■	■
撤収				■

第2章 位置と環境

第1節 位置と地形

下大賀遺跡は、茨城県那珂市瓜連 1476-26 番地ほかに所在している。

那珂市は、県の中央部から北寄りに位置し、北東は常陸太田市、西は城里町、南は水戸市、北西は常陸大宮市に接している。

市域の地形は、西から南部にかけて八溝山系から延びる標高 90 m 前後の瓜連丘陵、中央部は那珂台地、北部は久慈川によって形成された額田段丘、久慈川沿いは沖積低地が広がっており、当遺跡は那珂台地の北側に位置している。台地の地質は、更新世後期の見和層とこれを覆う茨城粘土層で構成されており、その上に堆積している関東ローム層は、瓜連丘陵と那珂台地及び縁辺部の段丘面を厚さ 2～3 m で広く覆っている。の中には、20～30 cm の鹿沼軽石層を挟んでいるのが特徴である¹⁾。

当遺跡は、本市北部を東流する久慈川と玉川が合流する地点から西に約 2 km の標高 43 m の台地上に立地している。台地は、本市と常陸大宮市が接する北西側の境界付近から始まり、瓜連丘陵と並行して緩やかに傾斜しながら南東側に広がり、中央部から東側にかけて広がっている。また、北側の台地縁辺部は急な崖地形になっており、低地との比高差は約 25 m である。調査前の現況は畑地及び宅地である。

第2節 歴史的環境

下大賀遺跡①が所在する瓜連地域は、旧石器時代から近世までの遺跡が多数分布している。ここでは、『茨城県遺跡地図』²⁾に登録されている当該地域の主な遺跡を時代ごとに概観する³⁾。

旧石器時代の遺跡は、当遺跡周辺では確認されていないが、東側の旧那珂町地域では、額田大宮遺跡や森戸遺跡、西組遺跡、北坪遺跡、八石遺跡²⁹⁾、中丸遺跡³¹⁾、飛内遺跡³³⁾などが確認されている。なかでも額田大宮遺跡では、発掘調査によって、細石刃、彫刻刀、スクレイパーなどの良好な資料が出土しており、後期旧石器細石刃文化の最終末期の遺跡として注目される⁴⁾。森戸遺跡でも、チョッパー、削器、搔器、石核、剥片などが出土している⁵⁾。

縄文時代の遺跡は、大塚遺跡、鹿島台遺跡²³⁾、石井戸遺跡などから早期の田戸下層式や子母口式の土器が、当遺跡や谷津向遺跡²⁶⁾からは中期の加曾利 E 式や大木 8a・8b 式、後期の堀ノ内式土器が出土している⁶⁾。そのほかにも検現下遺跡⁴¹⁾、野田遺跡⁴²⁾、西室家遺跡⁴³⁾、辻後遺跡⁴⁵⁾などから縄文土器が採集されている⁷⁾。特に、大塚遺跡から出土した子母口式に比定される縄文土器は当地域で最も古いものとされている⁸⁾。この様に瓜連地域の縄文時代の集落は、玉川と久慈川が合流する地点の右岸台地上の縁辺部を中心に分布している⁹⁾。

弥生時代の遺跡は、下大賀遺跡¹⁰⁾、瓜連遺跡²¹⁾、二ツ堂遺跡¹¹⁾、十林寺遺跡、大塚遺跡¹²⁾、鹿島遺跡などから弥生時代後期の東中根式、十玉台式土器などが出土し、瓜連遺跡からは、弥生時代後期の堅穴建物跡が 7 棟確認されている¹³⁾。また、常陸大宮市の久慈川沿いにも小祝後田 B 遺跡、梶巾遺跡、坪井上遺跡¹¹⁾、上岩瀬富士山遺跡¹³⁾、糠塚遺跡、鷹巣犬追遺跡などが台地縁辺部に広がりに¹⁴⁾、弥生時代の集落が久慈川の台地縁辺部に広がっている。

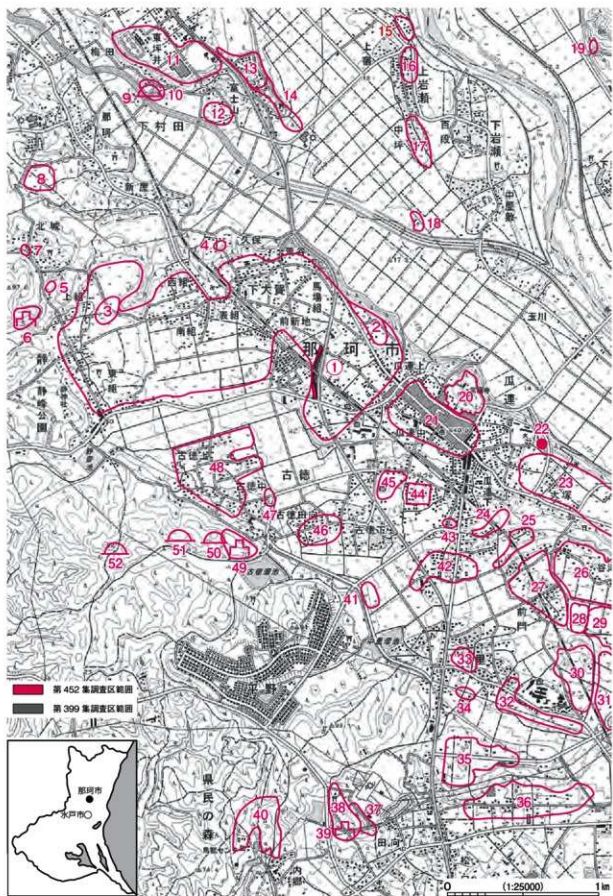
古墳時代の遺跡は、十林寺古墳群〈2〉、新宿古墳群〈3〉が玉川右岸台地上に、大塚古墳〈22〉、鹿島古台古墳群などが久慈川に面する台地北縁部に分布している¹⁹。十林寺古墳群は、当遺跡の北東側に位置し、3基の古墳が確認され²⁰、道路拡張に伴い一部調査が行われた。新宿古墳群は、当遺跡の西端に所在する8基からなる古墳群であったが、現在は第5号墳の権現塚古墳とその南側に点在する4基の古墳が残存するのみである²¹。なお、「常陸国風土記」久慈郡の条には、「郡西〇里静織里、上古之時、織綾之機未在人知、干時此村初織、因名、北有小水、丹石交錯、色似瑠璃、火〇鑽尤好、故以号玉川」とあり、瓜連地域を静織の里、すなわち倭文郷に、北側を東流する玉川では瑠璃が産出することで知られており、倭文部や玉造部などの專業集団との関係が興味深い²²。

奈良・平安時代の当地域は、久慈郡に属しており、「倭名類聚抄」によると、岡田、八部、倭文、高月、助川、美和、志萬、眞野、神前、久來、大田、山田、河内、楊島、世矢、佐竹、高市、木前、佐野、都、餘戸の21郷が挙げられている²³。また、『新編常陸国誌』の「倭文郷 之登利」によると「風土記ニヨリテ地図ヲ按ズルニ、コノ郷東ハ木前郷ニ接シ、西南並ニ那珂郡ノ界ニ至リ、北ハ眞野郷ニ隣リテ静、古徳、瓜連、戸崎、下大賀、上村田、下村田、石澤、上岩瀬、下岩瀬ノ十村、九千石ハカリノ地、皆古ノ倭文郷ナリ」とあり、「木前郷 支左岐」には、「倭名鈔云、木前、按ズルニ、今ノ那珂郡南酒出、北酒出ノ両村共ニ木崎ト云フ地アリ、コノ地古ハ久慈郡ニ属シテラバ、古ノ木前郷タルコト明ナリ、木前ハ城崎ナリ、凡古俗ノ言ニ、地ノ一区ヲナシタルモノコレヲ城ト云フ、其崎ヲバコレヲ城崎ト云ヘバナリ、地図ニヨリテ考フルニ、コノ郷東ハ神崎郷ニ隣リ、西ハ倭文郷ニ接シ、南ハ那珂郡ノ界ニ至リ、北ハ久慈川ニ涯リテ、南北酒出、門部、磯崎、中岡、中里、豊吹、飯田、福田、鴻巣ノ十村、七千七百石ノ地、皆古ノ木前郷ナリ」とあり、瓜連地域は倭文郷と木前郷の一部にまたがっている地域とみられている²⁴。この地域で確認されている集落跡は、鹿島古台跡で堅穴建物跡11棟²⁵、権現下遺跡で奈良・平安時代の堅穴建物跡27棟²⁶、西井野遺跡(旧下村田遺跡)(12)で堅穴建物跡17棟が確認されている²⁷。また、出土遺物では、権現下遺跡から鉄製紡錘車の紡輪部や滑石製で上面に鋸歯文が線刻されている石製紡錘車、「□東日」「太倉」「東一」「餅」「田」「子栗□羊」などの墨書土器が12点出土している²⁸。鹿島古台跡では、「寺」「高月郷」「高」などの墨書土器が9点出土している。「寺」の墨書土器から私度僧や村落内寺院の存在の可能性が指摘されている²⁹。また、「高月郷」の墨書土器からは、「倭名類聚抄」によると「笈月」を「高月」とし³⁰、『新編常陸国誌』では「蜜月」の誤写とし、「蜜月ヲ以テ名トスルモノハ、即水城ノ意」としており³¹、水城とは現在の日立市水木であり、倭文郷と高月(蜜月)郷の交流をうかがわせる墨書土器である³²。常陸大宮市上村田小中遺跡では、石製・土製紡錘車や「中子」「□□□(屋)」「子子」「□□□」「千万」「六万」「万合」「丈」「曹」などの墨書土器が34点出土している。また、「丈」の焼印(烙印)も出土しており、印面の大きさから牛馬などに押すための焼印と考えられる³³。また、現在は常陸太田市葉谷町に所在する久慈郡家に比定されている長者屋敷遺跡あたりが田後駅とされているが³⁴、『増補大日本地名辞書』では、那珂市下大賀や静、常陸大宮市下村田付近が田後駅にあたるとしており³⁵、焼印との関連性もうかがえる。平成24・25年度に行われた発掘調査では、「馬/□長」「馬長」と墨書された土器も出土している³⁶。

南北朝時代になると、楠木正成の代官として遣わされた楠木正家が常陸の南朝方拠点として瓜連城を築き、北朝方の将、佐竹の軍勢と久慈川を挟んで対峙した。瓜連城跡は現在の常福寺境内を本丸とし、旧町城を含む490,000㎡の規模を誇っていた。現在も土塁、内堀が残っている³⁷。瓜連城落城後、了実上人が草地区山蓮華院常福寺を開山し、二世了尊上人によって現在の地に常福寺が再建された。その後佐竹氏・江戸氏の保護を受けて発展し、江戸期には徳川家康から百石の寺領が与えられ、早くから檀林として格付けされた。寛永十二(1635)年には、当寺は常陸国の浄土宗の総本山となり、近隣の人々より厚い信仰を受け現在に至っている³⁸。

註

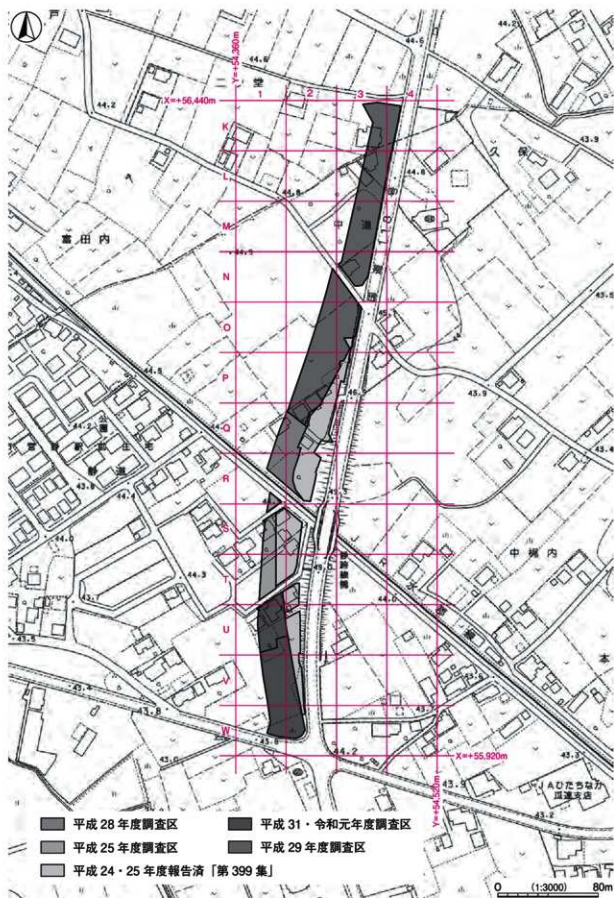
- 1) a 大山年次監修『茨城県 地質のガイド』コロナ社 1977年8月
- b 日本の地質『関東地方』編集委員会『日本の地質3 関東地方』共立出版株式会社 2007年5月
- 2) 茨城県教育庁文化課編『茨城県道跡地図』茨城県教育委員会 2001年3月
- 3) 藤原均・加藤雅美『茨城県那珂市十林寺古墳群第1号墳・下大貫道跡内埋蔵文化財調査報告書』那珂市教育委員会・常総考古学研究所 2007年2月
- 4) 川崎純徳他『額田大宮道跡』那珂町史編さん委員会 1978年3月
- 5) 加藤雅美他『一般国道349号道路改良工事地内埋蔵文化財調査報告書 北郷C道跡・森戸道跡』茨城県教育財団文化財調査報告第55集 1990年3月
- 6) 千種重樹『山王原道跡 県営那珂北部畑地帯総合整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』那珂町教育委員会 2000年3月
- 7) 瓜連町史編さん委員会『瓜連町史』瓜連町 1985年7月
- 8) 註7に同じ
- 9) 註7に同じ
- 10) 横倉要次『那珂郡瓜連町下大貫道跡採集の弥生土器について』茨城県考古学協会誌 第13号 2001年5月
- 11) 横倉要次『那珂郡瓜連町二ツ堂道跡採集の弥生土器について』優良岐考古 第18号 1996年5月
- 12) 横倉要次『那珂郡瓜連町大塚道跡採集の弥生土器と紡錘車・石器について』優良岐考古 第17号 1995年5月
- 13) 加藤雅美他『瓜連城跡地内埋蔵文化財発掘調査報告書 No. 1～No. 4地点』瓜連町教育委員会 1996年3月
- 14) 渡邊浩実『上岩瀬富士山道跡 17 国補道第17 - 03 - 068 - 0 - 053号埋蔵文化財調査報告書』茨城県教育財団文化財調査報告 第260集 2006年3月
- 15) 宮崎剛『鹿島台道跡 保土通道跡 都市計画道路平野杉本線道路整備事業地内埋蔵文化財調査報告書』茨城県教育財団文化財調査報告 第355集 2012年3月
- 16) 註3に同じ
- 17) 註7に同じ
- 18) 註1に同じ
- 19) 茨城県立歴史館編『茨城県史料 古代編』茨城県 1968年3月
- 20) 中山信名著・栗田寛補訂『新編常陸国誌』宮崎報恩会 1969年
- 21) 註15に同じ
- 22) 藤原均『茨城県那珂郡瓜連町権現下道跡調査報告書』瓜連町教育委員会 2002年3月
- 23) 荒井保雄『一級河川玉川改修工事地内埋蔵文化財調査報告書 下村田道跡』茨城県教育財団文化財調査報告 第110集 1996年3月
- 24) 註22に同じ
- 25) 註7に同じ
- 26) 註20に同じ
- 27) 註20に同じ
- 28) 註7に同じ
- 29) 大宮町教育委員会『上村田小中道跡』大宮町教育委員会 1988年3月
- 30) 古代交通研究会『日本古代道路辞典』八木書店 2004年5月
- 31) 吉田東伍『増補大日本地名辞書』第6巻 坂東 富山房 1970年6月
- 32) 内田勇樹『下大貫道跡 一般国道118号道路改築事業地内埋蔵文化財調査報告書』茨城県教育財団文化財調査報告 第399集 2015年3月
- 33) 註7に同じ
- 34) 註7に同じ



第1図 下大賀遺跡周辺遺跡分布図 (国土地理院 25,000分の1「常陸大宮・石塚」)

第1表 下大賀遺跡周辺遺跡一覧

番号	遺跡名	時代						番号	遺跡名	時代							
		旧石器	縄文	弥生	古墳	奈良・平安	鎌倉・室町			江戸	旧石器	縄文	弥生	古墳	奈良・平安	鎌倉・室町	江戸
①	下大賀遺跡		○	○	○	○	○	○	27	高後遺跡		○		○	○	○	
2	十林寺古墳群				○				28	榎戸遺跡					○		
3	新宿古墳群				○				29	八石遺跡	○	○		○	○		
4	久保遺跡					○	○		30	孫目遺跡		○		○	○	○	
5	滝前遺跡		○						31	中丸遺跡	○			○	○		
6	城菩提城跡						○		32	前谷津遺跡		○			○	○	
7	上坪遺跡					○			33	飛内遺跡	○	○		○	○		
8	堂山A遺跡			○	○	○			34	十文字遺跡					○		
9	念仏塚							○	35	戸崎井尻遺跡				○	○		
10	念仏塚遺跡				○				36	戸崎木戸遺跡		○		○	○		
11	坪井上遺跡		○	○	○	○			37	台久保遺跡	○	○		○	○	○	
12	西坪井遺跡 (旧下村田遺跡)			○	○	○			38	戸崎鹿島神社前遺跡		○		○	○	○	
13	上岩瀬富士山遺跡			○	○	○			39	戸崎鹿島館跡						○	
14	富士山古墳群				○				40	椿遺跡		○			○		
15	川岸遺跡					○			41	権現下遺跡		○			○		
16	岩瀬城跡		○				○	○	42	野田遺跡		○		○	○	○	○
17	上岩瀬中坪遺跡				○	○			43	西室家遺跡		○		○	○	○	
18	本宮遺跡		○		○	○			44	水戸海道遺跡		○		○	○		
19	二階穴(横穴)				○				45	辻後遺跡		○		○	○	○	○
20	瓜連城跡							○	46	田向前遺跡		○				○	○
21	瓜連遺跡		○	○	○			○	47	新屋遺跡					○		○
22	大塚古墳				○				48	中坪遺跡		○			○	○	○
23	鹿島台遺跡	○	○	○	○	○	○	○	49	古徳城跡						○	
24	保土通遺跡				○		○		50	小屋塚							○
25	熊ノ堂遺跡		○	○		○	○		51	前長田塚群							○
26	谷津向遺跡		○		○	○			52	中山塚							○



第 2 図 下大賀道跡調査区設定図 (那珂市都市計画図 2,500 分の 1)

第3章 調査の成果

第1節 調査の概要

下大賀遺跡は、那珂市の北部に位置し、玉川右岸の標高43mの台地上に立地している。当遺跡は東西2.3km、南北1kmの広大な範囲が指定されており、今回報告する調査区域はその東部にあたる。調査面積は平成25年度1,713㎡、平成28年度1,080㎡、平成29年度6,646㎡、平成31・令和元年度2,662㎡であり、平成27年度当財団報告の北部へ広がった調査区域の報告である。

調査の結果、竪穴建物跡53棟（古墳時代1、奈良・平安時代53）、掘立柱建物跡4棟（奈良・平安時代2、中世2）、井戸跡1基（中世）、陥し穴6基（縄文時代）、土坑245基（奈良・平安時代15、中世1、時期不明229）、柱穴1条（時期不明）、溝跡19条（時期不明）、道路跡1条（時期不明）、ピット群22か所（時期不明）、掘り込み遺構1基（時期不明）を確認した。

遺物は、遺物収納コンテナ（60×40×20cm）に71箱出土している。主な遺物は、縄文土器（深鉢）、土師器（坏・高台付坏・碗・皿・高台付皿・甕・甌）、須恵器（坏・高台付坏・蓋・盤・鉢・壺・瓶・甕）、陶器（壺・甕）、磁器（碗・皿）、土製品（土玉・管状土錘・紡錘車・支脚）、石器（尖頭器・紡錘車・砥石）、石製品（丸鞘・支脚）、金属製品（刀子・鉄鎌・鎌・鋤先・釘・丸鞘・鑿状工具）などである。

第2節 基本層序

平成29年度調査D区中央部台地上の平坦面（L3g5区）にテストピットを設定し、基本土層（第3図）の観察を行った。土層は8層に分層でき、第3・4層が関東ローム層である。

第1層は、黒色を呈する耕作土である。層厚は47～60cmである。

第2層は、褐色を呈するローム層への漸移層である。ローム粒子や赤色粒子・白色粒子を微量含み、粘性・締まりともに強く、層厚は20～30cmである。今市・七本桜軽石層である。

第3層は、褐色を呈するソフトローム層である。粘性・締まりともに強く、層厚は8～15cmである。

第4層は、褐色を呈するハードローム層である。粘性・締まりともに非常に強く、層厚は18～30cmである。

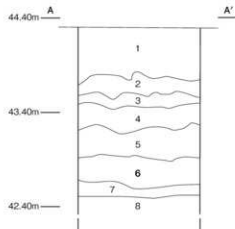
第5層は、明黄褐色を呈するハードローム層である。粘性・締まりともに強く、層厚は22～35cmである。

第6層は、にぶい褐色を呈するハードローム層である。粘性・締まりともに強く、層厚は22～35cmである。

第7層は、にぶい黄褐色を呈するローム層である。粘性・締まりともに非常に強く、層厚は8～16cmである。

第8層は、にぶい黄褐色を呈するローム層である。鹿沼土を少量含み、粘性・締まりともに強く、層厚は20cmまで確認したが、下層は未掘のため、本来の層厚は不明である。

遺構は主に第3層上面で確認した。



第3図 基本土層図

第3節 遺構と遺物

1 縄文時代の遺構と遺物

当時代の遺構は、陥し穴6基を確認した。以下、遺構について記述する。

陥し穴

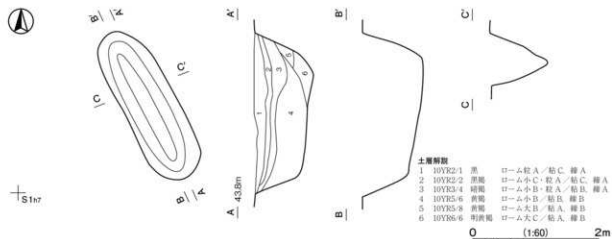
第3号陥し穴（第4図 PL 3）

位置 B区北部のS1g7区、標高44 mほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 長径は2.58 m、短径は0.82 mの楕円形で、長径方向はN-28°-Wである。深さ96 cmで、底面は幅12 cmで剣阻である。短径方向の断面形はV字状で、壁は外傾している。

覆土 6層に分類できる。第5・6層はロームブロックを含む壁面の崩落土で、第1～4層は自然堆積である。

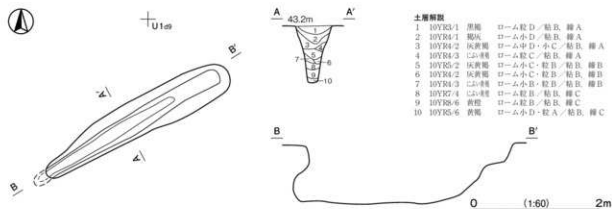
所見 時期は、遺物が出土していないために明確ではないが、規模や形状から縄文時代と考えられる。



第4図 第3号陥し穴実測図

第4号陥し穴（第5図 PL 3）

位置 A区北部のU1d9区、標高43 mほどの平坦な台地上に位置している。



第5図 第4号陥し穴実測図

規模と形状 長径は3.30 m、短径は0.57 mの楕円形で、長径方向はN-60°-Eである。深さ95 cmで、底面は幅20 cmで平坦である。短径方向の断面形はU字状で、壁はほぼ直立している。長径方向の南西壁は、底面から高さ55 cmまで内増し、上部はほぼ直立している。

覆土 10層に分層できる。自然堆積である。

所見 時期は、遺物が出土していないために明確ではないが、規模や形状から縄文時代と考えられる。

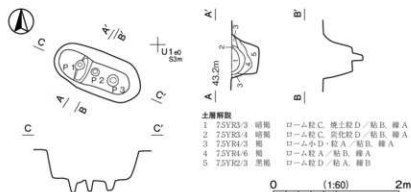
第5号陥し穴 (第6図 PL 3)

位置 A区北部のU1e9区、標高43 mほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 長径は1.44 m、短径は0.70 mの楕円形で、長径方向はN-66°-Wである。深さ46 cmで、短径方向の断面形は逆台形で、壁はほぼ直立している。底面は平坦で、中央部に深さ10～22 cmのピット状の掘り込み3か所を有している。これらは逆茂木を埋設した跡と考えられる。

覆土 5層に分層できる。レンズ状に堆積していることから、自然堆積である。

所見 時期は、遺物が出土していないために明確ではないが、規模や形状から縄文時代と考えられる。



第6図 第5号陥し穴実測図

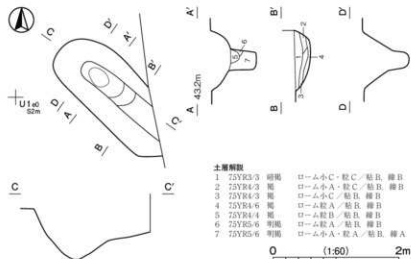
第6号陥し穴 (第7図 PL 3)

位置 A区北部のU1e0区、標高43 mほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 東部が調査区域外のため、短径は0.94 mで、長径は1.98 mしか確認できなかった。長径方向はN-42°-Wで、楕円形と推定できる。深さ40 cmで、底面は幅35 cmで平坦である。短径方向の断面形はU字状で、北西部は底面から更に深さ42 cmほど掘り込まれている。北西壁は外傾しているが、北西部の短径方向の断面形は漏斗状を呈している。

覆土 7層に分層できる。第5・6層はロームブロックを含む壁面の崩落土で、第1～4・7層は自然堆積である。

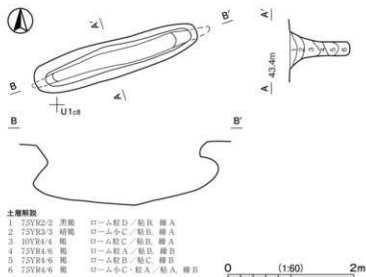
所見 時期は、遺物が出土していないために明確ではないが、規模や形状から縄文時代と考えられる。



第7図 第6号陥し穴実測図

第7号陥し穴 (第8図 PL 3)

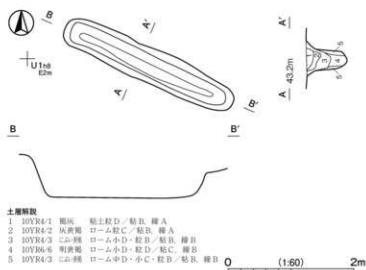
位置 A区北部のU1b8区、標高43mほどの平坦な台地上に位置している。



第8図 第7号陥し穴実測図

第8号陥し穴 (第9図 PL 3)

位置 A区北部のU1b8区、標高43mほどの平坦な台地上に位置している。



第9図 第8号陥し穴実測図

規模と形状 長径は2.70m、短径は0.58mの楕円形で、長径方向はN-72°-Eである。深さ94cmで、底面は幅25cmで皿状を呈している。短径方向の断面形はU字状で、南北壁は直立しており、開口部付近で外傾している。長径方向の壁は内彎している。

覆土 6層に分層できる。自然堆積である。

所見 時期は、遺物が出土していないために明確ではないが、規模や形状から縄文時代と考えられる。

規模と形状 長径は2.90m、短径は0.54mの楕円形で、長径方向はN-67°-Wである。深さ66cmで、底面は幅15cmで平坦である。短径方向の断面形はU字状で、壁は直立しており、開口部付近で外傾している。

覆土 5層に分層できる。第5層はロームブロックを含む壁面の崩落土で、第1~4層は自然堆積である。

所見 時期は、遺物が出土していないために明確ではないが、規模や形状から縄文時代と考えられる。

第2表 縄文時代陥し穴一覧

番号	位置	長径方向	平面形	規 模		壁 面	底 面	覆 土	主な出土遺物	備 考
				長径×短径 (m)	深さ (cm)					
3	S1g7	N-28°-W	楕円形	2.58 × 0.82	96	外傾	陸淵	自然	-	
4	U1d9	N-60°-E	楕円形	3.30 × 0.57	95	ほぼ直立	平坦	自然	-	
5	U1e9	N-66°-W	楕円形	1.44 × 0.70	46	ほぼ直立	平坦	自然	-	
6	U1e0	N-42°-W	[楕円形]	(1.98) × 0.94	82	外傾	平坦	自然	-	
7	U1b8	N-72°-E	楕円形	2.70 × 0.58	94	直立	皿状	自然	-	
8	U1b8	N-67°-W	楕円形	2.90 × 0.54	66	直立	平坦	自然	-	

2 古墳時代の遺構と遺物

当時代の遺構は、竪穴建物跡1棟を確認した。以下、遺構及び遺物について記述する。

第243号竪穴建物跡（第10・11図 PL.3）

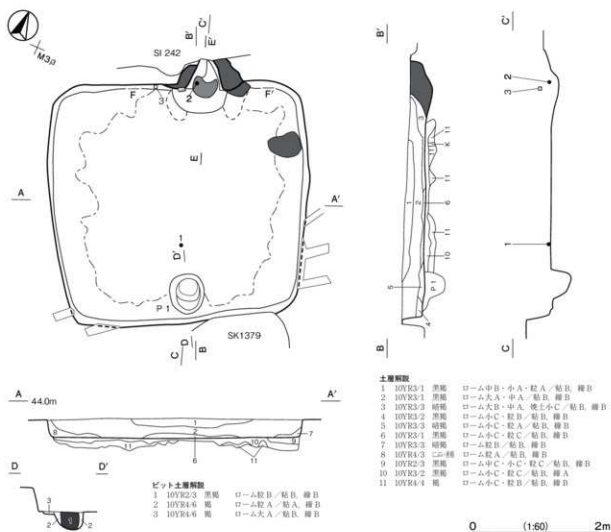
位置 D区南部のM33区、標高44mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第242号竪穴建物、第1379号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸4.14m、短軸3.80mの方形で、主軸方向はN-23°-Wである。壁は高さ28～36cmで、ほぼ直立している。

床 平坦で、中央部が全体に踏み固められている。東壁際には竈の袖部の一部と考えられる楕円形状の砂質粘土が確認できた。貼床はロームブロックを含む第9～11層を10～20cmほど埋土して構築されている。

竈 北壁のやや東寄りに付設されている。竪穴建物に掘り込まれているため、規模は焚口部から煙道部まで85cmしか確認できなかった。燃烧部幅は40cmほどである。袖部は地山を20～35cmほど掘りくぼめ、ロームブロックや焼土粒子を含む第12～20層を埋土して整地した後、粘土ブロックやローム粒子を含む第7～11層を積み上げて構築されている。左袖部は補強材として凝灰質泥岩の切り石を内部に設置している。火床部は



第10図 第243号竪穴建物跡実測図

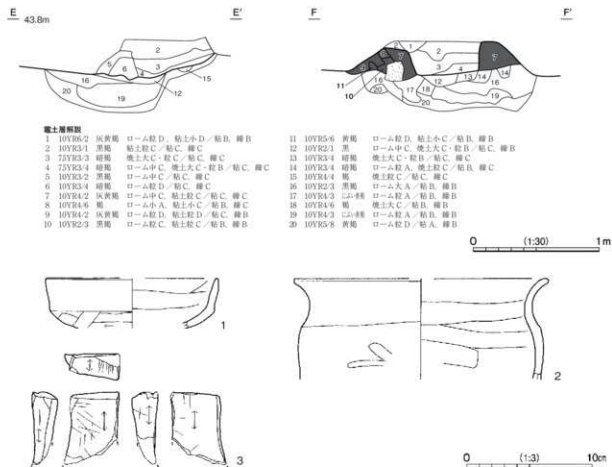
不整形円形で床面から30cm掘りくぼめられている。火床面は第12・13層上面で、赤変硬化している。煙道部は壁外に50cmほど掘り込まれているのを確認した。火床面から緩やかに立ち上がっている。

ピット P1は深さ30cmで、竈に対面した南壁際に位置しており、出入口施設に伴うピットと考えられる。第1層は柱痕跡、第2・3層は埋土である。

覆土 8層に分層できる。ロームブロックや焼土粒子が含まれていることや不規則な堆積状況から、埋め戻されている。

遺物出土状況 土師器片46点(坏5、碗4、甕類37)、須恵器片4点(坏)、石器1点(砥石)が出土している。1はP1寄りの床面から、2は竈内の覆土下層から、3は竈左袖寄りの覆土中層から出土している。

所見 時期は、出土土器から7世紀代と考えられる。



第11図 第243号竪穴建物跡・出土遺物実測図

第3表 第243号竪穴建物跡出土遺物一覧

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	ほか	出土位置	備考
1	土師器	坏	[134]	(40)	-	長石・石英・ 炭屑	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 夕側方 内面ナデ	体部外周下縁手持ちへ	床面	10% PL25
2	土師器	甕	[200]	(80)	-	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横ナデ	体部内面ナデ	竈内	5%
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴			出土位置	備考	
3	砥石	(5.7)	(4.4)	(2.1)	(51.57)	粘板岩	砥面5面	浅いくぼみに磨き直			覆土中層	

3 奈良・平安時代の遺構と遺物

当時代の遺構は、竪穴建物跡52棟、掘立柱建物跡2棟、土坑15基を確認した。以下、遺構及び遺物について記述する。

(1) 竪穴建物跡

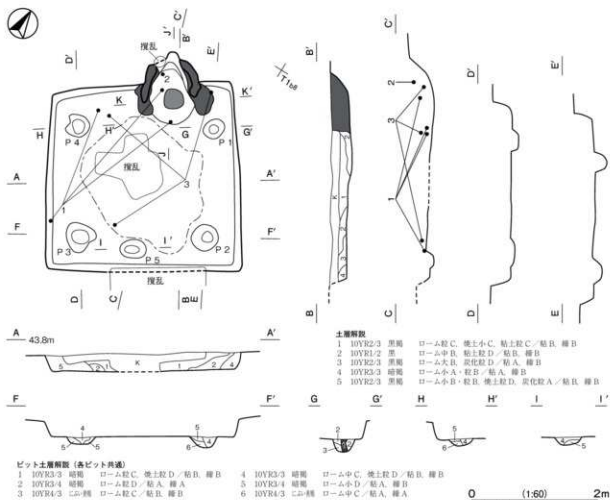
第13号竪穴建物跡 (第12・13図 PL.4)

位置 B区南部のT1b7区、標高44mほどの平坦な台地上に位置している。

規模と構造 長軸3.10m、短軸3.01mの方形で、主軸方向はN-32°-Wである。壁は高さ27cmで、ほぼ直立している。

床 平坦で、中央部が踏み固められている。

竈 北壁中央部から東寄りに付設されている。規模は焚口部から煙道部まで115cmで、燃焼部幅は65cmである。軸部は地山を9~21cm掘りくぼめ、ロームブロックや焼土粒子・炭化粒子を含む第15~19層を埋土して整地した後、焼土ブロックや粘土ブロックを含む第13・14層を積み上げて構築されている。火床部は楕円形で浅い皿状にくぼんでいる。火床面は第15層上面で、赤変硬化している。煙道部は壁外に50cmほど掘り込まれ、火床面から緩やかに立ち上がっている。



第12図 第13号竪穴建物跡実測図

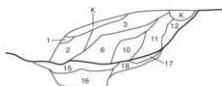
ピット 5か所。P1～P4は深さ10～20cmほどで、配置から主柱穴と考えられる。P1の第1層は柱痕跡、第2・3層は埋土である。P2～P5の第4～6層は柱材を抜き取った後の覆土である。P5は竈に対面した南壁際に位置しており、出入口施設に伴うピットと考えられる。

覆土 5層に分層できる。ロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。

遺物出土状況 土師器片49点(甕類48, 瓶1), 須恵器片3点(坏1, 甕類2), 土師質土器片1点(鉢), 金属製品1点(釘)が出土している。1は竈内と北西コーナー部、西壁際の床面から覆土下層にかけて出土した破片が接合したものである。2は竈の覆土中層から出土している。3は右袖部と北壁寄り、P5寄りの覆土下層から中層にかけて出土した破片が接合したものである。

所見 時期は、出土土器から9世紀代と考えられる。

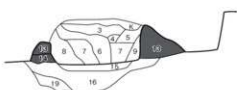
J 43.8m



J'

K

K'

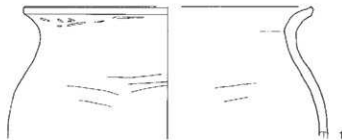


竈土層解説

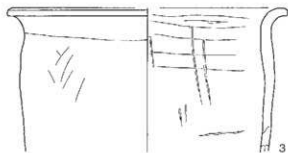
- | | |
|----------------|---------------------------------|
| 1 10YR2-1 黒 | ローム中D / 粘土 緑B |
| 2 10YR3-2 黒褐色 | 焼土粒D, 粘土粒C / 粘土 緑B |
| 3 10YR4-2 灰青褐色 | 炭化粒C, 粘土中A / 粘土 緑A |
| 4 10YR3-3 暗褐色 | 炭化粒D, 粘土粒C / 粘土 緑B |
| 5 10YR3-2 黒褐色 | 焼土中D, 炭化粒B, 粘土中B / 粘土 緑A |
| 6 10YR3-2 黒褐色 | ローム粒D, 焼土中C, 炭化物D, 粘土粒D / 粘土 緑B |
| 7 10YR3-4 暗褐色 | 焼土小C, 炭化粒D / 粘土 緑B |
| 8 10YR3-4 暗褐色 | 焼土粒D, 炭化粒D, 粘土粒C / 粘土 緑B |
| 9 10YR4-2 灰青褐色 | 焼土粒D, 炭化粒D, 粘土大A / 粘土 緑A |
| 10 10YR4-3 二色緑 | ローム粒D, 焼土小C, 炭化粒C, 粘土大B / 粘土 緑A |

- | | |
|-----------------|---------------------------------|
| 11 10YR3-4 暗褐色 | ローム粒D, 炭化粒D, 粘土中C / 粘土 緑B |
| 12 10YR3-4 暗褐色 | 炭化粒D, 粘土粒D / 粘土 緑B |
| 13 10YR4-2 灰青褐色 | 焼土中D, 粘土粒A / 粘土 緑A |
| 14 10YR4-3 二色緑 | ローム中C, 焼土小C, 炭化粒D, 粘土大C / 粘土 緑B |
| 15 10YR3-3 暗褐色 | ローム中B, 焼土小C, 炭化粒C / 粘土 緑B |
| 16 10YR2-1 黒 | ローム中B, 焼土粒D / 粘土 緑B |
| 17 10YR3-4 暗褐色 | ローム小C / 粘土 緑B |
| 18 10YR4-4 黒 | ローム粒C / 粘土 緑B |
| 19 10YR4-4 黒 | ローム粒B / 粘土 緑B |

0 (1:30) 1m



1



3



0 (1:3) 10cm

第13図 第13号竈穴建物跡・出土遺物実測図

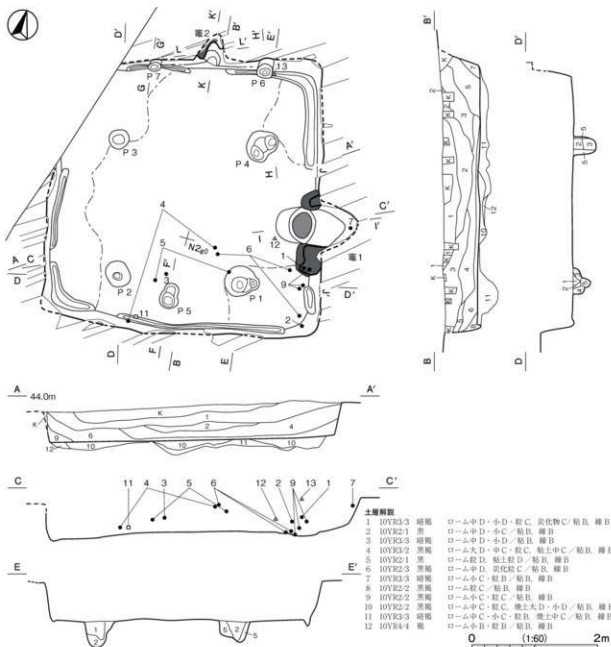
第4表 第13号竪穴建物跡出土物一覧

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師器	甕	[227]	[106]	-	長石・石英・ 灰色粒子	明赤褐色	普通	口縁部外・内面横ナテ 体部外・内面ナテ	竈内・体面・ 灰土下層	5%
2	須恵器	甕	-	[96]	-	長石・石英・ 灰色粒子	灰黄	良好	体部外面横位の平行切ぎ 内面当て具痕	竈内	10%
3	土師器	甕	[216]	[115]	-	長石・石英・ 赤色粒子	にみ増	普通	口縁部外・内面横ナテ 体部外・内面ナテ へ ラ当て痕 輪痕み痕	竈内・下層 灰土中層	20% PL.25

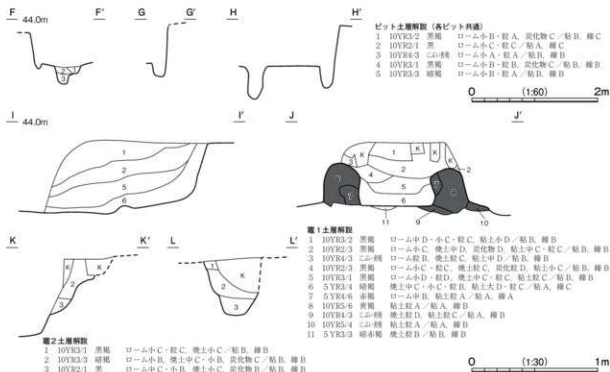
第197号竪穴建物跡（第14～16図 PL.4）

位置 C区北部のN29区、標高44mほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 北西部が一部調査区域外であるが、長軸4.44m、短軸4.40mの方形で、主軸方向はN-75°-Eである。壁は高さ50～62cmで、ほぼ直立している。



第14図 第197号竪穴建物跡実測図(1)



第15図 第197号竪穴建物跡実測図(2)

床 平坦で、中央部と竈周辺が踏み固められている。貼床はロームブロックを含む第10～12層を10～30cm埋土して構築されている。竈寄りと一部を除いて壁溝が巡っている。

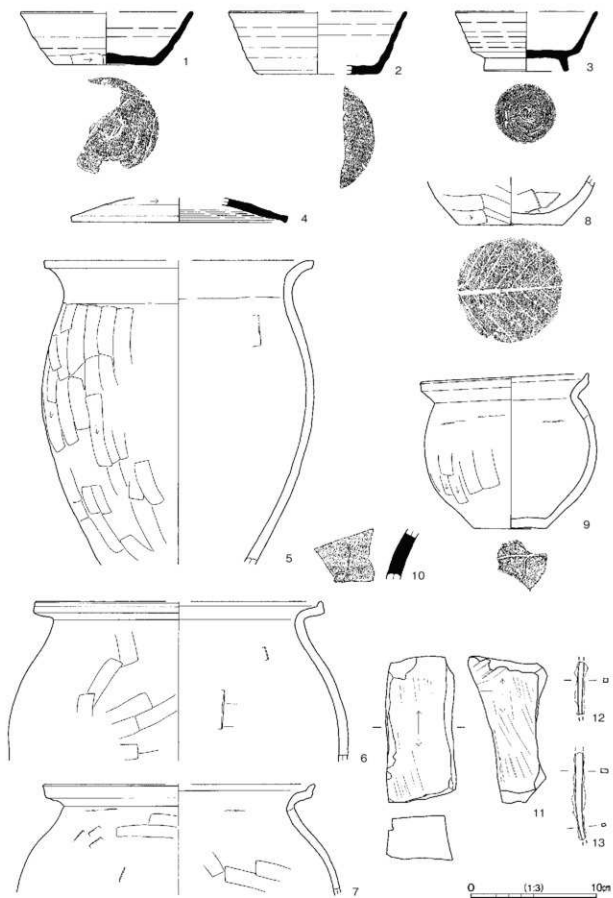
竈 2か所。東壁に竈1、北壁に竈2を確認したが、袖の遺存状態から竈2の使用後に、竈1が作られたと考えられる。竈1は東壁や雨寄りに付設されている。規模は焚口部から煙道部まで130cmで、燃焼部幅は55cmである。両袖部は地山の上にロームブロックや粘土粒子を含む第7～10層を積み上げて構築されている。火床部は楕円形で浅く掘りくぼめ、焼土粒子を含む第11層を埋土している。火床面は第11層上面で火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に60cmほど掘り込まれ、火床面から外傾している。竈2は北壁中央部に付設され、確認できた規模は焚口部から煙道部まで50cmで、燃焼部幅は30cmである。火床面は赤変していない。左袖部には、砂質粘土がわずかに遺存している。

ピット 7か所。P1～P4は深さ30～40cmで、規模や配置から主柱穴である。P5は深さ25cmで、竈2に対面した南壁寄りに位置しており、出入口施設に伴うピットと考えられる。P6・P7は竈2の両側の北壁に位置していることから、補助柱穴とみられる。第1～4層は柱材を抜き取った後の覆土である。第5層は埋土である。

覆土 9層に分層できる。ロームブロックや焼土粒子が含まれていることや不規則な堆積状況から、埋め戻されている。

遺物出土状況 土師器片609点(坏15, 小型甕3, 甕類591), 須恵器片103点(坏70, 高台付坏5, 蓋6, 盤1, 長頸瓶1, 甕類20), 陶器片1点(皿), 石器2点(敲石, 砥石), 金属製品3点(釘2, 不明鉄製品1), 鉄滓1点, 瓦2点が南部から南東部にかけて集中して出土している。9は床面と覆土中層, 6は床面と覆土上層, 4は覆土下層と覆土上層から出土した破片が接合している。11は覆土下層から, 1～3・5・12は覆土中層から, 7・13は覆土上層から出土している。8・10は覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器から8世紀後葉と考えられる。



第16图 第197号竖穴建物跡出土遺物実測図

第5表 第197号竪穴建物跡出土遺物一覧

番号	器種	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	地成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	須恵器	坏	[135]	4.3	[84]	長石・石英・ 黒色粒子・細礫	黄灰	普通	口縁部、体部外、内面ロクロナデ 体部下端手持ちヘラ削り 底部多角的なヘラ削り	覆土中層	30% PL25 PL31
2	須恵器	坏	[140]	5.0	[92]	長石・石英	黄灰	普通	口縁部、体部外、内面ロクロナデ 体部下端回転ヘラ削り 底部ヘラナデ	覆土中層	20% 木蓋下蓋
3	須恵器	高台付坏	[112]	4.8	6.3	長石・石英・ 針状物含む	灰褐色	普通	体部外、内面ロクロナデ 底部回転ヘラ削り後高台付付け	覆土中層	50% 木蓋下蓋
4	須恵器	蓋	[168]	(1.9)	-	長石・石英・ 黒色粒子・細礫	灰	普通	天井部回転ヘラ削り	覆土下層	20%
5	土師器	甕	[214]	(24.2)	-	長石・石英	灰黄褐色	普通	口縁部外、内面横ナデ 体部外面縦位のヘラ削り 内面ヘラ当て直	覆土中層	30% PL25
6	土師器	甕	[225]	(12.8)	-	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部外、内面横ナデ 体部外面上半ヘラナデ 内面ヘラ当て直	床面 覆土上層	10%
7	土師器	甕	[214]	(8.8)	-	長石・石英・ 赤母・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	口縁部外、内面横ナデ 体部外面上半ヘラナデ ヘラ当て直 内面ヘラナデ 輪積み直	覆土中層	10%
8	土師器	甕	-	(3.9)	8.4	長石・石英	明赤褐	普通	体部下半横位のヘラ削り 内面ヘラナデ ヘラ当て直 底部木蓋直	覆土中	10%
9	土師器	小型甕	13.1	12.3	[5.8]	-	赤褐	普通	口縁部外、内面横ナデ 体部外面縦位のヘラ削り 内面ナデ 底部木蓋直 輪積み直	床面 覆土中層	80% PL25
10	須恵器	甕	-	(4.0)	-	長石・石英	黄灰	普通	体部外、内面ロクロナデ	覆土中	5% PL25 ヘラ削り[*]

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
11	砥石	11.7	5.6	6.3	4900	粘板岩	砥面2面 溝状の浅い・深い研き直	覆土下層	PL43

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
12	釘	(4.2)	(0.4)	0.3	(3.04)	鉄	頭部・先端部欠損 脚部断面正方形	覆土中層	
13	釘	(7.0)	(0.6)	0.3	(7.67)	鉄	頭部・先端部欠損 脚部断面長方形	覆土上層	

第198号竪穴建物跡(第17～18図 PL4)

位置 C区北部のO2a9区、標高44mほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 長軸4.10m、短軸3.85mの方形で、主軸方向はN-12'-Wである。壁は高さ48～57cmで、直立している。

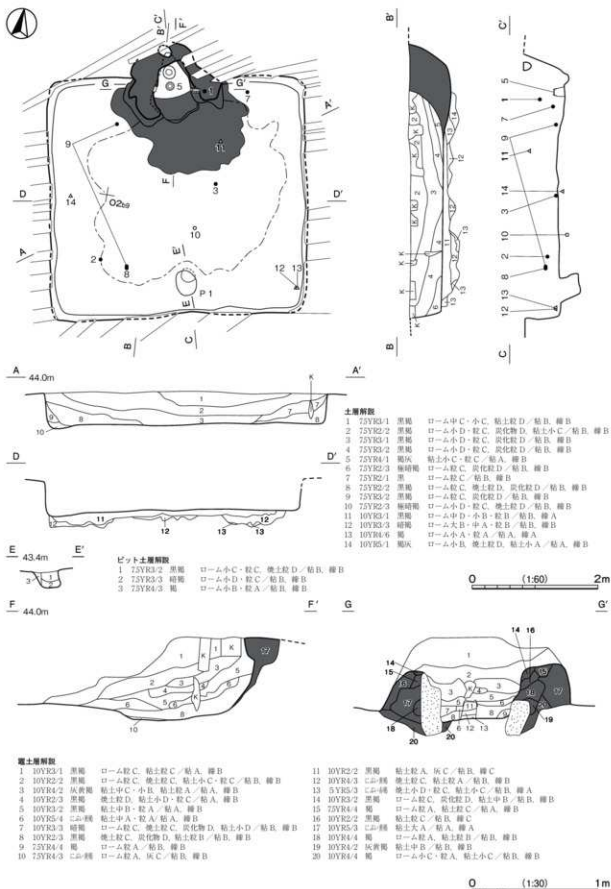
床 平坦で、竈の前方から中央部が踏み固められている。貼床はロームブロックや焼土粒子を含む第11～14層を27cmほど埋土して構築されている。

竈 北壁中央部に付設されている。攪乱を受けているため、確認できた規模は焚き口から煙道部まで127cmで、燃焼部幅は66cmである。両袖部は地山を掘り込み、粘土ブロックやローム粒子を含む第14～20層を積み上げ、内側を凝灰質泥岩の切り石で補強している。焚き口から床面中央部にかけて、竈部材の粘土が広がっている。火床部には土師器の高台付坏を粘土の塊の上に逆位に置き、支脚として転用していたと考えられる。火床面は赤変硬化していない。煙道部は粘土で補強されており、壁外に58cm掘り込まれ、火床面から外傾している。ピット P1は深さ32cmで、竈に面した南壁際に位置しており、出入口施設に伴うピットと考えられる。第1・2層は柱材を抜き取った後の覆土、第3層は埋土である。

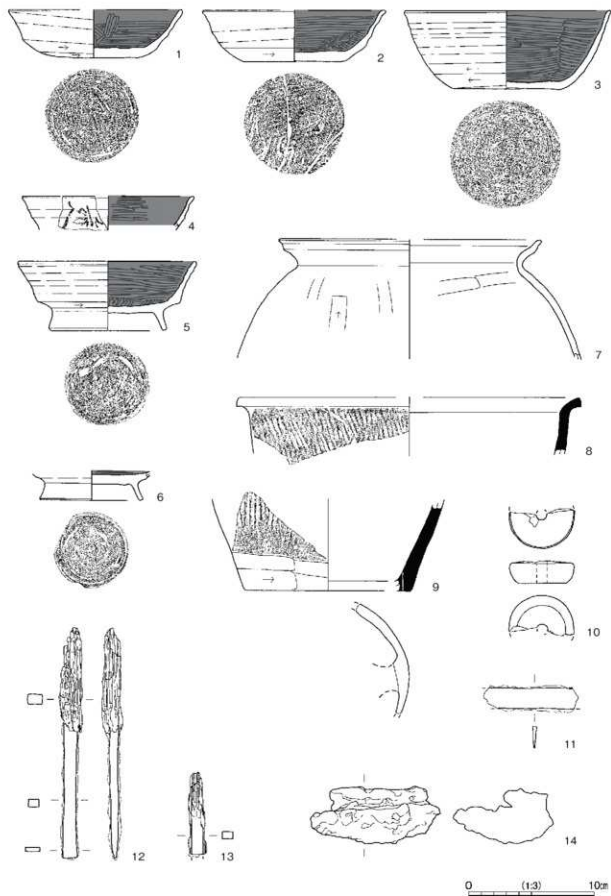
覆土 10層に分層できる。ロームブロックが含まれている層もあるが、レンズ状に堆積していることから、自然堆積と考えられる。

遺物出土状況 土師器片435点(坏42, 高台付坏4, 甕類389), 須恵器片73点(坏20, 高台付坏3, 蓋2, 長頸壺1, 甕類44, 甗3), 土製品1点(紡錘車), 金属製品4点(刀子1, 釘1, 撃圧工具2), 輪形滓1点, 礫5点が出土している。3は中央部床面から、5は竈火床部から、1は竈右袖部から出土している。7は竈右袖寄り、12・13は南東コーナー部の覆土下層から、9は竈左袖寄りの床面と南西コーナー部の覆土中層から出土した破片が接合して、2・8は南西コーナー部の覆土中層から、11は中央部の覆土上層から、4・6は覆土中から出土している。10・14は掘方の埋土から出土している。

所見 時期は、出土土器から9世紀後半と考えられる。



第17図 第198号弩穴建物跡実測図



第 18 图 第 198 号竖穴建物跡出土遺物実測図

第6表 第198号竪穴建物跡出土遺物一覧

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴はか	出土位置	備考
1	土師器	坏	[136]	3.8	7.4	長石・石英・ 赤鉄・赤色粒子	橙	普通	口縁部・体部外面ロクロナデ 内面へう磨き 体部下端へう磨き 底部回転へう磨き	竈石軸部	70% PL25
2	土師器	坏	[143]	4.1	8.0	長石・石英・ 赤鉄・赤色粒子	橙	普通	口縁部・体部外面ロクロナデ 内面へう磨き 体部下端回転へう磨き 底部回転へう磨き後ナデ 方面ロクロナデ	覆土中層	60% PL25
3	土師器	坏	162	6.3	8.7	長石・石英・ 赤鉄・赤色粒子	浅黄橙	普通	口縁部・体部外面ロクロナデ 内面へう磨き 体部下端回転へう磨き 底部回転へう磨き	床面	80% PL25
4	土師器	坏	[134]	(2.7)	-	長石・石英・ 赤鉄・赤色粒子	橙	普通	口縁部・体部外面ロクロナデ 内面へう磨き	覆土中	5% [J] 25% [I]
5	土師器	高台付杯	140	5.5	8.9	長石・石英・ 赤鉄・赤色粒子	にじみ橙	普通	体部外面ロクロナデ 内面へう磨き 体部下端回 転へう磨き 底部回転へう磨き後高台付付け	火床部	90% PL25 大脚軌用
6	土師器	高台付杯	-	(2.4)	(8.0)	長石・石英・ 針状物質	橙	普通	体部外面ロクロナデ 内面へう磨き 底部回転 へう磨き後高台付付け	覆土中	20%
7	土師器	甕	[206]	(9.5)	-	長石・石英・ 赤鉄・赤色粒子	にじみ橙	普通	口縁部外・内面ロクロナデ 体部外面上位ナデ 縦 紋のへう磨き 内面横ナデ	覆土下層	5%
8	須恵器	瓶	[268]	(4.7)	-	長石・石英・ 赤鉄	靑灰	普通	口縁部外・内面ロクロナデ 体部外面縦位の平 行明り	覆土中層	10% 新治産
9	須恵器	瓶	-	(7.3)	[131]	長石・石英・ 赤鉄	靑灰	普通	体部外面縦位の平行明り 体部下端横位の手持 ちへう磨き 多孔式	床面 覆土中層	10%

番号	器種	径	孔径	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
10	紡車	5.2	0.8	1.8	(29.66)	長石・石英	にじみ橙	外面ナデ 断面逆台形	南方埴土	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
11	刀子	(7.6)	(1.7)	0.3	(24.55)	鉄	刀部・先端部欠損 基部欠損 刃部断面三角形	覆土上層	
12	鋳状工具	18.4	1.7	0.8	(82.95)	鉄	柄部欠損 先端V字状 木質付着 刃部断面長方形	覆土下層	PL44
13	鋳状工具	(6.5)	1.5	0.6	(18.96)	鉄	柄・首・刃部欠損 木質付着 首部断面長方形	覆土中層	PL44
14	腕形漆	8.0	10.4	4.7	(440)	鉄	一部染汚 全面錆化 着磁性なし	南方埴土	PL43

第199号竪穴建物跡(第19～21図 PL4)

位置 C区北部のO3c1区。標高44mほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 複視により、遺存状態は良好ではないが、竈や壁の確認状況から長軸3.68m、短軸3.66mの方形で、主軸方向はN-34°-Wである。壁は高さ60～72cmで、ほぼ直立している。

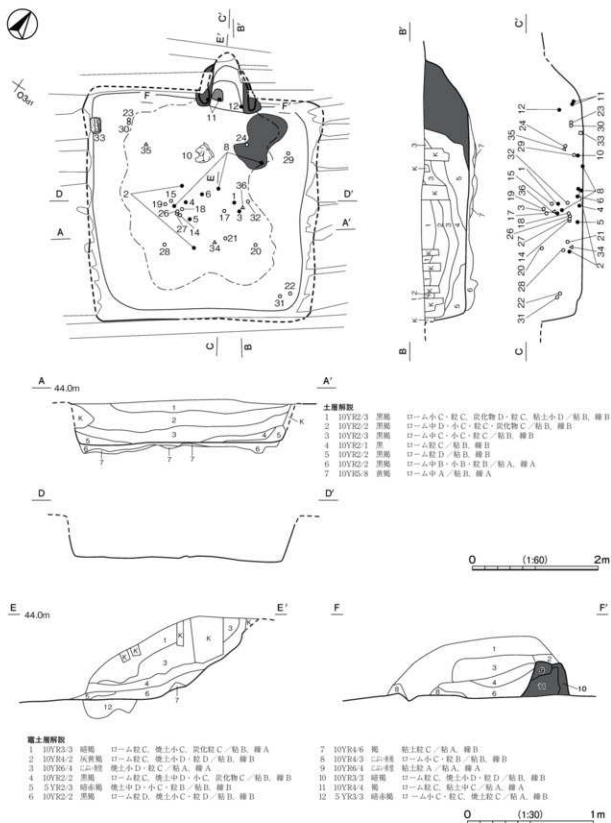
床 平坦で、竈の前方から中央部が踏み固められている。貼床はロームブロックを含む第6・7層を15cmほど埋土して構築されている。

竈 北壁中央部やや東寄りに付設されている。確認できた規模は焚口部から煙道部まで95cmで、燃焼部幅は50cmである。袖部は地山の上に粘土ブロックやローム粒子を含む第9～11層を積み上げて構築されている。天井部や袖部構築に利用された粘土が、右袖側の床面に広がっている。火床部は楕円形で床面から15cmほど掘りくぼめ、ロームブロックや焼土粒子を含む第12層を埋土している。火床面は第12層上面で、亦硬化している。煙道部は壁外へ70cmほど掘り込まれ、火床面から緩やかに立ち上がっている。

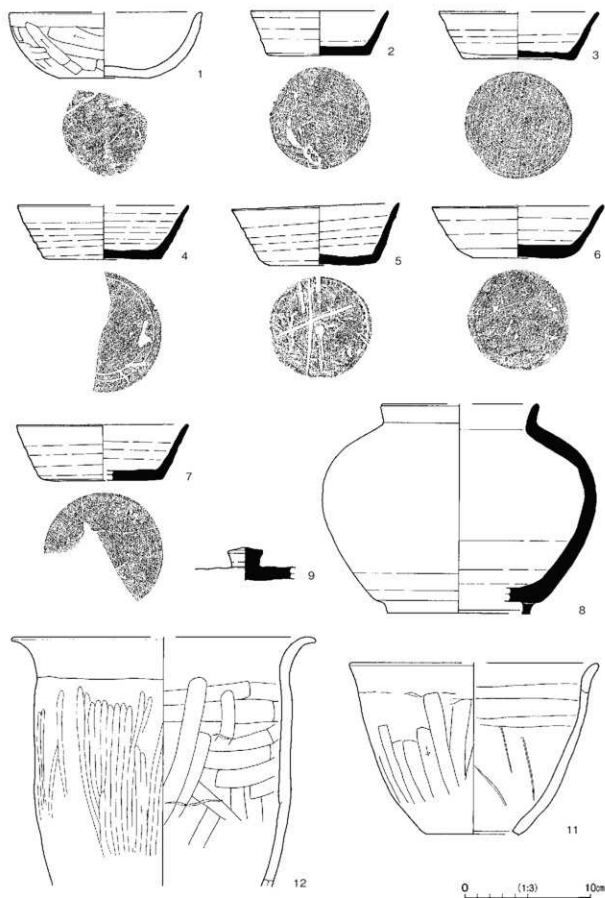
覆土 5層に分層できる。ロームブロックや炭化物が含まれている層もあるが、レンズ状に堆積していることから、自然堆積と考えられる。

遺物出土状況 土師器片277点(坏43, 蓋1, 小型甕3, 甕類228, 瓶2), 須恵器片115点(坏96, 蓋4, 盤1, 短頸壺1, 甕類13), 陶器片1点(甕), 土製品20点(管状土鍾), 金属製品5点(刀子3, 釘2), 凝灰質泥岩1点, 礫8点が出土している。33は北西コーナー部の床面, 8は中央部の床面と覆土中層から出土した破片が接合したもので, 11は竈内, 4～6・10は中央部, 29は北東コーナー部の覆土下層から, 2は中央部の覆土下層と覆土中層から出土した破片が接合したもので, 12は竈内, 1・3・14・18・21・24・26～28・32・34・35は中央部, 23・30は北西コーナー部, 22・31は南東コーナー部の覆土中層から出土している。15・17・19・20・36は中央部の覆土上層から出土している。7・9・13・16・25は覆土中から出土している。

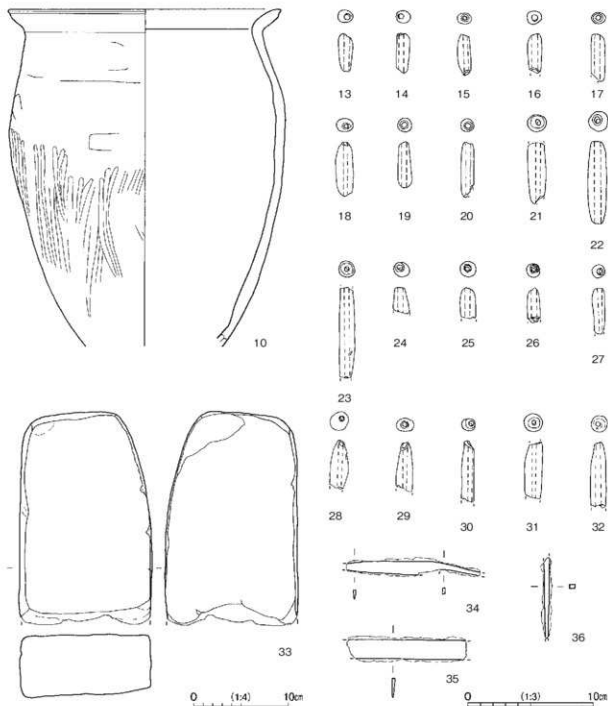
所見 時期は、出土土器から8世紀中葉と考えられる。



第19図 第199号竪穴建物跡実測図



第20图 第199号竖穴建物跡出土遺物実測図(1)



第21図 第199号竪穴建物跡出土遺物実測図(2)

第7表 第199号竪穴建物跡出土遺物一覧

番号	種別	部種	口径	部高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師器	坏	[150]	53	70	長石・石英・黒色粒子・細礫	にがい黄褐色	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面へツ刷り 底部多方向のへツ刷り	覆土中層	60% PL26
2	須恵器	坏	109	37	80	長石・石英・針状物質・細礫	灰	普通	口縁部 体部外・内面口クロナデ 底部回転へツ刷り横ナデ	覆土中層 覆土下層	95% PL26 木蓋下層
3	須恵器	坏	[125]	37	86	長石・石英	黄灰	普通	口縁部 体部外・内面口クロナデ 底部回転へツ刷り	覆土中層	60% PL26 木蓋下層
4	須恵器	坏	[134]	43	[94]	長石・黒色粒子・針状物質・細礫	灰	普通	口縁部 体部外・内面口クロナデ 底部回転へツ刷り	覆土中層	40% PL26 木蓋下層
5	須恵器	坏	131	49	81	長石・石英	灰	良好	口縁部 体部外・内面口クロナデ 底部回転へツ刷り 横状工具先端による刷り	覆土下層	70% PL26 へツ刷り「漆」木蓋下層
6	須恵器	坏	136	42	80	長石・石英・針状物質・細礫	黄灰	普通	口縁部 体部外・内面口クロナデ 底部回転へツ刷り後一方向のナデ	覆土下層	80% PL26 へツ刷り「漆」木蓋下層

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
7	須臾器	坏	13.4	4.5	9.5	長石・石英・ 黒色粒子・粗粒	褐色	良好	口縁部・体部外・内面ロクロナデ 底部回転ヘ ラ周方後一方向のナデ	覆土中	50% 木葉下塗
8	須臾器	短頸甕 [122]	16.7	[11.3]		長石・石英・ 粗粒	褐色	普通	体部外・内面ロクロナデ 高台胎付け	表面 覆土中層	20% PL.26
9	須臾器	蓋	-	[2.6]	-	長石・石英	明赤褐色	普通	瓦舟部ロクロナデ	覆土中	10%
10	土師器	甕	21.6	(26.9)	-	長石・石英・ 赤色粒子	明赤褐色	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面ヘラナデ 下 位ヘラ磨き	覆土下層	80% PL.26 外面磨行着
11	土師器	甕 [196]	13.6	[7.1]		長石・石英・ 赤色粒子・粗粒	にぶい褐色	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面縦位のヘラ磨 り 内面ナデ 輪軸み直	覆土中層	40%
12	土師器	甕 [237]	19.6	-		長石・石英	明赤褐色	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面縦位のヘラ磨 き 内面横位と縦位のナデ 輪軸み直	甕内	20% PL.26

番号	器種	長さ	径	孔径	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
13	管状土師	3.0	1.0~1.1	0.4~0.5	3.30	長石・石英・ 赤色粒子	褐色	外面ナデ 穿孔	覆土中	PL.41
14	管状土師	3.1	1.0~1.1	0.4	3.45	長石・石英	にぶい黄褐色	外面ナデ 穿孔	覆土中層	PL.41
15	管状土師	3.3	0.8~1.1	0.3~0.4	3.24	長石・石英・ 赤色粒子	にぶい褐色	外面ナデ 穿孔	覆土上層	PL.41
16	管状土師	(3.1)	1.0~1.2	0.4~0.5	(3.97)	長石・石英	にぶい褐色	外面ナデ 穿孔 片方欠損	覆土中	PL.41
17	管状土師	3.8	0.9~1.1	0.4	(3.94)	赤褐色	赤褐色	外面ナデ 穿孔 片方欠損	覆土上層	PL.41
18	管状土師	4.3	1.0~1.3	0.3	(6.21)	長石・石英	明赤褐色	外面ナデ 穿孔	覆土中層	PL.41
19	管状土師	3.6	1.1	0.4	4.07	長石・石英・ 赤色粒子	褐色	外面ナデ 穿孔	覆土上層	PL.41
20	管状土師	4.4	1.0	0.4	(4.75)	長石・石英・ 黒色粒子	明赤褐色	外面ナデ 穿孔 片方欠損	覆土上層	PL.41
21	管状土師	(4.9)	1.3~1.5	0.4	(9.84)	長石・石英・ 赤色粒子	にぶい褐色	外面ナデ 穿孔 両方欠損	覆土中層	PL.41
22	管状土師	6.5	1.5~1.6	0.5	16.42	長石・石英	にぶい黄褐色	外面ナデ 穿孔	覆土中層	PL.41
23	管状土師	(7.2)	1.2~1.4	0.4	(13.40)	長石・石英	明赤褐色	外面ナデ 穿孔 両方欠損	覆土中層	PL.41
24	管状土師	(2.1)	1.2~1.3	0.4	(2.48)	長石・石英	赤褐色	外面ナデ 穿孔 片方欠損	覆土中層	
25	管状土師	(2.5)	1.3	0.5	(3.86)	長石・石英	明褐色	外面ナデ 穿孔 片方欠損	覆土中	
26	管状土師	(2.8)	1.1	0.6	(2.40)	長石・石英	にぶい褐色	外面ナデ 穿孔 両方欠損	覆土中層	
27	管状土師	(3.7)	1.0~1.1	0.4	(3.50)	長石・石英・ 赤色粒子	明赤褐色	外面ナデ 穿孔 片方欠損	覆土中層	
28	管状土師	(3.9)	1.4~1.5	0.3	(4.55)	長石・石英	浅黄褐色	外面ナデ 穿孔 片方欠損	覆土中層	
29	管状土師	(4.0)	1.1~1.4	0.3~0.4	(5.37)	長石・石英	明赤褐色	外面ナデ 穿孔 両方欠損	覆土下層	
30	管状土師	(4.9)	1.0	0.4	(5.53)	長石・石英	にぶい褐色	外面ナデ 穿孔 両方欠損	覆土中層	
31	管状土師	(4.6)	1.4	0.4	(8.55)	長石・石英	浅黄褐色	外面ナデ 穿孔 両方欠損	覆土中層	
32	管状土師	(5.2)	1.3	0.3~0.5	(8.23)	長石・石英	褐色	外面ナデ 穿孔 片方欠損	覆土中層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
33	甕部材	(22.6)	14.0	6.8	(1,520)	陶灰質泥岩	直方体に成形	床面	PL.42

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
34	刀子	(10.7)	1.1	0.2	(11.13)	鉄	刃先端部欠損 基部欠損 刃部断面三角形 基部断面長方形	覆土中層	
35	刀子	(9.5)	(1.6)	0.2	(10.80)	鉄	刃先端部欠損 基部欠損 刃部断面三角形	覆土中層	
36	釘	(6.4)	(0.4)	0.4	(6.29)	鉄	頭部・先端部欠損 脚部断面長方形	覆土上層	

第200号竪穴建物跡(第22・23図 PL5)

位置 C区北部のO3E1区、標高43mほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 複検により、遺存状態は良好ではないが竈や壁溝の確認状況から、長軸4.50m、短軸4.34mの方形で、主軸方向はN-6°-Wである。壁は高さ35~50cmで、ほぼ直立している。

床 平坦で、ほぼ全面が踏み固められている。貼床はロームブロックや炭化粒子を含む第8層を埋土して構築されている。壁溝が一部を除いて巡っている。

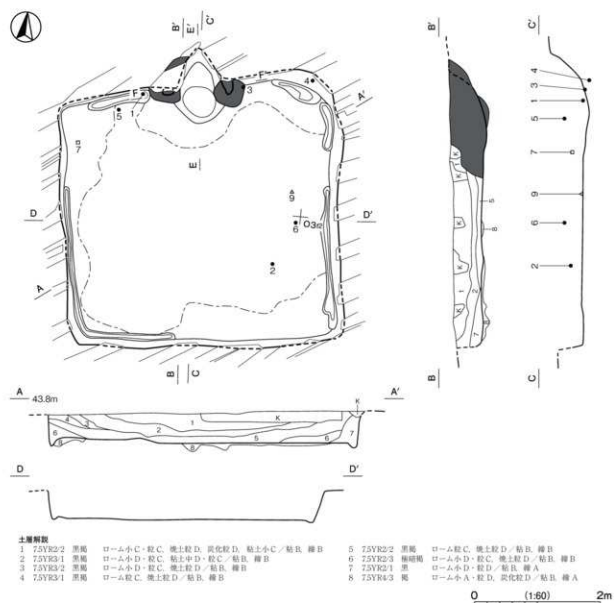
竈 北壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで120cmで、燃焼部幅は52cmである。両袖部は地山の上に芯材として凝灰質泥岩を使い、ロームブロックや粘土ブロックを含む第11~13層を積み上げて

構築されている。火床部は楕円形で床面から22cmほど掘りくぼめ、ロームブロックを含む第14～16層を埋土している。火床面は赤変していない。煙道部は壁外に55cmほど掘り込まれ、火床面から緩やかに立ち上がっている。

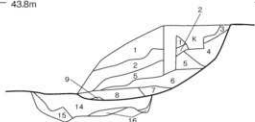
覆土 7層に分層できる。ロームブロックや粘土ブロックが含まれているが、レンズ状に堆積していることから、自然堆積と考えられる。

遺物出土状況 土師器片185点(坏14, 高台付坏3, 蓋1, 甕類167), 須恵器片65点(坏44, 高台付坏3, 甕5, 甕類13), 陶器片2点(碗, 甕類), 土師質土器片1点(小皿), 石器2点(砥石), 金属製品2点(釘), 礫5点が出土している。9は東部の床面から, 3は竈右袖部, 1は竈西側の覆土下層から, 6は東部, 2は南東部, 5・7は北西コーナー部の覆土中層から, 4は北東コーナー部の掘方の埋土から出土している。8は覆土中から出土している。

所見 時期は, 出土土器から9世紀中葉と考えられる。

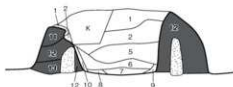


第22図 第200号竪穴建物跡実測図

E
43.8m

E'

F



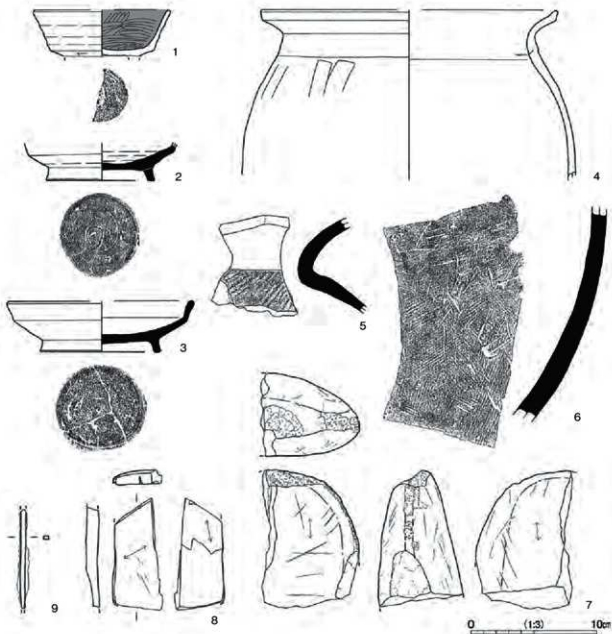
F'

出土物説明

- 1 10YR2-2 黒陶 ロ-ム中・C、焼土小D・粒C、炭化物D、粘土大D・粒C/粘B、緑B
 2 10YR2-2 黒陶 ロ-ム小・C・粒C、炭化物C/粘B、緑B
 3 10YR2-2 黒陶 ロ-ム小・C・粒C、焼土小A、粘土中D/粘B、緑B
 4 10YR3-3 黒陶 ロ-ム粒C、粘土粒B/粘A、緑B
 5 10YR3-1 黒陶 ロ-ム小・C・粒C、焼土小・C、粘土中D/粘B、緑B
 6 10YR6-2 灰青磁 ロ-ム粒C、焼土粒D、粘土中・小C・粒C/粘B、緑B
 7 5YR4-4 土赤磁 ロ-ム粒C、焼土粒C/粘B、緑B
 8 10YR2-3 黒陶 ロ-ム中D・小C、焼土粒C、粘土中D/粘B、緑B

- 9 10YR4-3 土赤磁 ロ-ム粒C、焼土粒D、粘土小C/粘B、緑B
 10 10YR3-3 黒陶 ロ-ム小・C・粒C/粘B、緑B
 11 10YR4-2 灰青磁 ロ-ム粒C、焼土粒D、粘土粒C/粘B、緑A
 12 10YR5-4 土赤磁 粘土中A/粘A、緑A
 13 10YR3-4 黒陶 ロ-ム小B・粒B、粘土粒C/粘B、緑A
 14 10YR2-2 黒陶 ロ-ム大D・中D・小C・粒C/粘B、緑B
 15 10YR4-4 土赤磁 ロ-ム大D・中・小C・粒B/粘B、緑B
 16 10YR4-4 黒陶 ロ-ム粒B/粘B、緑B

0 (1:30) 1m



第23図 第200号竖穴建物跡・出土遺物実測図

第8表 第200号竪穴建物跡出土遺物一覧

番号	器種	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	地成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師器	高台付杯	[106]	(37)	-	長石・石英	橙	普通	体部外面口ロナデ 内面へう磨き 体部下端回転へう割り 底面回転へう割り後高台貼付け	覆土下層	50%
2	須恵器	高台付杯	-	(30)	8.5	長石・石英・赤色粒子	褐灰	普通	体部外・内面口ロナデ 底面回転へう割り後高台貼付け	覆土中層	40% 木蓋下置
3	須恵器	盤	[146]	4.1	(9.3)	長石・石英	褐灰	普通	口縁部・体部外・内面口ロナデ 底面回転へう割り後高台貼付け	覆土下層	60% PL27
4	土師器	甕	[231]	(13.5)	-	長石・石英	二色・赤褐	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面へラナデ 輪積み直	掘方裡土	20% 外面僅付着
5	須恵器	甕	-	(8.1)	-	長石・石英・黒色粒子	暗灰黄	普通	頸部横ナデ 体部外面斜位の平行叩き	覆土中層	5%
6	須恵器	甕	-	(17.0)	-	長石・石英・黒色粒子	灰黄緑	普通	体部外面多方向への平行叩き へう当て直 内面拍頭	覆土中層	5%

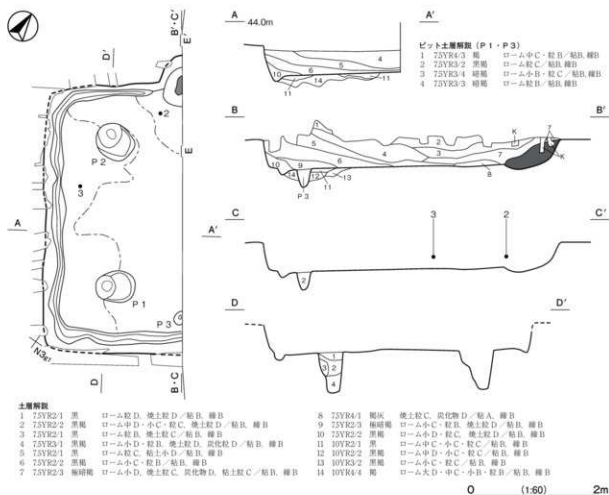
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴		出土位置	備考
7	紙石	(11.1)	(7.7)	6.7	96300	硬砂岩	紙面2面	崩石を転用	覆土中層	
8	紙石	(9.0)	(3.9)	1.3	(52.08)	粘板岩	紙面2面	浅いくぼみに研き直	覆土中	PL43

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴		出土位置	備考
9	釘	(7.8)	(0.4)	0.3	(8.05)	鉄	頭部・先端部欠損	脚部断面長方形	床面	

第201号竪穴建物跡 (第24・25図 PL5)

位置 C区北部のN20区、標高44mほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 東部が調査区域外のため、南北軸は4.27mで、東西軸は2.17mしか確認できなかった。主軸方



第24図 第201号竪穴建物跡実測図

向はN-36°-Wで、方形または長方形と推定できる。壁は高さ40～50cmで、ほぼ直立している。

床 平坦で、柱穴から中心部にかけて踏み固められている。貼床はロームブロックを含む第11～14層を埋土して構築されている。壁溝が全周している。

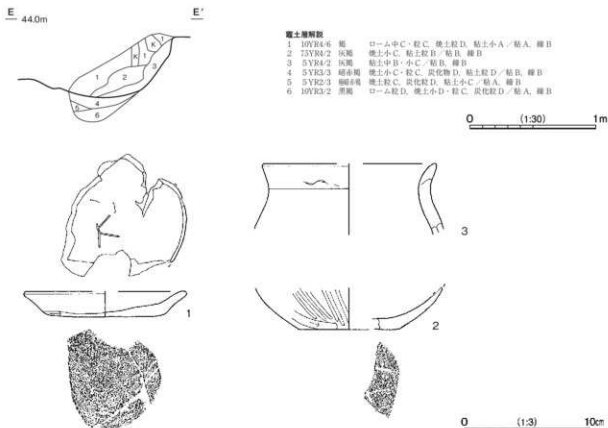
竈 北壁に付設されている。確認できた規模は焚口部から煙道部まで80cmである。燃焼部の残存している幅は30cmである。火床部は床面から地山を20cm掘り込み、ローム粒子や焼土粒子を含む第4～6層を埋土している。火床面は第4層上面で、火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に45cmほど掘り込まれ、火床面から外傾している。

ピット 3か所。P1・P2は深さ64cm・60cmで、配置から主柱穴と考えられる。P3は深さ18cmで、竈に対面した南壁際に位置しており、出入口施設に伴うピットと考えられる。第1～3層は、柱材を抜き取った後の覆土、第4層は埋土である。

覆土 10層に分層できる。ロームブロックや焼土粒子・炭化粒子が含まれていることから、埋め戻されている。

遺物出土状況 土師器片93点(坏4, 皿1, 小型甕1, 甕類87), 須恵器片8点(坏2, 高台付坏1, 蓋1, 壺1, 長頸壺1, 甕類2), 陶器片1点(皿)が出土している。3は西部, 2は竈寄りの覆土下層から, 1は覆土中から出土している。

所見 時期は、須恵器片の出土が少ないことや出土した皿から、10世紀前葉と考えられる。



第25図 第201号竈穴建物跡・出土遺物実測図

第9表 第201号竈穴建物跡出土遺物一覧

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師器	皿	[124]	21	[90]	長石・石英	明赤褐	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部下層平持ちへう張り 内面へう張り工具による圧痕 底部回転へう張り後多方向的ナデ	覆土中	40% PL27

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
2	土師器	甕	-	(33)	(80)	長石・石英	橙	普通	体部外面部位のヘラ磨き 底部木炭痕 輪轆み痕	覆土下層	5%
3	土師器	小型甕	(137)	(57)	-	長石・石英	にぶい赤黒	普通	口縁部、体部外・内面横ナゲ 輪轆み痕	覆土下層	5%

第202号竪穴建物跡 (第26・27図 PL 5)

位置 C区北部のN 2h9区、標高44mほどの平坦な台地上に位置している。

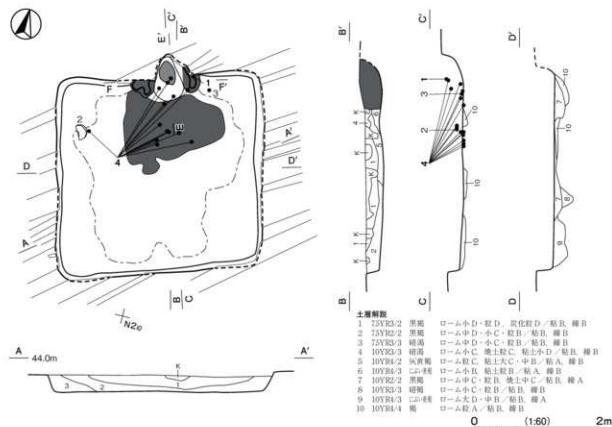
規模と形状 長軸3.30m、短軸3.12mの方形で、主軸方向はN-15°-Wである。壁は高さ18~28cmで、ほぼ直立している。

床 平坦で、中央部が踏み固められている。貼床はロームブロックを含む第7~10層を埋土して構築されている。

竈 北壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで75cmで、燃焼部幅は45cmである。両袖部の一部がわずかに残っている。袖部は地山の上に、粘土ブロックやローム粒子を含む第15・16層を積み上げて構築されている。火床面は楕円形に浅く掘りくぼめ、赤変硬化している。煙道部は壁外に40cm掘り込まれ、火床面から外傾している。

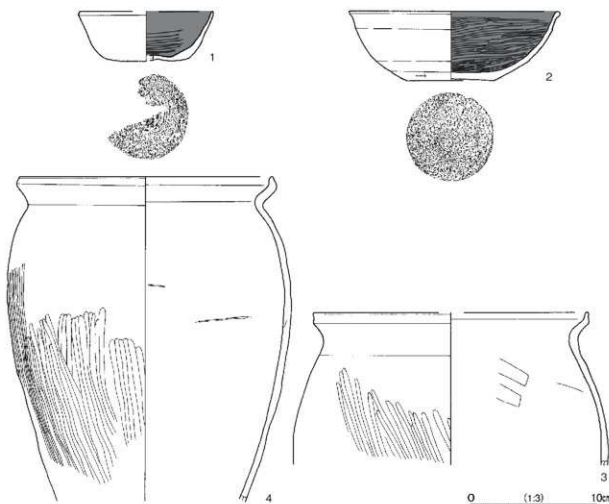
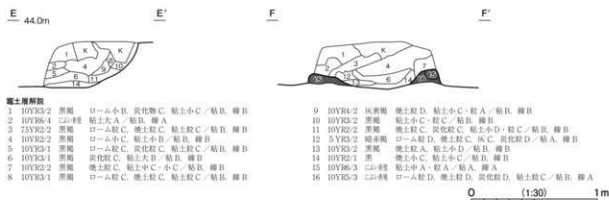
覆土 6層に分層できる。攪乱によりロームブロックや粘土ブロックが含まれているが、レンズ状に堆積していることから、自然堆積と考えられる。

遺物出土状況 土師器片53点(坏6、甕類47)、須恵器片5点(坏2、蓋1、甕類2)、鉄滓1点が出土している。3は竈右袖側床面から、4は竈周辺の床面から覆土層にかけて出土した破片が接合している。2は北西コーナー部の覆土下層から、1は竈右袖部の覆土上層から出土している。



第26図 第202号竪穴建物跡実測図

所見 時期は、出土土器から9世紀後葉と考えられる。



第27図 第202号竪穴建物跡・出土遺物実測図

第10表 第202号竪穴建物跡出土遺物一覧

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	備考	出土位置	備考
1	土師器	坏	[106]	4.0	[6.8]	長石・石英	明褐色	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部内面ヘラ磨き		甕石輪部	40% PL27
2	土師器	坏	16.5	5.5	7.0	長石・石英・赤色粒子	こげ茶色	普通	口縁部・体部外面シラナデ 体部内面ヘラ磨き 体部下端・底面回転ヘラ削り		甕石下層	80% PL27
3	土師器	甕	[21.5]	[12.1]	-	長石・石英・赤色粒子・黒色粒子	橙褐色	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面縦筋のヘラ磨き 内面ヘラナデ		体面	10% 外面僅在者
4	土師器	甕	20.1	[25.8]	-	長石・石英・赤色粒子・粗糠	橙褐色	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面縦筋のヘラ磨き 輪縁みず		甕石上層	70% PL27

第203号竪穴建物跡 (第28・29図 PL 5)

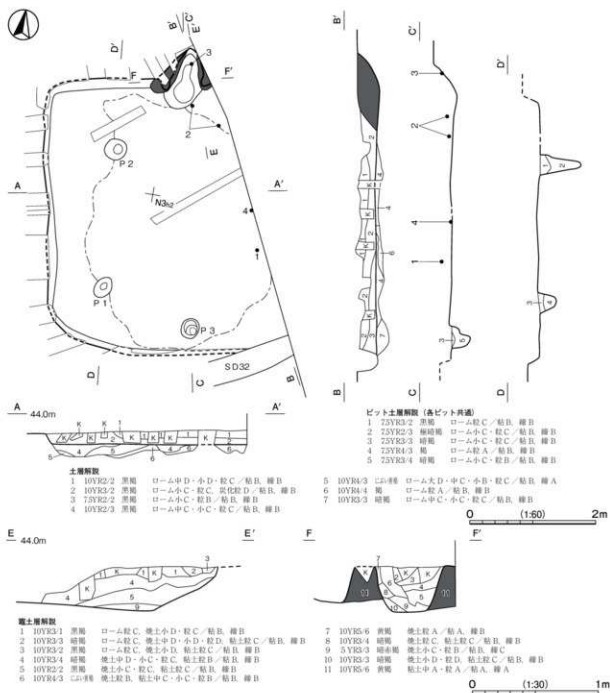
位置 C区北部のN3h2区、標高44mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第32号溝に掘り込まれている。

規模と形状 東部が調査区域外のため、南北軸は4.40mで、東西軸は3.60mしか確認できなかった。主軸方向はN-10°-Wで、方形または長方形と推定できる。壁は高さ16~27cmほどで、ほぼ直立している。

床 平坦で、柱穴から内側の中央部が踏み固められている。貼床はロームブロックを含む第4~7層を埋土して構築されている。

竈 北壁に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで98cmで、燃焼部幅は44cmである。袖部は地山を掘



第28図 第203号竪穴建物跡実測図

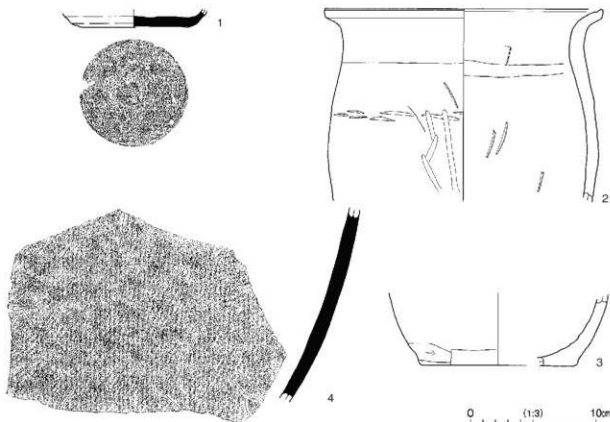
り下げ、粘土ブロックを含む第11層を積み上げて構築されている。火床面は赤変硬化していない。煙道部は壁外に45cm掘り込まれ、火床面から緩やかに立ち上がっている。

ピット 3か所。P1・P2は深さ28cm・64cmで、配置から主柱穴と考えられる。P3は深さ34cmで、竈に対面した南壁際に位置しており、出入口施設に伴うピットと考えられる。第1～5層は、柱材を抜き取った後の覆土である。

覆土 3層に分層できる。ロームブロックや炭化粒子が含まれていることから、埋め戻されている。

遺物出土状況 土師器片71点(坏7, 甕類64), 須恵器片13点(坏6, 甕類7), 金属製品1点(刀子)が出土している。4は中央部東寄りの床面から、2は竈前の覆土下層から、1は中央部東寄りの覆土中層、3は竈内覆土中層からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から9世紀後半と考えられる。



第29図 第203号竈穴建物跡出土遺物実測図

第11表 第203号竈穴建物跡出土遺物一覧

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	他成	手法の特徴ほか	出土位置	備考	
1	須恵器	坏	-	(1.4)	8.6	長石・石英	灰白	不貞	底部割取ヘリ削り後ナデ	覆土中層	20%	
2	土師器	甕	21.8	(15.3)	-	長石・石英・細粒	橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 面ナデ・ヘリ当て肌	体部外面ヘリ削り 内	覆土下層	20%
3	土師器	甕	-	(5.7)	[11.9]	長石・石英	にぶい肌	普通	体部下層ヘリ削り	竈内	10%	
4	須恵器	甕	-	(15.2)	-	長石・石英	暗黄	普通	体部外面斜位の平行明き ナデ・ヘリ当て肌	内面板状工具による 床面	5%	

第204号竈穴建物跡(第30～32図 PL5)

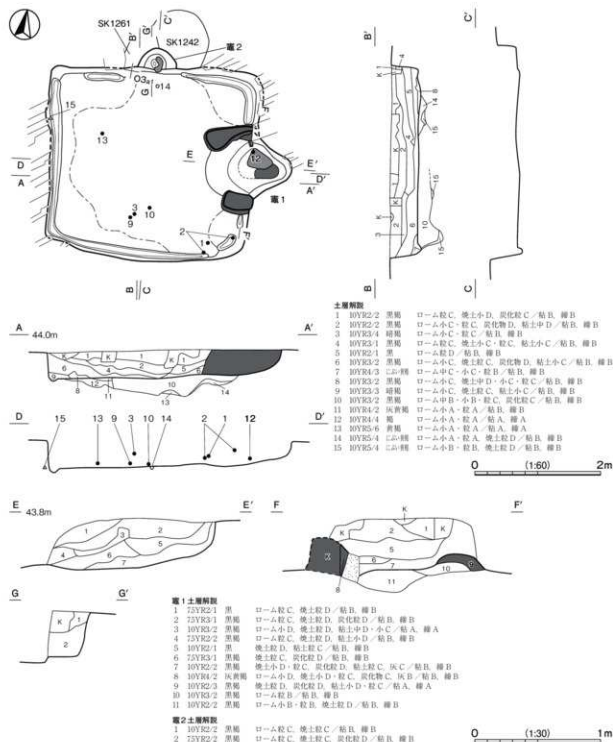
位置 C区北部のO3a1区、標高44mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第1242・1261号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸3.40 m、短軸3.08 mの長方形で、主軸方向はN-83°-Eである。壁は高さ44 cmで、ほぼ直立している。

床 平坦で、中央部が踏み固められている。貼床はロームブロックや焼土粒子を含む第10～15層を埋土して構築されている。一部を除いて壁溝が巡っている。

竈 2か所。東壁に竈1、北壁に竈2を確認した。遺存状態から、竈2から竈1へ作り替えたと考えられる。竈1は東壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで140 cmで、燃烧部幅は90 cmである。両袖



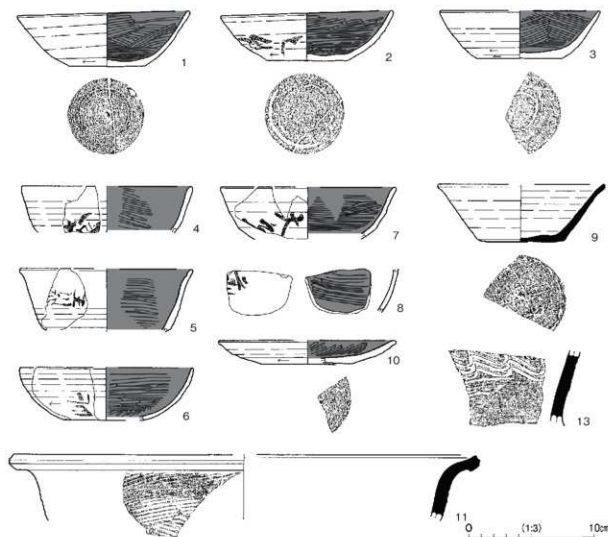
第30図 第204号竈穴建物跡実測図

部は地山の上に、粘土ブロックや焼土粒子を含む第8・9層を積み上げ、左袖内側は補強材として凝灰質泥岩の切り石を使用している。第10・11層は掘方の埋土である。火床面は床面よりやや高い位置を使用し、赤変硬化している。煙道部は壁外に58cm掘り込まれ、火床面からほぼ直立している。竈2は北壁中央部に付設されている。確認できた規模は火床部から煙道部まで38cmである。袖部は整理されており、燃焼部幅は不明である。第1層は火熱を受けた天井部の一部が崩落した層と考えられる。火床面は赤変硬化している。煙道部は壁外に32cm掘り込まれ、火床面からほぼ直立している。

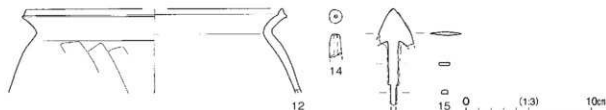
覆土 9層に分層できる。ロームブロックや焼土粒子が含まれていることや不規則な堆積状況から、埋め戻されている。

遺物出土状況 土師器片810点(坏135、高台付坏5、皿2、甕類668)、須恵器片49点(坏22、高台付坏1、蓋3、鉢1、甕類22)、土製品1点(管状土錘)、金属製品2点(鉄銼、釘)が出土している。10は南部、14は竈2寄り、15は西壁際の床面から、12は竈1の覆土下層から、1は南東コーナー部、9は南部、13は西部の覆土下層から、2は南東コーナー部の覆土下層から中層にかけて、3は南部の覆土中層から、4～8・11は覆土中からそれぞれ出土している。

所見 時期は、重複関係や出土土器から9世紀後葉と考えられる。



第31図 第204号竈穴建物跡出土遺物実測図(1)



第 32 図 第 204 号竪穴建物跡出土遺物実測図 (2)

第 12 表 第 204 号竪穴建物跡出土遺物一覧

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	はか	出土位置	備考
1	土師器	杯	135	4.4	6.0	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部・体部外面ロクロナデ 体部下端・底部回転へう磨り	内面へう磨き	覆土下層	100% PL27 94部保存者
2	土師器	杯	134	4.1	6.2	長石・石英・赤色粒子	浅黄灰	普通	口縁部・体部外面ロクロナデ 体部下端・底部回転へう磨り	内面へう磨き	覆土下層 覆土中層	90% PL27 遺書「I」部
3	土師器	杯	[126]	3.8	[6.6]	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部・体部外面ロクロナデ 体部下端・底部回転へう磨り	内面へう磨き	覆土中層	30%
4	土師器	杯	[134]	[3.7]	-	長石・石英	にぶい赤黄	普通	口縁部・体部外面ロクロナデ	内面へう磨き	覆土中	5% PL27 遺書「I」部
5	土師器	杯	[135]	[5.0]	-	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部・体部外面ロクロナデ	内面へう磨き	覆土中	5% PL27 遺書「I」部
6	土師器	杯	[137]	4.2	[6.4]	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部・体部外面ロクロナデ 体部下端回転へう磨り	内面へう磨き	覆土中	10% PL27 遺書「I」部
7	土師器	杯	[136]	[4.2]	-	長石・石英・黒色粒子	にぶい橙	普通	口縁部・体部外面ロクロナデ	内面へう磨き	覆土中	5% PL27 遺書「I」部
8	土師器	杯	-	[3.5]	-	長石・石英	灰黄褐	普通	内面へう磨き		覆土中	5% PL27 遺書「I」部
9	須恵器	杯	[130]	4.6	[7.0]	長石・石英	灰黄褐	普通	口縁部・体部外・内面ロクロナデ 体部下端・底部回転へう磨り	体部下端	覆土下層	30% PL28 へう記号「*」 木製下蓋
10	土師器	皿	[138]	1.9	[7.0]	長石・石英	明赤褐	普通	口縁部・体部外面ロクロナデ 体部下端・底部回転へう磨り	内面へう磨き	床面	10%
11	須恵器	鉢	[36.5]	[5.2]	-	長石・石英	灰	普通	口縁部外・内面ロクロナデ 体部下端・底面横位の平行叩き	体部外面横位の平行叩き	覆土中	10% 折捨産
12	土師器	甕	[20.3]	[6.7]	-	長石・石英	褐	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面へうナデ		竈内	10%
13	須恵器	甕	-	[6.0]	-	長石・石英	褐灰	普通	胴部外面3本1組の櫛状工具による波状文		覆土下層	5% 木製下蓋

番号	器種	長さ	径	口径	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
14	管状土師	(1.9)	10~11	0.2	(1.72)	長石・石英	明赤褐	外面ナデ 穿孔 片方欠損	床面	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
15	皿	(7.7)	(2.9)	0.3	(12.20)	鉄	胴身部・胴部一部欠損 基部欠損 前面長方形	床面	PL44

第 205 号竪穴建物跡 (第 33 図 PL. 6)

位置 C区北部のO3a2区、標高44mほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 長軸265m、短軸256mの方形で、主軸方向はN-15°-Wである。壁は高さ16cmほどで、ほぼ直立している。

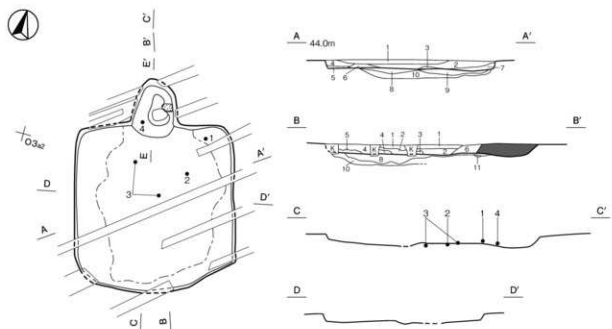
床 平坦で、中央部が踏み固められている。貼床はロームブロックを含む第8~10層を10~14cmほど埋土して構築されている。

竈 北壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで93cmである。袖部は遺存していないため、燃焼部幅は不明である。燃焼部で袖部の補強材である凝灰質泥岩の切り石を確認した。火床部は床面と同じ高さを使用している。火床面は赤変硬化していない。煙道部は壁外に70cm掘り込まれ、火床面から緩やかに立ち上がっている。

覆土 7層に分层できる。焼土粒子が含まれていることや不規則な堆積状況から、埋め戻されている。

遺物出土状況 土師器片98点(杯17, 高台付杯2, 高台付皿1, 甕類78), 須恵器片7点(杯3, 甕類3, 瓶1), 礫1点が出土している。4は竈内の底面から、2・3は中央部の床面から、1は北東コーナー部の覆土下層から出土している。

所見 時期は、出土土器から9世紀後葉と考えられる。



土層解説

- | | | | |
|---|---------|------|------------------|
| 1 | 75YK2/2 | 黒層 | ロ→A粒D、焼土粒D/粘土、輝石 |
| 2 | 75YK3/1 | 黒層 | ロ→A粒C、焼土粒D/粘土、輝石 |
| 3 | 75YK3/2 | 黒層 | ロ→A粒C、粘土小D/粘土、輝石 |
| 4 | 75YK3/3 | 暗褐色層 | ロ→A粒C、焼土粒D/粘土、輝石 |
| 5 | 75YK3/3 | 暗褐色層 | ロ→A粒C、焼土粒D/粘土、輝石 |

- | | | | |
|----|---------|------|-----------------------|
| 6 | 75YK3/1 | 黒層 | ロ→A粒D、焼土粒D、炭化粒D/粘土、輝石 |
| 7 | 75YK2/2 | 黒層 | ロ→A粒C、焼土粒D/粘土、輝石 |
| 8 | 75YK2/2 | 黒層 | ロ→ム小C、粒D、焼土粒D/粘土、輝石 |
| 9 | 10YK2/1 | 黒 | ロ→ム小C、粘土、輝石 |
| 10 | 75YK3/3 | 暗褐色層 | ロ→ム小C、粒C/粘土、輝石 |

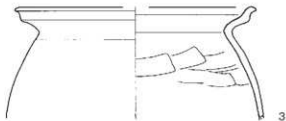
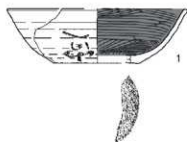
0 (1:60) 2m



甕土層解説

- | | | | |
|---|---------|-----|---------------------|
| 1 | 10YK2/2 | 黒層 | ロ→ム小D、粒C、焼土粒D/粘土、輝石 |
| 2 | 5YK2/2 | 黒層 | 焼土粒B、炭化粒C/粘土、輝石 |
| 3 | 5YK2/2 | 黒層 | 焼土粒C、炭化粒D/粘土、輝石 |
| 4 | 10YK3/1 | 黒層 | 焼土粒D/粘土、輝石 |
| 5 | 10YK4/3 | 土赤層 | ロ→ム中D、小C、粒B/粘土、輝石 |

0 (1:30) 1m



0 (1:3) 10cm

第33図 第205号竅穴建物跡・出土遺物実測図

第13表 第205号竪穴建物跡出土遺物一覧

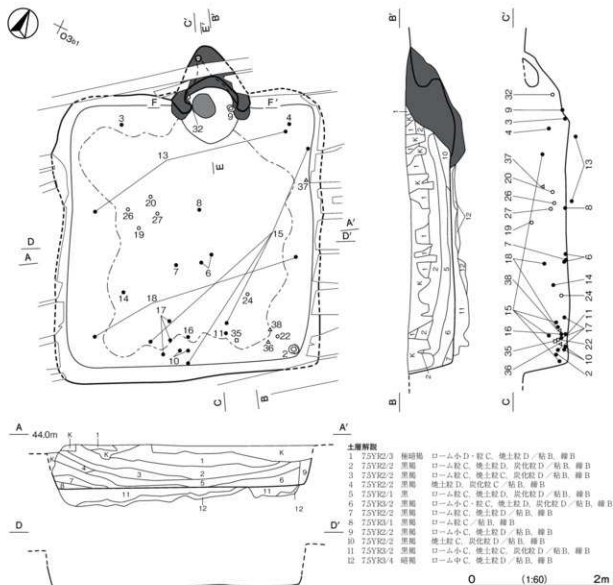
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	地成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師器	坏	140	43	68	長石・石英・赤色粒子・細礫	橙	普通	口縁部・体部外面ロクロナデ 内面ヘラ磨き 底部回転ヘラ磨り	覆土下層	20% PL28 漆黒「区」
2	土師器	高台付甕	138	23	65	長石・石英	にぶい橙	普通	体部外面ロクロナデ 内面縦位のヘラ磨き 底部回転ヘラ磨り後高台削り付け	床面	60% PL28
3	土師器	甕	185	89	-	長石・石英・細礫	明赤褐	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部内面ヘラナデ	床面	20%
4	須恵器	瓶	296	125	-	長石・石英	暗灰黄	普通	体部外・内面ロクロナデ	甕内	5% 木葉下草

第206号竪穴建物跡 (第34～37図 PL 6)

位置 C区北部のO3b1区、標高44mほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 長軸4.56m、短軸4.20mの方形で、主軸方向はN-17'-Wである。壁は高さ62～72cmで、ほぼ直立している。

床 平坦で、中央部が踏み固められている。貼床はロームブロックや焼土粒子を含む第11・12層を18～28cm埋土して構築されている。



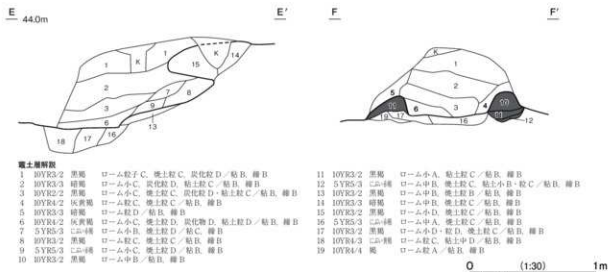
第34図 第206号竪穴建物跡実測図(1)

竈 北壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで150cmで、燃焼部幅は68cmである。両袖部はロームブロックや粘土ブロックを含む第10～12層を積み上げて構築されている。火床部は楕円形で15cmほど掘りくぼめ、ロームブロックを含む第16～18層を埋土している。火床面は第16・17層上面で、火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に85cm掘り込まれ、火床面から緩やかに立ち上がっている。

覆土 10層に分層できる。レンズ状に堆積していることから、自然堆積である。

遺物出土状況 土師器片694点(坏39, 碗2, 甕類652, 瓶1), 須恵器片158点(坏112, 高台付坏5, 蓋8, 盤1, 鉢1, 短頸壺3, 長頸壺2, 小型甕1, 甕類25), 陶器片2点(皿, 甕), 土製品16点(管状土錘), 石器1点(砥石), 金属製品8点(刀子6, 釘1, 不明鉄製品1), 礫4点が出土している。3は北西コーナ一部, 6～8は中央部, 10・11は南部の床面から, 9・32は竈内から, 2・22・36・38は南東コーナ一部, 16・17・24・35は南部の覆土下層から, 15・18は北東部と南西部の覆土下層から覆土中層にかけて, 4・37は北東コーナ一部, 14・20・26・27は中央部の覆土中層から, 19は中央部の覆土上層から, 13は掘方埋土から出土している。1・5・12・21・23・25・28～31・33・34は覆土中から出土している。

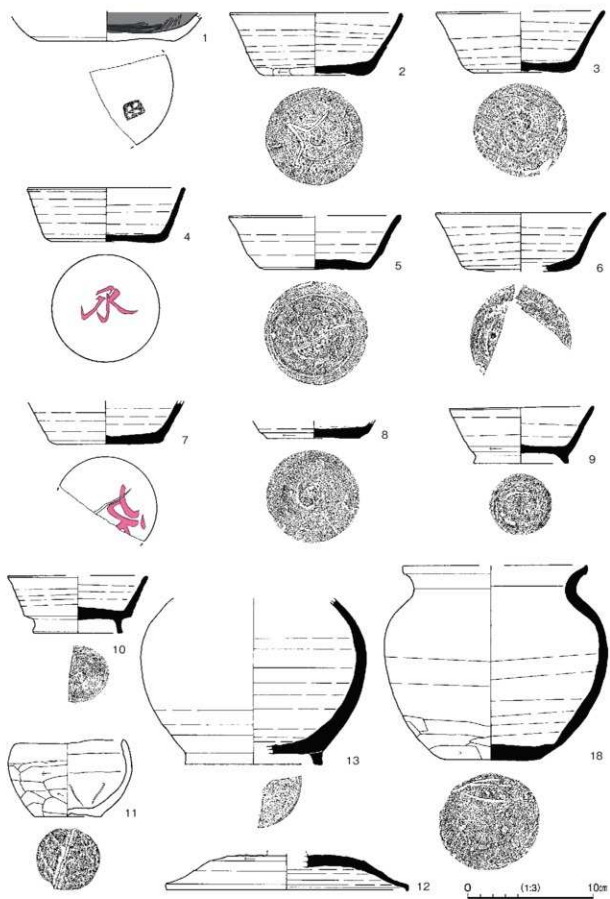
所見 時期は、出土土器から8世紀後葉と考えられる。



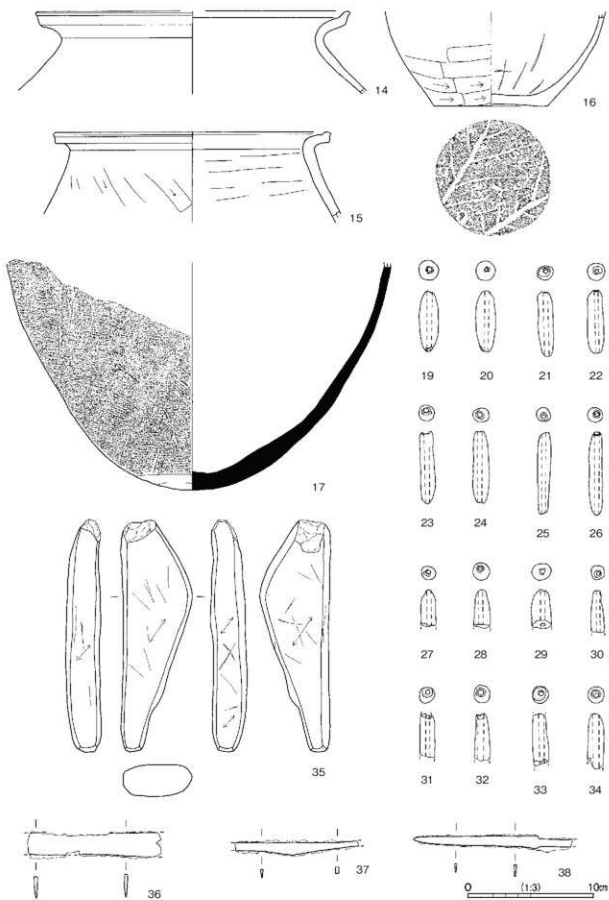
第35図 第206号竪穴建物跡実測図(2)

第14表 第206号竪穴建物跡出土遺物一覧

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師器	坏	-	(24)	[108]	長石・石英・ 赤色粒子	灰褐色	普通	体部外・内面ロクロナデ 底部ヘラ削り	覆土中	10% P1.28 朱書「目」
2	須恵器	坏	135	50	79	長石・石英	黄灰	普通	口縁部・体部外・内面ロクロナデ 持ちヘラ削り 底部回転ヘラ削り	覆土下層	90% P1.28 ヘラ記号「人」
3	須恵器	坏	[133]	49	74	長石・石英・ 黒色粒子・組織	灰	普通	口縁部・体部外・内面ロクロナデ 底部回転ヘラ削り	床面	20% P1.28 ヘラ記号「+」 木葉下層
4	須恵器	坏	124	43	86	長石・石英・ 赤色粒子	灰	普通	口縁部・体部外・内面ロクロナデ 底部回転ヘラ削り	覆土中層	70% P1.28 朱書「水」 木葉下層
5	須恵器	坏	[136]	43	83	長石・石英・ 針状物質	灰	普通	口縁部・体部外・内面ロクロナデ 底部回転ヘラ削り	覆土中	50% P1.29 ヘラ記号「人」 木葉下層
6	須恵器	坏	134	(47)	82	長石・石英・黒色粒子 ・針状物質・組織	灰	普通	口縁部・体部外・内面ロクロナデ 底部回転ヘラ削り	床面	60% P1.29 ヘラ記号「人」 木葉下層
7	須恵器	坏	-	(35)	82	長石・石英・ 針状物質	灰	普通	体部外・内面ロクロナデ 底部回転ヘラ削り	床面	30% P1.29 刻字「人」 木葉下層
8	須恵器	坏	-	(14)	74	長石・石英	灰褐色	普通	体部外・内面ロクロナデ 底部回転ヘラ削り	床面	20% P1.29 ヘラ記号「+」 木葉下層
9	須恵器	高台付坏	114	4.6	7.2	長石・石英	灰	普通	口縁部・体部外・内面ロクロナデ 底部回転ヘラ削り	竈内	90% P1.29
10	須恵器	高台付坏	[110]	4.6	7.1	長石・石英・ 黒色粒子・組織	褐色	良好	口縁部・体部外・内面ロクロナデ 底部回転ヘラ削り	床面	50% P1.29



第 36 图 第 206 号竖穴建物跡出土遺物実測図 (1)



第 37 图 第 206 号竖穴建物跡出土遺物実測图 (2)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
11	土師器	罇	8.6	6.1	5.2	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面へう割り 内面へうナデ ヘラ当て痕 底部木葉痕	床面	100% PL29
12	須恵器	蓋	[19.1]	(29)	-	長石・石英	靑灰	普通	天弁部回転へう割り	覆土中	20% 木葉下遺
13	須恵器	長頸甕	-	(13.3)	[10.9]	長石・石英・緑輝	黄灰	普通	体部外・内面口ロナデ 底部回転へう割り 榎高台貼付け	榎方埋土	20% 木葉下遺
14	土師器	甕	[20.6]	(66)	-	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横ナデ	覆土中層	5%
15	土師器	甕	21.7	(7.2)	-	長石・石英	にぶい赤黄	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面へう割り 内面へうナデ	覆土下層	5%
16	土師器	甕	-	(7.5)	9.3	長石・石英・緑輝	にぶい靑	普通	体部外面へう割り 内面へう当て痕 底部木葉痕	覆土下層	10%
17	須恵器	甕	-	(18.1)	-	長石・石英	灰	普通	体部外面横位の平行叩き 内面当て痕	覆土下層	40%
18	須恵器	小型甕	[14.5]	15.5	8.0	長石・石英	靑灰	普通	体部外・内面口ロナデ 体部下縁手持ちへう割り 底部ナデ	覆土下層	80% PL29

番号	器種	長さ	径	口径	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
19	管状土師	4.9	1.5~1.6	0.4	(11.87)	長石・石英	明赤靑	外面ナデ 穿孔	覆土中層	PL41
20	管状土師	4.9	1.5~1.6	0.4	(12.24)	長石・石英・緑輝	橙	外面ナデ 穿孔	覆土中層	PL41
21	管状土師	5.1	1.2~1.3	0.4	(6.79)	長石・石英	浅黄靑	外面ナデ 穿孔	覆土中層	PL41
22	管状土師	5.0	1.4	0.3	10.27	長石・石英	にぶい橙	外面ナデ 穿孔	覆土下層	PL41
23	管状土師	5.8	1.2	0.3~0.4	(7.05)	長石・石英	浅黄靑	外面ナデ 穿孔	覆土中層	PL41
24	管状土師	5.7	1.1~1.3	0.4	7.83	長石・石英・赤色粘土	にぶい黄靑	外面ナデ 穿孔	覆土下層	PL41
25	管状土師	6.6	1.1	0.3	6.25	長石・石英	浅黄靑	外面ナデ 穿孔	覆土中層	PL41
26	管状土師	6.6	1.1~1.2	0.3~0.4	6.88	長石・石英	浅黄靑	外面ナデ 穿孔	覆土中層	PL41
27	管状土師	(3.0)	1.1~1.2	0.4	(3.25)	長石・石英	にぶい黄靑	外面ナデ 穿孔 片方欠損	覆土中層	
28	管状土師	(3.1)	1.3~1.4	0.4	(6.25)	長石・石英・赤色粘土	明赤靑	外面ナデ 穿孔 片方欠損	覆土中層	
29	管状土師	(3.1)	1.3~1.6	0.4	(5.14)	長石・石英	明赤靑	外面ナデ 穿孔 片方欠損	覆土中層	
30	管状土師	(3.4)	1.1	0.3	(3.88)	長石・石英	橙	外面ナデ 穿孔 片方欠損	覆土中層	
31	管状土師	(3.5)	1.2~1.3	0.3	(4.67)	長石・石英	浅黄靑	外面ナデ 穿孔 両方欠損	覆土中層	
32	管状土師	(3.8)	1.3~1.4	0.5	(5.30)	長石・石英	赤靑	外面ナデ 穿孔 片方欠損	覆土中層	
33	管状土師	(4.1)	1.3	0.4	(6.20)	長石・石英	浅黄靑	外面ナデ 穿孔 両方欠損	覆土中層	
34	管状土師	(4.4)	1.3	0.5	(6.48)	長石・石英	にぶい黄靑	外面ナデ 穿孔 片方欠損	覆土中層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
35	磁石	18.5	5.7	2.8	359.88	硬砂岩	紙面4面 浅いくばみに研き痕 磁石を転用	覆土下層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
36	刀子	(10.7)	2.0	0.2	(21.49)	鉄	刃部先端部欠損 基部欠損 刃部断面三角形	覆土下層	PL44
37	刀子	(9.9)	1.2	0.3	(8.78)	鉄	刃部先端部欠損 基部欠損 刃部断面三角形	覆土中層	PL44
38	刀子	(12.7)	1.0	0.2	(12.16)	鉄	基部欠損 刃部断面三角形	覆土下層	PL44

第207号竪穴建物跡（第38図 PL.6）

位置 C区北部のO3b4区、標高44mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第1240・1241号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 東部が調査区域外である。北西部は攪乱を受け、遺存状態が良好ではないが、竈や一部の壁の確認状況から、長軸290m、短軸275mの方形で、主軸方向はN-35°-Wである。壁は高さ21cmほどで、外傾している。

床 平坦で、中央部が踏み固められている。貼床はロームブロックや炭化粒子を含む第7～11層を10～20cmほど埋土して構築されている。

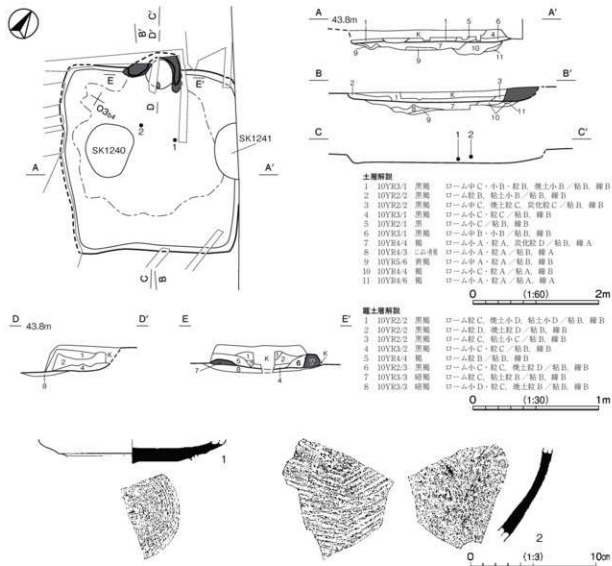
竈 北壁中央部に付設されている。確認できた規模は焚口部から煙道部まで50cmで、燃焼部幅は40cmである。袖部は地山を浅く掘り下げ、その上にローム粒子や粘土粒子を含む第7層を積み上げて構築されている。火床

部は楕円形で床面から10cm掘りくぼめ、ロームブロックや焼土粒子を含む第8層を埋土している。火床面は第8層上面で、火熱を受けて一部赤変硬化している。確認できた煙道部は壁外に25cm掘り込まれ、火床面から緩やかに立ち上がっている。

覆土 6層に分層できる。ロームブロックが含まれていることや不規則な堆積状況から、埋め戻されている。

遺物出土状況 土師器片50点(坏3, 甕類47), 須恵器片16点(坏8, 盤1, 短頭壺1, 甕類6), 鉄滓1点が出土している。1は中央部の竈寄り覆土下層から、2は中央部の竈寄りの覆土中層から出土している。

所見 時期は、出土土器や隣接する竈穴建物跡と主軸方向がほぼ一致することなどから9世紀代と考えられる。



第38図 第207号竈穴建物跡・出土遺物実測図

第15表 第207号竈穴建物跡出土遺物一覧

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	須恵器	甕	-	(20)	-	長石・石英	灰	普通	体部外・内面ロクロナデ 底部回転ヘラ削り 高台欠損	覆土下層	5%
2	須恵器	甕	-	(7.5)	-	長石・石英	黄灰	普通	体部外面斜位の平行叩き 内面ヘラ当て痕	覆土下層	5%

第208号竪穴建物跡（第39図）

位置 C区北部のO26区、標高44mほどの平坦な台地上に位置している。

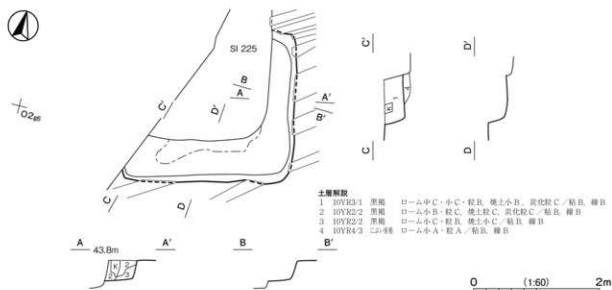
重複関係 第225号竪穴建物に掘り込まれている。

規模と形状 竪穴建物に掘り込まれ、北西部が調査区域外のため、南北軸2.45m、東西軸2.64mしか確認できなかった。主軸方向はN-14°-Wで方形と推定できる。壁は高さ28cmほどで、ほぼ直立している。

床 平坦で、南部が踏み固められている。貼床は地山を15cmほど掘り下げ、ロームブロックやローム粒子を含む第4層を埋土して構築されている。

覆土 3層に分層できる。ロームブロックや焼土粒子が多く含まれていることから、埋め戻されている。

所見 時期は、遺物は出土していないが、9世紀後葉の第225号竪穴建物に掘り込まれていることから、それ以前のものと考えられる。



第39図 第208号竪穴建物跡実測図

第209号竪穴建物跡（第40・41図 PL 6）

位置 C区北部のO3d3区、標高44mほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 掘乱を受け、遺存状態が良好ではない。長軸3.39m、短軸3.17mの方形で、主軸方向はN-16°-Wである。壁は高さ46~50cmで、ほぼ直立している。

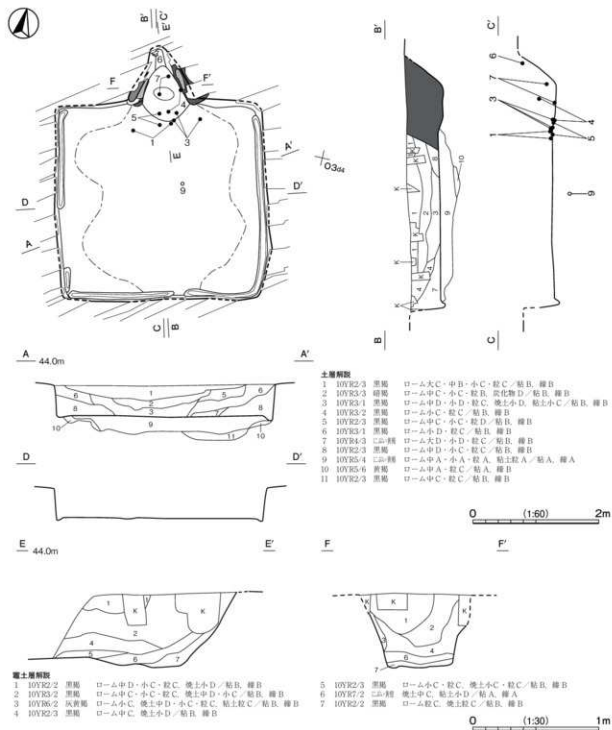
床 平坦で、中央部が踏み固められている。貼床はロームブロックを含む第9~11層を18~38cmほど埋土して構築されている。北壁と西壁の一部を除いて壁溝が巡っている。

竈 北壁中央部に付設されている。掘乱を受けているため、確認できた規模は焚口部から煙道部まで120cmで、燃焼部幅は65cmである。両軸部はわずかに遺存している。火床部は床面とほぼ同じ高さで、火床面は床面をわずかに掘りくぼめて使用し、赤変硬化していない。確認できた煙道部は壁外に90cmほど掘り込まれ、火床面から外傾して立ち上がっている。

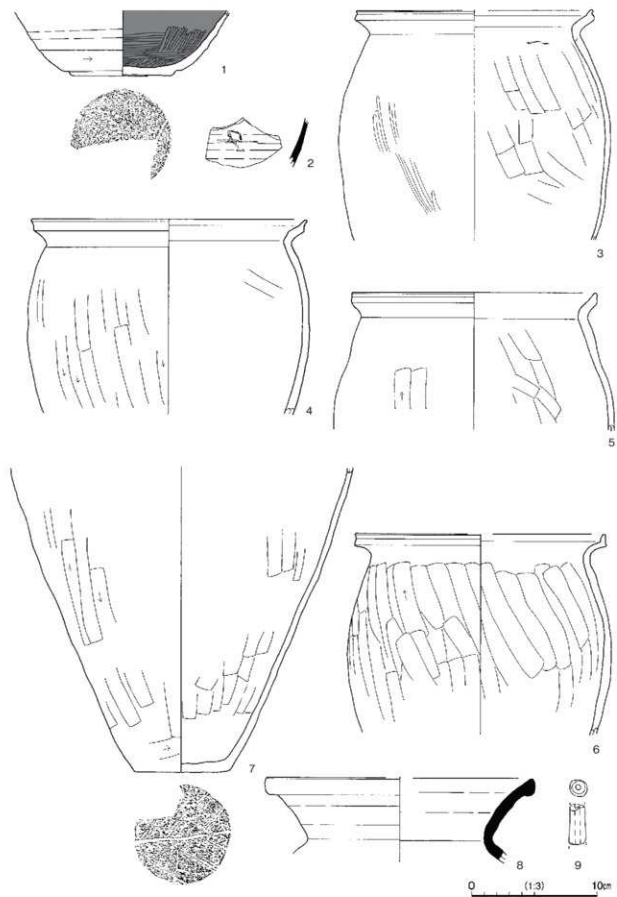
覆土 8層に分層できる。レンズ状に堆積していることから、自然堆積である。

遺物出土状況 土師器片 343点 (坏37, 甕類305, 瓶1), 須恵器片 59点 (坏37, 蓋2, 短頸壺1, 長頸瓶2, 甕類17), 陶器片1点 (甕), 土製品1点 (管状土錘), 金属製品2点 (刀子, 釘), 礫1点が出土している。1・3・5は竈寄りの床面から, 7は竈内の覆土下層と火床部の底面から, 4は竈内の覆土中層と火床部の底面から出土した遺物が接合したものである。6は竈内の覆土上層から, 9は中央部の掘方の埋土から, 2・8は覆土中から出土している。

所見 時期は, 出土土器から9世紀後葉と考えられる。



第40図 第209号竪穴建物跡実測図



第41图 第209号竖穴建物跡出土物実測図

第16表 第209号竪穴建物跡出土遺物一覧

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考	
1	土師器	坏	-	(52)	7.8	長石・石英	にぶい橙	普通	体部外面ロクロナデ 内面ヘナデ	体部下端回転ヘナデ	床面	40%
2	須恵器	坏	-	(40)	-	長石・石英	灰黄	普通	体部外・内面ロクロナデ	-	覆土中	5% PL30 敷層中 木炭片
3	土師器	甕	[186]	(183)	-	長石・石英・ 赤鉄・赤色粒子	橙	普通	口縁部外・内面横ナデ	体部外面縦位のヘナデ	床面	30%
4	土師器	甕	21.7	(15.5)	-	長石・石英・ 赤色粒子・粗糠	橙	普通	口縁部外・内面横ナデ	体部外面縦位のヘナデ	遺内	40%
5	土師器	甕	19.3	(10.9)	-	長石・石英	にぶい赤黒	普通	口縁部外・内面横ナデ	体部外面縦位のヘナデ	床面	10% 外・内面埋付着
6	土師器	甕	[196]	(160)	-	長石・石英	橙	普通	口縁部外・内面横ナデ	体部外面ヘナデ	遺内	10% 外・内面埋付着
7	土師器	甕	-	(24.3)	7.6	長石・石英	黒黒	普通	体部外面縦位のヘナデ	内面ヘナデ 底部木炭	遺内	20% 外側埋付着
8	須恵器	甕	[210]	(6.7)	-	長石・石英・ 赤鉄	灰黄黒	普通	口縁部外・内面ロクロナデ	-	覆土中	5%

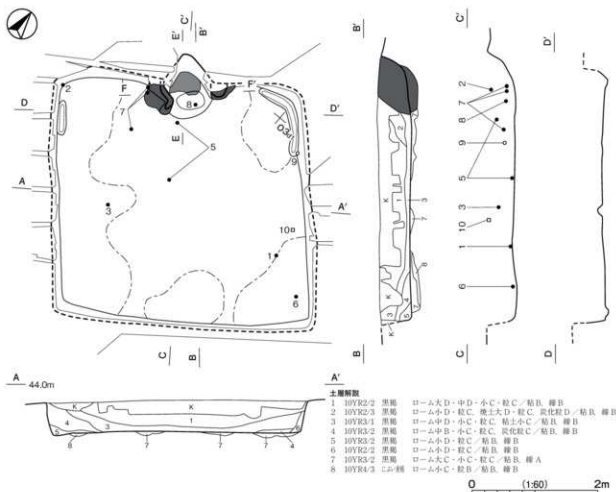
番号	器種	長さ	径	孔径	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
9	管状土師	(3.2)	13~14	0.4	(5.90)	長石・石英	にぶい赤黒	外面ナデ 穿孔 両方穴損	敷方埋土	

第210号竪穴建物跡 (第42~45図 PL7)

位置 C区北部のO2d0区、標高44mほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 掘削を受け、遺存状態は良好ではない。残存している竈や壁の確認状況から、長軸4.12m、短軸4.04mの方形で、主軸方向はN-41°-Wである。壁は高さ50cmで、ほぼ直立している。

床 平坦で、中央部が踏み固められている。貼床はロームブロックを含む第7・8層を8~18cmほど埋土し



第42図 第210号竪穴建物跡実測図(1)

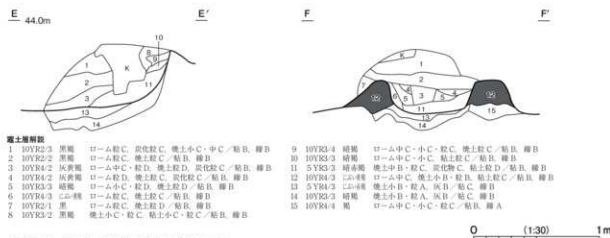
て構築されている。壁溝は北東コーナー部と西壁の一部に巡っている。

竈 北西壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで104cmで、燃焼部幅は60cmである。軸部は地山を浅く掘りくぼめ、第13～15層を埋土して整地した後、ロームブロックや粘土粒子を含む第12層を積み上げて構築されている。火床面は第13層上面で、赤変硬化している。煙道部は壁外に45cm掘り込まれ、火床面から外傾している。

覆土 6層に分層できる。ロームブロックや焼土粒子・炭化粒子が含まれているが、レンズ状に堆積していることから、自然堆積と考えられる。

遺物出土状況 土師器片217点(坏6, 蓋1, 甕類210), 須恵器片87点(坏41, 蓋4, 短頸甕7, 甕類35), 陶器片1点(皿), 土製品1点(管状土錘), 石器3点(砥石)が出土している。1は東部の床面から、6は東コーナー部、7は竈左袖寄り、8は竈内、9は北東壁際の覆土下層から出土している。5は中央部の床面と竈前の覆土中層から出土した破片が接合したものである。3は西部の覆土中層から、2は西コーナー部、10は北東壁寄りの覆土上層から、4は覆土中からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から9世紀前葉と考えられる。



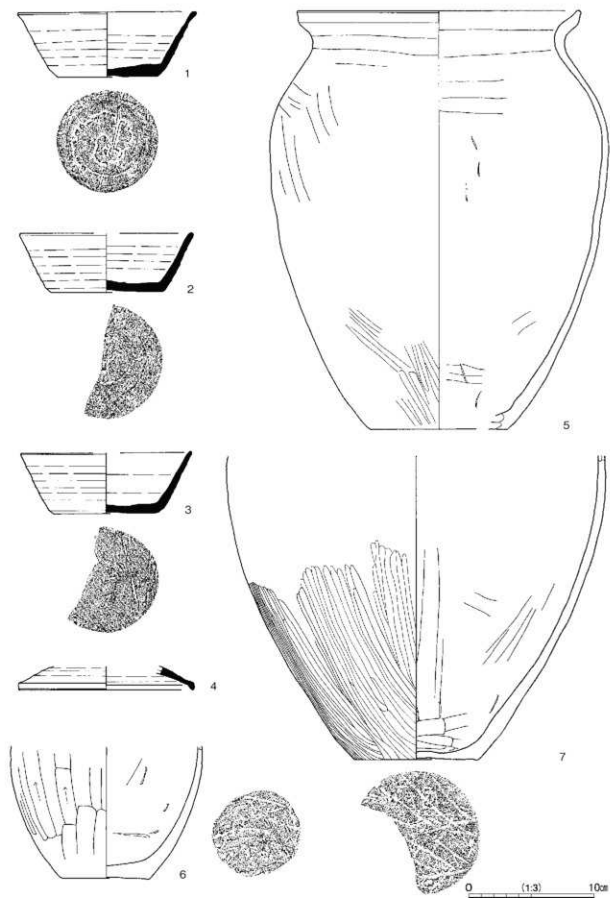
覆土層解説

- | | | | |
|----------------|---------------------------|----------------|---------------------------|
| 1 10YR2/3 黒褐色 | ローム粒C、炭化粒C、焼土小C・中C/粘土B、雜B | 9 10YR3/4 暗褐色 | ローム中C・小C・粒C、焼土粒C/粘土B、雜B |
| 2 10YR2/2 黄褐色 | ローム粒C、焼土粒C/粘土B、雜B | 10 10YR3/3 暗褐色 | ローム中C・小C、焼土粒C/粘土B、雜B |
| 3 10YR4/2 灰青褐色 | ローム中C・粒D、焼土粒D、炭化粒C/粘土B、雜B | 11 5YR3/3 暗褐色 | 焼土中B・粒C、炭化粒C、焼土粒D/粘土B、雜B |
| 4 10YR4/2 灰青褐色 | ローム粒D、焼土粒C、炭化粒C/粘土B、雜B | 12 10YR4/3 土赤黄 | ローム中C、焼土小B・粒B、焼土粒C/粘土B、雜B |
| 5 10YR4/3 灰青褐色 | ローム中C・粒D、焼土粒D/粘土B、雜B | 13 5YR4/3 土赤黄 | 焼土小B・粒A、灰D/粘土B、雜B |
| 6 10YR4/3 土赤黄 | ローム粒C、焼土粒C/粘土B、雜B | 14 10YR3/3 暗褐色 | 焼土小B・粒A、灰D/粘土B、雜B |
| 7 10YR2/1 黒 | ローム粒C、焼土粒D/粘土B、雜B | 15 10YR4/4 暗褐色 | ローム中C・小C・粒C/粘土B、雜A |
| 8 10YR3/2 黒褐色 | 焼土小C・粒C、焼土小C・粒C/粘土B、雜B | | |

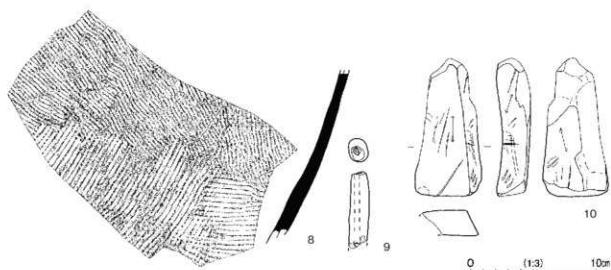
第43図 第210号竈穴建物跡実測図(2)

第17表 第210号竈穴建物跡出土遺物一覧

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	須恵器	坏	140	52	80	長石・石英	黄灰	普通	口縁部、体部外・内面クロコナデ 底部回転ヘラ取り後ナデ	床面	90% PL30 ヘラ記号「-」 木蓋下蓋
2	須恵器	坏	[136]	47	90	長石・石英・赤色粒子	黄灰	普通	口縁部、体部外・内面クロコナデ 底部回転ヘラ取り後ナデ 口縁部外面自然釉	覆土上層	30% PL30 木蓋下蓋
3	須恵器	坏	[134]	49	84	長石・石英・赤色粒子	灰白	普通	口縁部、体部外・内面クロコナデ 底部回転ヘラ取り後ナデ ヘラ状工具による圧痕	覆土上層	40% ヘラ記号「+」 木蓋下蓋
4	須恵器	蓋	[138]	(19)	-	長石・石英・赤色粒子	褐灰	普通	外周部外・内面クロコナデ	覆土中	5%
5	土師器	甕	224	332	(109)	長石・石英・赤色粒子	赤褐	普通	口縁部外・内面種ナデ 体部下端縦位のヘラ磨き 内面ヘラナデ ヘラ当て痕	床面 外周部付着	30% 外周部付着
6	土師器	甕	-	(105)	69	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	体部外面縦位のヘラ磨き 内面ヘラ当て痕 底部ナデ	覆土下層	20% 外周部付着
7	土師器	甕	-	(241)	100	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部外面下半縦位のヘラ磨き 内面ヘラナデ ヘラ当て痕 底部木蓋痕	覆土下層	20% 外周部付着
8	須恵器	甕	-	(138)	-	長石・石英	褐灰	普通	体部外面縦位の平行叩き	竈内	5% PL30
番号	器種	長さ	径	孔径	重量	胎土	色調	特徴		出土位置	備考
9	管状土錘	(6.1)	16-18	0.5	(147.1)	長石・石英・赤色粒子	橙	外面ナデ	穿孔 片方欠損	覆土下層	
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴		出土位置	備考	
10	砥石	(11.0)	5.2	2.7	(61.96)	粘板岩	砥面3面	浅いくぼみに研き痕	覆土上層	PL43	



第44图 第210号竖穴建物跡出土遺物実測図(1)



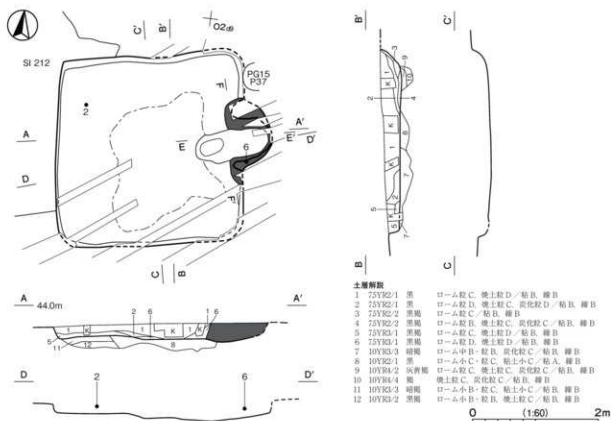
第45図 第210号竪穴建物跡出土遺物実測図(2)

第211号竪穴建物跡 (第46～48図 PL 7)

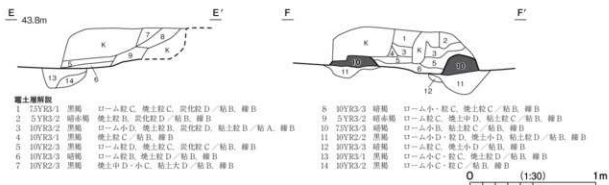
位置 C区北部のO2d8区、標高44mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第212号竪穴建物跡を掘り込んでいる。第15号ピット群と重複しているが新旧関係は不明である。

規模と形状 長軸2.98m、短軸2.96mの方形で、主軸方向はN-78°-Eである。壁は高さ29cmほどで、外傾している。



第46図 第211号竪穴建物跡実測図(1)



第47図 第211号竪穴建物跡実測図(2)

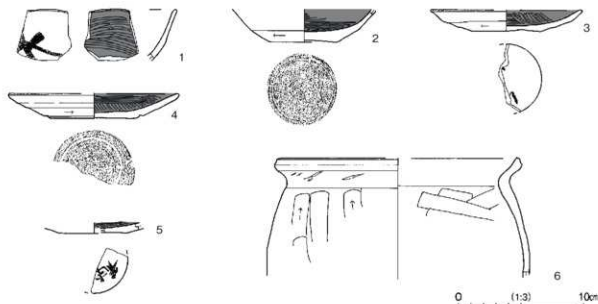
床 平坦で、中央部が踏み固められている。貼床はロームブロックを含む第7～12層を8～18cmほど埋土して構築されている。

竈 東壁中央部に付設されている。攪乱を受けているため、確認できた規模は焚口部から煙道部まで120cmで、燃焼部幅は45cmである。袖部は遺存状態が悪く、一部のみが残存している。地山を掘りくぼめ、ロームブロックや焼土ブロックを含む第11・12層を埋土した後、ロームブロックや粘土粒子を含む第10層を積み上げて構築されている。火床部は楕円形に床面から18cm掘りくぼめ、ロームブロックや焼土粒子を含む第13・14層を埋土している。火床面は赤変していない。煙道部は攪乱を受けているが、壁外に45cmほど掘り込まれ、火床面から外傾している。

覆土 6層に分層できる。レンズ状に堆積していることから、自然堆積である。

遺物出土状況 土師器片354点(坏63, 高台付坏1, 碗4, 皿3, 甕類281, 瓶2), 須恵器片26点(坏9, 高台付坏1, 蓋1, 短頸壺1, 甕類13, 瓶1), 灰釉陶器片1点(長頸壺), 陶器片2点(碗, 甕), 金属製品1点(刀子)が出土している。2は北西コーナー寄りの覆土中層から、6は竈石袖の覆土中層から出土している。1・3～5は覆土中から出土している。

所見 時期は、重複関係や出土土器から9世紀後葉と考えられる。



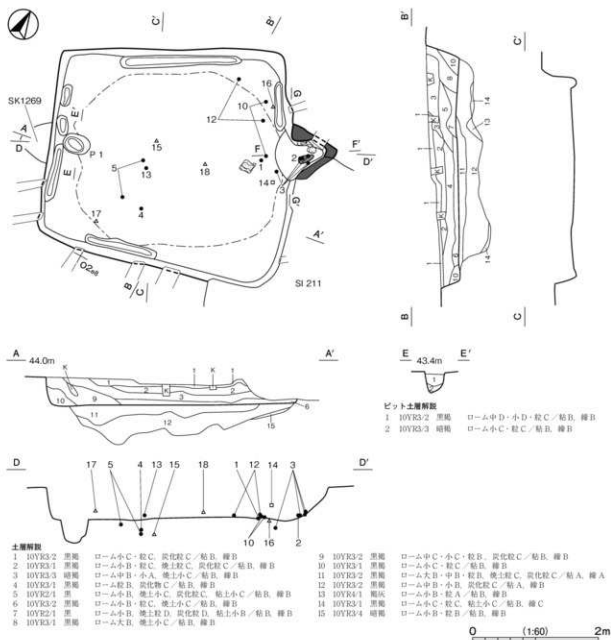
第48図 第211号竪穴建物跡出土遺物実測図

第18表 第211号竪穴建物跡出土遺物一覧

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	地成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師器	坏	-	(41)	-	長石・石英	にぶい黄緑	普通	口縁部外面ロクロナデ 内面ヘラ磨き	覆土中	5% PL30 黒書 []
2	土師器	坏	-	(26)	5.5	長石・石英・ 赤色粒子	橙	普通	体部外・内面ロクロナデ 内面ヘラ磨き 体部 下縁・底面回転ヘラ磨き	覆土中層	40%
3	土師器	甕	[120]	1.7	[56]	長石・石英	橙	普通	口縁部・体部外面ロクロナデ 体部内面ヘラ磨 き 体部下縁・底面回転ヘラ磨き	覆土中	20% 黒書 []
4	土師器	甕	[133]	2.0	6.5	長石・石英	にぶい橙	良好	口縁部・体部外面ロクロナデ 体部内面ヘラ磨 き 体部下縁・底面回転ヘラ磨き	覆土中	20%
5	土師器	甕	-	(09)	[54]	長石・石英	にぶい濁	普通	体部内面ヘラ磨き	覆土中	15% PL30 黒書 []
6	土師器	甕	[188]	(94)	-	長石・石英	明赤濁	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面縦位のヘラ磨 き 内面ヘラナデ	甕右袖部	10%

第212号竪穴建物跡 (第49～51図 PL 7)

位置 C区北部のO2d8区、標高44mほどの平坦な台地上に位置している。



第49図 第212号竪穴建物跡実測図

重複関係 第1269号土坑を掘り込み、第211号竪穴建物に掘り込まれている。

規模と形状 竪穴建物に掘り込まれているが、長軸3.78m、短軸3.60mの方形で、主軸方向はN-62°-Eである。壁は高さ28～52cmで、ほぼ直立している。

床 平坦で、中央部が全体に踏み固められている。貼床はロームブロックを含む第11～15層を15～65cmほど埋土して構築されている。壁溝がコーナー部を除いて巡っている。

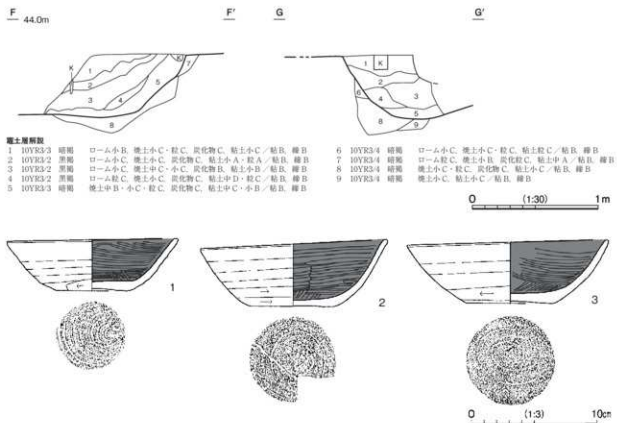
竈 東壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで86cmで、燃焼部幅は40cmである。地山を15cmほど掘りくぼめ、ロームブロックや粘土ブロックを含む第6～9層を埋土して整地している。袖部は補強材として凝灰質泥岩の切り石を使用している。火床面は第8・9層上面で、火熱を受けて一部赤変硬化している。煙道部は壁外に70cm掘り込まれ、火床面から緩やかに立ち上がっている。

ピット P1は深さ35cmほどで、竈に对面した西壁際に位置しており、出入口施設に伴うピットと考えられる。

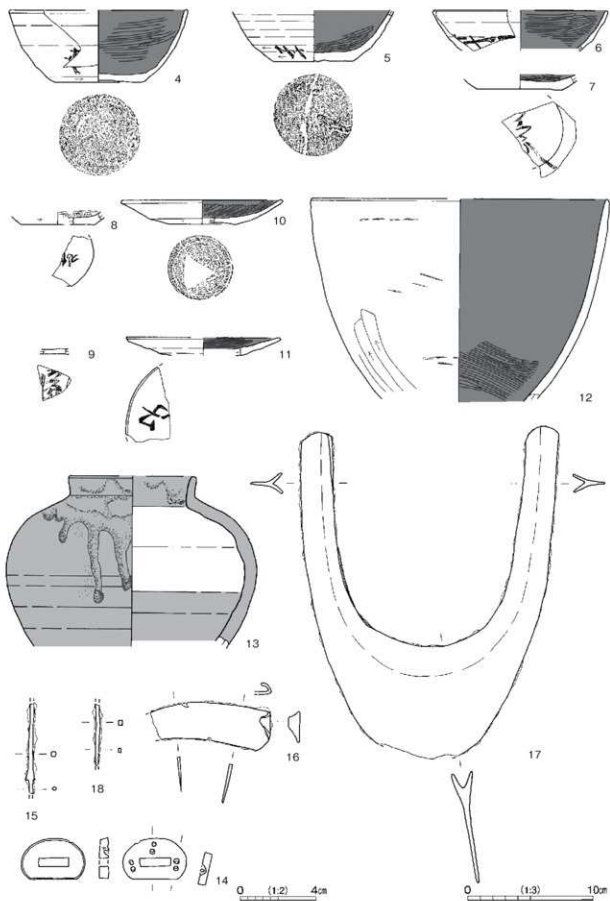
覆土 10層に分層できる。ロームブロックが含まれているが、レンズ状に堆積していることから、自然堆積と考えられる。

遺物出土状況 土師器片797点（坏146、高台付坏5、皿9、鉢1、甕類634、瓶2）、須惠器片84点（坏37、高台付坏1、蓋2、長頸壺4、甕類40）、灰釉陶器片2点（壺、短頸壺）、陶器片2点（甕）、石製品1点（丸鋸）、金属製品4点（鉄銚、鎌、鋤先、釘）が出土している。1・10は竈寄り、12は北東部の床面から、2は竈火床面から、3は竈火床面と掘方の埋土の破片が接合したもので、13・18は中央部の覆土下層から、14は竈寄り、17は南西部の覆土中層から、4・5・15は中央部から南西部、16は北東部壁溝の掘方の埋土から、6～9・11は覆土中からそれぞれ出土している。

所見 時期は、重複関係や出土土器から9世紀前半と考えられる。



第50図 第212号竪穴建物跡・出土遺物実測図



第51图 第212号竖穴建物跡出土遺物実測図

第19表 第212号竪穴建物跡出土遺物一覧

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師器	坏	133	4.2	5.5	長石・石英・黒色粒子	にぶい橙	普通	口縁部・体部外面ロクロナデ 内面ヘラ磨き 底部回転糸切り	床面	60% PL30 外面僅行着
2	土師器	坏	148	5.4	6.8	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部・体部外面ロクロナデ 体部下端・底部回転ヘラ磨き	竈内	20% PL30 外面僅行着
3	土師器	坏	158	5.1	6.8	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部・体部外面ロクロナデ 体部下端・底部回転ヘラ磨き	竈内 側方埋土	80% PL30 外面僅行着
4	土師器	坏	[140]	5.8	6.4	長石・石英	橙	普通	口縁部・体部外面ロクロナデ 体部下端・底部回転ヘラ磨き	側方埋土	40% 粗着 [□]
5	土師器	坏	-	(4.1)	6.3	長石・石英・黒色粒子・灰状物質	橙	普通	口縁部・体部外面ロクロナデ 体部下端・底部回転ヘラ磨き	側方埋土	40% PL30 粗着 [子□]
6	土師器	坏	[137]	(3.2)	-	長石・石英・針状物質	にぶい橙	普通	口縁部・体部外面ロクロナデ 内面ヘラ磨き	覆土中	5% PL31 粗着 [□]
7	土師器	坏	-	(1.2)	[6.8]	長石・石英	にぶい橙	普通	内面ヘラ磨き 底部回転ヘラ磨き	覆土中	10% PL31 粗着 [□]
8	土師器	坏	-	(1.0)	[5.8]	長石・石英	にぶい橙	普通	内面ヘラ磨き 底部回転ヘラ磨き	覆土中	5% PL31 粗着 [□]
9	土師器	坏	-	-	-	長石・石英	にぶい橙	普通	内面ヘラ磨き 底部回転ヘラ磨き	覆土中	3% PL31 粗着 [□]
10	土師器	皿	127	2.0	5.2	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部・体部外面ロクロナデ 内面ヘラ磨き 体部下端・底部回転ヘラ磨き	床面	40% 外面僅行着
11	土師器	皿	[120]	(1.4)	-	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部・体部外面ロクロナデ 内面ヘラ磨き	覆土中	5% PL31 粗着 [子]
12	土師器	鉢	[234]	(16.1)	-	長石・石英	橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面縦段のヘラ磨き 内面ヘラ磨き	床面	20%
13	灰釉陶器	短頸壺	[100]	(13.7)	-	長石・黒色粒子	暗灰黄	普通	口縁部外・内面ロクロナデ 外面輪軸 内面一部輪軸	覆土下層	20%
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴			出土位置	備考
14	丸割	2.2	3.4	0.5	6.65	粘板岩	裏面に3か所 経孔あり			覆土中層	PL42
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴			出土位置	備考
15	鉄	(7.2)	(0.7)	(0.3)	(7.92)	鉄	頭部片 頸部断面正方形			側方埋土	
16	鉄	(9.6)	3.9	0.2	(35.83)	鉄	柄部全周折り曲げ 曲月			側方埋土	PL44
17	曲先	(26.6)	20.6	1.7	(52.90)	鉄	刃部先7cm以上 刃部外反せず 刃先大きく湾曲 断面Y状			覆土中層	PL44
18	釘	(4.9)	(0.4)	(0.4)	(3.64)	鉄	頭部・先端部欠損 脚部断面長方形			覆土下層	PL44

第213号竪穴建物跡 (第52・53図 PL7・8)

位置 D区北部のK4b1区、標高44mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第1309号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸3.23m、短軸3.18mの方形で、主軸方向はN-43°-Eである。壁は高さ21cmほどで、ほぼ直立している。

床 平坦で、中央部が全体に踏み固められている。貼床はロームブロックや粘土粒子を含む第7～9層を10cmほど埋土して構築されている。

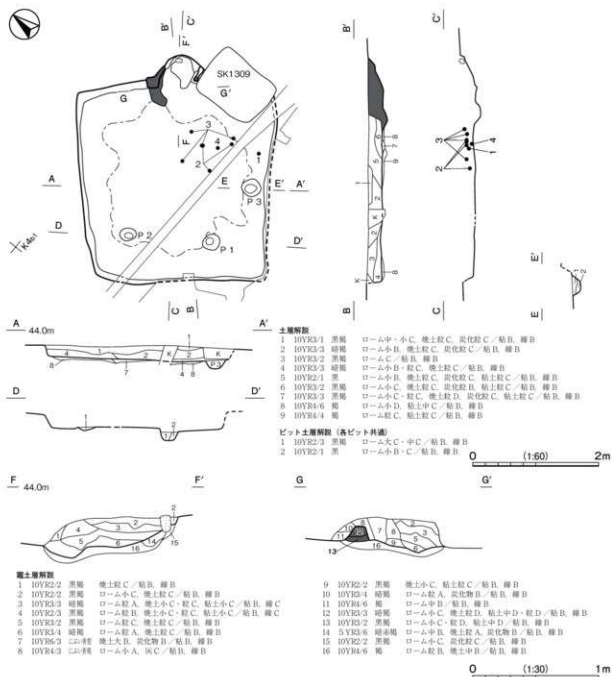
竈 北東壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで74cmで、燃焼部の残存している幅は45cmである。焚口部から奥壁までを浅く掘りくぼめ、袖部・火床部とも第14～16層を埋土して整地した後、袖部はロームブロックや粘土ブロックを含む第12・13層を積み上げ、袖補材として凝灰質泥岩の切り石を使用している。火床面は赤変硬化していない。煙道部は壁外に30cm掘り込まれ、火床面から緩やかに立ち上がっている。

ピット 3か所。P1・P2は深さ8cm・18cmで、配置から主柱穴である。P3は深さ15cmほどで、性格は不明である。

覆土 6層に分層できる。レンズ状に堆積していることから、自然堆積である。

遺物出土状況 土師器片165点(坏48、高台付坏2、甕類115)、須恵器片9点(坏1、短頸壺4、長頸壺1、甕類3)、灰釉陶器片1点(壺)、土製品1点(管状土鍾)が出土している。4は東部の床面、1は南東壁際、2・3は東部の覆土下層から、5は覆土中からそれぞれ出土している。

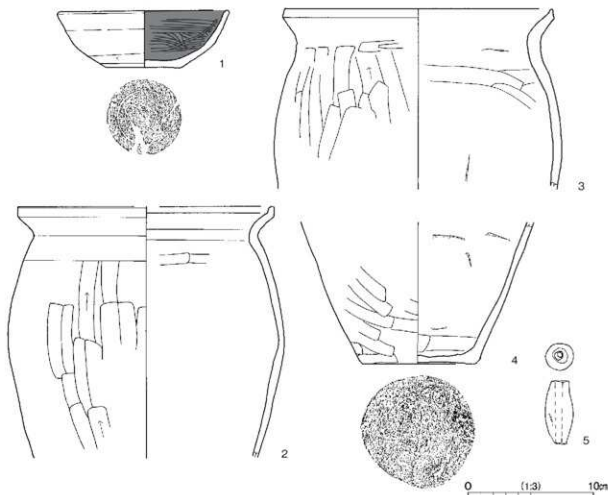
所見 時期は、重複関係や出土土器から9世紀中葉と考えられる。



第52図 第213号竪穴建物跡実測図

第20表 第213号竪穴建物跡出土遺物一覧

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師器	杯	13.2	4.6	5.8	長石・石英	にぶい褐色	普通	口縁部・体部外面ロケロナデ 内面ヘラ磨き 体部下部・底部回転ヘラ磨り	覆土下層	90% PL31
2	土師器	甕	20.3	(20.0)	-	長石・石英	にぶい褐色	普通	口縁部外・内面糠ナデ 体部外面縦位のヘラ磨り 内面ヘラナデ	覆土下層	30% PL31
3	土師器	甕	21.3	(14.4)	-	長石・石英・赤色粒子	灰褐色	普通	口縁部外・内面糠ナデ 体部外面縦位のヘラ磨り 内面ヘラナデ	覆土下層	30% 外面磨り付着
4	土師器	甕	-	(11.3)	8.9	長石・石英・赤色粒子	にぶい赤褐色	普通	体部外・内面ヘラナデ 内面ヘラ高て直 底部ナデ	床面	40% 外面磨り付着
番号	器種	長さ	径	口径	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考	
5	管状土師	5.1	2.2	0.6	(23.80)	長石・石英	にぶい赤褐色	外面ナデ 穿孔 片方欠損	覆土下層	PL41	



第53図 第213号竪穴建物跡出土物実測図

第214号竪穴建物跡 (第54～57図 PL 8)

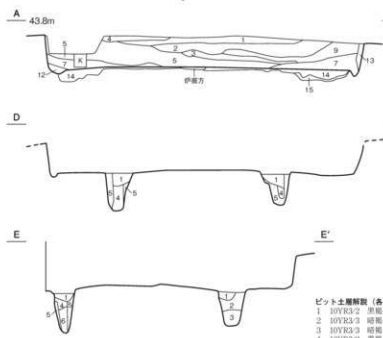
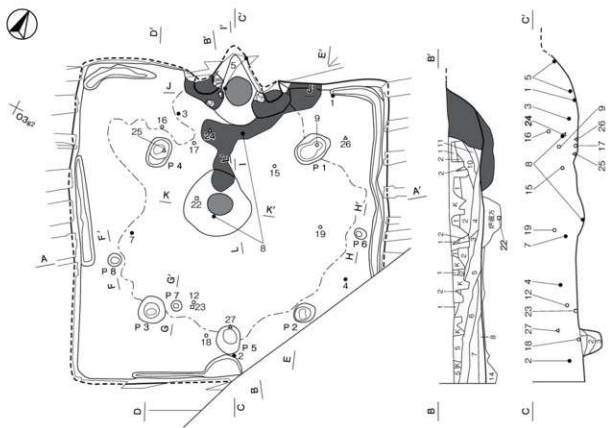
位置 C区北部のO32区、標高44mほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 掘乱を受け、南東部が調査区域外であるが、南北軸5.14m、東西軸5.04mの方形で、主軸方向はN-28°-Wである。壁は高さ47～54cmで、ほぼ直立している。

床 平坦で、中央部が全体に踏み固められている。貼床は壁際や中央部を不整形の土坑や溝状に掘り込み、ロームブロックや炭化粒子を含む第14・15層を5～20cmほど埋土して構築されている。壁溝は、南西コーナール部と西壁の一部を除いて巡っている。

竈 北壁中央部に付設されている。掘乱を受けているため、確認できた規模は焚口部から煙道部まで115cmで、燃焼部幅は45cmほどである。竈構築材の粘土が中央付近まで広がっており、埋設する過程で流失したものと考えられる。袖部は芯材として凝灰質泥岩を使い、ローム粒子や粘土粒子を含む第19層を積み上げて構築されている。火床部はロームブロックや粘土ブロックを含む第20～23層を埋土している。火床面は第20～22層上面で、火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に50cm掘り込まれ、火床部から緩やかに立ち上がっている。

炉 中央部に位置している。規模は径110cmの円形で、火床部は20cmほど掘りくぼめ、第2～4層を埋土している。火床面は第2層上面で、赤変硬化している。炉は住居内工房とも考えられるが、性格は不明である。

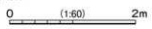


土層解説

- 1 10YR3-2 赤褐色 ローム粒B、炭化粒D、粘B、雜B
- 2 10YR2-2 赤褐色 ローム粒C、焼土粒D、炭化粒D、粘B、雜B
- 3 10YR3-3 暗褐色 ローム大A、粘B、雜B
- 4 10YR3-2 赤褐色 ローム中C、焼土粒C、炭化粒D、粘土小C、粘B、雜B
- 5 10YR2-1 赤褐色 ローム中D、粘土小B、粘B、雜B
- 6 10YR3-3 暗褐色 ローム粒B、焼土粒D、粘B、雜B
- 7 10YR2-2 赤褐色 ローム粒C、焼土粒D、粘B、雜B
- 8 10YR3-2 赤褐色 ローム小D、粘B、雜B

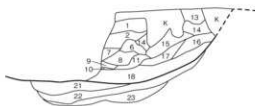
ピット土層解説 (各ピット共通)

- 1 10YR3-2 赤褐色 ローム粒B、焼土粒D、炭化粒D、粘B、雜B
- 2 10YR3-3 暗褐色 ローム粒B、粘B、雜B
- 3 10YR3-3 暗褐色 ローム小C、粘B、雜B
- 4 10YR3-2 赤褐色 ローム粒C、炭化粒C、粘B、雜B
- 5 10YR3-1 赤褐色 ローム小C、粘B、雜B
- 6 10YR3-2 赤褐色 ローム粒B、粘B、雜B
- 9 10YR3-2 赤褐色 ローム粒C、焼土粒C、粘B、雜B
- 10 10YR3-2 赤褐色 ローム粒C、焼土粒C、粘土粒C、粘B、雜B
- 11 10YR2-2 赤褐色 ローム粒D、焼土粒D、炭化粒D、粘土粒C、粘B、雜B
- 12 5YR3-2 赤褐色 ローム粒C、焼土粒D、粘B、雜B
- 13 10YR3-4 暗褐色 ローム粒D、粘B、雜B
- 14 10YR5-6 黄褐色 ローム小A、炭化粒D、粘B、雜B
- 15 10YR5-4 暗褐色 ローム中A、粘B、雜A



第54図 第214号竪穴建物跡実測図

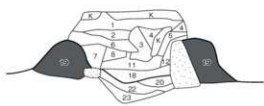
I 43.8m



甌土層解説

- | | | | |
|----|----------|-----|-------------------------------|
| 1 | 10YR2/2 | 黒褐色 | ローム粒C、焼土中D・小C、粘土小C / 粘B、雜B |
| 2 | 10YR3/3 | 暗褐色 | ローム小D・粒C、焼土小D、粘土小B / 粘B、雜B |
| 3 | 10YR3/3 | 暗褐色 | 焼土大D・小C・粒C、粘土中C・小C・粒B / 粘A、雜B |
| 4 | 10YR2/2 | 黒褐色 | ローム粒C、焼土中C・粒C / 粘B、雜B |
| 5 | 10YR2/3 | 黒褐色 | 焼土中C・小C、炭化物大D、粘土小C・粒C / 粘B、雜B |
| 6 | 10YR2/2 | 黒褐色 | 焼土粒D、粘土中C・小C・粒C / 粘B、雜B |
| 7 | 10YR2/2 | 黒褐色 | ローム粒D、焼土中D・小D、粘土中D・粒D / 粘B、雜B |
| 8 | 10YR3/3 | 暗褐色 | 焼土小C、粘土小C・粒B / 粘A、雜B |
| 9 | 10YR2/2 | 黒褐色 | ローム小D、粘土小D・粒D / 粘B、雜B |
| 10 | 5YR3/3 | 暗褐色 | 焼土小C・粒C、粘土小C / 粘B、雜B |
| 11 | 7.5YR3/3 | 暗褐色 | 焼土小D・粒C、粘土粒C / 粘B、雜B |
| 12 | 10YR3/3 | 暗褐色 | 焼土小C・粒C、炭化物D / 粘B、雜B |

J'



- | | | | |
|----|---------|------|-----------------------------|
| 13 | 10YR3/4 | 暗褐色 | 焼土中D小・粒C、粘土中C・小C・粒C / 粘A、雜B |
| 14 | 10YR5/2 | 灰青褐色 | 焼土小D、粘土中C・粒B / 粘A、雜B |
| 15 | 10YR3/3 | 暗褐色 | ローム中D、粘土小C、粘土中C・粒B / 粘B、雜B |
| 16 | 5YR3/2 | 暗赤褐色 | ローム粒C、焼土粒C / 粘A、雜B |
| 17 | 5YR3/3 | 暗赤褐色 | 焼土中D・粒C / 粘B、雜B |
| 18 | 5YR3/3 | 暗赤褐色 | 焼土粒A、灰B / 粘C、雜C |
| 19 | 10YR3/2 | 黒褐色 | ローム粒C、粘土粒子D / 粘B、雜B |
| 20 | 10YR3/3 | 暗褐色 | ローム小D、焼土中D、粘土粒D / 粘C、雜C |
| 21 | 10YR3/3 | 暗褐色 | 焼土粒D、粘土小C・粒C / 粘B、雜B |
| 22 | 10YR3/4 | 暗褐色 | ローム小C、焼土粒C、炭化物D / 粘B、雜B |
| 23 | 10YR3/2 | 黒褐色 | ローム中C、粘土粒D / 粘B、雜B |

K 43.4m



K'



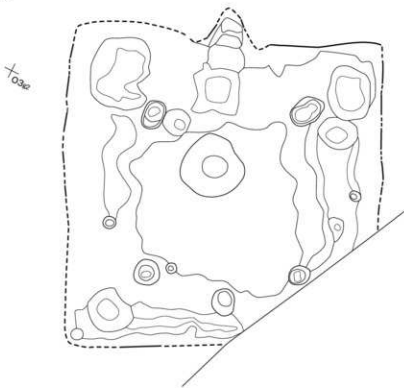
甌土層解説

- | | | | |
|---|---------|------|----------------------------|
| 1 | 5YR2/2 | 暗赤褐色 | ローム粒C、焼土粒C、炭化物C、灰C / 粘B、雜B |
| 2 | 10YR3/1 | 黒褐色 | ローム小B・粒B、焼土粒D、炭化物D / 粘B、雜B |
| 3 | 10YR6/4 | 淡赤褐色 | ローム小C、焼土小C、炭化物D / 粘B、雜B |
| 4 | 10YR4/4 | 暗 | ローム小A・粒A / 粘A、雜B |

L

L'

0 (1:30) 1m



0 (1:60) 2m

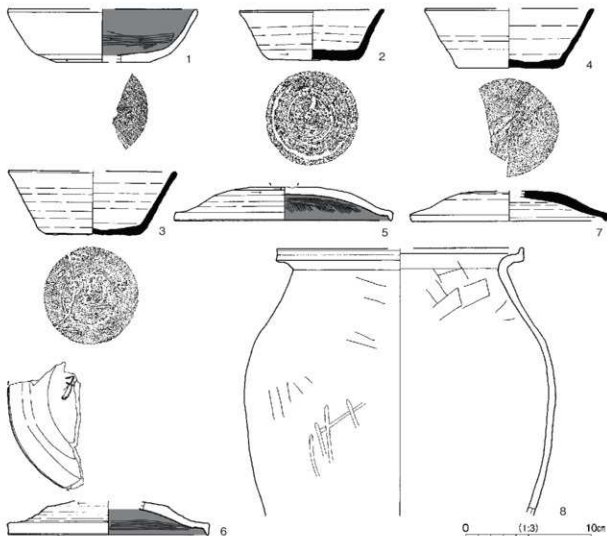
第55図 第214号竪穴建物跡・掘方実測図

ビット 8か所。P1～P4は深さ48～64cmで、規模や配置から支柱穴である。P5は深さ34cmで、竈に
対面した南壁際に位置しており、出入口施設に伴うビットと考えられる。P6～P8は深さ8～16cmで、性
格は不明である。

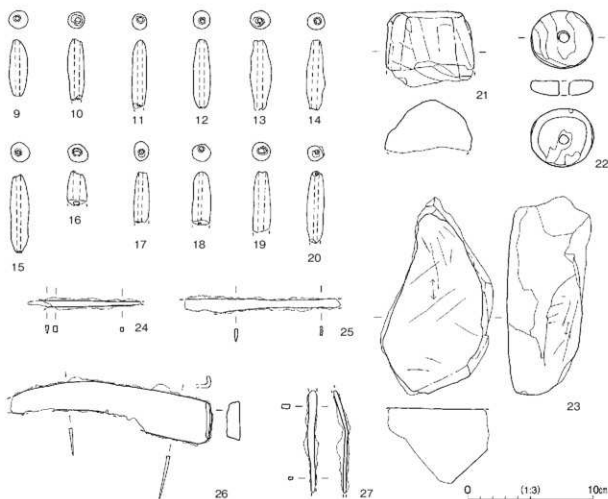
覆土 13層に分層できる。レンズ状に堆積をしている部分もあるが、ロームブロックやローム粒子が多いこ
とから、埋め戻されている。

遺物出土状況 土師器片592点(坏70, 高台付坏2, 蓋3, 甕類517), 須恵器片194点(坏128, 高台付坏9,
蓋8, 甕3, 短頸甕3, 甕類43), 陶器片5点(甕類), 土製品13点(管状土錘12, 支脚1), 石器2点(紡錘車,
砥石), 金属製品8点(刀子5, 鎌1, 釘1, 不明鉄製品1), 礫8点が出土している。1は北壁寄り, 17は
P4寄り, 18はP5寄り, 23は南部, 26はP1寄りの床面から出土している。5は竈内底面から, 8は竈の
底面と竈寄りの覆土中層から出土した破片が接合したものである。3は左袖部寄り, 7は西壁寄り, 12は南部,
25はP4の上の覆土下層から出土している。2はP5寄り, 4・19は東部, 15は中央部, 24は竈寄り, 9は
P1, 27はP5の上の覆土中層から出土している。16はP4寄りの覆土上層から, 22は竈掘方の埋土から,
6・10・11・13・14・20・21は覆土中から出土している。

所見 時期は, 出土土器から9世紀前葉と考えられる。



第56図 第214号竪穴建物跡出土遺物実測図(1)



第57図 第214号竪穴建物跡出土遺物実測図(2)

第21表 第214号竪穴建物跡出土遺物一覧

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴はか	出土位置	備考
1	土師器	坏	[148]	4.3	[7.4]	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口縁部・体部外面ロクロナデ 内面ヘラ磨き 体部下端・底面回転ヘラ磨り	床面	60% PL.31
2	須恵器	坏	11.4	4.2	7.3	長石・石英・黒糠	灰	普通	口縁部・体部外・内面ロクロナデ 体部下端・底面回転ヘラ磨り	覆土中層	80% PL.31 木葉下葉
3	須恵器	坏	[132]	5.1	7.5	長石・石英・黒糠	浅黄橙	不良	口縁部・体部外・内面ロクロナデ 底面回転ヘラ磨り	覆土下層	50% PL.31 「ヘラ」記号「甲」 50% PL.31 「ヘラ」記号「田」 木葉下葉
4	須恵器	坏	[132]	4.8	7.8	長石・石英	にぶい黄橙	普通	口縁部・体部外・内面ロクロナデ	覆土中層	
5	土師器	蓋	17.1	(2.7)	-	長石・石英・黒色粒子・赤色粒子	にぶい橙	普通	外周部外面ロクロナデ 天井部回転ヘラ磨り 内面ヘラ磨き	竈内	80% PL.32
6	土師器	蓋	[158]	(2.7)	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	外周部外面ロクロナデ 天井部回転ヘラ磨り 内面ヘラ磨き	覆土中層	10% 黒香 □
7	須恵器	蓋	[15.4]	(2.4)	-	長石・石英	灰	普通	外周部外・内面ロクロナデ 天井部回転ヘラ磨り	覆土下層	10%
8	土師器	蓋	[19.5]	(21.2)	-	長石・石英・黒糠	明赤褐	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面ヘラ磨き 内面ヘラナデ	竈 覆土中層	10%
番号	器種	長さ	径	孔径	重量	胎土	色調	特徴		出土位置	備考
9	管状土師	4.5	1.5	0.4	9.41	長石・石英	明赤褐	外面ナデ	穿孔 片方欠損	覆土中層	PL.41
10	管状土師	(4.9)	1.4	0.5	(8.20)	長石・石英・赤色粒子	にぶい赤褐	外面ナデ	穿孔 片方欠損	覆土中層	PL.41
11	管状土師	(3.4)	1.2-1.3	0.4	(6.96)	長石・石英	黒褐	外面ナデ	穿孔 片方欠損	覆土中層	PL.41 外面黒行着
12	管状土師	5.5	1.4-1.6	0.4	8.65	長石・石英	にぶい黄橙	外面ナデ	穿孔 片方欠損	覆土中層	PL.41
13	管状土師	5.6	1.6	0.5	(11.41)	長石・石英	明赤褐	外面ナデ	穿孔 片方欠損	覆土中層	PL.41
14	管状土師	5.6	1.4	0.5	10.04	長石・石英	明赤褐	外面ナデ	穿孔 片方欠損	覆土中層	PL.41
15	管状土師	6.2	1.6	0.3-0.4	13.63	長石・石英	明赤褐	外面ナデ	穿孔	覆土中層	PL.41
16	管状土師	(2.8)	1.4-1.6	0.6-0.7	(5.36)	長石・石英	黒灰	外面ナデ	穿孔 片方欠損	覆土上層	

番号	器種	長さ	径	孔径	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
17	管状土鉢	(4.0)	12~16	0.3	(7.17)	長石・石美	にぶい黄橙	外面ナデ 穿孔 片方欠損	床面	
18	管状土鉢	(4.3)	13~15	0.3	(7.92)	長石・石美	橙	外面ナデ 穿孔 片方欠損	床面	
19	管状土鉢	(4.8)	1.5	0.6	(8.93)	長石・石美	橙	外面ナデ 穿孔 片方欠損	覆土中層	
20	管状土鉢	(5.7)	1.3	0.3	(6.29)	長石・石美・ 粒状物質	にぶい黄橙	外面ナデ 穿孔 片方欠損	覆土中	
番号	器種	径	孔径	高さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
21	支脚	6.0	(7.0)	(6.1)	(113.76)	石美・雲母	にぶい黄	縦位のナデ	覆土中	
番号	器種	径	孔径	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考	
22	納鉢車	46~50	0.9	1.2	(41.07)	滑石	断面池台形 一部厚減	掘方埋土	PL43	
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考	
23	砥石	(15.8)	(8.9)	(6.0)	(850.0)	砂岩	砥面2面 浅いくぼみに研き痕	床面		
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考	
24	刀子	(9.0)	(0.6)	0.3	(9.07)	鉄	刃部先端部欠損 茎部欠損 刃部断面三角形	覆土中層		
25	刀子	(12.4)	(1.2)	(0.2)	(13.99)	鉄	刃部先端部欠損 茎部欠損 刃部断面三角形	覆土下層		
26	鎌	(16.0)	5.0	0.3	(54.25)	鉄	先端部欠損 柄付部折り曲げ 歯刃	床面	PL44	
27	不明土製品	(8.2)	(0.7)	(0.3)	(7.69)	鉄	断面長方形	覆土中層		

第 215 号竪穴建物跡 (第 58 図 PL 8)

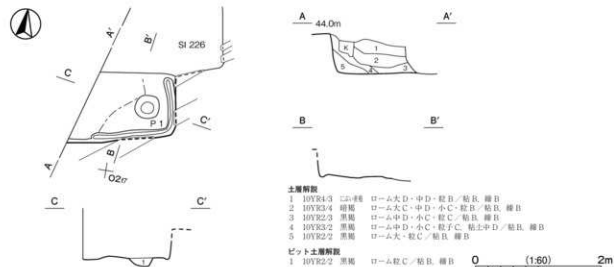
位置 C 区北部の O2e6 区、標高 44 m ほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第 226 号竪穴建物に掘り込まれている。

規模と形状 竪穴建物に掘り込まれ、西部が調査区域外のため、南北軸 1.14 m、東西軸 1.70 m しか確認できなかった。壁は高さ 60 cm ほどで、ほぼ直立している。

床 平坦で、東コーナー部から中央部にかけて踏み固められている。縦溝は南東コーナー部で確認できた。

ピット P1 は深さ 15 cm で、南東コーナー部に位置していることから、支柱穴と考えられる。



第 58 図 第 215 号竪穴建物跡実測図

覆土 5層に分層できる。レンズ状に堆積していることから、自然堆積である。

遺物出土状況 土師器片7点(坏3, 甕類4), 須恵器片1点(甕類)が出土している。いずれも細片のため図示できない。

所見 時期は、出土土器から判断できないが、重複関係から10世紀前葉と考えられる。

第216号竪穴建物跡 (第59・60図 PL 8)

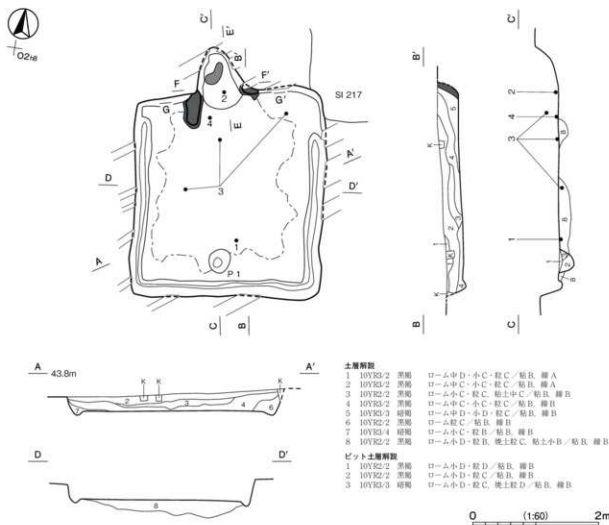
位置 C区北部のO2h8区、標高44mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第217号竪穴建物跡を掘り込んでいる。

規模と形状 覆乱を受けているが、長軸3.26m、短軸2.98mの方形で、主軸方向はN-9°-Wである。壁は高さ10~30cmで、ほぼ直立している。

床 平坦で、中央部が全体に踏み固められている。貼床はロームブロックや粘土ブロックを含む第8層を10~30cmほど埋土して構築されている。壁溝が北部を除いて巡っている。

竈 北壁やや西寄りに付設されている。規模は焚口部から煙道部まで98cmで、燃焼部幅は55cmである。袖部



第59図 第216号竪穴建物跡実測図

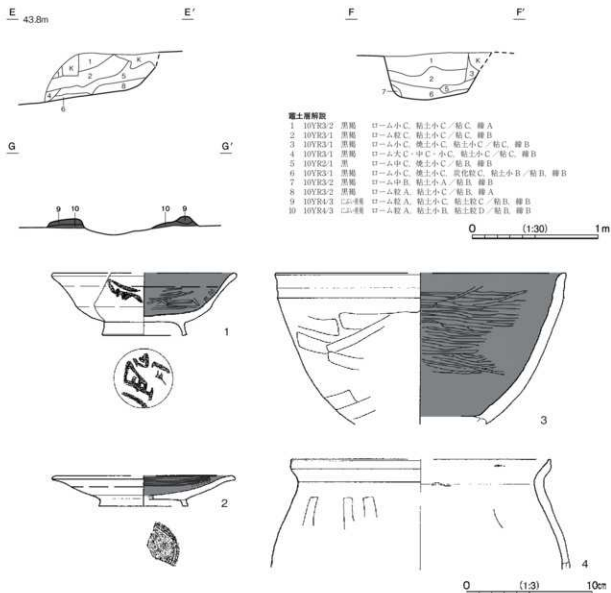
は床面とはほぼ同じ高さの地山の上に、粘土ブロックやローム粒子を含む第9・10層を積み上げて構築されている。火床部は楕円形で浅く掘り下げ、火床面は赤変硬化している。煙道部は火床面から緩やかに立ち上がっている。

ピット P 1は深さ24cmで、竈に対面した南壁際に位置しており、出入口施設に伴うピットと考えられる。

覆土 7層に分層できる。ロームブロックが含まれているが、レンズ状に堆積していることから、自然堆積と考えられる。

遺物出土状況 土師器片172点(坏21、高台付坏5、高台付皿1、鉢3、甕類141、瓶1)、須恵器片17点(坏2、盤1、短頸壺2、甕類12)、陶器片1点(甕)、礫1点が出土している。4は竈左袖寄りの床面から、3は中央部と北東部の床面・覆土中層・掘方埋土から出土した破片が接合したものである。2は竈の覆土下層から、1はP 1寄りの掘方の埋土から出土している。

所見 時期は、重複関係や出土土器から10世紀前葉と考えられる。



第60図 第216号竈穴建物跡・出土遺物実測図

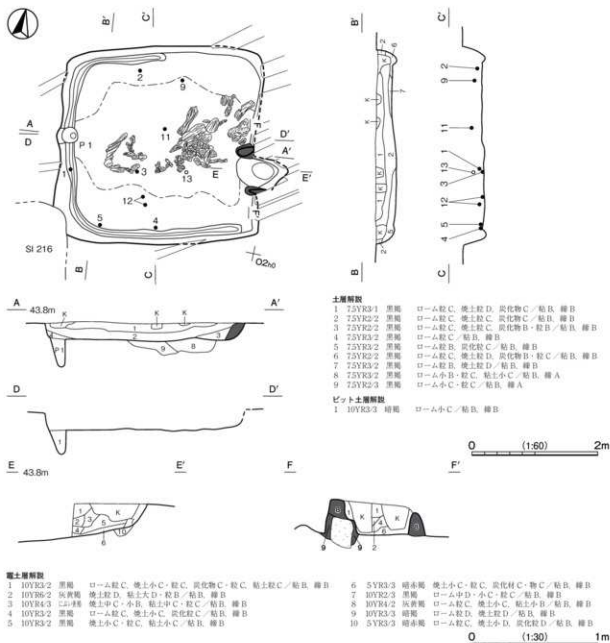
第22表 第216号竪穴建物跡出土遺物一覧

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師器	高台付杯 [14A]	5.0	6.3		長石・石英・滑石・赤色粒子・針状物質	にぶい橙	普通	口縁部・体部外面はタコナダ 内面へう磨き 底部は軸へう磨り成高台を付	南方埋土	40% 図22 黒書 [14A] [14B]
2	土師器	高台付皿 [14D]	2.5	[7.0]		長石・石英	にぶい橙	普通	体部外面はタコナダ 内面へう磨き 底部は軸へう磨り成高台を付	竈内	20%
3	土師器	鉢 [23D]	[12.0]	-		長石・石英・赤色粒子	橙	普通	体部外面へうナダ 内面へう磨き	床面・甕土中埋	20% 西方埋土
4	土師器	羹 [20A]	[8.8]	-		長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口縁部外・内面はナダ 体部外面へうナダ	床面	5%

第217号竪穴建物跡 (第61・62図 PL 8)

位置 C区北西部のO2g9区、標高44mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第216号竪穴建物に掘り込まれている。



第61図 第217号竪穴建物跡実測図

規模と形状 一部攪乱を受けているが、長軸3.15 m、短軸3.09 mの方形で、主軸方向はN-82°-Eである。壁は高さ30 cmほどで、ほぼ直立している。

床 平坦で、中央部が全体に踏み固められている。貼床はロームブロックを含む第8・9層を6-22 cmほど埋土して構築されている。床の中央部には炭化材が散在している。壁溝が北東コーナー部を除いて巡っている。

竈 東壁やや南寄りに付設されている。確認できた規模は焚口部から煙道部まで82 cmで、燃焼部幅46 cmである。遺存状態は悪く、両袖部の一部が残存しているのみである。袖部は地山を浅く掘りくぼめ、その上に粘土ブロックやローム粒子・焼土粒子を含む第8・9層を積み上げて構築されている。左袖部には補強材である凝灰質泥岩の切り石を利用している。火床部は楕円形で床面から10 cmほど掘りくぼめ、焼土ブロックやローム粒子を含む第10層を埋土している。火床面は赤変硬化していない。確認できた煙道部は壁外に55 cm掘り込まれ、火床面から外傾している。

ピット P1は深さ38 cmで、竈に直面した西壁寄りに位置しており、出入口施設に伴うピットと考えられる。

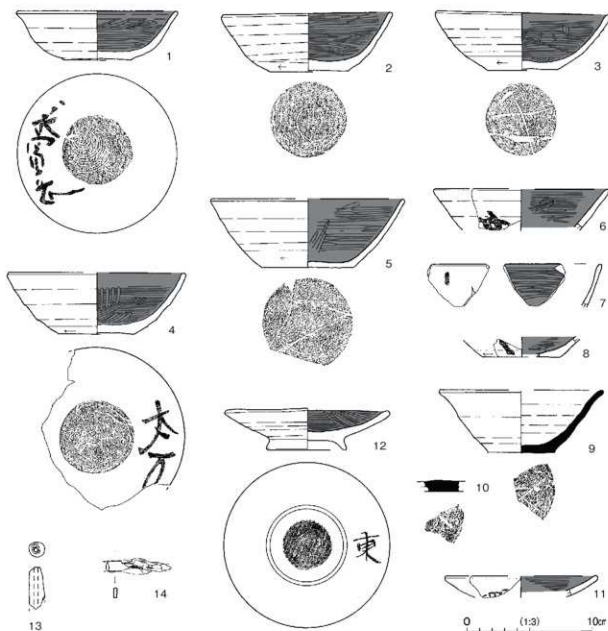
覆土 7層に分層できる。レンズ状に堆積していることから、自然堆積である。

遺物出土状況 土師器片486点(坏140、高台付坏4、皿3、高台付皿1、鉢4、甕類334)、須恵器片25点(坏10、高台付坏1、短頸壺4、甕類10)、灰陶陶器片1点(短頸壺)、陶器片2点(短頸壺、香炉)、土製品1点(管状土錘)、石器1点(砥石)、金属製品2点(刀子、釘)、鉄滓1点、鏝2点が出土している。3は中央部床面から、12は南部床面と覆土下層から出土した破片が接合したものである。1は西壁寄り、2・9は北壁寄り、4・5は南壁溝寄りの覆土下層から、11・13は中央部の覆土中層から、6~8・10・14は覆土中から出土している。

所見 炭化材が床面から出土していることから、焼失した家屋と考えられる。時期は、重複関係や出土土器から10世紀前葉と考えられる。

第23表 第217号竈穴建物跡出土遺物一覧

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考	
1	土師器	坏	126	39	55	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄赤	普通	口縁部・体部外面ロクロナデ 底部回転部切り	内面へう磨き	覆土下層	100% PL32 底蓋(木蓋)
2	土師器	坏	134	48	62	長石・石英	橙	普通	口縁部・体部外面ロクロナデ 体部下端・底部回転へう磨り	内面へう磨き	覆土下層	100% PL32
3	土師器	坏	135	48	56	長石・石英・黒色粒子・細塵	にぶい黄赤	普通	口縁部・体部外面ロクロナデ 体部下端・底部回転へう磨り	内面へう磨き	床面	70% PL32 へう記号「+」 9片(底蓋付)
4	土師器	坏	[138]	49	59	長石・石英	にぶい黄赤	普通	口縁部・体部外面ロクロナデ 体部下端・底部回転へう磨り	内面へう磨き	覆土下層	50% PL32 底蓋(木刀)
5	土師器	坏	[152]	55	72	長石・石英・黒色粒子・細塵	にぶい橙	普通	口縁部・体部外面ロクロナデ 体部下端・底部回転へう磨り	内面へう磨き	覆土下層	70% PL33
6	土師器	坏	[136]	(3.3)	-	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部・体部外面ロクロナデ	内面へう磨き	覆土中	5% PL33 底蓋(口) 9片(底蓋付)
7	土師器	坏	-	(3.4)	-	長石・石英	灰黄緑	普通	口縁部・体部外面ロクロナデ	内面へう磨き	覆土中	5% 底蓋(口)
8	土師器	坏	-	(1.6)	(6.0)	長石・石英	にぶい黄赤	普通	体部外面ロクロナデ 体部下端・底部回転へう磨り	内面へう磨き	覆土中	5% 底蓋(口)
9	須恵器	坏	[130]	5.0	[5.4]	長石・石英・細塵	黄灰	普通	口縁部・体部外・内面ロクロナデ		覆土下層	30% PL33 へう記号「+」 木蓋下蓋
10	須恵器	坏	-	-	-	長石・石英	褐灰	普通	底部回転へう磨り後ナデ		覆土中	5% PL33 へう記号「+」 木蓋下蓋
11	土師器	皿	[118]	(1.7)	-	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部・体部外面ロクロナデ	内面へう磨き	覆土中層	5% PL33 底蓋(口)
12	土師器	高台付皿	128	3.3	6.2	長石・石英	にぶい橙	良好	口縁部・体部外面ロクロナデ 底部回転へう磨り後高台貼付け	内面へう磨き	床面 覆土下層	100% PL33 底蓋(木)
番号	器種	長さ	径	孔径	重量	胎土	色調	特徴		出土位置	備考	
13	管状土錘	(3.3)	1.2-1.3	0.4	(4.64)	長石・石英・赤色粒子	明赤褐	外面ナデ	穿孔、片方欠損	覆土中層		
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴		出土位置	備考		
14	刀子	(5.2)	(1.3)	0.3	(4.62)	鉄	刃部欠損	基部欠損・木質付着	刀身部断面四角形	覆土中		



第62図 第217号竪穴建物跡出土遺物実測図

第218号竪穴建物跡 (第63図 PL.9)

位置 C区北部のO2h6区、標高44mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第1号掘り込み遺構に掘り込まれている。

規模と形状 重複や攪乱を受けていることから、南北軸3.70m、東西軸2.83mしか確認できなかった。主軸方向はN-19°-Wで、方形または長方形と推定できる。壁は高さ22~28cmで、ほぼ直立している。

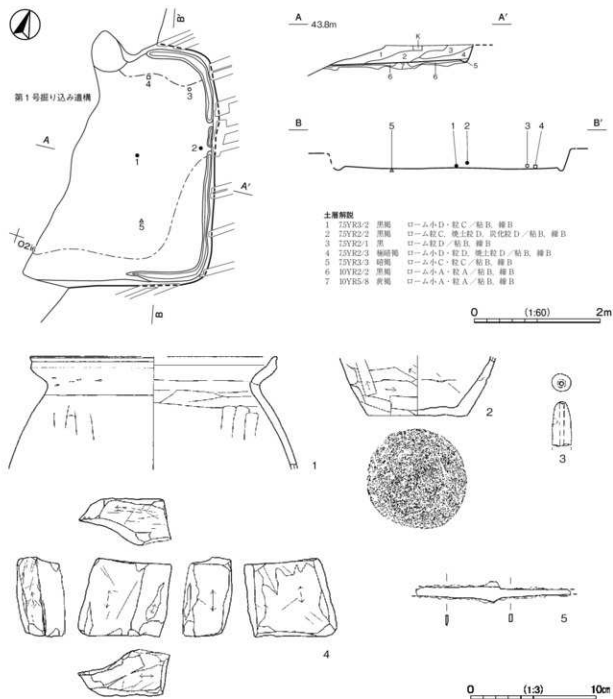
床 平坦で、中央部が全体に踏み固められている。貼床はロームブロックやローム粒子を含む第6・7層を5~10cmほど埋土して構築されている。壁溝が北東コーナー部から南東コーナー部にかけて巡っている。

竈 北壁に付設されていた痕跡が残る。確認できた規模は焚口部から煙道部まで65cmほどである。火床面は赤変硬化していない。

覆土 5層に分層できる。東部から西部に向かって規則的に堆積している状況から、自然堆積と考えられる。

遺物出土状況 土師器片 257点 (坏47, 高台付坏2, 皿3, 鉢3, 甕類202), 須恵器片 15点 (坏3, 短頸壺1, 甕類11), 土製品1点 (管状土錘), 石器2点 (砥石), 金属製品1点 (刀子) が出土している。1は中央部, 4は竈寄りの床面から, 2は東壁寄り, 3は北東コーナー部の覆土下層から, 5は南壁寄りの掘方の埋土から出土している。

所見 時期は、重複関係や出土土器から9世紀代と考えられる。



第63図 第218号竪穴建物跡・出土遺物実測図

第24表 第218号竪穴建物跡出土遺物一覧

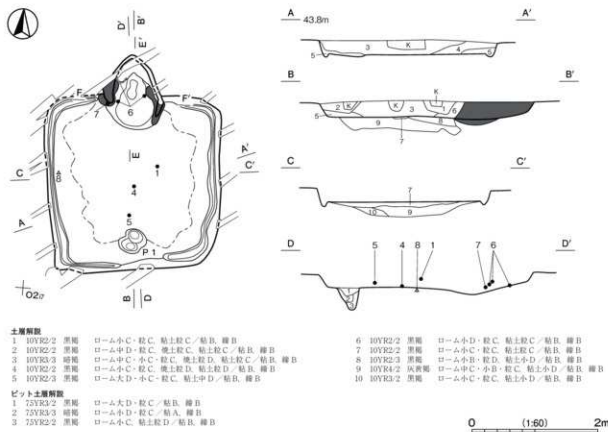
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師器	壺	[194]	9.0	-	長石・石英・赤色粒子	明赤褐色	普通	口縁部外・内面横ナテ 轆轤み皿	床面	5%
2	土師器	壺	-	(48)	7.9	長石・石英・赤色粒子・胡麻	にぶい赤褐色	普通	体部外面へう開り 轆轤み皿	厩土下層	5% 外面僅け付着
番号	器種	長さ	径	孔径	重量	胎土	色調	特徴		出土位置	備考
3	管状土師	(3.5)	14~15	0.4	(7.46)	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	外面ナテ	穿孔 片方欠損	厩土下層	
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴		出土位置	備考	
4	砥石	6.3	7.4	3.8	(210.2)	粘板岩	紙面7面	浅いくぼみに研き面	床面	PL43	
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴		出土位置	備考	
5	刀子	(12.3)	1.2	(0.2)	(12.97)	鉄	刃部先端部欠損	基部欠損 刃部断面三角形 両側	厩土下層	PL44	

第219号竪穴建物跡 (第64~66図 PL 9)

位置 C区北部のO2h7区。標高44mほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 一部攪乱を受けているが、長軸2.82m、短軸2.80mの方形で、主軸方向はN-0°である。壁は高さ22cmほどで、外傾している。

床 平坦で、中央部が全体に踏み固められている。貼床は粘土ブロックやローム粒子を含む第7~10層を25



第64図 第219号竪穴建物跡実測図

cmほど埋土して構築されている。壁溝が出入口付近を除いて全周している。

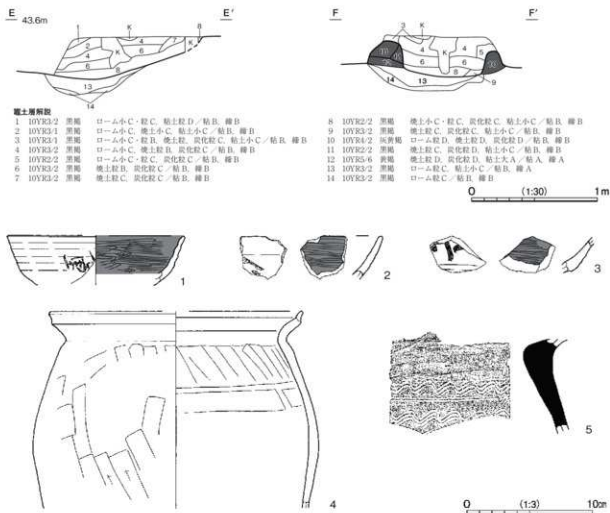
竈 北壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで120cmで、燃焼部幅は60cmである。軸部は床面から深さ20cmほど浅く掘りくぼめ、第13・14層を埋土して整地した後、粘土ブロックやローム粒子・焼土粒子を含む第10～12層を積み上げて構築されている。火床面は赤変硬化していない。煙道部は壁外に60cm掘り込まれ、火床面から緩やかに立ち上がっている。

ピット P1は深さ34cmで、竈に対面した南壁際に位置しており、出入口施設に伴うピットと考えられる。

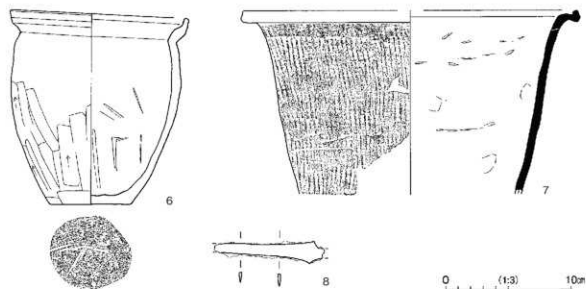
覆土 6層に分層できる。不規則な堆積状況から、埋め戻されている。

遺物出土状況 土師器片188点(坏21, 高台付坏3, 小型甕1, 甕類163), 須恵器片20点(坏3, 高台付坏1, 甕類15, 飯1), 金属製品3点(刀子), 鉄滓1点が出土している。4は中央部の床面から、6は竈内の底面と覆土下層から出土した破片が接合したものである。5はP1寄り、7は竈左袖の覆土下層から出土している。1は中央部の覆土中層から、8は西壁寄りの掘方の埋土から、2・3は覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器から9世紀後葉と考えられる。



第65図 第219号竈穴建物跡・出土遺物実測図



第66図 第219号竪穴建物跡出土遺物実測図

第25表 第219号竪穴建物跡出土遺物一覧

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師器	坏	[139]	(4.0)	-	長石・石英	明赤褐色	普通	口縁部・体部外面ロクロナデ 内面ヘラ磨き	覆土中層	10% PL33 参考【下層】
2	土師器	坏	-	(3.4)	-	長石・石英	にぶい青黒	普通	口縁部・体部外面ロクロナデ 内面ヘラ磨き	覆土中	5% 胎土【下層】
3	土師器	坏	-	(2.9)	-	長石・石英	橙	普通	体部外面ロクロナデ 内面ヘラ磨き	覆土中	5% PL33 参考【下層】
4	土師器	甕	[200]	(15.7)	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面ヘラ磨り 内面ヘラナデ	床面	10% 外面磨き
5	灰患部	甕	-	(7.5)	-	長石・石英	暗灰黄	普通	胴部外面3本1組の櫛歯状工具による波状文	覆土下層	5%
6	土師器	小型壺	140	15.5	6.3	長石・石英・赤色粒子	にぶい赤褐色	普通	口縁部内・内面横ナデ 体部外面ヘラ磨り 内面棒状の工具類	覆土内	80% PL33
7	灰患部	瓶	[265]	(14.6)	-	長石・石英	灰褐色	普通	体部外面櫛格子叩き 内面節間圧痕 輪轆み痕	覆土下層	20%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
8	刀子	(8.8)	1.8	0.2	(9.6)	鉄	刃部先端部欠損 基部欠損 刃部断面三角形 不均等両側	掘方埋土	PL44

第220号竪穴建物跡 (第67・68図 PL9)

位置 C区北部のO29区、標高44mほどの平坦な台地上に位置している。

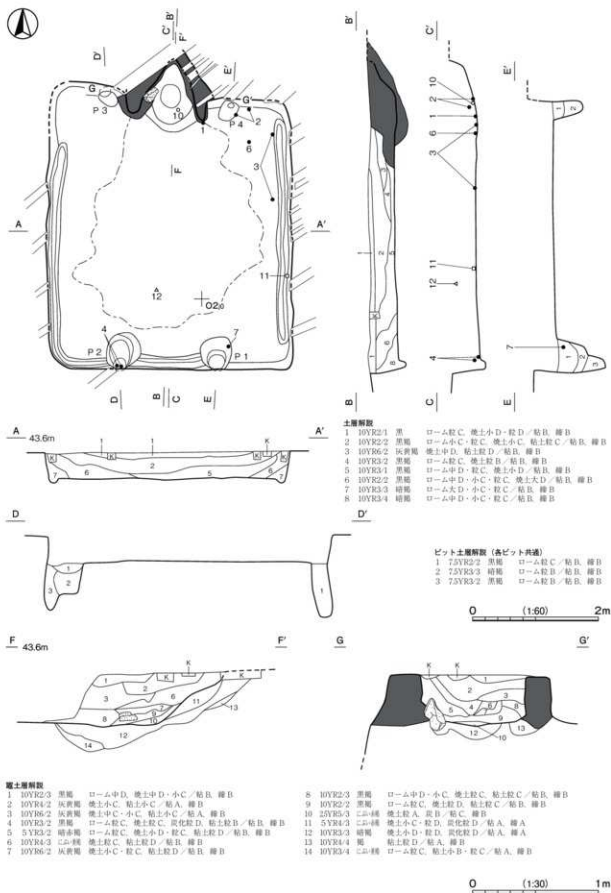
規模と形状 北東部から南西部にかけて攪乱を受けているが、長軸4.54m、短軸3.91mの長方形で、主軸方向はN-1°-Wである。壁は高さ38～46cmで、ほぼ直立している。

床 平坦で、中央部が全体に踏み固められている。壁溝が北部と南東コーナー部を除いて巡っている。

竈 北壁中央部に付設されている。確認できた規模は焚口部から煙道部まで120cmほどで、燃焼部幅は70cmである。袖部は地山を浅く掘りくぼめ、ローム粒子や粘土粒子を含む第11～14層を埋土して整地した後、砂質粘土を積み上げ、補強材として凝灰質泥岩の切り石を使用して構築されている。火床部は楕円形にくぼんでおり、火床面は赤変硬化していない。煙道部は壁外に65cm掘り込まれ、火床面から緩やかに立ち上がっている。

ピット 4か所。P1～P4は深さ50～85cmほどの壁際にある柱穴で主柱穴と考えられる。

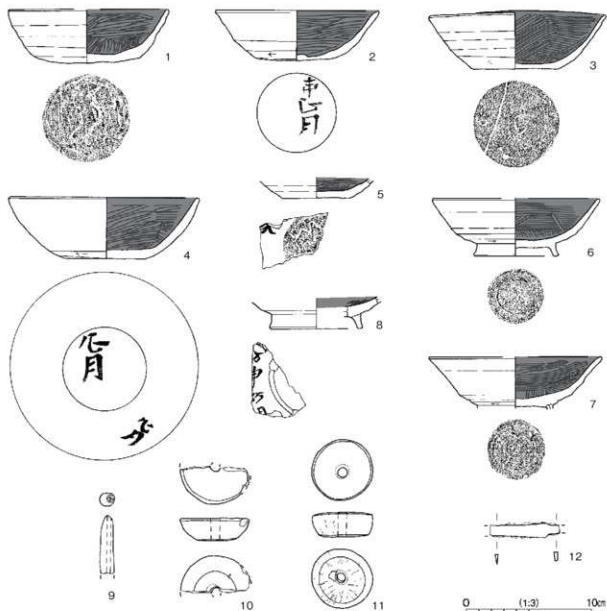
覆土 8層に分層できる。第1・2層はローム粒子や焼土粒子が含まれているが、レンズ状に堆積していることから、自然堆積と考えられる。



第 67 図 第 220 号竪穴建物跡実測図

遺物出土状況 土師器片 457 点 (坏 89, 高台付坏 17, 皿 2, 甕類 349), 須恵器片 41 点 (坏 16, 高台付坏 3, 盤 1, 短頸壺 1, 甕類 20), 灰軸陶器片 2 点 (壺), 陶器片 3 点 (甕類), 土製品 2 点 (管状土錘, 紡錘車), 石器 1 点 (紡錘車), 金属製品 3 点 (刀子, 釘, 錠), 鉄滓 1 点が出土している。1 は甕右袖部前, 3 は東壁溝寄り, 6 は北東コーナー部, 11 は東壁際の床面から出土している。10 は甕内の底面, 2 は右袖部寄りの床面から覆土下層, 4 は南壁際の床面と覆土下層から出土した破片が接合したものである。7 は P 1, 12 は中央部南寄りの覆土上層から出土している。5・8・9 は覆土中から出土している。

所見 時期は, 出土土器から 9 世紀後葉と考えられる。



第 68 図 第 220 号竪穴建物跡出土遺物実測図

第 26 表 第 220 号竪穴建物跡出土遺物一覧

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師器	坏	[125]	4.3	7.0	長石・石英	にじみ橙	普通	口縁部・体部内面ロクロナデ 底部割製ヘタ張り後ナデ	床面	80% PL33

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
2	土師器	杯	130	40	62	長石・石英・ 細砂	にぶい	普通	口縁部・体部外面ロクロナデ 内面へう磨き 体部下層・底部回転へう磨り後ナデ	床面 覆土下層	90% PL34 30% 口内面 外面磨付着
3	土師器	杯	139	47	68	長石・石英・ 角石	にぶい	磨	口縁部・体部外面ロクロナデ 内面へう磨き 体部下層・底部回転へう磨り後ナデ	床面	90% PL34
4	土師器	杯	150	49	65	長石・石英	にぶい	普通	口縁部・体部外面ロクロナデ 内面へう磨き 体部下層・底部回転へう磨り	床面 覆土下層	90% PL34 5% 床面「心月」 外面磨付着
5	土師器	杯	-	(15)	(54)	長石・石英・ 細砂	にぶい	普通	内面へう磨き 底部回転へう磨り	覆土中	5% PL34 30% 床面「家」
6	土師器	高台付杯	(130)	46	64	長石・石英	にぶい	普通	口縁部・体部外面ロクロナデ 内面へう磨き 体部下層回転へう磨り 底部回転へう磨り後高 台付	床面	30% PL34
7	土師器	高台付杯	(136)	(41)	-	長石・石英・ 細砂	にぶい	普通	口縁部・体部外面ロクロナデ 内面へう磨き 体部下層・底部回転へう磨り 高台欠損	P1 覆土上層	50%
8	土師器	高台付杯	-	(26)	(72)	長石・石英	にぶい	普通	内面へう磨き 体部下層回転へう磨り 底部回 転へう磨り後高台磨り	覆土中	5% PL34 30% 床面「心月」

番号	器種	径	孔径	長さ (厚さ)	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
9	管状土師	10-11	0.3	(46)	(70)	長石・石英	明赤陶	外面ナデ 穿孔 片方欠損	覆土中	
10	紡錘車	(55)	(0.8)	1.8	(285)	長石・石英	赤灰	上・下面一部磨 一方からの穿孔	壺内	

番号	器種	径	孔径	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
11	紡錘車	48-49	0.7	1.9	(462)	凝灰岩	片面磨 一方からの穿孔	床面	PL43

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
12	刀子	(55)	1.2	0.4	(74)	鉄	刃部先端部欠損 基部欠損 刃部断面三角形 両側	覆土上層	

第 221 号 堅穴建物跡 (第 69・70 図 PL 9)

位置 C 区北部の O 218 区、標高 44 m ほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第 222 号 堅穴建物に掘り込まれている。

規模と形状 堅穴建物に一部掘り込まれているが、長軸 4.00 m、短軸 3.65 m の方で、主軸方向は N-11°-W である。壁は高さ 46 cm ほどで、ほぼ直立している。

床 平坦で、中央部が全体に踏み固められている。壁溝が西壁の一部を除いて巡っている。

竈 北壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで 145 cm で、燃焼部幅は 63 cm である。袖部は地山の上に粘土ブロックやローム粒子を含む第 9 層を積み上げて構築されている。火床部は楕円形に浅く掘りくぼめ、焼土ブロックやローム粒子を含む第 10・11 層を埋土としている。火床面は第 10 層上面で、赤変硬化している。煙道部は壁外に 80 cm 掘り込まれ、火床面から緩やかに立ち上がっている。

覆土 4 層に分層できる。レンズ状に堆積していることから、自然堆積である。

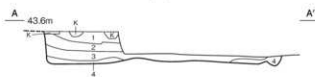
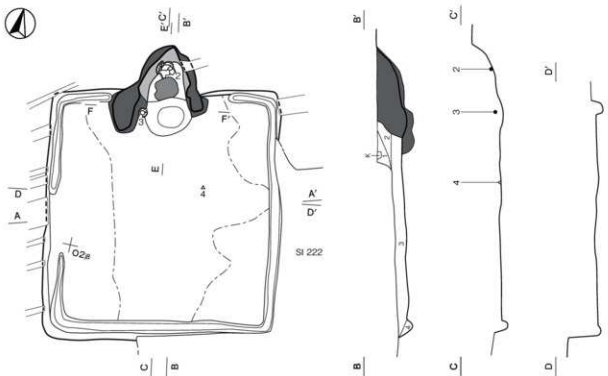
遺物出土状況 土師器片 279 点 (杯 23、高台付杯 3、皿 2、甕類 251)、須恵器片 14 点 (杯 4、蓋 1、短頸甕 1、甕類 8)、金属製品 1 点 (刀子) が出土している。4 は中央部の床面から、2 は竈内の底面から、3 は竈内の覆土下層から、1 は覆土中から出土している。

所見 時期は、重複関係や出土土器から 9 世紀後葉と考えられる。

第 27 表 第 221 号 堅穴建物跡出土遺物一覧

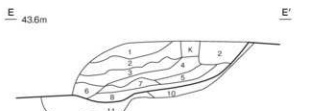
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師器	杯	(154)	52	70	長石・石英・ 赤色粒子	にぶい	普通	口縁部・体部外面ロクロナデ 内面へう磨き 体部下層回転へう磨り後ナデ	覆土中	30%
2	土師器	甕	(200)	(28.1)	-	長石・石英・ 赤色粒子	にぶい	普通	口縁部外・内面磨ナデ 体部外・内面へうナデ 体部内面磨付着	壺内	30% 外面磨付着
3	土師器	甕	-	(35)	80	長石・石英・ 赤色粒子	にぶい	赤陶	体部外・内面ナデ	壺内	5% へう磨り付着

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
4	刀子	(112)	1.1	0.2	(134)	鉄	刃部先端部欠損 基部欠損・木質付着 刃部断面三角形 両側	床面	PL44



- 土層解説**
- | | | |
|---|-------------|-----------------------|
| 1 | 10YR3/2 黒褐色 | ローム小D・粒C、焼土小D / 粘B、雜B |
| 2 | 10YR2/3 黒褐色 | ローム粒B、焼土粒D / 粘B、雜B |
| 3 | 10YR3/2 黒褐色 | ローム小D・粒C、炭化粒D / 粘B、雜B |
| 4 | 10YR3/4 暗褐色 | ローム小D・粒C / 粘B、雜B |

0 (1:60) 2m

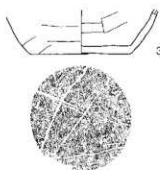
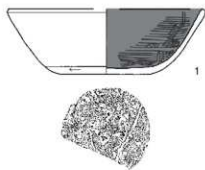


土層解説

- | | | |
|---|--------------|--------------------------------|
| 1 | 10YR3/2 黒褐色 | ローム中C・小C・粒C、焼土小D・粒C・小C / 粘B、雜B |
| 2 | 10YR3/3 暗褐色 | 焼土小D、粘土小C / 粘B、雜B |
| 3 | 10YR4/2 灰青褐色 | ローム中D、焼土小D・粒D、粘土粒C / 粘B、雜B |
| 4 | 10YR3/2 黒褐色 | ローム粒C、焼土中D・粒C、炭化粒D / 粘B、雜B |
| 5 | 10YR3/2 黒褐色 | 焼土粒C・粘土粒D / 粘B、雜B |
| 6 | 10YR2/3 黒褐色 | ローム小D・粒C、焼土小D・粒D、粘土粒D / 粘B、雜B |

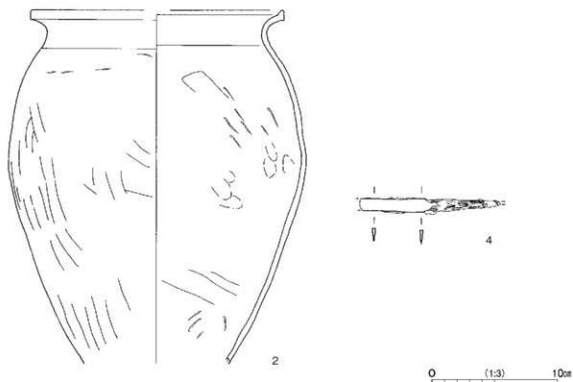
- | | | |
|----|--------------|--------------------------|
| 7 | 10YR3/4 暗褐色 | ローム粒C、焼土中C・小C・粒D / 粘B、雜B |
| 8 | 5YR3/4 暗赤褐色 | ローム大D・中C、焼土小C・粒C / 粘B、雜B |
| 9 | 10YR3/2 黒褐色 | ローム粒C、焼土粒D、粘土小C / 粘B、雜B |
| 10 | 5YR3/6 暗赤褐色 | 焼土小A / 粘C、雜A |
| 11 | 10YR4/2 灰青褐色 | ローム粒D、焼土小C、炭化粒D / 粘B、雜B |

0 (1:30) 1m



0 (1:3) 10cm

第 69 図 第 221 号竪穴建物跡・出土遺物実測図



第70図 第221号竪穴建物跡出土遺物実測図

第222号竪穴建物跡 (第71図 PL.9)

位置 C区北部のO28区、標高44mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第221号竪穴建物跡を掘り込み、第1272・1273号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 一部攪乱を受けているが、長軸4.12m、短軸3.35mの長方形で、主軸方向はN-8°-Wである。壁は高さ22～34cmで、ほぼ直立している。

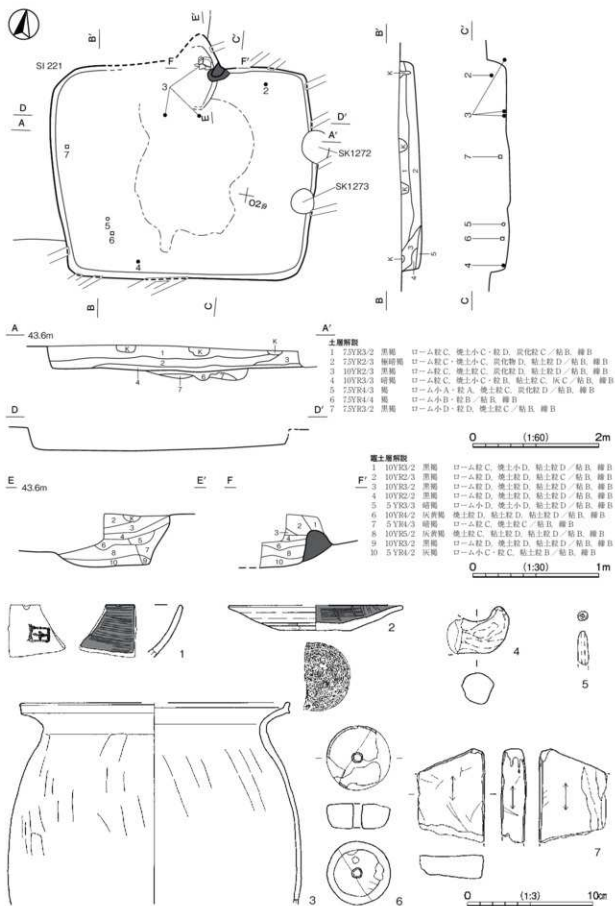
床 平坦で、中央部が踏み固められている。貼床はロームブロックを含む第6・7層を10～15cmほど埋土して構築されている。

竈 北壁中央部に付設されていた痕跡が残る。確認できた規模は焚口部から煙道部まで120cmである。袖部は右袖部がわずかに遺存している。地山を浅く掘り下げ、その上に砂質粘土を積み上げて構築されている。火床部は浅くぼんでおり、火床面は赤変していない。確認できた煙道部は壁外に55cmほど掘り込まれ、火床面から外傾している。

覆土 5層に分層できる。レンズ状に堆積していることから、自然堆積である。

遺物出土状況 土師器片487点(坏112、高台付坏2、皿12、小型甕1、甕類359、瓶1)、須恵器片47点(坏9、蓋1、短頸壺9、甕類28)、陶器片2点(甕類)、土製品1点(管状土錘)、石器2点(紡錘車、砥石)が出土している。4は南壁寄りの床面から、3は竈内と竈付近の床面から出土した破片が接合したものである。5・6は南西部の覆土下層から、7は西部壁際の覆土中層から出土している。2は北東コーナー部の覆土上層から、1は覆土中から出土している。

所見 時期は、重複関係や出土土器から9世紀後葉と考えられる。



第71图 第222号聚穴建物跡・出土遺物実測图

第28表 第222号竪穴建物跡出土遺物一覧

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	地成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師器	坏	-	(42)	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口縁部・体部外面ロクロナデ 内面へう磨き	覆土中	5% PL34 遺書「田」
2	土師器	甕	(13.5)	20	5.5	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部・外面ロクロナデ 内面へう磨き 体部下縁・底部回転へう磨き	覆土上層	30%
3	土師器	甕	(21.0)	(16.0)	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外・内面ナデ	甕内床面	30%
4	土師器	瓶	-	(3.7)	-	長石・石英	明赤紅	普通	把手部ナデ	床面	5%
番号	器種	長さ	径	口径	重量	胎土	色調	特徴		出土位置	備考
5	管状土師	(2.7)	0.8	0.3	(1.5)	長石・石英	にぶい橙	外面ナデ 穿孔 片方欠損		覆土下層	
番号	器種	径(長さ)	口径(高さ)	厚さ	重量	材質	特徴		出土位置	備考	
6	粘板	5.0	0.8	2.0	496	凝灰岩	上・下面一部摩滅 片面研磨 一方からの穿孔		覆土下層	PL43	
7	砥石	(7.5)	(5.4)	1.9	(115.1)	粘板岩	砥面3面 浅いくぼみに研き度		覆土中層		

第223号竪穴建物跡 (第72・73図 PL 9・10)

位置 C区北部のP2b8区、標高44mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第1264号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸4.18m、短軸3.77mの長方形で、主軸方向はN-0°である。壁は高さ30～36cmで、ほぼ直立している。

床 中央部に若干の盛り上がりが見られるが、ほぼ平坦な床である。中央部がよく踏み固められている。貼床はロームブロックを含む第8～10層を埋土して構築されている。

竈 北壁中央部に付設されている。攪乱を受けているため、確認できた規模は焚口部から煙道部まで100cmで、燃焼部幅75cmである。袖部は遺存状態が悪く、両袖部の一部が残存している。地山を10～15cmほど掘りくぼめ、ロームブロックや粘土粒子を含む第10・11層を埋土した上に、砂質粘土を積み上げて構築されている。左袖部には補強材として凝灰質泥岩の切り石を使用している。火床部は楕円形に浅くくぼんでいる。火床面は第11層上面で赤変硬化している。煙道部は壁外に68cmほど掘り込まれ、火床面から緩やかに立ち上がっている。ピット P1は深さ30cmで、竈に対した南壁際に位置しており、出入口施設に伴うピットと考えられる。

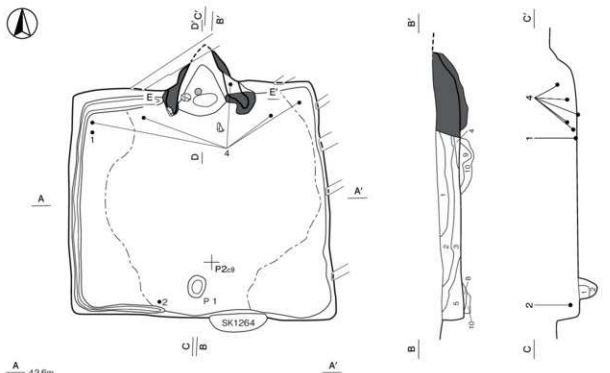
覆土 7層に分層できる。第1～3層はロームブロックが含まれているが、レンズ状に堆積していることから、自然堆積と考えられる。

遺物出土状況 土師器片150点(坏15, 高台付坏6, 甕類129), 須恵器片33点(坏15, 高台付坏2, 盤1, 短頸壺1, 長頸壺2, 甕類12), 陶器片1点(甕), 金属製品1点(釘), 鉄滓1点が出土している。1は北西コーナー部の床面から、4は北東コーナー部と北西コーナー部、竈右袖部、竈左袖部付近の床面から覆土中層にかけて出土した破片が接合したものである。2は南壁溝寄りの覆土中層から出土している。3は覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器から9世紀中葉と考えられる。

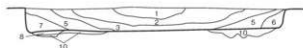
第29表 第223号竪穴建物跡出土遺物一覧

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	地成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師器	高台付坏	11.7	6.2	6.4	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部・体部外面ロクロナデ 内面へう磨き 体部下縁回転へう磨き 底部回転へう磨き 高台欠損	床面	90% PL34 遺書「田」
2	土師器	高台付坏	13.1	(4.5)	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口縁部・体部外面ロクロナデ 内面へう磨き 体部下縁・底部回転へう磨き 高台欠損	覆土中層	70%
3	土師器	高台付坏	-	(28)	-	長石・石英	明赤紅	普通	体部外面ロクロナデ 内面へう磨き	覆土中	5% 遺書「田」
4	土師器	甕	(22.2)	(27.6)	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい赤紅	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外・内面ナデ	床面 覆土中層	40% 外面付分層



A 43.6m

A'



ピット土層解説

- 1 75YR2/1 黒 ローム粒C / 粘B, 雜B
2 75YR3/3 暗黒 ローム粒B / 粘B, 雜B

土層解説

- | | | | |
|--------------|----------------------------------|---------------|----------------------------------|
| 1 10YR3/3 暗黒 | ローム中B・小A・粒A, 焼土粒C, 炭化粒C / 粘B, 雜B | 6 10YR2/1 黒 | ローム中C・小C・粒C, 焼土中C・小C・粒C / 粘B, 雜B |
| 2 10YR3/2 黒 | ローム中A・小A・粒A, 焼土小C, 炭化粒C / 粘B, 雜B | 7 10YR3/2 黒 | ローム大C・中C・小B・粒B, 焼土粒C / 粘B, 雜B |
| 3 10YR3/1 黒 | ローム大C・中C・小B・粒B, 焼土小C / 粘B, 雜B | 8 10YR2/2 黒 | ローム小A・粒A / 粘A, 雜A |
| 4 10YR2/1 黒 | ローム中C・粒B, 焼土小C, 炭化粒C / 粘B, 雜B | 9 10YR2/3 黒 | ローム小A・粒A, 炭化粒D / 粘B, 雜B |
| 5 10YR2/1 黒 | ローム中C・小C・粒C / 粘B, 雜B | 10 10YR5/0 黄黒 | ローム小A・粒A / 粘A, 雜A |

0 (1:60) 2m

D 43.6m

D'

E



土層解説

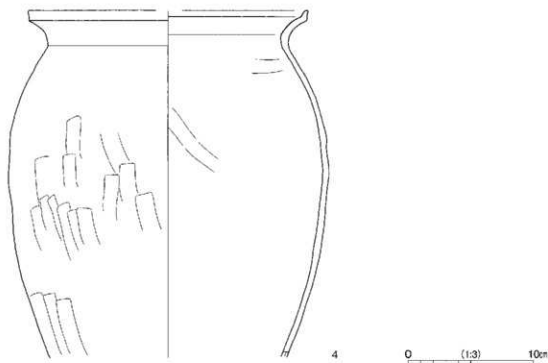
- | | | | |
|--------------|-------------------------------|--------------|-------------------------|
| 1 10YR3/4 暗黒 | ローム中C・小C・粒B / 粘B, 雜B | 7 10YR3/2 黒 | 粘土粒D / 粘B, 雜B |
| 2 10YR2/2 黒 | ローム小C・粒C, 焼土小D / 粘B, 雜B | 8 5YR3/3 暗赤 | 焼土小・粒B, 粘土中C・小C・粒B, 雜B |
| 3 10YR3/1 黒 | ローム粒C, 焼土粒C, 粘土粒D / 粘B, 雜B | 9 5YR3/4 暗赤 | ローム中D・小C, 焼土粒C / 粘A, 雜B |
| 4 10YR2/1 黒 | ローム中D・粒C, 焼土小D, 粘土小D / 粘B, 雜B | 10 10YR2/2 黒 | 粘土粒B, 灰D / 粘B, 雜B |
| 5 10YR2/2 黒 | ローム小C, 焼土中D・小C, 粘土中C / 粘B, 雜B | 11 10YR3/2 黒 | ローム小B, 焼土粒D / 粘A, 雜B |
| 6 10YR2/2 黒 | ローム小C, 焼土粒D, 粘土中D・小C / 粘B, 雜B | | |

0 (1:30) 1m



0 (1:3) 10cm

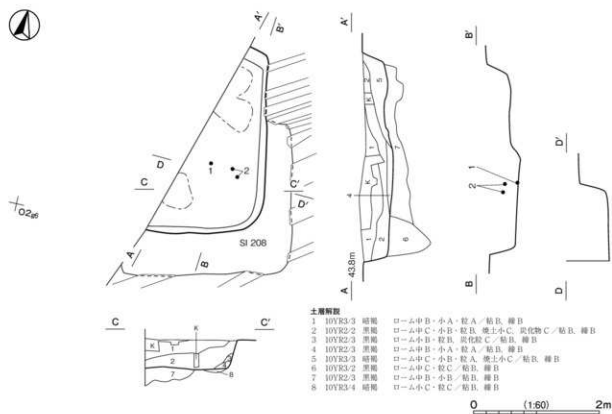
第72図 第223号竅穴建物跡・出土遺物実測図



第73図 第223号竪穴建物跡出土遺物実測図

第225号竪穴建物跡 (第74・75図)

位置 C区北部のO26区、標高44mほどの平坦な台地上に位置している。



第74図 第225号竪穴建物跡実測図

重複関係 第208号竪穴建物跡を掘り込んでいる。

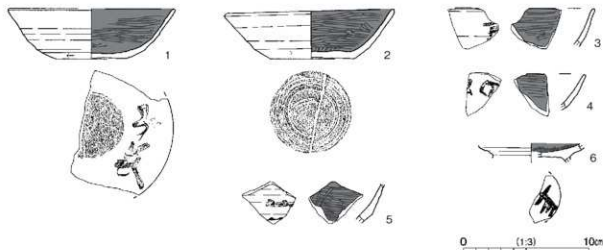
規模と形状 北西部が調査区域外のため、南北軸2.92m、東西軸1.66mしか確認できなかった。主軸方向はN-13°-Wで、方形または長方形と推定できる。壁は高さ46cmほどで、外傾している。

床 緩やかな起伏のある床で、部分的に踏み固められている。貼床はロームブロックを含む第6～8層を25～65cmほど埋土して構築されている。

覆土 5層に分層できる。レンズ状に堆積していることから、自然堆積である。

遺物出土状況 土師器片102点(坏28, 高台付坏3, 甕類71), 須恵器片6点(坏3, 甕類3)が出土している。1は中央部の床面から出土している。2は東壁寄りの覆土中層から出土した破片が接合したものである。3～6は覆土中から出土している。

所見 時期は、重複関係や出土土器から9世紀後葉と考えられる。



第75図 第225号竪穴建物跡出土遺物実測図

第30表 第225号竪穴建物跡出土遺物一覧

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師器	坏	(130)	40	5.5	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口縁部・体部外面ロクロナデ 内面へう磨き 体部下端・底部回転へう削り	床面	30% PL35 照書 [PL35]
2	土師器	坏	133	39	66	長石・石英・赤色粒子・細礫	にぶい赤黒	普通	口縁部・体部外面ロクロナデ 内面へう磨き 体部下端・底部回転へう削り	覆土中層	95% PL35
3	土師器	坏	-	(31)	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口縁部・体部外面ロクロナデ 内面へう磨き	覆土中	5% PL34 照書 [PL34]
4	土師器	坏	(29)	-	-	長石・石英	黄	普通	口縁部・外面ロクロナデ 内面へう磨き	覆土中	5% PL34 照書 [PL34]
5	土師器	坏	-	(33)	-	長石・石英	にぶい赤黒	普通	体部外面ロクロナデ 内面へう磨き	覆土中	5% PL34 照書 [PL34]
6	土師器	高台付坏	-	(15)	-	長石・石英・赤色粒子・細礫	橙	普通	内面へう磨き 底部回転へう削り 高台欠損	覆土中	5% PL34 照書 [PL34]

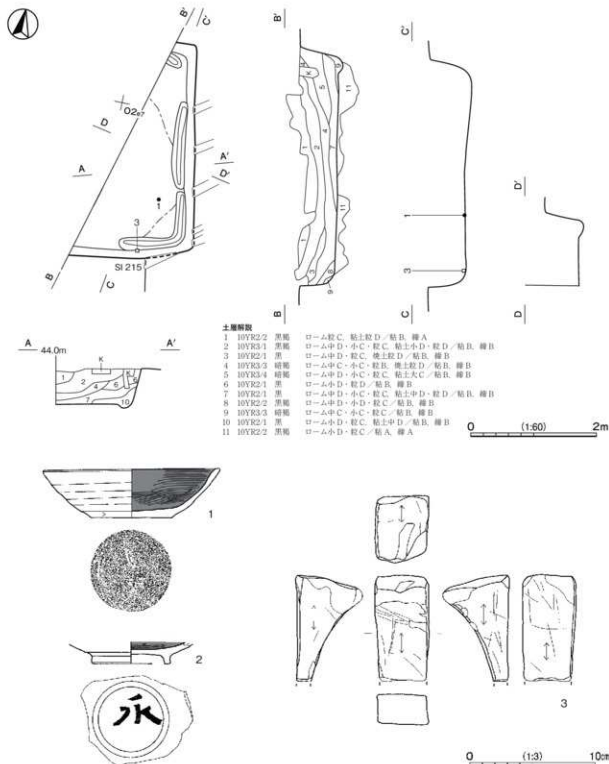
第226号竪穴建物跡 (第76図 PL 8)

位置 C区北部のO2e7区、標高44mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第215号竪穴建物跡を掘り込んでいる。

規模と形状 北西部が調査区域外のため、南北軸は3.30mで、東西軸は1.90mしか確認できなかった。主軸方向はN-10°-Wで、方形または長方形と推定できる。壁は高さ53～66cmで、ほぼ直立している。

床 平坦で、中央部が踏み固められている。貼床はロームブロックを含む第11層を10～35cmほど埋土して構築されている。壁溝は北東から南東コーナー部にかけて断続的に確認された。



第76図 第226号竪穴建物跡・出土遺物実測図

覆土 10層に分層できる。第1～4層はロームブロックや粘土ブロック・焼土粒子が含まれているが、レンズ状に堆積していることから、自然堆積と考えられる。第5～10層は周辺の流入土である。

遺物出土状況 土師器片22点(坏7, 高台付坏2, 甕類13), 須恵器片13点(坏1, 高台付坏1, 甕類11), 石器1点(砥石)が出土している。1は南東コーナー部, 3は南壁際の床面から, 2は覆土中から出土している。

所見 時期は、重複関係や出土土器から10世紀前葉と考えられる。

第31表 第226号竪穴建物跡出土遺物一覧

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師器	坏	139	4.0	6.4	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部・体部内面ロケロナデ 内面へツ磨き 体部下端・底部回転へツ磨り	床面	60% PL35
2	土師器	高台付杯	-	(1.7)	6.1	長石・石英	にぶい黄橙	普通	内面へツ磨き 体部下端回転へツ磨り 底部回転へツ磨り後高台貼付	覆土中	40% PL35 墨書「水」
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴		出土位置	備考	
3	砥石	(8.5)	4.3	5.3	(186.66)	凝灰岩	砥面5面	くばみに研き痕	床面	PL43	

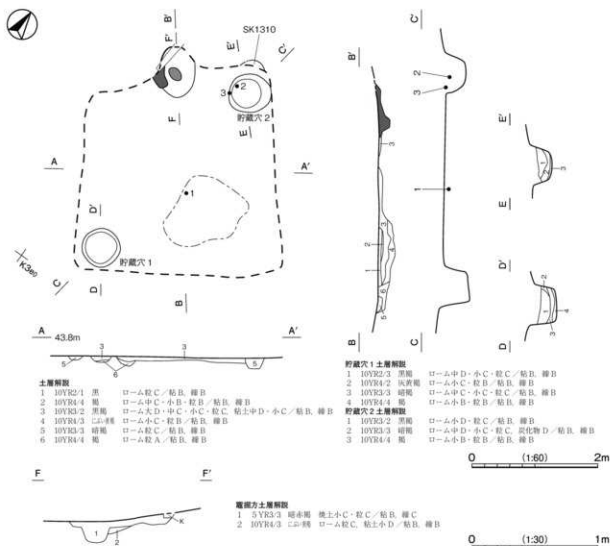
第227号竪穴建物跡（第77・78図）

位置 D区北部のK3d0区、標高44mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第1310号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 削平されているため、長軸3.35m、短軸3.32mしか確認できなかった。主軸方向はN-38°-Wで、方形と推定できる。

床 平坦で、南東部が踏み固められている。貼床はロームブロックを含む第1～6層を10～30cmほど埋土して構築されている。



第77図 第227号竪穴建物跡実測図

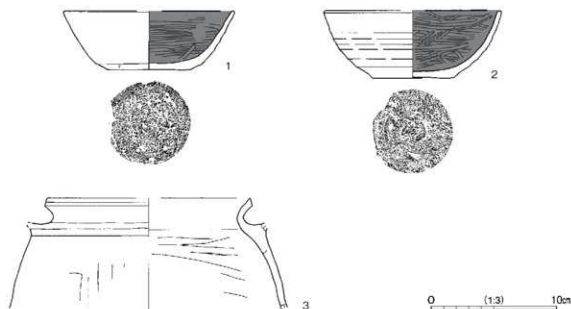
竈 北壁中央部に付設されている。遺存状態が悪く、確認できた規模は焚口部から煙道部まで80cmで、燃焼部幅は45cmほどである。袖部は左側の一部がわずかに残存している。地山を8～17cmほど掘りくほめ、ローム粒子や焼土粒子を含む第1・2層を埋土して整地した上に構築されている。火床部は床面と同じ高さを利用して、火床面は第1層上面で、赤変硬化している。煙道部は壁外に25cm掘り込まれ、火床面から緩やかに立ち上がっている。

貯蔵穴 2か所。貯蔵穴1は南西コーナー部に位置している。径60cmほどの円形で、深さは44cmである。底面は平坦で、壁はほぼ直立している。貯蔵穴2は北東コーナー部に位置している。径64cmほどの円形で、深さは30cmである。底面はほぼ平坦で、壁は外傾している。

覆土 上面が削平されていることから、覆土は確認できなかった。

遺物出土状況 土師器片65点(坏21, 甕類43, 羽釜1), 須恵器片5点(坏2, 長頸壺2, 甕類1)が出土している。2・3は貯蔵穴2の覆土上層から、1は中央部の掘方の埋土から出土している。

所見 時期は、出土土器から9世紀後葉～10世紀前葉と考えられる。



第78図 第227号竈穴建物跡出土遺物実測図

第32表 第227号竈穴建物跡出土遺物一覧

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考	
1	土師器	坏	[134]	4.7	6.6	長石・石英	にぶい橙	普通	口径部・体部外面ロクロナダ 体部下端・底部斜転へう磨り	内面へう磨き	掘方埋土	60% PL35
2	土師器	坏	[139]	5.4	6.3	長石・石英	にぶい橙	普通	口径部・体部外面ロクロナダ 底部斜転へう磨り後多方向のナデ	内面へう磨き	貯蔵穴2	50%
3	土師器	羽釜	[161]	(89)	-	長石・石英・ 赤色粒子・細礫	橙	普通	口径部・器部外・内面横ナダ 穴後部始付け 器欠損 輪轆み重	体部外面へうナ	貯蔵穴2	5%

第228号竈穴建物跡 (第79・80図 PL10)

位置 D区北部のK3e9区、標高44mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第22号ピット群に掘り込まれている。

規模と形状 長軸2.73m, 短軸2.70mの方形で、主軸方向はN-32°-Wである。壁は高さ15～25cmで、ほぼ直立している。

床 平坦で、中央部と竈周辺が踏み固められている。貼床はロームブロックを含む第7～11層を15～25cm

埋土して構築されている。壁溝は竈の両脇を除いて巡っている。

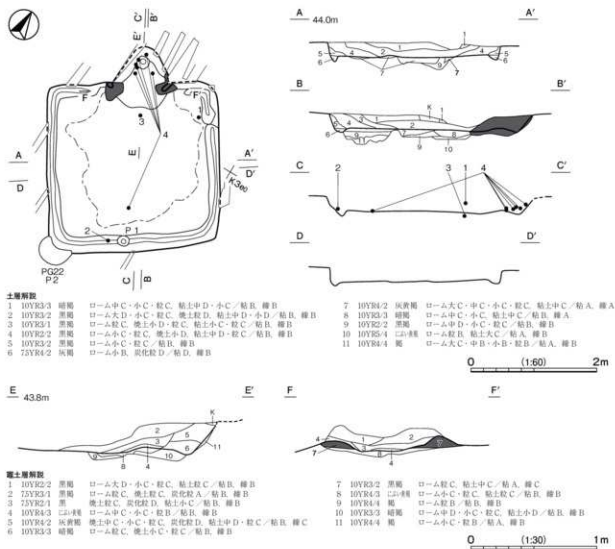
竈 北壁中央部に付設されている。攪乱を受けているため、確認できた規模は焚口部から煙道部まで100cmで、燃焼部幅66cmである。袖部は遺存状態が悪く、両袖部の一部しか残存していない。袖部は地山を10cmほど掘りくぼめ、ロームブロックや粘土ブロックを含む第8～11層を埋土して整地した後、粘土ブロックやローム粒子を含む第7層を積み上げて構築されている。火床部は床面とほぼ同じ高さを使用している。火床面は赤変硬化していない。煙道部は壁外に58cmほど掘り込まれ、火床面から外傾している。

ピット P1は竈に対面した南壁際に位置しており、出入口施設に伴うピットと考えられる。

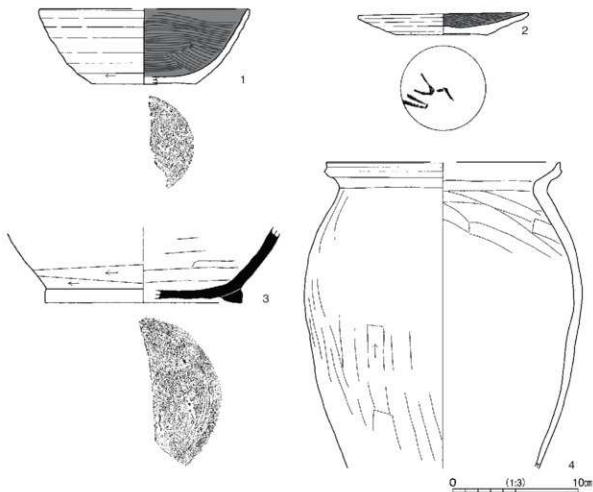
覆土 6層に分層できる。レンズ状に堆積していることから、自然堆積である。第6層はロームブロックや炭化粒子を含む壁溝の覆土である。

遺物出土状況 土師器片228点(坏62, 高台付坏1, 高台付碗1, 皿1, 甕類163), 須恵器片5点(坏2, 短頸壺1, 甕類2), 礫3点が出土している。4は竈内の底面と南部の壁溝寄りの床面から出土した破片が接合したもので、2は南壁際の床面から、1は北東コーナー部の覆土中層から、3は竈寄りの掘方の埋土からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から9世紀中葉～後葉と考えられる。



第79図 第228号竈穴建物跡実測図



第80図 第228号竪穴建物跡出土遺物実測図

第33表 第228号竪穴建物跡出土遺物一覧

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考	
1	土師器	杯	[165]	6.0	[8.1]	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部・体部外面ロクロナデ 体部下端・底部回転へら削り	内面へら磨き	覆土中層	30%
2	土師器	皿	133	1.8	6.8	長石・石英・ 赤色粒子・針状 物質	にぶい陶	普通	口縁部・体部外面ロクロナデ 体部下端・底部回転へら削り	内面へら磨き	床面	80% PL35 思書「□」 片断層位書
3	須恵器	煎餅壺	-	(60)	[156]	長石・石英	灰黄陶	普通	体部下端回転へら削り 口縁部付	底部回転へら削り 接高	掘方埋土	5% 木蓋下蓋
4	土師器	甕	[184]	(24.4)	-	長石・石英・ 赤色粒子	明赤陶	普通	口縁部外・内面横ナデ 面ナデ	体部外面へら削り	内 面	30%

第229号竪穴建物跡 (第81・82図 PL10)

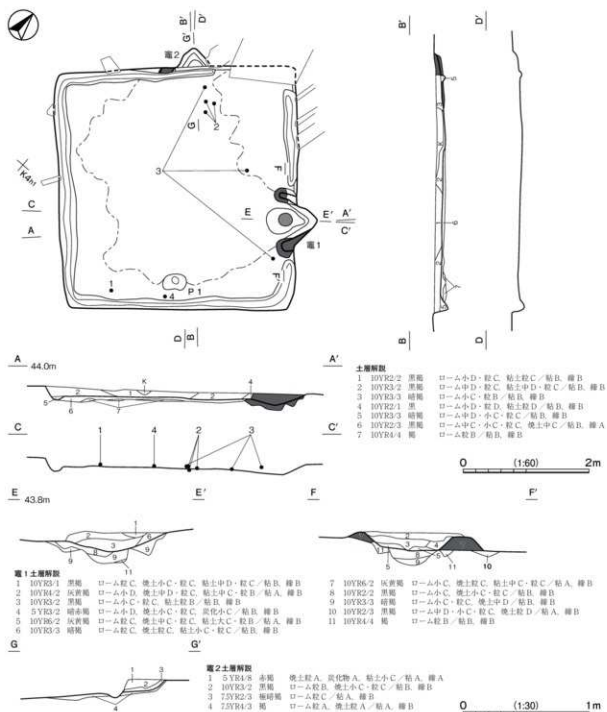
位置 D区北部のK4g1区、標高44mほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 一辺が3.82mほどの方形で、主軸方向はN-48°-Eである。壁は高さ18~20cmで、外傾している。

床 平坦で、中央部と竈周辺が踏み固められている。貼床はロームブロックや焼土ブロックを含む第6・7層を5~10cmほど埋土して構築されている。壁溝は北東コーナー部を除いて巡っている。

竈 北東壁に竈1、北西壁に竈2を確認した。遺存状態から竈2から竈1へ作り替えたと考えられる。竈1は北東壁中央部から南寄りに付設されている。規模は焚口部から煙道部まで83cmで、燃焼部幅は55cmである。袖部は地山を5~12cmほど掘りくぼめ、ロームブロックや焼土ブロックを含む第8~11層を埋土して整地し

た後、粘土ブロックを含む第7層を積み上げて構築されている。火床部は楕円形で浅くくぼんでいる。火床面は第8層上面で、赤変硬化している。煙道部は壁外に35cmほど掘り込まれ、火床面から緩やかに立ち上がっている。竈2は北西壁中央部や東寄りに付設されている。作り替えるために整理されており、確認できた規模は煙道部まで30cmで、燃焼部幅は50cmである。袖部は左袖部がわずかに残存している。火床部は地山を5cmほど掘りくぼめ、ローム粒子や焼土粒子を含む第4層を埋土して整地した上に構築されている。煙道部は壁外に30cmほど掘り込まれ緩やかに立ち上がっている。



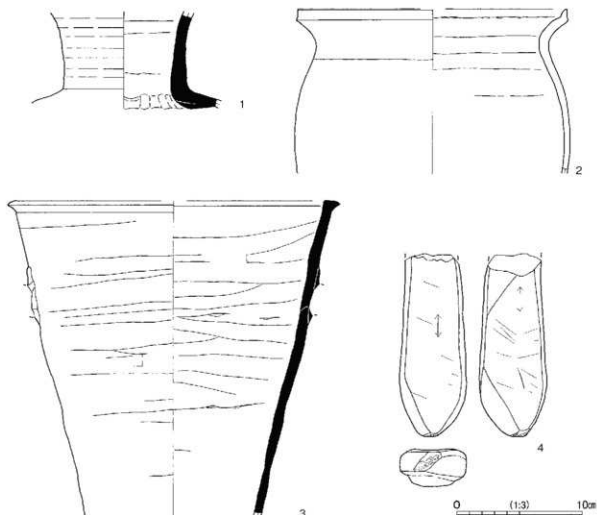
第81図 第229号竈穴建物跡実測図

ピット P1は、竈2に対面した南東壁際に位置しており、出入口施設に伴うピットと考えられる。

覆土 5層に分層できる。ロームブロックが含まれていることや不規則な堆積状況から、埋め戻されている。第5層はロームブロックを含む壁溝の覆土である。

遺物出土状況 土師器片113点(杯22, 鉢2, 甕類88, 瓶1), 須恵器片2点(甕, 瓶), 陶器片1点(甕類), 石器1点(砥石), 礫1点が出土している。1は南コーナー部寄り, 2は竈2寄りの床面から, 3は竈2寄りの床面と竈1寄りの覆土下層から出土した破片が接合したもので, 4はP1付近の床面から出土している。

所見 時期は, 出土土器から9世紀後葉と考えられる。



第82図 第229号竈穴建物跡出土遺物実測図

第34表 第229号竈穴建物跡出土遺物一覧

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	はか	出土位置	備考
1	須恵器	甕	-	(7.8)	-	長石・石英・黒色粒子	黄灰	普通	頸部外・内面ロクロナテ	内面貼付けによる指頭痕	床面	5% PL35 木蓋下層
2	土師器	甕	(21.2)	(13.1)	-	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横ナテ		床面	10%
3	須恵器	瓶	(24.8)	(25.1)	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	体部外・内面ナテ	把手部欠損	床面 覆土下層	10%
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴			出土位置	備考	
4	砥石	(14.5)	5.3	3.0	(314.4)	硬砂岩	紙面2面	浅いくぼみに研き痕	礫石を転用	床面	PL43	

第 230 号竪穴建物跡 (第 83 図)

位置 D 区北部の K 4j1 区、標高 44 m ほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第 1311 号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 南東部が調査区域外のため、東西軸 2.00 m、南北軸 1.82 m しか確認できなかった。主軸方向は $N-31^{\circ}-W$ で、方形または長方形と推定できる。壁は高さ 32 cm ほどで、ほぼ直立している。

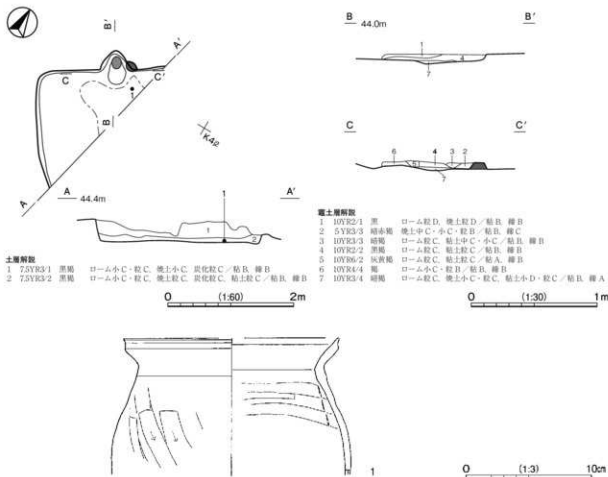
床 平坦で、竈の前面が踏み固められている。

竈 北壁に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで 55 cm で、燃焼部幅は 35 cm である。袖部は遺存状態が悪く、右袖部の一部しか残存していない。火床部は楕円形に浅くくぼんでいる。火床面は赤変硬化している。煙道部は壁外に 35 cm ほど掘り込まれ、火床面から緩やかに立ち上がり、奥壁付近で外傾している。

覆土 2 層に分層できる。ロームブロックが含まれていることや不規則な堆積状況から、埋め戻されている。

遺物出土状況 土師器片 9 点 (坏 1、甕類 8) が出土している。1 は竈寄りの床面から出土している。

所見 時期は、須恵器が出土していないことや出土土器から 10 世紀代と考えられる。



第 83 図 第 230 号竪穴建物跡・出土遺物実測図

第 35 表 第 230 号竪穴建物跡出土遺物一覧

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴はか	出土位置	備考
1	土師器	甕	[170]	(109)	-	長石・石英・赤色粘土	にぶい赤褐色	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面へう割り 内面ナデ	床面	10%

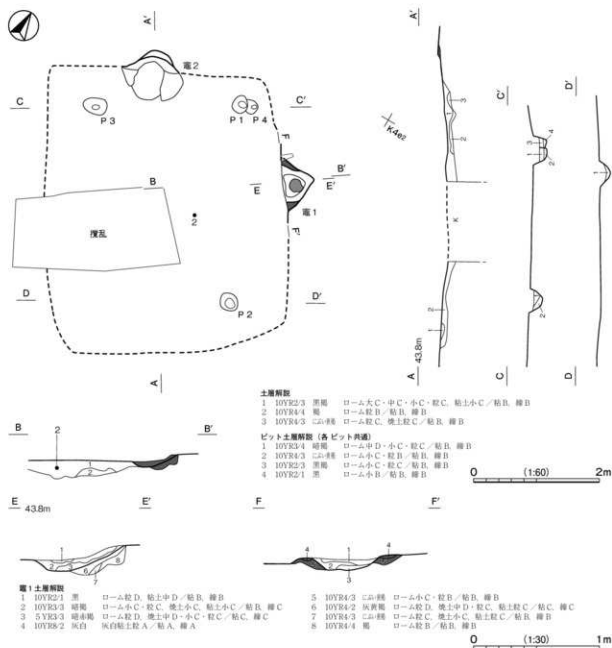
第 231 号竪穴建物跡 (第 84・85 図)

位置 D 区北部の K4e1 区、標高 44 m ほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 上部は削平され覆土がなく、西部に攪乱を受けているため、長軸 4.54 m、短軸 3.78 m しか確認できなかった。主軸方向は N-52'-E で、長方形と推定できる。

床 北に向けてやや下り傾斜の貼床で、ロームブロックやローム粒子を含む第 1～3 層を埋土して構築されている。

竈 2 か所。東壁に竈 1、北壁に竈 2 を確認した。竈 2 の使用後に、竈 1 を構築したと考えられる。竈 1 は北東壁中央部に付設されている。削平されているため遺存状態が悪く、確認できた規模は焚口部から煙道部まで 50 cm で、燃焼部幅は 55 cm である。袖部は両袖部の一部のみが残存している。地山を 10～15 cm ほど掘りくぼめ、ローム粒子や焼土粒子を含む第 6～8 層を埋土して整地した後、ローム粒子や灰白粘土粒子を含む第 4・5 層



第 84 図 第 231 号竪穴建物跡実測図

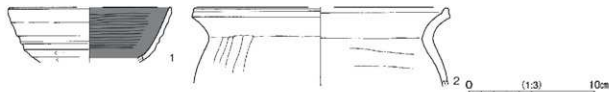
を積み上げて構築されている。火床部は皿状にくぼんでいる。火床面は第6層上面で、赤変硬化している。煙道部は壁外に50cmほど掘り込まれ、火床面から緩やかに立ち上がっている。竈2は北西壁中央部に付設されているが、遺存状態が悪く、袖部範囲の痕跡がわずかに確認できるのみである。

ピット 4か所。P1～P3は深さ16～20cmで、配置から主柱穴である。P4は深さ20cmで、P1の補助柱穴と考えられる。第1～4層は柱材を抜き取った後の覆土である。

覆土 上面が削平されていることから、覆土は確認できなかった。

遺物出土状況 土師器片42点(杯15、高台付杯1、碗3、甕類22、瓶1)、礫1点が出土している。2は中央部の掘方の埋土から、1は竈内の覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器から10世紀代と考えられる。



第85図 第231号竪穴建物跡出土遺物実測図

第36表 第231号竪穴建物跡出土遺物一覧

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師器	杯	[128]	(43)	-	長石・石英	にぶい赤褐色	普通	口縁部・体部内面ロクロナデ 内面へく磨き 体部下端回転へく削り	竈内	10% 外面磨行着
2	土師器	甕	[200]	(6.3)	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外・内面ナデ	掘方埋土	10%

第232号竪穴建物跡(第86・87図 PL10)

位置 D区北部のL4a1区、標高44mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第24号ピット群を掘り込んでいる。

規模と形状 南東部が調査区域外であるが、長軸3.48m、短軸2.73mの長方形で、主軸方向はN-33'-Wである。壁は高さ30cmほどで、ほぼ直立している。

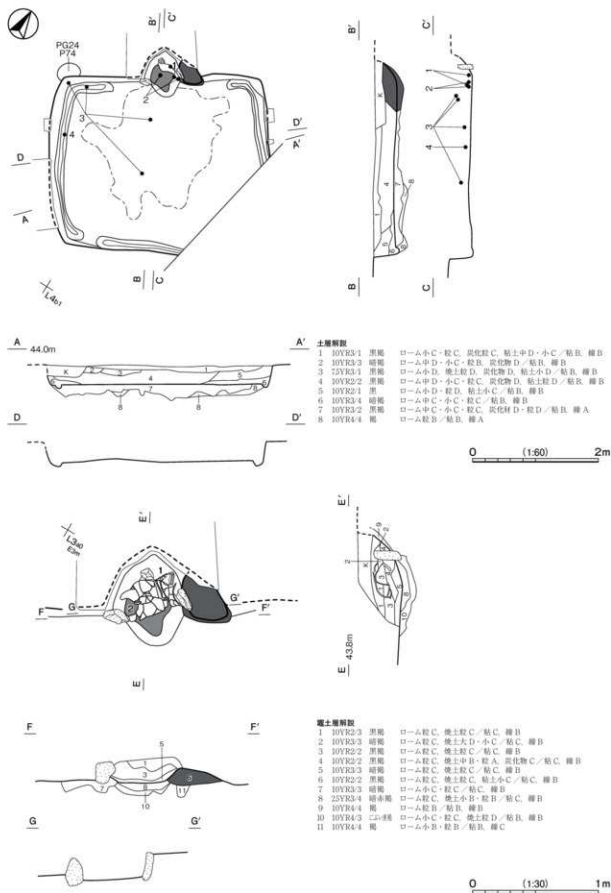
床 平坦で、中央部が踏み固められている。貼床はロームブロックを含む第7・8層を5～20cmほど埋土して構築されている。壁溝が一部を除いて巡っている。

竈 北壁のやや東寄りに付設されている。攪乱を受けているため、確認できた規模は焚口部から煙道部まで80cmで、燃焼部幅50cmである。袖部は遺存状態が悪く、右袖しか残存していない。地山を10cmほど掘りくぼめ、ロームブロックや焼土粒子を含む第7～11層を埋土して整地した後、粘土ブロックやローム粒子・焼土粒子を含む第6層を積み上げて構築されている。また、補強材として凝灰質泥岩の切り石を袖内面に設置している。火床部は床面と同じ高さを使用している。火床面は第8層上面で、赤変硬化している。煙道部は壁外に45cmほど掘り込まれ、火床面から緩やかに立ち上がっている。

覆土 6層に分層できる。ロームブロックや炭化物が含まれていることから、埋め戻されている。

遺物出土状況 土師器片403点(杯65、皿1、鉢3、甕類333、瓶1)、須恵器片2点(杯、甕類)、灰釉陶器片1点(甕類)、陶器片3点(甕類)が出土している。1・2は竈内の覆土下層から出土した破片がそれぞれ接合したものである。4は西壁際の覆土下層から出土している。3は中央部と北西コーナー部の覆土中層から出土した破片が接合したものである。

所見 時期は、出土土器や周囲の竪穴建物跡との関係から9世紀後葉～10世紀前葉と考えられる。



第 86 图 第 232 号竈穴建物跡実測图



第 87 図 第 232 号聚穴建物跡出土遺物実測図

第 37 表 第 232 号聚穴建物跡出土遺物一覧

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考	
1	土師器	甕	192	289	85	長石・石英・ 灰身	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 肩ナデ 底平ナデ	体部外面へう張り 内	覆土下層	90% PL35
2	土師器	甕	216	(304)	-	長石・石英・ 赤色粒子	橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 肩へうナデ へう当て痕	体部外面へう張り 内	覆土下層	70% PL36
3	土師器	甕	180	(164)	-	長石・石英・ 燧石	赤褐	普通	口縁部外・内面横ナデ 肩ナデ	体部外面へう張り 内	覆土中層	30%
4	土師器	瓶	-	(129)	-	長石・石英	赤褐	普通	体部外面ナデ 把手部ナデ		覆土下層	5%

第 233 号竪穴建物跡 (第 88 図 PL10)

位置 D 区北部の K37 区, 標高 44 m ほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 西部が調査区域外のため, 南北軸 364 m, 東西軸 154 m しか確認できなかった。主軸方向は N - 80° - E で, 方形または長方形と推定できる。壁は高さ 10 ~ 20 cm で, 外傾している。

床 平坦で, 踏み固められた痕跡は認められなかった。

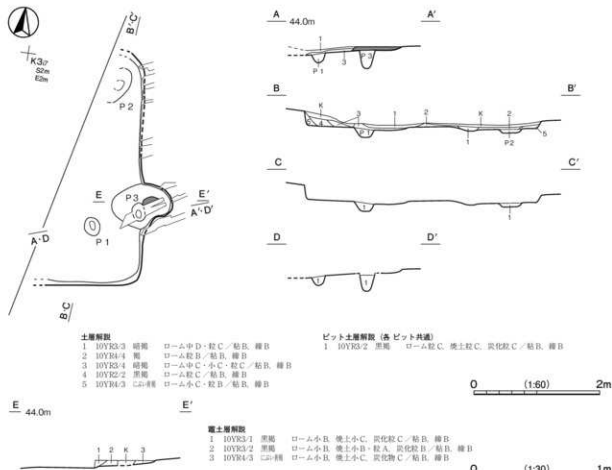
竈 東壁の南寄りに付設されている。遺存状態が悪く, 確認できた規模は焚口部から煙道部まで 100 cm で, 燃焼部幅は 65 cm である。軸部は壊されて確認できない。火床部は床面と同じ高さを使用しており, 火床面は赤変硬化している。煙道部は壁外に 45 cm ほど掘り込まれ, 火床面から緩やかに立ち上がっている。

ピット 3 か所。P1・P2 は深さ 15 cm・8 cm で, 配置から支柱穴である。P3 は深さ 25 cm で, 竈内で確認したが, 性格は不明である。

覆土 5 層に分層できる。不規則な堆積状況から, 埋め戻されている。

遺物出土状況 土師器片 5 点 (坏 3, 小型甕 1, 甕類 1) が出土しているが, いずれも細片のため図示できない。

所見 時期は, 出土遺物や周辺の竪穴建物跡との関係から 9 世紀後葉と考えられる。



第 88 図 第 233 号竪穴建物跡実測図

第 234 号竪穴建物跡 (第 89・90 図 PL11)

位置 D 区北部の L3c9 区, 標高 44 m ほどの平坦な台地上に位置している。

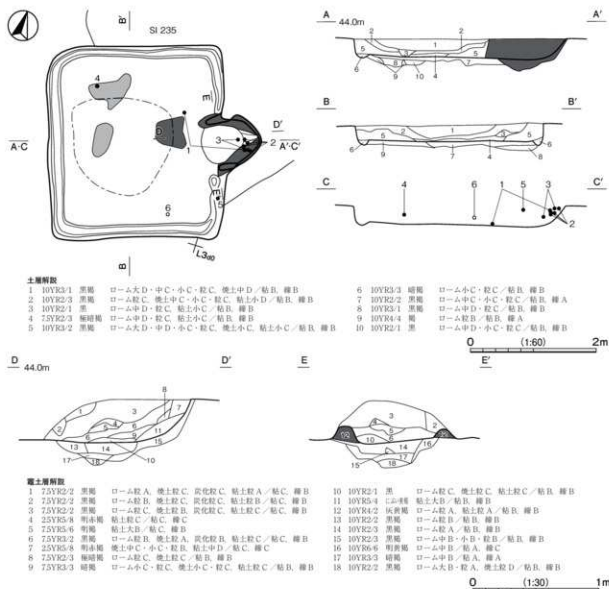
重複関係 第235号竪穴建物跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸3.04 m、短軸2.84 mの方形で、主軸方向はN-72°-Eである。壁は高さ21~28 cmで、ほぼ直立している。

床 平坦で、中央部が踏み固められている。貼床はロームブロックを含む第7~10層を10~15 cmほど埋土して構築されている。壁溝が全周している。

竈 東壁の中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで95 cmで、燃烧部幅55 cmである。袖部は地山を5~20 cmほど掘りくぼめ、ロームブロックや焼土粒子を含む第13~18層を埋土して整地した後、ローム粒子や粘土粒子を含む第12層を積み上げて構築されている。火床部は不定形で床面と同じ高さを使用している。火床面は赤変硬化していない。煙道部は壁外に60 cmほど掘り込まれ、火床面から外傾している。

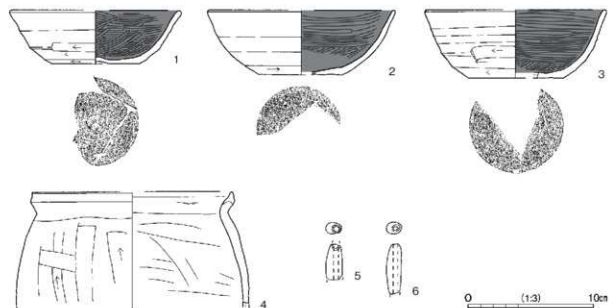
覆土 6層に分層できる。不規則な堆積状況から、埋め戻されている。竈の前面に粘土が堆積し、北西部に焼土の範囲を確認した。第6層はロームブロックを含む壁溝の覆土である。



第89図 第234号竪穴建物跡実測図

遺物出土状況 土師器片142点(坏29, 高台付坏2, 椀1, 小型甕2, 甕類108), 須恵器片18点(坏3, 蓋2, 甕類13), 土製品2点(管状土鍾), 礫1点が出土している。1は竈寄り中央部の床面と竈内の覆土中層から出土した破片が接合したものである。2・3は竈内。4は北部。6は南壁寄りの覆土中層から。5は東壁際の覆土上層からそれぞれ出土している。

所見 時期は, 重複関係や出土土器から9世紀後葉と考えられる。



第90図 第234号竪穴建物跡出土遺物実測図

第38表 第234号竪穴建物跡出土遺物一覧

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	地成	手法の特徴	ほか	出土位置	備考
1	土師器	坏	[134]	4.3	7.0	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄褐色	口縁部・体部外面口ナデナデ 体部下端・底部回転ヘラ削り	内面ヘラ磨き	竈内 床面	50%
2	土師器	坏	[146]	5.1	6.7	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄褐色	口縁部・体部外面口ナデナデ 体部下端・底部回転ヘラ削り	内面ヘラ磨き	竈内	40% PL36
3	土師器	坏	[142]	5.4	7.5	長石・石英	にぶい黄褐色	口縁部・体部外面口ナデナデ 体部下端・底部回転ヘラ削り	内面ヘラ磨き	竈内	40%
4	土師器	小型甕	[158]	(9.3)	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄褐色	口縁部外・内面横ナデ 内面ナデ	体部外周ヘラ削り 輪積み煎	覆土中層	10%
番号	器種	長さ	径	口径	重量	胎土	色調	特徴		出土位置	備考
5	管状土鍾	(28)	09-12	0.4	(3.07)	長石・石英	にぶい橙	外面ナデ	穿孔 両方欠損	覆土上層	
6	管状土鍾	(4.0)	09-11	0.3	(4.89)	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	外面ナデ	穿孔 片方欠損	覆土中層	PL41

第235号竪穴建物跡(第91・92図 PL11)

位置 D区北部のL3c0区, 標高44mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第234号竪穴建物に掘り込まれている。

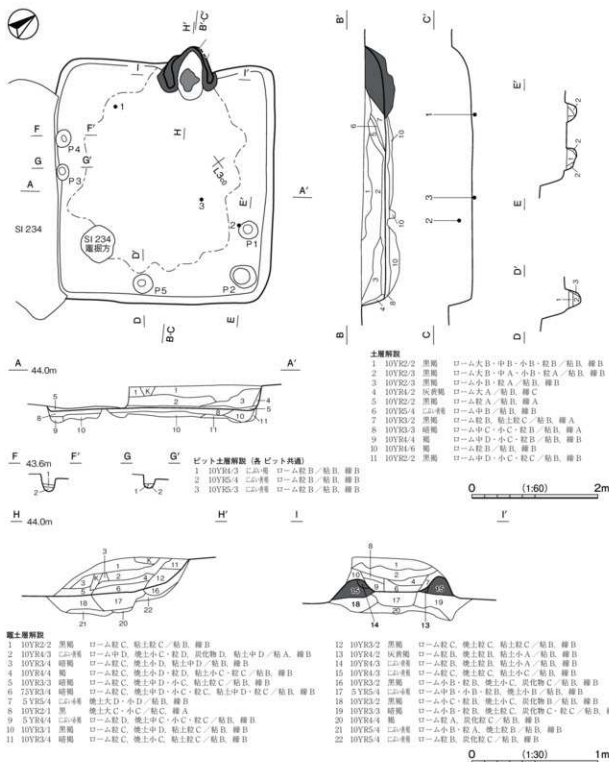
規模と形状 竪穴建物に掘り込まれているが, 長軸3.82m, 短軸3.46mの長方形で, 主軸方向はN-53°-Wである。壁は高さ38cmほどで, 直立している。

床 平坦で, 中央部が全体に踏み固められている。貼床はロームブロックを含む第8-11層を10-20cmほど埋土して構築されている。

竈 北西壁やや北寄りに付設されている。規模は焚口部から煙道部まで85cmで, 燃焼部幅は40cmである。袖

部は地山を20cmほど掘りくぼめ、ロームブロックや焼土粒子を含む第16～22層を埋土して整地した後、粘土ブロックやローム粒子を含む第13～15層を積み上げて構築されている。火床部は床面とほぼ同じ高さを使用している。火床面は第17層上面で、赤変硬化している。煙道部は壁外に35cmほど掘り込まれ、火床面から緩やかに立ち上がっている。

ピット 5か所。P1～P4は深さ14～20cmで、壁際にある不規則な主柱穴である。P5は竈に対面した南



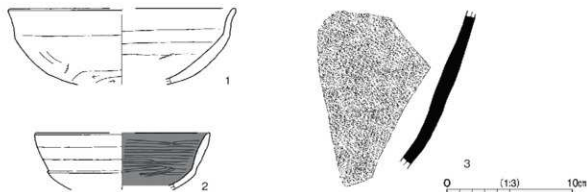
第91図 第235号竈穴建物跡実測図

東壁際に位置していることから、出入口施設に伴うピットと考えられる。第1・2層は柱材を抜き取った後の覆土である。

覆土 7層に分層できる。ロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。

遺物出土状況 土師器片46点(坏2, 碗3, 甕類41), 須恵器片1点(甕)が出土している。1は北西部, 3は中央部の床面から, 2はP1付近の覆土中層からそれぞれ出土している。

所見 時期は, 重複関係や出土遺物から8世紀前葉と考えられる。



第92図 第235号竪穴建物跡出土遺物実測図

第39表 第235号竪穴建物跡出土遺物一覧

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考	
1	土師器	坏	[178]	(6.1)	-	長石・石英	橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 指手持りへつくり	体部内面ナデ 体部下	床面	10%
2	土師器	坏	[138]	(4.5)	-	長石・石英・ 赤色粒子	にじい橙	普通	口縁部外・内面横ナデ	体部内面へつ磨き	覆土中層	10%
3	須恵器	甕	-	(126)	-	長石・石英	褐灰	普通	体部外面斜位の平行叩き	内面ナデ	床面	5%

第236号竪穴建物跡(第93・94図 PL11)

位置 D区中央部のL3B9区, 標高44mほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 南西部の一部が攪乱を受け, 東部が調査区域外であるが, 長軸4.40m, 短軸3.90mの長方形で, 主軸方向はN-43°-Wである。壁は高さ29~37cmで, 直立している。

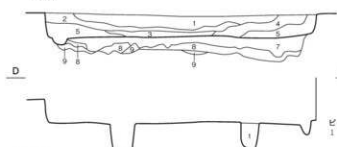
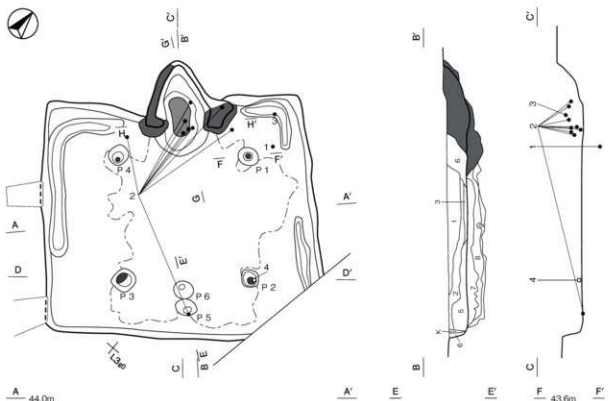
床 平坦で, 中央部が全体に踏み固められている。貼床はロームブロックを含む第7~9層を20~40cmほど埋土して構築されている。壁溝が南部と東部の一部を除いて巡っている。

竈 北西壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで150cmで, 燃焼部幅55cmである。袖部は地山を15~27cm掘りくぼめ, ロームブロックや焼土ブロックを含む第23~26層を埋土して整地した後, ロームブロックや粘土ブロックを含む第15~22層を積み上げて構築されている。火床部は楕円形に浅くくぼんでいる。火床面は第23・24層上面で, 赤変硬化している。煙道部は壁外に80cmほど掘り込まれ, 火床面から緩やかに立ち上がっている。

ピット 6か所。P1~P4は深さ40~54cmで, 主柱穴と考えられる。P5・P6は竈に対面した南東壁際に位置しており, 出入口施設に伴うピットと考えられる。第1層は柱材を抜き取った後の覆土である。P1~P4の底面で柱のあたりを確認した。

覆土 6層に分層できる。レンズ状に堆積していることから, 自然堆積である。

遺物出土状況 土師器片106点(坏2, 甕類97, 瓶7), 須恵器片6点(坏1, 蓋1, 甕類4), 石製品1点(支



土層解説

- | | | | |
|---|---------|-----|--------------------------------|
| 1 | 10YR2/3 | 黒褐色 | ローム大D・中C・小C・粒C / 粘土 層B |
| 2 | 10YR2/1 | 黒 | ローム大D・小D・粒C / 粘土 層B |
| 3 | 10YR2/2 | 黒褐色 | ローム大D・粘土粒C / 粘土 層B |
| 4 | 10YR4/3 | 二色層 | ローム中C・小C・粒C・炭化物D / 粘土 層B |
| 5 | 10YR4/4 | 暗褐色 | ローム大C・中C・小B・粒B・粘土中D・粒A / 粘土 層B |

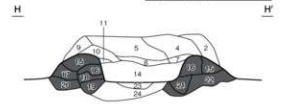


土層解説

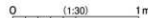
- | | | | |
|----|---------|------|----------------------------------|
| 1 | 10YR2/1 | 黒 | ローム大D・粒C・焼土中D・粒D・粘土中D・粒C / 粘土 層B |
| 2 | 10YR2/2 | 黒褐色 | ローム中D・粒C・焼土中D・粘土粒C / 粘土 層B |
| 3 | 10YR2/3 | 暗褐色 | ローム中D・焼土中C・小D・粘土中C・粒C / 粘土 層B |
| 4 | 10YR2/3 | 暗褐色 | ローム粒C・焼土小C・炭化物D・粘土小C・粒B / 粘土 層B |
| 5 | 10YR4/3 | 暗褐色 | 焼土小C・炭化物C / 粘土 層B |
| 6 | 10YR4/2 | 灰青褐色 | ローム粒D・粘土中D・粒C / 粘土 層B |
| 7 | 5YR2/3 | 暗赤褐色 | ローム粒C・焼土小C・粒B・粘土粒C / 粘土 層B |
| 8 | 10YR2/6 | 明黄褐色 | 焼土小D・粘土粒B / 粘土 層B |
| 9 | 10YR2/1 | 黒 | ローム粒C・焼土小C・粒C・粘土中D・粒C / 粘土 層B |
| 10 | 10YR4/2 | 灰青褐色 | ローム粒C・焼土中D・粒C・炭化物C・粘土小D / 粘土 層B |
| 11 | 10YR2/4 | 二色層 | 焼土粒C・炭化物C・粘土粒D / 粘土 層B |
| 12 | 10YR4/4 | 暗 | ローム小C・粘土粒B / 粘土 層B |
| 13 | 10YR5/6 | 黄褐色 | 焼土粒C・炭化物C・粘土粒D / 粘土 層B |

ビット土層解説 (P2)

- | | | | |
|---|---------|-----|----------------------------|
| 1 | 10YR2/3 | 暗褐色 | ローム中D・小C・粒C / 粘土 層B |
| 6 | 10YR2/2 | 黒褐色 | ローム粒C・焼土小D・粒D・粘土中D / 粘土 層B |
| 7 | 10YR2/3 | 暗褐色 | ローム大A / 粘土 層A |
| 8 | 10YR4/4 | 暗 | ローム大A / 粘土 層B |
| 9 | 10YR5/6 | 黄褐色 | ローム大A / 粘土 層A |



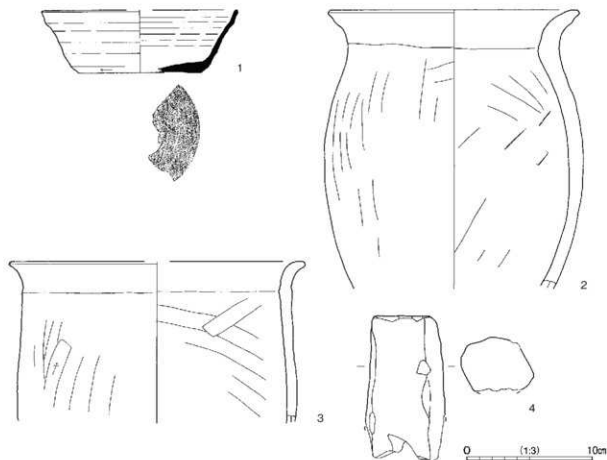
- | | | | |
|----|---------|------|-------------------------------|
| 14 | 10YR3/4 | 暗褐色 | ローム小C・焼土小B・粒C / 粘土 層B |
| 15 | 10YR2/2 | 黒褐色 | ローム小C・粒C・焼土中D・小D・粘土小C / 粘土 層B |
| 16 | 10YR6/3 | 二色層 | ローム粒C・焼土中D・粒C・粘土大D・粒B / 粘土 層B |
| 17 | 10YR6/4 | 暗赤褐色 | 焼土粒C・粘土粒B / 粘土 層B |
| 18 | 10YR2/3 | 暗褐色 | ローム粒C・焼土粒D・粘土中D・粒C / 粘土 層B |
| 19 | 10YR6/3 | 二色層 | ローム粒C・焼土小C・粒C / 粘土 層B |
| 20 | 10YR2/3 | 暗褐色 | ローム小C・粒B / 粘土 層B |
| 21 | 10YR4/4 | 暗 | ローム粒C・焼土中D・粘土大C / 粘土 層B |
| 22 | 10YR2/2 | 黒褐色 | ローム小C・粒C・焼土小C・粒C / 粘土 層B |
| 23 | 5YR2/3 | 暗赤褐色 | 焼土中C・小C・粒C・粘土小D / 粘土 層B |
| 24 | 10YR2/2 | 黒褐色 | ローム中D・粒C・焼土小B・粒C・炭化物C / 粘土 層B |
| 25 | 10YR4/4 | 暗 | ローム小C・粒B / 粘土 層B |
| 26 | 10YR3/3 | 暗褐色 | ローム小C・粒C・粘土小C / 粘土 層B |



第93図 第236号竪穴建物跡実測図

脚)が出土している。2は南部の床面と竈内や両袖部付近の覆土下層から中層にかけて出土した破片が接合したものである。4は覆土下層から、3は北コーナー部の覆土中層から、1は北コーナー部の掘方の埋土からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から8世紀後葉と考えられる。



第94図 第236号竪穴建物跡出土遺物実測図

第40表 第236号竪穴建物跡出土遺物一覧

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	皿足器	坏	[154]	50	[96]	長石・石英	灰	普通	口縁部・体部外・内面クロナテ 体部下端・底面洞縁ヘラ削り	掘方埋土	20%
2	土師器	甕	194	(222)	-	長石・石英・赤色粒子・細塵	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横ナテ 体部外・内面ナテ 内面ヘラ削り	床面	50%
3	土師器	瓶	[228]	(129)	-	長石・石英・細塵	橙	普通	口縁部外・内面横ナテ 体部外面ヘラ削り 内面ナテ	覆土中層	10%

番号	器種	高さ	最大径	最小径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
4	支脚	(116)	(62)	5.2	(38.32)	凝灰質泥岩	切り石 被熱痕 ナテによる整形	覆土下層	

第237号竪穴建物跡 (第95・96図 PL11)

位置 D区北部のL3a7区、標高44mほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 長軸3.34m、短軸3.28mの方形で、主軸方向はN-34°-Wである。壁は高さ16~22cmで、直立している。

床 平坦で、中央部が全体に踏み固められている。貼床はロームブロックを含む第5~9層を4~25cmほど

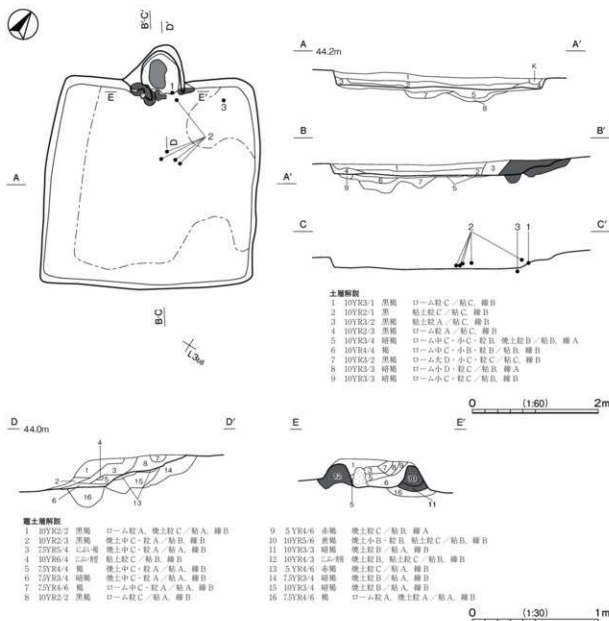
埋土して構築されている。

竈 北壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで80cmで、燃焼部幅45cmである。袖部は地山を10cmほど掘りくぼめ、ローム粒子や焼土粒子を含む第13～16層を埋土して整地した後、粘土粒子を含む第10～12層を積み上げて構築されている。左袖部は補強材として凝灰質泥岩の切り石を使用している。火床部は床面よりやや高い位置を使用している。火床面は第13層上面で、赤変硬化している。煙道部は壁外に60cmほど掘り込まれ、火床面から緩やかに立ち上がっている。

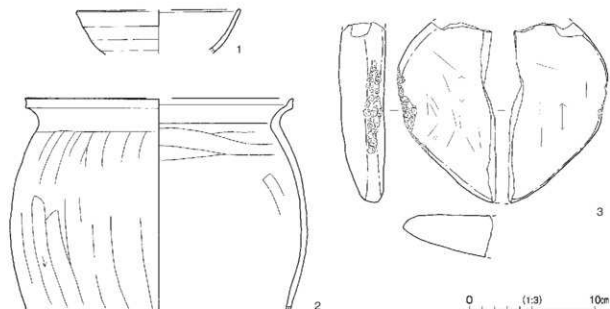
覆土 4層に分層できる。レンズ状に堆積していることから、自然堆積である。

遺物出土状況 土師器片223点(坏39, 甕類184), 須恵器片4点(坏1, 甕類3), 石器2点(砥石), 凝灰質泥岩1点が出土している。1は竈内の底面から出土している。2は中央部と竈前の覆土下層から出土した破片が接合したものである。3は北東コーナー部の掘方の埋土から出土している。

所見 時期は、出土土器から9世紀代と考えられる。



第95図 第237号竈穴建物跡実測図



第96図 第237号竪穴建物跡出土遺物実測図

第41表 第237号竪穴建物跡出土遺物一覧

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師器	杯	[128]	(35)	-	長石・石英・ 黒色粒子	にぶい	普通	口縁部・外面ロケロナテ	壺内	5%
2	土師器	甕	[211]	(169)	-	長石・石英・ 赤色粒子・細塵	にぶい	普通	口縁部外・内面横ナテ 体部外面ヘラ削り 内面ナテ	覆土下層	10%
番号	部種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴			出土位置	備考
3	砥石	(14.3)	(7.8)	3.8	(87.94)	硬砂岩	砥面2面	浅いくぼみに磨き痕	磁石を転用	掘方埋土	

第238号竪穴建物跡 (第97～99図 PL12)

位置 D区中央部のL3h8区、標高44mほどの平坦な台地上に位置している。

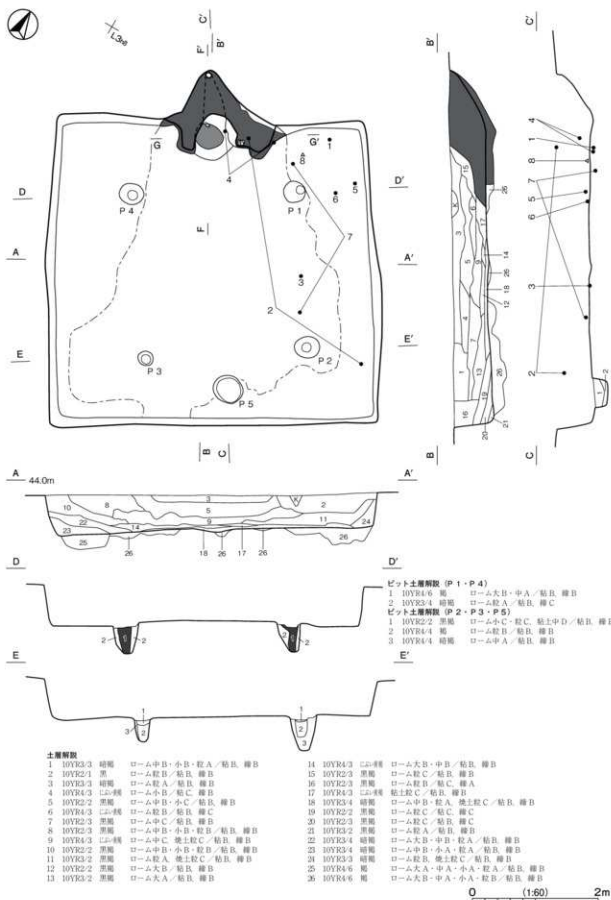
規模と形状 長軸5.28m、短軸4.97mの方形で、主軸方向はN-32°-Wである。壁は高さ65cmほどで、ほぼ直立している。

床 平坦で、中央部が全体に踏み固められている。貼床はロームブロックを含む第25・26層を10～25cmほど埋土して構築されている。

竈 北壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで140cmで、燃焼部幅は60cmである。袖部は地山を5～19cmほど掘りくぼめ、ロームブロックや焼土粒子を含む第12～18層を埋土して整地した後、砂質粘土ブロックやローム粒子を含む第10層を積み上げて構築されている。右袖部は補強材として凝灰質泥岩の切り石を袖内面に設置している。火床部は楕円形で床面とほぼ同じ高さを使用している。火床面は第12・13層上面で、赤変硬化している。煙道部は壁外に85cmほど掘り込まれ、火床面から緩やかに立ち上がっている。第11層は遺存している天井部の一部である。凝灰質泥岩の支脚が、中央部に埋め込まれている。

ピット 5か所。P1～P4は深さ35～55cmで、配置から主柱穴である。P5は深さ25cmで、竈に対面した南壁際に位置しており、出入口施設に伴うピットと考えられる。P1・P4の第1層は柱痕跡、第2は埋土である。P2・P3・P5の第1～3層は、柱材を抜き取った後の覆土である。

覆土 24層に分層できる。ロームブロックが含まれていることや不規則な堆積状況から、埋め戻されている。



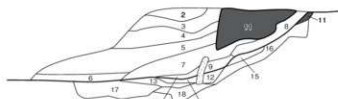
第 97 図 第 238 号竪穴建物跡実測図

遺物出土状況 土師器片 493 点 (坏 5, 小型甕 2, 甕類 486), 須恵器片 43 点 (坏 21, 蓋 3, 甕類 19), 土製品 1 点 (支脚), 石器 2 点 (砥石), 金属製品 3 点 (刀子, 釘, 丸鋸), 凝灰岩 3 点が出土している。3 は東部, 6 は北東部の床面から, 5 は北東部, 8 は北東コーナー部の覆土下層から出土している。7 は東部の覆土下層と北東部の掘方の埋土から, 2 は竈石袖部と南東部の覆土上層, 4 は竈内と竈石袖掘方の埋土から出土した破片が接合したものである。1 は北東コーナー部の掘方の埋土から出土している。

所見 時期は, 出土土器から 8 世紀後葉と考えられる。

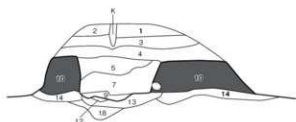
F 44.0m

F'



G

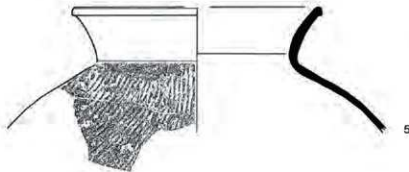
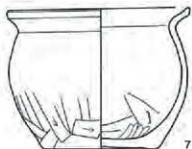
G'



出土品解説

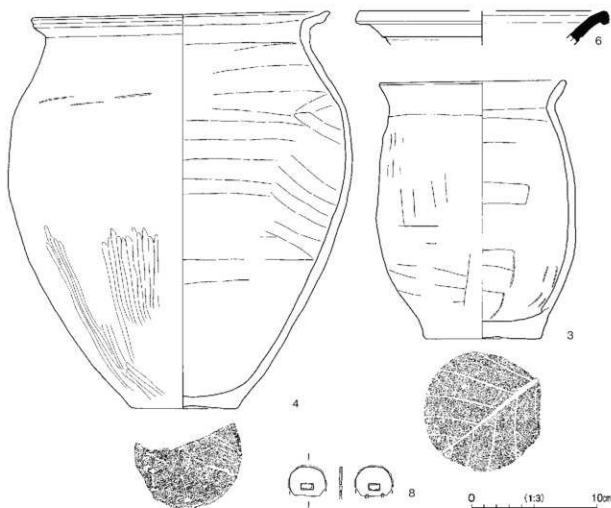
- | | | | |
|----|---------|-----|------------------------|
| 1 | 10YK3-3 | 須恵 | ロ-ム段B / 粘B, 輝B |
| 2 | 10YK3-3 | 須恵 | ロ-ム段B, 焼土小D / 粘B, 輝B |
| 3 | 10YK3-2 | 須恵 | ロ-ム中D / 粘A, 輝B |
| 4 | 10YK4-2 | 須恵 | ロ-ム段A, 焼土小C / 粘B, 輝B |
| 5 | 10YK4-4 | 二砂利 | ロ-ム中C / 粘B, 輝B |
| 6 | 10YK2-3 | 須恵 | ロ-ム段B / 粘A, 輝B |
| 7 | 10YK4-4 | 須 | ロ-ム大A / 粘B, 輝B |
| 8 | 5YK3-6 | 須赤城 | ロ-ム大C・段A / 粘B, 輝B |
| 9 | 10YK3-2 | 須恵 | ロ-ム段B / 粘A, 輝B |
| 10 | 10YK6-8 | 明黄焼 | ロ-ム段D, 砂質粘土小C / 粘A, 輝B |
| 11 | 10YK6-4 | 二砂利 | 焼土小D, 砂質粘土小C / 粘A, 輝B |
| 12 | 10YK4-3 | 二砂利 | ロ-ム小A, 焼土段A / 粘B, 輝B |
| 13 | 10YK6-8 | 明黄焼 | 焼土小D / 粘A, 輝B |
| 14 | 10YK6-4 | 二砂利 | 粘土小B / 粘B, 輝B |
| 15 | 72YK4-4 | 須 | 焼土中C, 粘B / 粘A, 輝B |
| 16 | 10YK4-4 | 須 | ロ-ム段B / 粘A, 輝B |
| 17 | 10YK5-6 | 黄須 | ロ-ム中A・小A・段A / 粘A, 輝A |
| 18 | 10YK5-6 | 黄須 | ロ-ム中A・小A・段A / 粘A, 輝C |

0 (1:30) 1m



0 (1:3) 10cm

第 98 図 第 238 号竈穴建物跡・出土遺物実測図



第99図 第238号竪穴建物跡出土遺物実測図

第42表 第238号竪穴建物跡出土遺物一覧

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	須恵器	坏	130	47	8.0	長石・石英・ 磁種	灰白	普通	口縁部・体部外・内面ロクロナデ 体部下端・ 底部約軽へう削り	西方埴土	95% PL36 木葉下層
2	須恵器	坏	[132]	42	8.0	長石・石英・ 砂状物質	暗黄緑	普通	口縁部 体部外・内面ロクロナデ 体部下端・ 底部約軽へう削り	西方埴土 覆土上層	30% 木葉下層
3	土師器	甕	146	306	90	長石・石英・ 赤色粒子	にぶい赤黒	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外・内面ナデ へ う当て裏 底部木葉痕	床面	90% PL36
4	土師器	甕	233	315	8.3	長石・石英・ 赤色粒子	橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面下手縦位のへ う磨き へう当て裏 内面ナデ 底部へうナデ	甕内 西方埴土	60% PL36 外面保行着
5	須恵器	甕	[192]	[100]	-	長石・石英	暗灰黄	普通	口縁部外・内面ロクロナデ 体部外部斜位の平 行叩き	覆土下層	5%
6	須恵器	甕	[194]	[27]	-	長石・石英	灰	普通	口縁部外・内面ロクロナデ 口縁部横位の極細	床面	5%
7	土師器	小型甕	143	112	90	長石・石英・ 磁種	赤黒	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面へう削り 内 面ナデ 底部木葉痕	甕土下層 西方埴土	50% PL37 外面保行着

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
8	丸駒	(24)	29	0.2	(3.22)	鉄	脚鉤式 脚鉤2か所残存	覆土下層	PL44

第239号竪穴建物跡 (第100・101図 PL12)

位置 D区中央部のL39区、標高44mほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 東部が調査区域外のため、北西・南東軸は3.58mで、北東・南西軸は3.40mしか確認できなかった。主軸方向はN-31°-Wで、方形または長方形と推定できる。壁は高さ32cmほどで、ほぼ直立している。

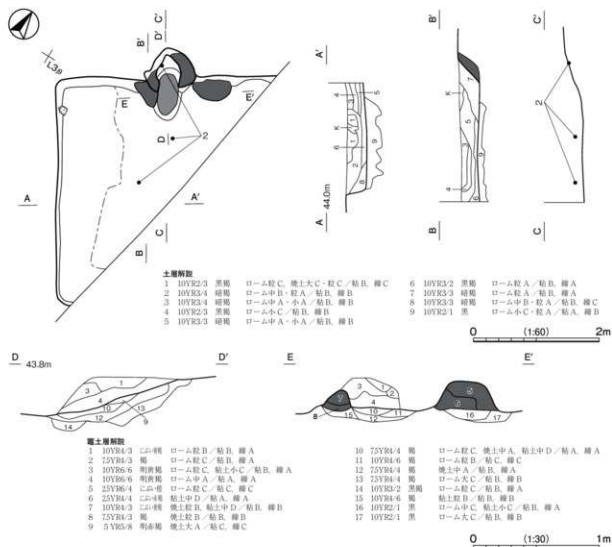
床 平坦で、中央部が全体に踏み固められている。貼床はロームブロックを含む第9層を10～25cmほど埋土して構築されている。

竈 北壁に付設されている。規模は焚き口から煙道部まで115cmで、燃烧部幅は35cmである。軸部は地山を20cmほど掘りくぼめ、第9～17層を埋土して整地した後、粘土ブロックやローム粒子を含む第5～8層を積み上げて構築されている。火床部は楕円形で床面と同じ高さを使用している。火床面は第9・10層上面で、赤変硬化している。煙道部は壁外に45cmほど掘り込まれ、火床面から緩やかに立ち上がっている。

覆土 8層に分層できる。ロームブロックが含まれていることや不規則な堆積状況から、埋め戻されている。

遺物出土状況 土師器片62点(坏2, 小型甕5, 甕類55), 須恵器片3点(坏2, 蓋1)が出土している。2は竈内と中央部の覆土下層から出土した破片が接合したものである。1は覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器から8世紀後葉と考えられる。



第100図 第239号竈穴建物跡実測図

第43表 第239号竈穴建物跡出土遺物一覧

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	須恵器	蓋	[137]	(1.6)	-	長石・石英	黄灰	普通	口縁部・外周部ロクロナデ	覆土中	5%
2	土師器	小型甕	[160]	(12.4)	-	長石・石英・雲母	にぶい黄	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外・内面ナデ	竈内 覆土下層	20%



第101図 第239号竪穴建物跡出土遺物実測図

第240号竪穴建物跡 (第102・103図 PL12)

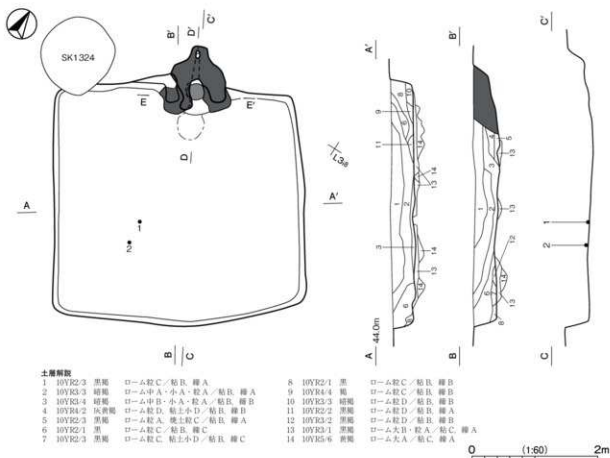
位置 D区中央部のL317区、標高44mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第1324号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸3.96m、短軸3.80mの方形で、主軸方向はN-32°-Wである。壁は高さ36cmで、ほぼ直立している。

床 ほぼ平坦で、庭前の一部が踏み固められている。貼床はロームブロックやローム粒子を含む第13・14層を5~20cmほど埋土して構築されている。

竈 北壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで110cmで、燃烧部幅は25cmである。袖部は



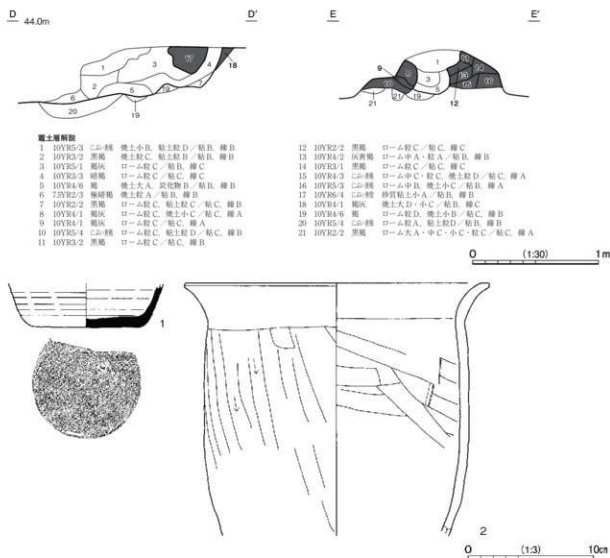
第102図 第240号竪穴建物跡実測図

地山を10～20cmほど掘りくほめ、ロームブロックや焼土粒子を含む第19～21層を埋土して整地した後、ローム粒子や粘土粒子を含む第8～16層を積み上げて構築されている。火床部は楕円形で床面よりやや高い位置を使用している。火床面は第19層上面で、赤変硬化している。煙道部は壁外に50cmほど掘り込まれ、火床面から外傾している。第17層は遺存している天井部の一部である。

覆土 12層に分層できる。不規則な堆積状況から、埋め戻されている。

遺物出土状況 土師器片31点（甕類29、瓶2）、須恵器片3点（坏2、甕類1）が出土している。1・2は中央部やや西寄りの床面から出土している。

所見 時期は、重複関係や出土土器から8世紀後葉と考えられる。



第103図 第240号竈穴建物跡・出土遺物実測図

第44表 第240号竈穴建物跡出土遺物一覧

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴はか	出土位置	備考
1	須恵器	坏	-	(3.5)	8.6	灰石・石英・非炭化物質・黒色粒子・磁障	黄灰	普通	体部外・内面口コナテ 底部納輪へラ削り	床面	30% 大量下澄
2	土師器	瓶	24.0	(20.1)	-	灰石・石英・赤色粒子・磁障	橙	普通	口縁部外・内面横ナテ 体部外側へラ削り 内面ナテ	床面	30% 外・内面履行着

第 241 号竪穴建物跡 (第 104・105 図 PL12・13)

位置 D区南部のM3B区、標高44mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第1347号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 西部が調査区域外のため、北東-南西軸4.48m、北西-南東軸4.22mしか確認できなかった。

主軸方向はN-58°-Eで、方形と推定できる。壁は高さ12~22cmで、ほぼ直立している。

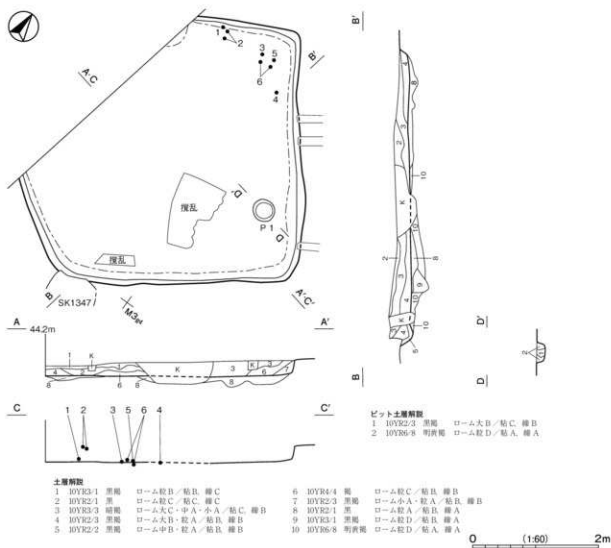
床 平坦で、全体に踏み固められている。貼床はローム粒子を含む第8~10層を10~25cmほど埋土して構築されている。

ピット P1は深さ15cmで、性格は不明である。

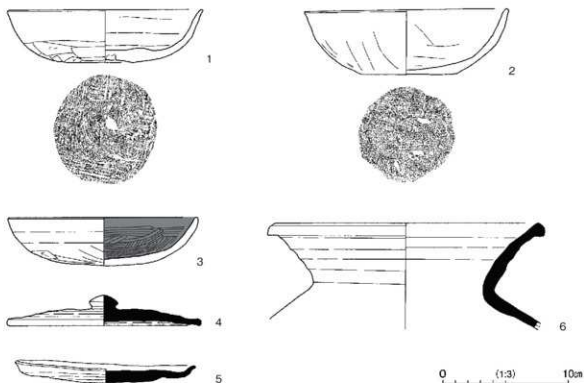
覆土 7層に分層できる。不規則な堆積状況から、埋め戻されている。

遺物出土状況 土師器片34点(坏4, 皿1, 鉢1, 甕類28), 須恵器片4点(坏, 蓋, 皿, 甕), 磁器片1点(碗)が出土している。3~5は北コーナー部の床面から、6は床面と掘方の埋土から出土した破片が接合したものである。1は北西壁寄りの覆土下層から、2は北西壁寄りの覆土上層から出土している。

所見 時期は、出土土器から8世紀前葉と考えられる。



第 104 図 第 241 号竪穴建物跡実測図



第 105 図 第 241 号竪穴建物跡出土遺物実測図

第 45 表 第 241 号竪穴建物跡出土遺物一覧

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考	
1	土師器	坏	154	4.2	84	長石・石英・赤色粒子	赤褐	普通	口縁部外・内面横ナデ 内面ナデ 体部下流・底部多方向のヘウ開り	覆土下層	80% PL36	
2	土師器	坏	160	5.3	79	長石・石英・赤色粒子	にぶい赤黄	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外・内面ナデ 底部多方向のヘウ開り	覆土上層	70% PL36 内面縦行書	
3	土師器	坏	149	3.8	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄褐	普通	口縁部外面ロクロナデ 内面ヘウ磨き 体部下流ヘウ開り	床面	30% PL36	
4	須恵器	壺	15.2	2.4	-	長石・石英・針状物質・細織	灰	普通	天井部回転ヘウ開り	つまみ部貼付け後ナデ	床面	95% PL36
5	須恵器	皿	14.0	1.7	3.6	長石・石英	灰白	普通	口縁部外・内面ロクロナデ 底部回転ヘウ開り	床面	95% 木重下流	
6	須恵器	甕	21.0	(8.5)	-	長石・石英・角閃石	灰白	普通	口縁部外・内面ロクロナデ	床面 掘方埋土	10%	

第 242 号竪穴建物跡 (第 106 ~ 108 図 PL13)

位置 D 区南部の M33 区、標高 44 m ほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第 243 号竪穴建物跡を掘り込み、第 1320・1394・1395・1498 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 西部が調査区域外のため、短軸は 5.96 m で、長軸は 6.74 m しか確認できなかった。主軸方向は N - 27° - W で、長方形と推定できる。壁は高さ 16 ~ 30 cm ほどで、外傾している。

床 はほぼ平坦で、中央部が踏み固められている。貼床はロームブロックやローム粒子を含む第 8 ~ 11 層を 15 ~ 30 cm ほど埋土して構築されている。壁溝が一部を除いて巡っている。

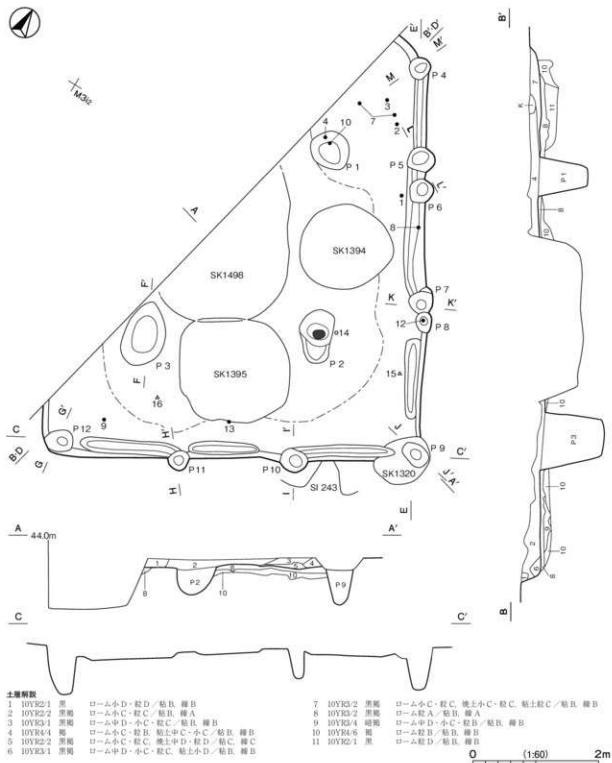
ピット 12 か所。P 1 ~ P 3 は深さ 80 ~ 100 cm で、配置から主柱穴と考えられる。P 4 ~ P 12 は深さ 20 ~ 60 cm で、壁際にある柱穴である。第 1 ~ 6 層は柱材を抜き取った後の覆土である。P 2 の底面で柱のあたりを確認した。

覆土 7 層に分層できる。ロームブロックが含まれていることや不規則な堆積状況から、埋め戻されている。

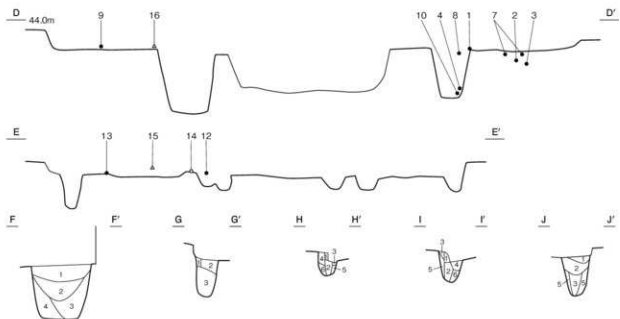
遺物出土状況 土師器片 510 点 (坏 169, 高台付坏 2, 碗 1, 皿 22, 小型甕 2, 甕類 314), 須恵器片 29 点 (坏 15, 盤 3, 甕類 11), 灰釉陶器片 6 点 (壺), 土製品 1 点 (紡錘車), 石器 2 点 (砥石), 金属製品 2 点 (釘, 鎌),

椀形滓1点、礫1点が出土している。8は北東壁の壁溝から、1は北東部の壁溝寄り、12は北東壁際、13・16は南東部の壁溝寄り、14はP2寄り、15は東コーナー部の床面から、9は南コーナー部覆土下層から、4・10はP1の覆土下層から、2・3・7は北コーナー部の掘方の埋土からそれぞれ出土している。5・6・11は覆土中から出土している。

所見 時期は、重複関係や出土土器から9世紀後葉と考えられる。



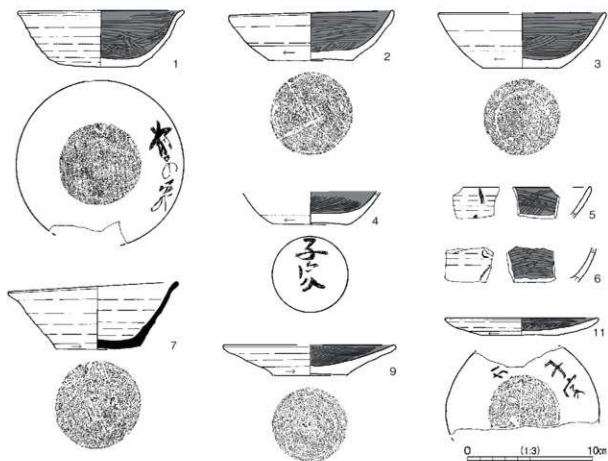
第106図 第242号堅穴建物跡実測図(1)



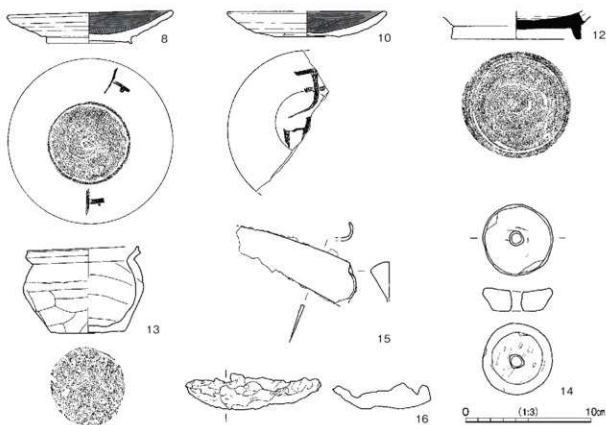
ピット土層解説 (赤ピット共通)

- | | | | |
|---|--------|----|--------------------------|
| 1 | IVR2-2 | 赤層 | ローム小C・粒C、粘土粒C / 粘B、雜B |
| 2 | IVR3-2 | 暗層 | ローム小C・粒B / 粘B、雜B |
| 3 | IVR3-2 | 赤層 | ローム粒C / 粘B、雜B |
| 4 | IVR3-2 | 赤層 | ローム粒C、粘土小D / 粘B、雜B |
| 5 | IVR3-4 | 暗層 | ローム中C・小C・粒B、粘土小D / 粘B、雜B |
| 6 | IVR3-3 | 暗層 | ローム中C・小C・粒C / 粘B、雜B |

0 (1:60) 2m



第 107 図 第 242 号竪穴建物跡・出土遺物実測図



第108図 第242号竪穴建物跡出土遺物実測図

第46表 第242号竪穴建物跡出土遺物一覧

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	備考	出土位置	備考
1	土師器	坏	129	4.5	6.5	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部・体部外面ロクロナデ 内面ヘラ磨き		床面	90% 「[子]家」 外部磨行装
2	土師器	坏	130	4.0	6.6	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部・体部外面ロクロナデ 内面ヘラ磨き 体部下端・底部回転ヘラ磨り		南方埋土	80% PL37
3	土師器	坏	[132]	4.5	6.0	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部・体部外面ロクロナデ 内面ヘラ磨き 体部下端・底部回転ヘラ磨り		南方埋土	60% PL37
4	土師器	坏	-	(2.6)	6.0	長石・石英	にぶい橙	普通	内面ヘラ磨き 体部下端・底部回転ヘラ磨り		P1 覆土下層	40% PL37 形書「子家」
5	土師器	坏	-	(2.5)	-	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部・体部外面ロクロナデ 内面ヘラ磨き		覆土中	5% 形書「[子]家」
6	土師器	坏	-	(2.8)	-	長石・石英	橙	普通	体部外面ロクロナデ 内面ヘラ磨き		覆土中	60% PL37 水釜下層
7	須恵器	坏	133	5.4	6.8	長石・石英・針状物質・粗礫	灰	普通	口縁部・体部外・内面ロクロナデ 体部下端回転ヘラ磨り 底部ヘラナデ		南方埋土	100% PL38 形書「[子]家」
8	土師器	皿	129	2.6	6.6	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部・体部外面ロクロナデ 内面ヘラ磨き 体部下端・底部回転ヘラ磨り		床面	100% PL38 形書「[子]家」
9	土師器	皿	[135]	2.4	5.9	長石・石英・針状物質	橙	普通	口縁部・体部外面ロクロナデ 内面ヘラ磨き 体部下端・底部回転ヘラ磨り		覆土下層	50% PL38
10	土師器	皿	125	2.0	5.0	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部・体部外面ロクロナデ 内面ヘラ磨き 体部下端・底部回転ヘラ磨り		P1 覆土下層	40% PL37 形書「[子]家」
11	土師器	皿	121	1.4	5.6	長石・石英・赤色粒子	灰褐	普通	口縁部・体部外面ロクロナデ 内面ヘラ磨き 体部下端・底部回転ヘラ磨り		覆土中	40% PL38 形書「[子]家」
12	須恵器	盤	-	(2.3)	10.2	長石・石英・針状物質	灰褐	普通	底部回転ヘラ磨り後高台貼付け 内面使用痕 底部外面磨転向		床面	5% PL38
13	土師器	小型壺	8.7	6.9	5.9	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外・内面ナデ 底部ヘラ当て磨		床面	80% PL39

番号	器種	径	孔径	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
14	鉄鉢	56-57	0.8	1.8	(56.77)	長石・石英	灰	上・下面一部摩滅 片面錆着 一方からの穿孔	床面	PL42

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
15	鎌	(9.7)	3.4	0.2	(41.62)	鉄	刃部・先端部欠損 刃部断面三角	床面	PL44
16	輪射洋	7.7	10.7	2.9	151.54	鉄	一部発出 全面錆化 着磁体なし	床面	PL43

第 244 号竪穴建物跡 (第 109 ~ 112 図 PL13)

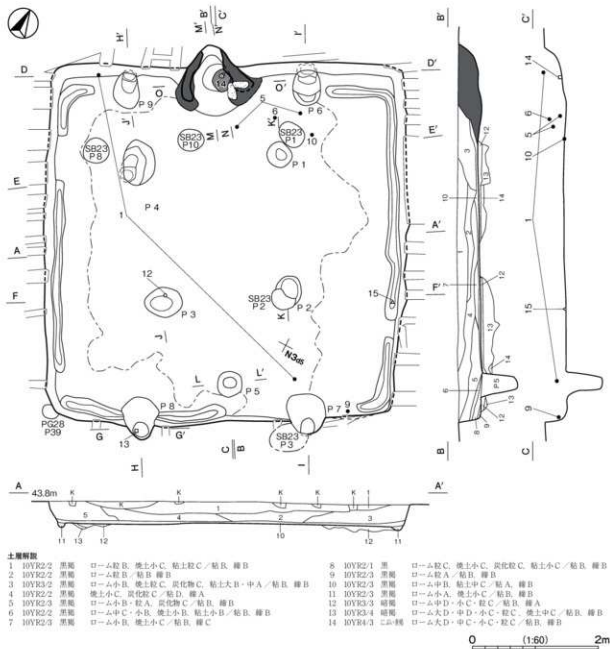
位置 D 区南部の N 3c4 区, 標高 44 m ほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第 28 号ピット群を掘り込み, 第 23 号掘立柱建物に掘り込まれている。

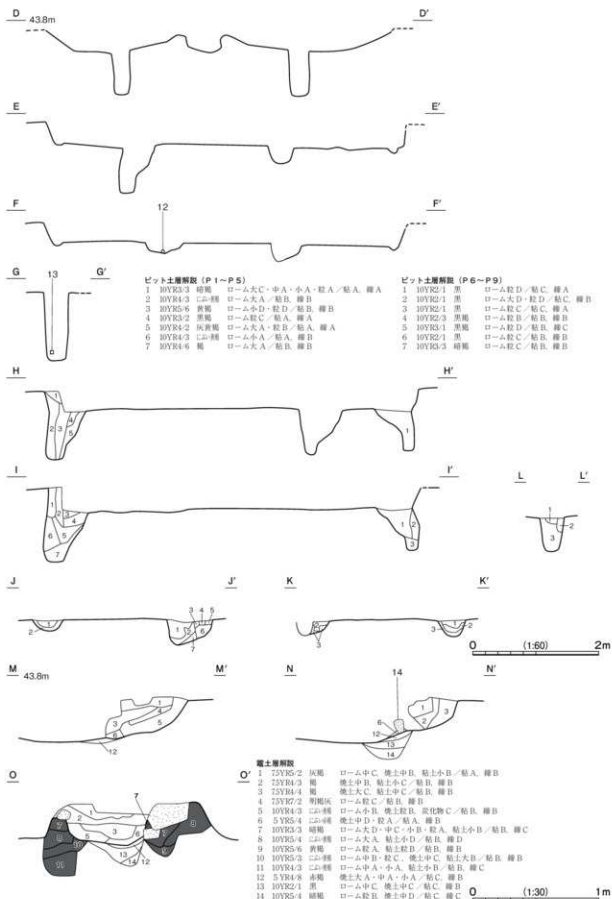
規模と形状 長軸 5.78 m, 短軸 5.66 m で, 主軸方向は N - 26° - W の方形である。壁は高さ 31 ~ 38 cm で, ほほ直立している。

床 平坦で, 中央部が全体に踏み固められている。貼床は不整形の土坑状や溝状に掘り込み, ロームブロックやローム粒子を含む第 12 ~ 14 層を 10 ~ 20 cm ほど埋土して構築されている。壁溝が一部を除いて巡っている。

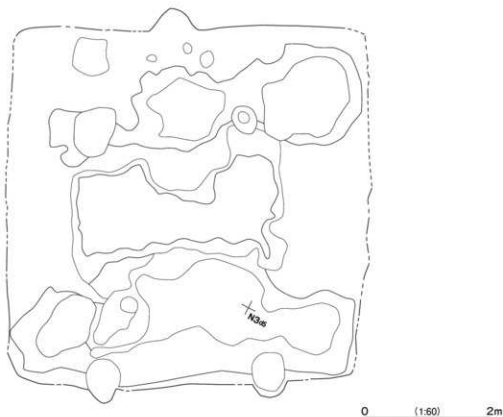
竈 北壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで 115 cm で, 燃焼部幅は 50 cm である。袖部は地山を 30 cm ほど掘りくぼめ, 粘土ブロックを含む第 7 ~ 11 層を積み上げ, その上に補強材として凝灰質泥岩の切り石を使用している。火床部は楕円形で床面から 16 cm 掘りくぼめ, ロームブロックや焼土ブロックを含



第 109 図 第 244 号竪穴建物跡実測図 (1)



第110図 第244号壙穴建物跡実測図(2)



第111図 第244号竪穴建物跡掘方実測図

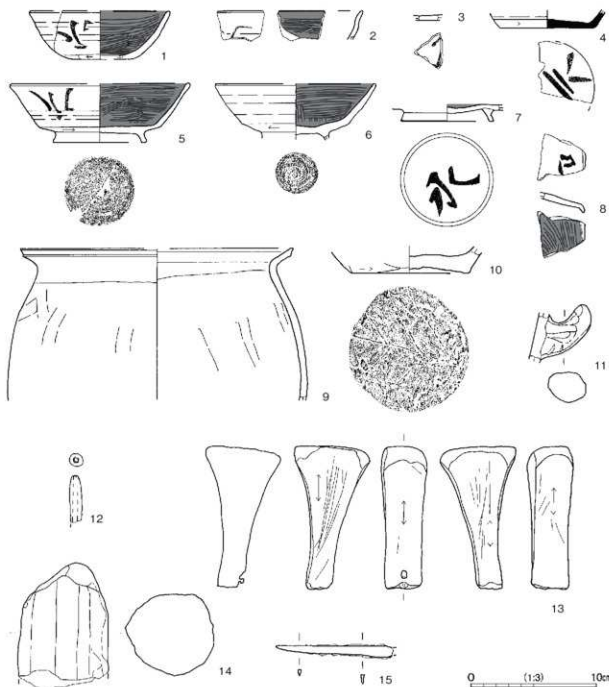
む第12～14層を埋土している。火床面は第12層上面で、赤変硬化している。煙道部は壁外に35cmほど掘り込まれ、火床面から緩やかに立ち上がっている。凝灰質泥岩が支脚として使用され、中央部に置かれている。

ピット 9か所。P1～P4は深さ15～70cmで、配置から主柱穴と考えられる。P5は深さ56cmで竈に對面した南壁際に位置しており、出入口施設に伴うピットと考えられる。P1～P5の第1～7層は柱材を抜き取った後の覆土である。P6～P9は深さ70～110cmで壁際にある柱穴である。第1～7層は柱材を抜き取った後の覆土である。

覆土 11層に分層できる。ロームブロックが含まれていることや不規則な堆積状況から、埋め戻されている。

遺物出土状況 土師器片1305点（坏120、高台付坏9、高台付碗1、高台付皿2、蓋4、小型甕3、甕類1165、瓶1）、須恵器片89点（坏44、高台付坏1、蓋9、盤2、高坏3、壺1、短頸壺1、甕類28）、灰軸陶器片2点（壺）、陶磁器片3点（碗）、土製品1点（管状土錘）、石器1点（砥石）、石製品1点（支脚）、金属製品7点（刀子4、釘2、不明鉄製品1）、鉄滓1点、礫6点が出土している。10はP1寄りの床面から、12はP3の底面から、14は竈内の底面から、9は南東コーナー部の覆土下層から、13はP8の覆土下層から、15は東壁際の覆土下層からそれぞれ出土している。5は竈右袖部寄りの覆土下層と覆土中層から出土した破片が接合して、1は北西コーナー部と南部の覆土中層から覆土上層にかけて出土した破片が接合したものである。6は右袖部寄りの覆土中層から、2～4・7・8・11は覆土中からそれぞれ出土している。

所見 時期は、重複関係や出土土器から9世紀後葉と考えられる。



第112図 第244号竪穴建物跡出土遺物実測図

第47表 第244号竪穴建物跡出土遺物一覧

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師器	坏	[110]	3.9	5.0	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口縁部・体部外面ロクロナデ 内面ヘラ磨き 体部下端手持ちヘラ磨り	覆土中層 覆土上層	40% PL28 照書〔表〕
2	土師器	坏	-	(2.4)	-	長石・石英	にぶい赤褐	普通	口縁部・体部外面ロクロナデ 内面ヘラ磨き	覆土中	5% PL28 照書〔口〕
3	土師器	坏	-	-	-	長石・石英・炭母	にぶい靑	普通	内面ヘラ磨き	覆土中	5% PL28 照書〔口〕
4	須恵器	坏	-	(1.5)	[7.4]	長石・石英・炭母	灰白	普通	体部外面下端・底部回転ヘラ磨り	覆土中	3% PL29 照書〔口〕 新出遺
5	土師器	高台付坏	[141]	4.7	[7.2]	長石・石英・赤色粒子	にぶい靑褐	普通	口縁部・体部外面ロクロナデ 内面ヘラ磨き 体部下端・底芯回転ヘラ磨り	覆土下層 覆土中層	50% PL29 照書〔表〕
6	土師器	高台付坏	[126]	(4.5)	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい靑	普通	口縁部・体部外面ロクロナデ 内面ヘラ磨き 体部下端回転ヘラ磨り 高台欠損	覆土中層	50%
7	土師器	高台付坏	-	(1.4)	7.2	長石・石英・炭母	にぶい赤褐	普通	体部内面ヘラ磨き 底部回転ヘラ磨り	覆土中	20% PL29 照書〔表〕
8	土師器	甑	-	(1.6)	-	長石・石英	赤褐	普通	外周部ロクロナデ 内面ヘラ磨き	覆土中	5% PL28 照書〔口〕

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
9	土師器	甕	21.5	(121)	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外・内面ナデ 内面へラ当て痕	覆土下層	10% 再調査付着
10	土師器	甕	-	(22)	9.3	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部下端へラ削り 底部縦割による木炭痕模様	床面	10% PL39
11	土師器	瓶	-	(46)	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	把手 ナデ	覆土中	5% PL39

番号	器種	長さ	径	孔径	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
12	管状土師	(3.8)	1.1	0.4	(3.05)	長石・石英	にぶい橙	外面ナデ 穿孔 片方欠損	P3 床面	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
13	砥石	11.4	3.6	6.0	234.28	凝灰岩	紙面4面 くぼみに研き痕 未穿孔	P8 覆土下層	PL43

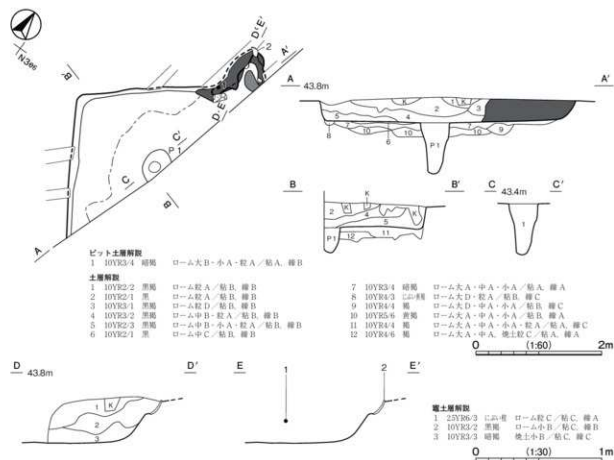
番号	器種	高さ	最大径	最小径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
14	支脚	(10.0)	(7.2)	6.8	(320.06)	凝灰質泥岩	切り石 被熱痕	覆内	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
15	刀子	(9.4)	(1.0)	0.3	(8.46)	鉄	基部欠損 刃部断面三角形	覆土下層	PL44

第 245 号竪穴建物跡 (第 113・114 図 PL13)

位置 D 区南部の N3d6 区、標高 44 m ほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 南東部が調査区域外のため、東西軸 2.97 m、南北軸 2.20 m しか確認できなかった。主軸方向は N-35°-W で、方形または長方形と推定できる。壁は高さ 36 cm で、直立している。



第 113 図 第 245 号竪穴建物跡実測図

床 平坦で、柱穴周辺と竈付近が踏み固められている。貼床はロームブロックを含む第6～12層を10～25 cmほど埋土して構築されている。

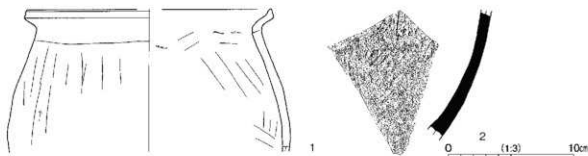
竈 北壁に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで80 cmで、燃焼部幅は30 cmである。袖部は遺存状態が悪く、一部しか残存していない。床面の上に、ロームブロックや砂質粘土を積み上げて構築されている。火床部は不定形で、床面と同じ高さを使用しており、火床面は赤変硬化している。煙道部は壁外に60 cmほど掘り込まれ、火床面から緩やかに立ち上がり、奥壁で外傾している。

ピット P1は深さ80 cmで、配置から主柱穴と考えられる。第1層は柱材を抜き取った後の覆土である。

覆土 5層に分層できる。ロームブロックが含まれていることや不規則な堆積状況から、埋め戻されている。

遺物出土状況 土師器片46点(坏1, 甕類45)、須恵器片4点(坏1, 甕類3)が出土している。1は竈左袖部から、2は竈煙道部上部から出土している。

所見 時期は、出土土器及び周囲の竈穴建物跡との関係から9世紀後葉と考えられる。



第114図 第245号竈穴建物跡出土遺物実測図

第48表 第245号竈穴建物跡出土遺物一覧

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴はか	出土位置	備考	
1	土師器	甕	[193]	(11.3)	-	長石・石英	にぶい楊	普通	口縁部外・内面磨ナデ 面ナデ・輪積み肌	体部外面へう張り 内	竈左袖部	10% 外周線行着
2	須恵器	甕	-	(10.3)	-	長石・石英	靑灰	普通	体部外面縦位の平行叩き後、横位の平行叩き	煙道部	5%	

第246号竈穴建物跡 (第115・116図 PL13)

位置 D区南部のN3区5区、標高44 mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第1492号土坑を掘り込み、第32～34・36号溝に掘り込まれている。

規模と形状 溝に掘り込まれ、南東部が調査区域外のため、南北軸3.04 m、東西軸4.20 mしか確認できなかった。主軸方向はN-9°-Wで、方形または長方形と推定できる。壁は高さ34 cmで、直立している。

床 平坦で、竈の前方から中央部にかけて踏み固められている。貼床はロームブロックを含む第6～13層を10～20 cmほど埋土して構築されている。

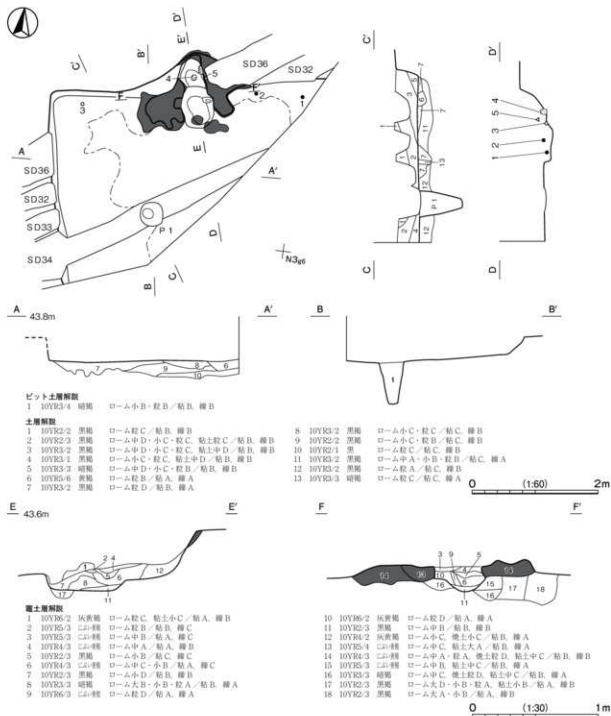
竈 北壁に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで120 cmで、燃焼部幅は50 cmである。袖部は地山を10～25 cmほど掘りくぼめ、ロームブロックや粘土ブロックを含む第15～18層を埋土して整地した後、ロームブロックや粘土ブロックを含む第13・14層を積み上げて構築されている。右袖部は補強材として凝灰質泥岩の切り石を袖内面に設置している。火床部は不定形で床面よりくぼんでいる。火床面は赤変硬化していない。煙道部は壁外に70 cmほど掘り込まれ、火床面から段を有し、外傾している。

ピット P1は深さ66cmで配置から主柱穴と考えられる。第1層は柱材を抜き取った後の覆土である。

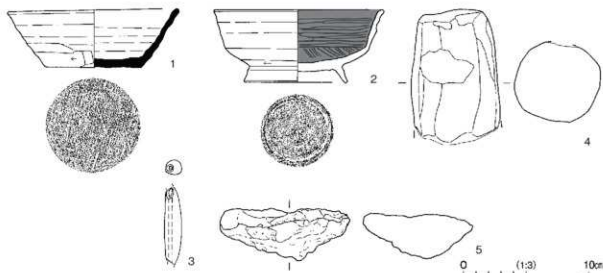
覆土 5層に分層できる。ロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。

遺物出土状況 土師器片110点(坏10, 高台付坏2, 蓋1, 甕類97), 須恵器片20点(坏11, 蓋4, 甕類5), 陶器片1点(甕類), 土製品1点(管状土錘), 石製品1点(支脚), 腕形滓1点が出土している。3は北西コーナー部, 2は甕右袖部寄り, 1は北壁寄りの床面からそれぞれ出土している。4は竈内の底面から, 5は甕右袖部から出土している。

所見 時期は, 出土土器から9世紀前葉と考えられる。



第115図 第246号竈穴建物跡実測図



第 116 図 第 246 号竪穴建物跡出土遺物実測図

第 49 表 第 246 号竪穴建物跡出土遺物一覧

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	須恵器	坏	13.3	4.7	7.6	長石・石英・ 茶母	灰黄	普通	口縁部外・内面ロケロナデ 体部下端手持ちへ 子取り 底面一方向のへう張り	床面	90% PL39 新治産
2	土師器	高台付坏	13.4	5.8	8.0	長石・石英	細灰	普通	口縁部外・内面ロケロナデ 内面へう張り 体部下 端部へう張り 底部側面へう張り後高台取付け	床面	80% PL40 野田原行着
番号	器種	長さ	径	孔径	重量	胎土	色調	特徴		出土位置	備考
3	管状土師	(6.2)	1.2~1.3	0.3	(7.28)	長石・石英	浅黄橙	外面ナゲ	穿孔 両方欠損	床面	PL41
番号	器種	高さ	最大径	最小径	重量	材質	特徴		出土位置	備考	
4	支脚	(10.8)	6.9	5.5	(36.13)	凝灰質泥岩	切り石	焼熟煎	竈内	PL42	
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴		出土位置	備考	
5	陶形片	8.8	10.4	4.3	32.61	鉄	一部染込	全面酸化 着磁性なし	竈石軸部	PL43	

第 247 号竪穴建物跡 (第 117 図 PL13・14)

位置 D 区北部の K3h9 区、標高 44 m ほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 長軸 2.82 m、短軸 2.62 m の方形で、主軸方向は N - 38° - W である。壁は高さ 6 ~ 20 cm で、外傾している。

床 平坦で、中央部が全体に踏み固められている。貼床はロームブロックを含む第 5 ~ 7 層を 10 ~ 15 cm ほど埋土して構築されている。

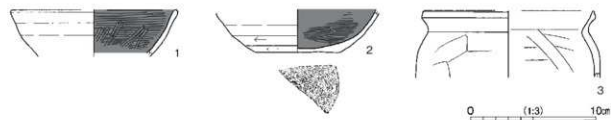
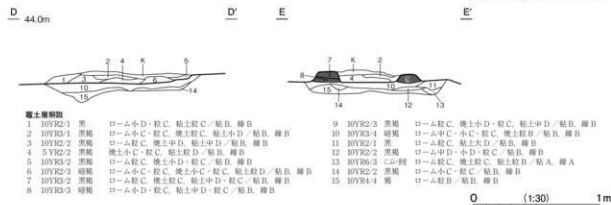
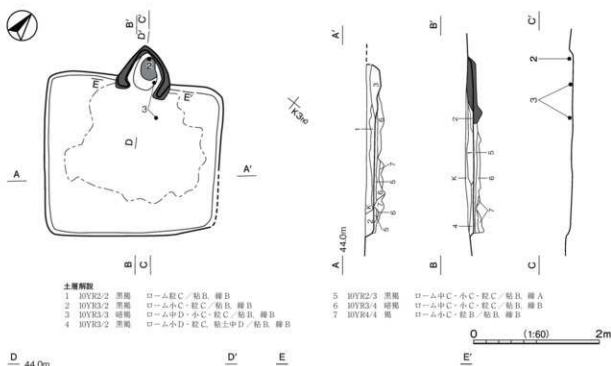
竈 北壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで 70 cm で、燃焼部幅は 50 cm である。袖部は地山を 6 ~ 15 cm ほど掘りくぼめ、ロームブロックやローム粒子を含む第 10 ~ 15 層を埋土して整地した後、粘土ブロックや焼土粒子を含む第 7 ~ 9 層を積み上げて構築されている。火床部は楕円形で床面と同じ高さを利用している。火床面は第 10 層上面で、赤変硬化している。煙道部は壁内に 55 cm ほど掘り込まれ、火床面から緩やかに立ち上がっている。

覆土 4 層に分層できる。ロームブロックが含まれていることや不規則な堆積状況から、埋め戻されている。

遺物出土状況 土師器片 60 点 (坏 11、高台付坏 1、小型甕 1、甕類 47)、須恵器片 1 点 (甕類)、金属製品 1 点 (釘) が出土している。2 は竈内の覆土下層から、3 は竈内と竈付近の覆土下層から出土した破片が接合し

たものである。1は覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器から9世紀後葉と考えられる。



第117図 第247号堅穴建物跡・出土遺物実測図

第50表 第247号堅穴建物跡出土遺物一覧

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	ほか	出土位置	備考
1	土師器	杯	[130]	(37)	-	長石・石英・赤色粒子	に濃い褐色	普通	口縁部・体部外面	ロクロナテ 内面へラ磨き	覆土中	10%
2	土師器	杯	-	(34)	(66)	長石・石英・赤土	に濃い褐色	普通	体部外面	ロクロナテ 内面へラ磨き 体部下端・底部回転へラ磨き	壺内	10%
3	土師器	小型甕	[135]	(53)	-	長石・石英・赤色粒子	に濃い赤褐色	普通	口縁部外・内面	横ナテ 体部外・内面ナテ	覆土下層	5%

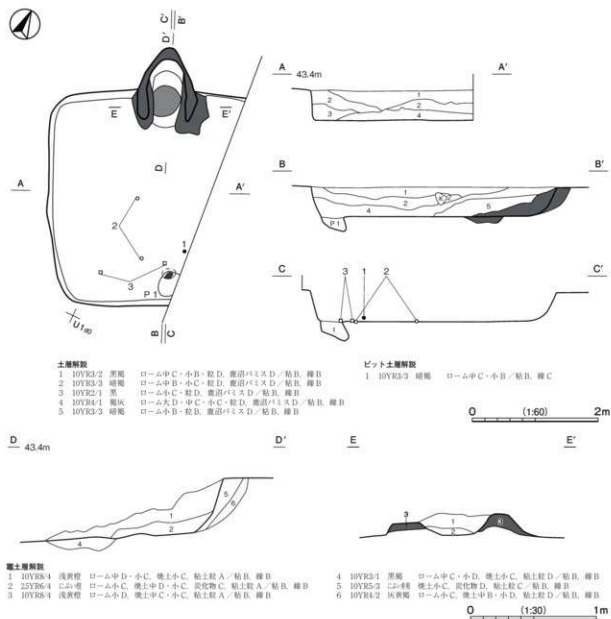
第 251 号竪穴建物跡 (第 118・119 図 PL14)

位置 A 区北部の U1c9 区、標高 43 m ほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 東部が調査区域外のため、南北軸 3.40 m で、東西軸は 2.98 m しか確認できなかった。主軸方向は N-24°-W で、方形または長方形と推定できる。壁は高さ 46 cm ほどで、ほぼ直立している。

床 ほぼ平坦で、特に踏み固められた部分はみられない。

竈 北壁に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで 130 cm で、燃焼部幅は 40 cm である。袖部は地山と同じ高さを使用し、ロームブロックや焼土ブロックを含む第 4 層を埋土した後、ロームブロックや粘土粒子を含む第 3 層を積み上げ構築されている。火床部は楕円形で床面とほぼ同じ高さを使用している。火床面は赤変硬化している。煙道部は壁外に 70 cm ほど掘り込まれ、火床面から緩やかに立ち上がり、奥壁で外傾している。



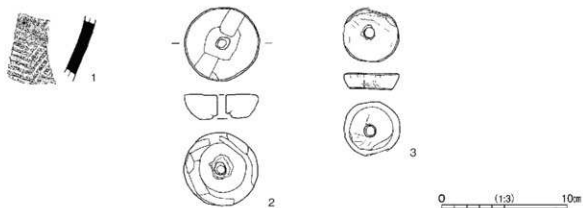
第 118 図 第 251 号竪穴建物跡実測図

ピット P1 は深さ 30cm で竈に対面した南壁際に位置しており、出入口施設に伴うピットと考えられる。P1 の底面で柱のあたりを確認した。

覆土 5層に分層できる。ロームブロックが含まれていることや不規則な堆積状況から、埋め戻されている。

遺物出土状況 土師器片 5点 (甕類)、須恵器片 3点 (坏 2、甕 1)、土製品 1点 (紡錘車)、石器 1点 (紡錘車) が出土している。2 は中央部の床面から出土した破片が接合したもので、3 は南壁寄りの床面から出土した破片が接合したものである。1 は P1 寄りの覆土下層から出土している。

所見 時期は、出土土器や周辺の竈穴建物跡との関係から 9世紀代と考えられる。



第 119 図 第 251 号竈穴建物跡出土遺物実測図

第 51 表 第 251 号竈穴建物跡出土遺物一覧

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	須恵器	甕	-	(52)	-	長石・石美	褐灰	普通	体部外面斜位の平行印き後、横位の平行印き	覆土下層	5%
番号	器種	径	孔径	厚さ	重量	胎土	色調	特徴		出土位置	備考
2	紡錘車	58~59	0.7	20	(73.89)	長石・石美・赤色粒子	にぶい橙	上・下面一部摩滅 ナテ 一方角からの穿孔		床面	PL42
番号	器種	径	孔径	厚さ	重量	材質	特徴		出土位置	備考	
3	紡錘車	4.2~4.4	0.9	1.3	(31.49)	粘板岩	上・下面一部摩滅 片面研磨 一方角からの穿孔		床面	PL43	

第 252 号竈穴建物跡 (第 120 図 PL14)

位置 A区中央部の V1a6区、標高 43m ほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第 38 号ピット群に掘り込まれている。

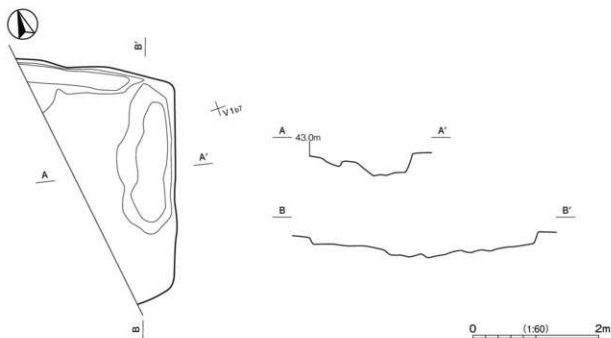
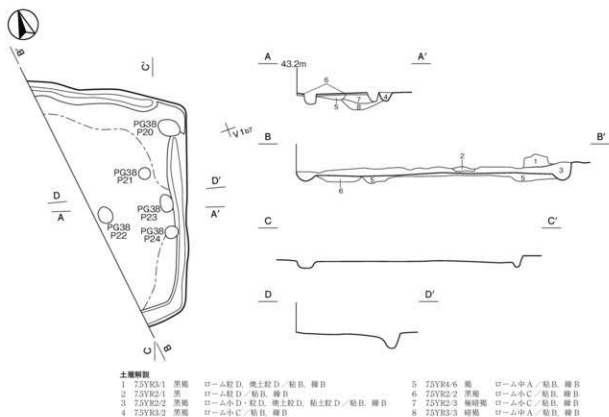
規模と形状 西部が調査区域外のため、南北軸 3.66m、東西軸 2.44m しか確認できなかった。主軸方向は N-24°-E で、方形または長方形と推定できる。壁は高さ 17cm ほどで、直立している。

床 平坦で、中央部が全体に踏み固められている。貼床は壁際を不整形の土坑や溝状に掘り込み、ロームブロックを含む第 5~8 層を 5~27cm 埋土して構築されている。壁溝が一部を除いて巡っている。

覆土 4層に分層できる。ロームブロックが含まれていることや不規則な堆積状況から、埋め戻されている。

遺物出土状況 土師器片 21点 (坏 1、甕類 20) が出土している。細片のため図示できない。

所見 時期は、重複関係や周辺の竈穴建物跡から 9世紀代と考えられる。



第120図 第252号竪穴建物跡・掘方実測図

第52表 奈良、平安時代竪穴建物跡一覧

番号	位置	主軸方向	平面形	規模		床面	築法	内部施設				覆土	主な出土遺物	時期	備考	
				長軸×短軸(m)	(cm)			柱穴	出入口	土	礎					礎
13	T 1b7	N-32°-W	方形	3.10 × 3.01	27	平坦	-	4	1	-	北壁	-	人為	土師器、須恵器	9世紀代	
197	N 249	N-75°-E	方形	4.44 × 4.40	50 ~ 62	平坦	ほぼ全周	4	1	2	東壁 西壁	-	人為	土師器、須恵器、 砥石、釘	8世紀後半	
198	O 2a9	N-12°-W	方形	4.10 × 3.85	48 ~ 57	平坦	-	-	1	-	北壁	-	自然	土師器、須恵器、 紡錘車、刀子	9世紀後半	

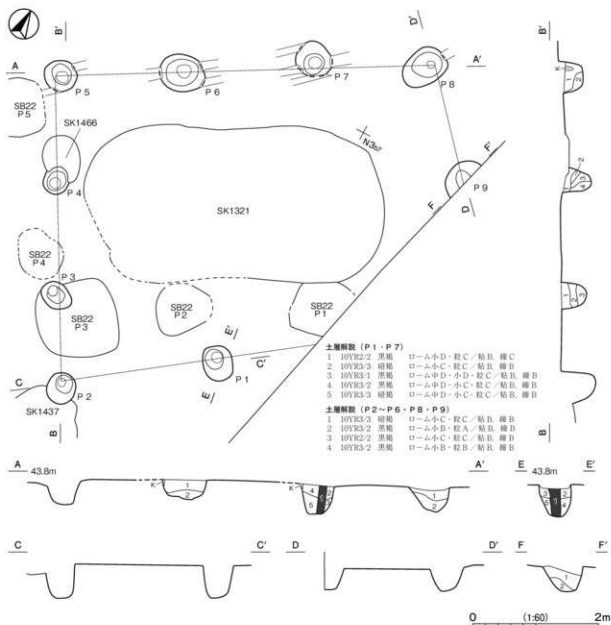
番号	位置	主軸方向	平面形	規模		壁高	床面	欄柵	内部施設				覆土	主な出土遺物	時期	備考
				長軸×短軸(m)	(cm)				柱穴	土坑	ピラミ	石室				
199	O 3 c1	N-34°-W	方形	368 × 306	60-72	平坦	-	-	-	-	北壁	-	自然	土師器、須恵器、管状土埴	8世紀中葉	
200	O 3 c1	N-6°-W	方形	450 × 434	35-50	平坦	一部	-	-	-	北壁	-	自然	土師器、須恵器、砥石、釘	9世紀中葉	
201	N 2 f0	N-36°-W	3階土階	427 × (217)	40-50	平坦	全周	2	1	-	北壁	-	人為	土師器、須恵器	10世紀前半	
202	N 2 b9	N-15°-W	方形	330 × 312	18-28	平坦	-	-	-	-	北壁	-	自然	土師器、須恵器	9世紀後半	
203	N 3 b2	N-10°-W	3階土階	440 × (360)	16-27	平坦	-	2	1	-	北壁	-	人為	土師器、須恵器	9世紀後半	本跡→SK32
204	O 3 a1	N-83°-E	長方形	340 × 308	44	平坦	1段土階	-	-	1	東壁北壁	-	人為	土師器、須恵器、須恵土師、管状土埴	9世紀後半	SK1202・1201→本跡
205	O 3 a2	N-15°-W	方形	265 × 256	16	平坦	-	-	-	-	北壁	-	人為	土師器、須恵器	9世紀後半	
206	O 3 b1	N-17°-W	方形	456 × 420	62-72	平坦	-	-	-	-	北壁	-	自然	土師器、須恵器、須恵土師、管状土埴、刀子	8世紀後半	
207	O 3 b4	N-35°-W	[方形]	290 × (275)	21	平坦	-	-	-	-	北壁	-	人為	土師器、須恵器	9世紀代	本跡→SK230・1240
208	O 2 f6	N-14°-W	[方形]	264 × 245	28	平坦	-	-	-	-	-	-	人為		9世紀中葉以降	本跡→SK225
209	O 3 d3	N-16°-W	方形	329 × 317	46-50	平坦	1段土階	-	-	-	北壁	-	自然	土師器、須恵器、須恵土師、管状土埴	9世紀後半	
210	O 2 d0	N-41°-W	方形	412 × (404)	50	平坦	一部	-	-	-	北西壁	-	自然	土師器、須恵器、管状土埴、砥石	9世紀前半	
211	O 2 d8	N-78°-E	方形	298 × 296	29	平坦	-	-	-	-	東壁	-	自然	土師器、須恵器	9世紀後半	SK212→本跡
212	O 2 d8	N-62°-E	方形	378 × 360	28-52	平坦	一部	-	1	-	東壁	-	自然	土師器、須恵器、須恵土師、管状土埴、砥石、刀子	9世紀前半	SK1209→本跡→SK211
213	K 4 b1	N-43°-E	方形	323 × 318	21	平坦	-	2	-	1	北東壁	-	自然	土師器、須恵器、管状土埴	9世紀中葉	本跡→SK1309
214	O 3 f2	N-28°-W	方形	514 × 504	47-54	平坦	1段土階	4	1	3	北壁等1	-	人為	土師器、須恵器、須恵土師、支脚、紡錘車、鎌	9世紀後半	
215	O 2 e4	-	3階土階	170 × (114)	60	平坦	-	1	-	-	-	-	自然	土師器、須恵器	10世紀前半	本跡→SK226
216	O 2 b8	N-9°-W	方形	326 × 298	10-30	平坦	1段土階	-	1	-	北壁	-	自然	土師器、須恵器、須恵土師、管状土埴	10世紀前半	SK217→本跡
217	O 2 g0	N-82°-E	方形	315 × 309	30	平坦	1段土階	-	1	-	東壁	-	自然	土師器、須恵器、須恵土師、管状土埴	10世紀前半	本跡→SK216
218	O 2 b8	N-19°-W	3階土階	370 × (283)	22-28	平坦	一部	-	-	-	北壁	-	自然	土師器、須恵器、管状土埴、砥石、刀子	9世紀代	本跡→第1号欄子跡・土師器
219	O 2 h7	N-0°	方形	282 × 280	22	平坦	1段土階	-	1	-	北壁	-	人為	土師器、須恵器、須恵土師	9世紀後半	
220	O 2 i9	N-1°-W	長方形	454 × 391	38-46	平坦	1段土階	4	-	-	北壁	-	自然	土師器、須恵器、須恵土師、管状土埴、紡錘車、刀子	9世紀後半	
221	O 2 i8	N-11°-W	方形	400 × 365	46	平坦	1段土階	-	-	-	北壁	-	自然	土師器、須恵器	9世紀後半	本跡→SK222
222	O 2 i8	N-8°-W	長方形	412 × 335	22-34	平坦	-	-	-	-	北壁	-	自然	土師器、須恵器、須恵土師、管状土埴、紡錘車	9世紀後半	SK221→本跡→SK1272・1273
223	P 2 b8	N-0°	長方形	418 × 377	30-36	平坦	一部	-	1	-	北壁	-	自然	土師器、須恵器、須恵土師	9世紀中葉	本跡→SK1204
225	O 2 f6	N-13°-W	3階土階	292 × (166)	46	凹凸	-	-	-	-	-	-	自然	土師器、須恵器、須恵土師	9世紀後半	SK208→本跡
226	O 2 e7	N-10°-W	3階土階	370 × (190)	53-66	平坦	一部	-	-	-	-	-	自然	土師器、須恵器、須恵土師、砥石	10世紀前半	SK215→本跡
227	K 3 a0	N-38°-W	[方形]	335 × (332)	-	平坦	-	-	-	-	北壁	2	不明	土師器、須恵器	9世紀後半	SK1310→本跡
228	K 3 e9	N-32°-W	方形	273 × 270	15-25	平坦	全周	-	1	-	北壁	-	自然	土師器、須恵器、須恵土師	9世紀中葉一後葉	本跡→PG22
229	K 4 g1	N-68°-E	方形	382 × 382	18-20	平坦	1段土階	-	1	-	北東壁北西壁	-	人為	土師器、須恵器、砥石	9世紀後半	
230	K 4 j1	N-31°-W	[方形]	200 × (182)	32	平坦	-	-	-	-	北壁	-	人為	土師器	10世紀代	SK1311→本跡
231	K 4 e1	N-52°-W	[長方形]	454 × (378)	-	平坦	-	3	-	1	東壁北壁	-	不明	土師器	10世紀代	
232	L 4 a1	N-33°-W	長方形	348 × 273	30	平坦	1段土階	-	-	-	北壁	-	人為	土師器、須恵器	9世紀後半	PG24→本跡
233	K 3 i7	N-80°-E	3階土階	364 × (154)	10-20	平坦	-	2	-	1	東壁	-	人為	土師器	9世紀後半	
234	L 3 c9	N-72°-E	方形	304 × 284	21-28	平坦	全周	-	-	-	東壁	-	人為	土師器、須恵器、管状土埴	9世紀後半	SK235→本跡
235	L 3 c9	N-53°-W	長方形	382 × 346	38	平坦	-	-	1	4	北西壁	-	人為	土師器、須恵器	8世紀前半	本跡→SK234
236	L 3 i9	N-43°-W	長方形	440 × 390	29-37	平坦	一部	4	2	-	北西壁	-	自然	土師器、須恵器、支脚	8世紀後半	
237	L 3 a7	N-34°-W	方形	334 × 328	16-22	平坦	-	-	-	-	北壁	-	自然	土師器、須恵器、砥石	9世紀代	
238	L 3 b8	N-32°-W	方形	528 × 497	65	平坦	-	4	1	-	北壁	-	人為	土師器、須恵器	9世紀後半	
239	L 3 i9	N-31°-W	3階土階	358 × (349)	32	平坦	-	-	-	-	北壁	-	人為	土師器、須恵器	8世紀後半	
240	L 3 i7	N-32°-W	方形	396 × 380	36	平坦	-	-	-	-	北壁	-	人為	土師器、須恵器	8世紀後半	本跡→SK1324
241	M 3 i3	N-58°-E	[方形]	448 × (422)	12-22	平坦	-	-	1	-	-	-	人為	土師器、須恵器	8世紀前半	本跡→SK1347
242	M 3 i3	N-27°-W	[長方形]	674 × 596	16-30	平坦	1段土階	3	-	9	-	-	人為	土師器、須恵器、須恵土師、紡錘車、鎌、陶器	9世紀後半	SK23→本跡→SK1240・1390・1395・1408
244	N 3 c4	N-26°-W	方形	578 × 566	31-38	平坦	1段土階	4	1	4	北壁	-	人為	土師器、須恵器、須恵土師、管状土埴、刀子	9世紀後半	PG28→本跡→SK23

番号	位置	主軸方向	平面形	規模 長軸×短軸(m)	壁高 (cm)	床面	壁溝	内部施設				覆土	主な出土遺物	時期	備考	
								柱穴	出入口	ヒト	貯・置					階段
245	N 346	N-35°-W	3形-長形	(297) × (2.20)	36	平坦	-	1	-	-	北槽	-	人為	土師器、須恵器、 管状土師、支脚	9世紀後半	
246	N 345	N-9°-W	3形-長形	(420) × (3.04)	34	平坦	-	1	-	-	北槽	-	人為	土師器、須恵器、 管状土師、支脚	9世紀前半 SK1492 → 本跡 → SK02 - 31・36	
247	K 349	N-38°-W	方形	282 × 282	6~20	平坦	-	-	-	-	北槽	-	人為	土師器、須恵器	9世紀後半	
251	U 149	N-24°-W	3形-長形	340 × (2.98)	46	平坦	-	1	-	-	北槽	-	人為	土師器、須恵器、 紡錘車	9世紀代	
252	V 146	N-24°-E	3形-長形	366 × 244	17	平坦	11.2 全周	-	-	-	-	-	人為	土師器	9世紀代	本跡 → PG38

(2) 掘立柱建物跡

第 21 号掘立柱建物跡 (第 121・122 図)

位置 D 区南部の N 336 区、標高 44 m ほどの平坦な台地上に位置している。



第 121 図 第 21 号掘立柱建物跡実測図

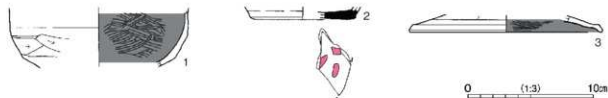
重複関係 第22号掘立柱建物跡，第1437号土坑を掘り込み，第1321・1466号土坑に掘り込まれている。

規模と構造 南東部は調査区域外であるが，桁行3間，梁行3間の側柱建物跡で，桁行方向がN-58°-Eの東西棟と推定できる。確認できた規模は桁行6.00m，梁行4.80mで，面積は2880㎡である。柱間寸法は，桁行がP8-P7間が1.8m（6尺），P7-P6間が2.1m（7尺），P6-P5間が2.1m（7尺），P1-P2間が2.4m（8尺）で，ほぼ揃っている。P1-P2間はやや内側に位置している。また梁行はP2-P3間が1.2m（4尺），P3-P4間が1.8m（6尺），P4-P5間が1.8m（6尺）である。P8-P9間は1.8m（6尺）で，やや外側に位置している。

柱穴 9か所。平面形は円形または楕円形で，長径52～75cm，短径40～58cmである。深さ30～55cmで，掘方の壁はほぼ直立している。P9は柱筋がずれている。P1・P7の第1層は柱痕跡，第2～5層は埋土である。P2～P6・P8・P9の第1～4層は柱材を抜き取った後の覆土である。

遺物出土状況 土師器片21点（坏9，高台付坏1，蓋1，甕類10），須恵器片11点（坏6，蓋3，甕2），灰釉陶器片3点（壺）が出土している。1・2はP9の覆土中から，3はP8の覆土中から出土している。

所見 時期は，重複関係や出土土器から8世紀後葉と考えられる。



第122図 第21号掘立柱建物跡出土遺物実測図

第53表 第21号掘立柱建物跡出土遺物一覧

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師器	坏	-	(4.7)	-	長石・石英	にぶい橙	普通	体部外面ロクロナデ 内面ヘラ磨き 片持ちヘラ削り	P9覆土中	5%
2	須恵器	坏	-	(1.0)	(7.7)	長石・石英	黄灰	普通	体部外・内面ロクロナデ	P9覆土中	5% 未磨□
3	土師器	蓋	[15.2]	(1.4)	-	長石・石英	橙	普通	外周部ロクロナデ 内面ヘラ磨き	P8覆土中	5%

第22号掘立柱建物跡（第123・124図）

位置 D区南部のN3a6区，標高44mほどの平坦な台地上に位置している。

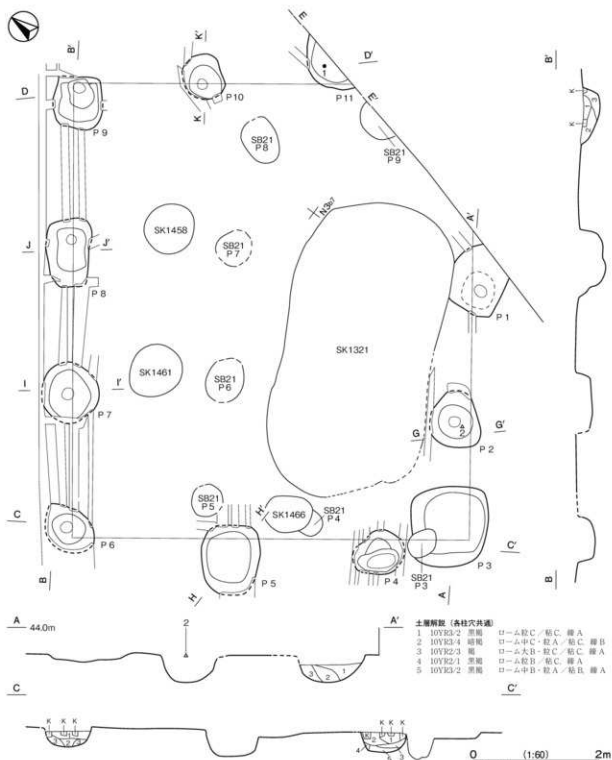
重複関係 第21号掘立柱建物，第1321・1466号土坑に掘り込まれている。第1458・1461号土坑と重複しているが新旧関係は不明である。

規模と構造 東部は調査区域外であるが，桁行3間，梁行2間以上の側柱建物跡で，桁行方向がN-52°-Eの南北棟と推定される。確認できた規模は，桁行7.20m，梁行6.30mで，面積は4536㎡である。柱間寸法は，桁行がP6-P7間が2.4m（8尺），P7-P8間が2.4m（8尺），P8-P9間が2.4m（8尺），P3-P2間が1.8m（6尺），P2-P1間が2.1m（7尺）である。また梁行はP9-P10間が2.4m（8尺），P10-P11間が2.4m（8尺），P6-P5間が2.4m（8尺），P5-P3間が3.9m（13尺）のはほぼ等間で，柱筋は揃っている。P4は梁行から南西にずれている。

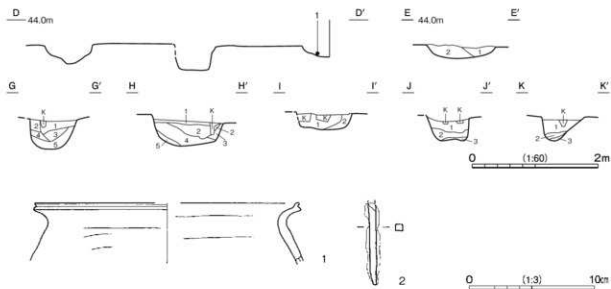
柱穴 11か所。平面形は楕円形または隅丸方形で，長径70～125cm，短径40～80cmである。深さ14～40cmで，掘方の壁は外傾している。第1～5層は柱材を抜き取った後の覆土である。

遺物出土状況 土師器片 28 点 (坏 3, 甕類 25), 須恵器片 7 点 (坏 2, 蓋 1, 甕類 4), 灰軸陶器片 1 点 (甕), 金属製品 1 点 (釘) が出土している。1 は P 11 の覆土下層から, 2 は P 2 の覆土上層から出土している。

所見 時期は, 第 21 号掘立柱建物に掘り込まれていることから 8 世紀中葉以降と考えられる。



第 123 図 第 22 号掘立柱建物跡実測図 (1)



第124図 第22号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

第54表 第22号掘立柱建物跡出土遺物一覧

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	地成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師器	壺	[209]	(48)	-	長石・石英	橙	普通 口縁部、体部外・内面横ナデ	P11 覆土下層	5%
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴		出土位置	備考
2	釘	(6.5)	0.6	0.5	(1267)	鉄	頭部欠損 脚部断面正方形		P2 覆土上層	

第55表 奈良・平安時代掘立柱建物跡一覧

番号	位置	桁行方向	柱間数	規模		面積	柱間寸法			柱穴	主な出土遺物	時期	備考
				桁×梁(m)	(㎡)		桁間(m)	梁間(m)	構造				
21	N 3b6	N-58-E	3×3	6.00×4.80	28.80	1.8-2.4	1.2-1.8	欄柱	9	円形 楕円形	土師器、須恵器	8世紀後半	SK22, SK3, 47 → 48 → SK122, 166
22	N 3a6	N-52-E	3×2	7.20×6.30	45.36	2.4	2.4-3.9	欄柱	11	楕円形 隅丸方形	土師器、須恵器	8世紀 中葉以降	48 → SK2, SK32, 166 SK158, 161, 土重量

(3) 土坑

第1240号土坑 (第125図 PL14)

位置 C区北部のO3b4区、標高44mほどの平坦な台地上に位置している。

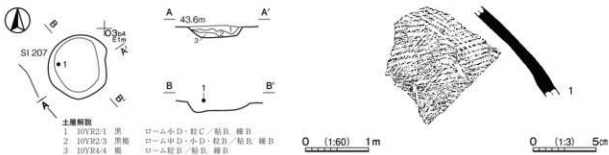
重複関係 第207号竪穴建物跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長径1.01m、短径0.93mの不整形である。深さは18cmで、壁は外傾している。底面は平坦で北西側にやや傾いている。

覆土 3層に分層できる。周辺の土砂が流れ込んだ自然堆積である。

遺物出土状況 土師器片2点(壺類)、須恵器片1点(壺)が出土している。1は覆土上層から出土している。

所見 時期は、重複関係や出土土器から平安時代と考えられる。



第125図 第1240号土坑・出土遺物実測図

第56表 第1240号土坑出土遺物一覧

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	須臾器	壺	-	(7.1)	-	長石・石英・赤色粘土	に濃い黄褐色	普通	体部外面斜位の平行引き	覆土上層	5%

第1241号土坑 (第126図 PL14)

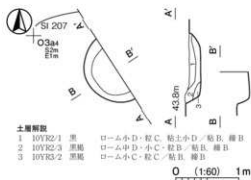
位置 C区北部のO3a4区、標高44mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第207号竪穴建物跡を掘り込んでいる。

規模と形状 北東部が調査区域外のため、北西・南東径は1.10mで、北東・南西径は0.48mしか確認できなかった。平面形は円形または楕円形と推定できる。深さは22cmで、壁は外傾している。底面は平坦である。

覆土 3層に分層できる。周辺の土砂が流れ込んだ自然堆積である。

所見 遺物は出土していないが、時期は、重複関係から平安時代と考えられる。



第126図 第1241号土坑実測図

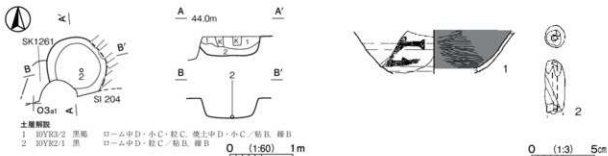
第1242号土坑 (第127図 PL14)

位置 C区北部のN3j1区、標高44mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第204号竪穴建物に掘り込まれている。第1261号土坑と重複しているが新旧関係は不明である。

規模と形状 径0.94mほどの円形と推定できる。深さは30cmで、壁はほぼ直立している。底面は平坦である。

覆土 2層に分層できる。周辺の土砂が流れ込んだ自然堆積である。



第127図 第1242号土坑・出土遺物実測図

遺物出土状況 土師器片43点(坏5、高台付坏1、甕類37)、須恵器片4点(坏3、甕類1)、土製品1点(管状土鍾)が出土している。2は底面から、1は覆土中から出土している。

所見 時期は、重複関係や出土土器から9世紀後葉以前と考えられる。

第57表 第1242号土坑出土遺物一覧

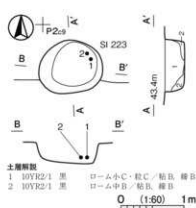
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師器	坏	-	(35)	-	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	体部外面ロクロナテ 内面へう磨き	覆土中	5% 追書「□」

番号	器種	長さ	径	孔径	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
2	管状土鍾	(4.3)	16~18	03~05	(9.00)	長石・石英	にぶい黄褐色	外面ナテ 穿孔 片方欠損	底面	

第1264号土坑(第128図 PL14)

位置 C区中央部のP2c9区、標高43mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第223号竪穴建物跡を掘り込んでいる。



規模と形状 長径1.01m、短径0.82mの楕円形で、長径方向はN-80°-Eである。深さは32cmで、壁は直立している。底面は平坦で東側に傾斜している。

覆土 2層に分層できる。ロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。

遺物出土状況 土師器片6点(坏3、甕類3)、須恵器片1点(短頭壺)、凝灰岩1点が出土している。1・2は覆土下層から出土している。

所見 時期は、重複関係や出土土器から9世紀後葉~10世紀前葉と考えられる。



第128図 第1264号土坑・出土遺物実測図

第58表 第1264号土坑出土遺物一覧

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	須恵器	短頭壺	-	(6.9)	-	長石・石英	暗灰黄	普通	体部外・内面ロクロナテ	覆土下層	10%
2	土師器	甕	-	(4.7)	(9.8)	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄褐色	普通	体部外面下半ナテ 内面ナテ	覆土下層	5% 外面扉付蓋

第1270号土坑(第129図 PL15)

位置 C区北部のO3d2区、標高44mほどの平坦な台地上に位置している。

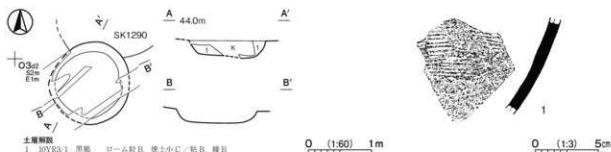
重複関係 第1290号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 径1.28mほどの円形である。深さは28cmで、壁は外傾している。底面は平坦である。

覆土 単一層である。堆積状況は覆土が少なく不明である。

遺物出土状況 土師器片 45 点（坏 4、甕類 41）、須恵器片 17 点（坏 8、甕類 9）が出土している。1 は覆土中から出土している。

所見 時期は、重複関係や出土土器から平安時代と考えられる。



第 129 図 第 1270 号土坑・出土遺物実測図

第 59 表 第 1270 号土坑出土遺物一覧

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	須恵器	甕	-	(7.3)	-	粘土・石灰・石炭	灰黄	普通	体部外面横位の平行叩き 下半へう割り	覆土中	5%

第 1290 号土坑（第 130・131 図 PL15）

位置 C 区北部の O3d2 区、標高 44 m ほどの平坦な台地上に位置している。

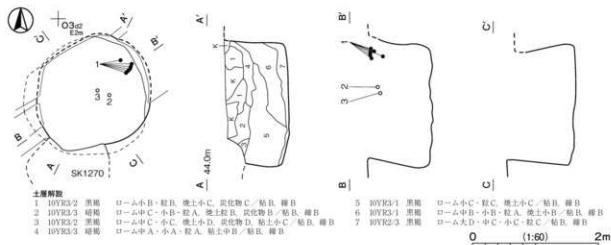
重複関係 第 1270 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 複乱を受けているが、長径 1.94 m、短径 1.71 m の楕円形と推定でき、長径方向は N-48°-E である。深さは 104 cm で、壁は北東部を除いて内傾している。底面は若干の凹凸が見られる。

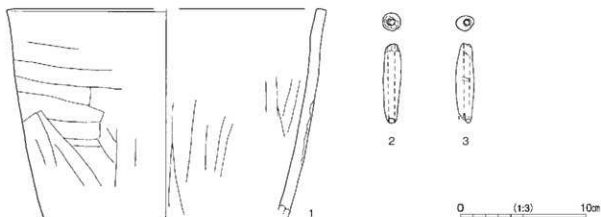
覆土 7 層に分層できる。各層にロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。

遺物出土状況 土師器片 36 点（坏 2、甕 1、壺 1、甕類 31、瓶 1）、須恵器片 19 点（坏 8、甕 3、短頸壺 1、甕類 7）、土製品 2 点（管状土錘）が出土している。1 は覆土上層から出土した破片が接合したものである。2・3 は覆土上層から出土している。

所見 時期は、出土土器から 9 世紀中葉～後葉と考えられる。形状から墓坑の可能性がある。



第 130 図 第 1290 号土坑実測図



第131図 第1290号土坑出土遺物実測図

第60表 第1290号土坑出土遺物一覧

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師器	瓶	24.0	(166)	-	長石・石英	橙	普通	体部外・内面ナデ 把手部欠損	覆土上層	10%
番号	器種	長さ	径	孔径	重量	胎土	色調	特徴		出土位置	備考
2	管状土師	6.4	1.4	0.4-0.5	11.31	長石・石英	明赤褐色	外面ナデ	穿孔	覆土上層	
3	管状土師	6.4	1.2-1.4	0.5	(8.73)	長石・石英	にぶい黄褐色	外面ナデ	穿孔 片方欠損	覆土上層	

第1291号土坑 (第132図 PL15)

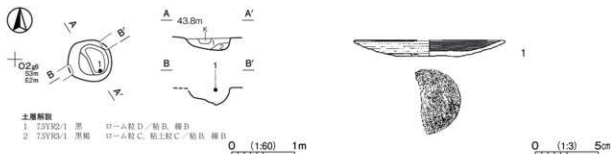
位置 C区北部のO2g8区、標高44mほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 長径0.70m、短径0.63mの楕円形で、長径方向はN-86°-Wである。深さは28cmで、壁は外傾している。底面は皿状で、東側にやや傾斜している。

覆土 2層に分層できる。周辺の土砂が流れ込んだ自然堆積である。

遺物出土状況 土師器片5点(坏3, 皿1, 甕類1)が出土している。1は覆土上層から出土している。

所見 時期は、出土土器から9世紀後葉～10世紀前葉と考えられる。



第132図 第1291号土坑・出土遺物実測図

第61表 第1291号土坑出土遺物一覧

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師器	皿	11.9	1.3	5.1	長石・石英・赤色砂子	にぶい黄褐色	普通	口縁部・体部外面口タロナデ 内面へら磨き 体部下端・底面回転へら磨り	覆土上層	40%

第 1297 号土坑 (第 133 図)

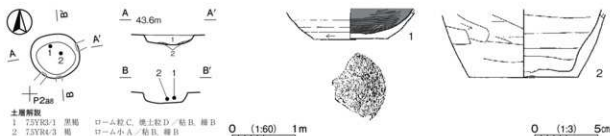
位置 C区北部のO2j8区、標高44mほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 長径0.78m、短径0.72mの円形である。深さは18cmで、壁は外傾している。底面は平坦である。

覆土 2層に分層できる。ロームブロックや焼土粒子が含まれていることから、埋め戻されている。

遺物出土状況 土師器片8点(環3、甕類5)が出土している。1・2は覆土中層から出土している。

所見 時期は、出土土器から9世紀中葉と考えられる。



第 133 図 第 1297 号土坑・出土遺物実測図

第 62 表 第 1297 号土坑出土遺物一覧

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師器	環	-	(24)	[5.8]	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部外面ロクロナデ 内面へう磨き 体部下縁・底面回転へう削り	覆土中層	20%
2	土師器	甕	-	(54)	[8.7]	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	体部外面下手へう削り 内面ナデ	覆土中層	5%

第 1305 号土坑 (第 134 図 PL15)

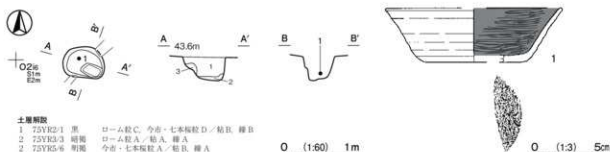
位置 C区中央部のO2i6区、標高44mほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 長径0.65m、短径0.48mの楕円形で、長径方向はN-82°-Wである。深さは39cmで、壁は外傾しているが、東側は直立している。底面は皿状である。

覆土 3層に分層できる。不規則な堆積状況から、埋め戻されている。

遺物出土状況 土師器片2点(環)が出土している。1は覆土下層から出土している。

所見 時期は、出土土器から10世紀前葉と考えられる。



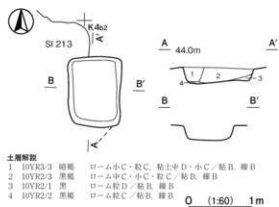
第 134 図 第 1305 号土坑・出土遺物実測図

第 63 表 第 1305 号土坑出土遺物一覧

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師器	環	[139]	4.3	[7.6]	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口縁部・体部外面ロクロナデ 内面へう磨き	覆土下層	20%

第 1309 号土坑 (第 135 図)

位置 D区北部のK4b2区、標高44mほどの平坦な台地上に位置している。



第 135 図 第 1309 号土坑実測図

重複関係 第 213 号竪穴建物跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸 1.11 m、短軸 0.84 m の長方形で、長軸方向は $N-0^\circ$ である。深さは 24 cm で、壁はほぼ直立している。底面は平坦である。

覆土 4 層に分層できる。ロームブロックやローム粒子が含まれていることから、埋め戻されている。

遺物出土状況 土師器片 6 点 (坏 5、甕類 1) が出土している。細片のため図示できない。

所見 時期は、重複関係や出土土器から 9 世紀中葉以降の平安時代と考えられる。

第 1311 号土坑 (第 136 図)

位置 D区北部のK4j1区、標高44mほどの平坦な台地上に位置している。

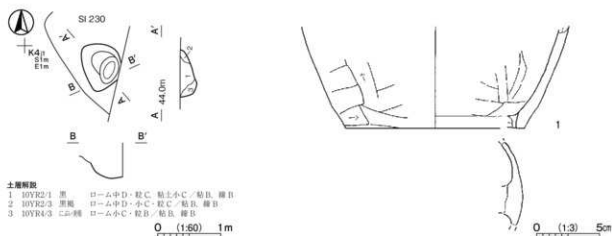
重複関係 第 230 号竪穴建物に掘り込まれている。

規模と形状 東部が調査区域外であるが、長径 0.73 m、短径 0.62 m の不整形円形で、長径方向は $N-40^\circ-W$ である。深さは 27 cm で、壁は外傾している。底面は皿状で、南東側に傾斜している。

覆土 3 層に分層できる。各層にロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。

遺物出土状況 土師器片 1 点 (瓶) が覆土中から出土している。

所見 時期は、重複関係や出土土器から 9 世紀中葉～後葉と考えられる。



第 136 図 第 1311 号土坑・出土遺物実測図

第 64 表 第 1311 号土坑出土遺物一覧

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師器	瓶	-	(8.1)	(14.0)	長石・石英	にぶい橙	普通	体部外面下半へ丸形 内面ナテ 麥孔式	覆土中	5% 内面塗付着

第 1321 号土坑 (第 137・138 図 PL15)

位置 D区南部のN3b6区、標高44mほどの平坦な台地上に位置している。

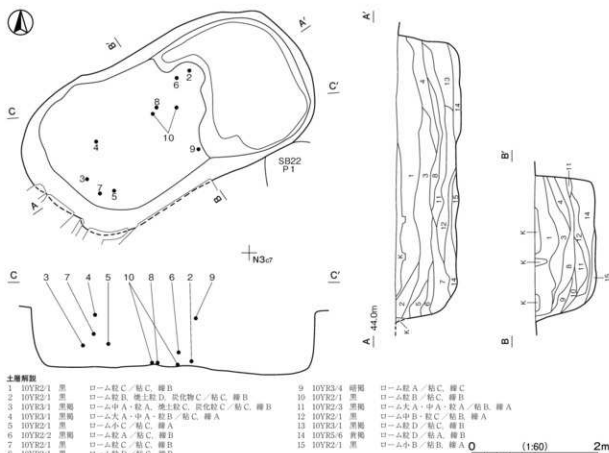
重複関係 第21・22号掘立柱建物跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸4.73m、短軸2.38mの隅丸長方形で、長軸方向はN-65°-Eである。深さは103cmで、壁は直立している。底面はほぼ平坦であるが、北東部は二段掘り込みである。

覆土 15層に分層できる。ロームブロックやローム粒子が含まれていることから、埋め戻されている。

遺物出土状況 土師器片145点(坏16、高台付坏1、甕類128)、須恵器片74点(坏41、高台付坏3、蓋15、盤2、壺3、甕類10)が出土している。8・10は底面から、2・6は覆土下層から、3・5・7は覆土中層から、4・9は覆土上層から、1は覆土中からそれぞれ出土している。

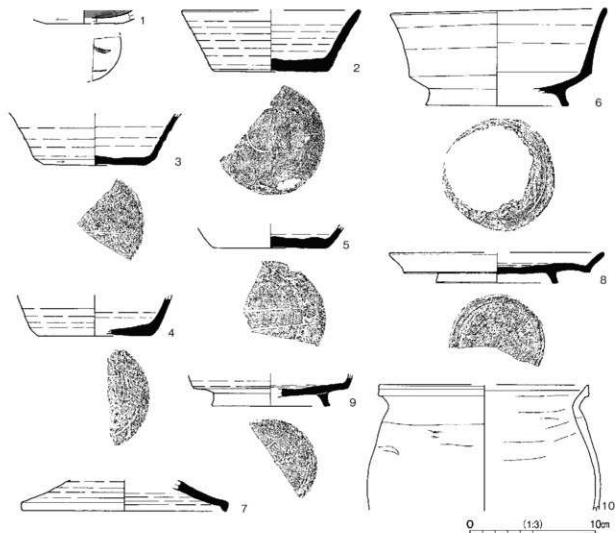
所見 時期は、出土土器から9世紀前葉と考えられる。土坑墓の可能性もあるが詳細は不明である。



第 137 図 第 1321 号土坑実測図

第 65 表 第 1321 号土坑出土遺物一覧

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴はか	出土位置	備考
1	土師器	坏	-	(1.0)	(6.0)	長石・石英・ 赤土粒子	にぶい橙	普通	内面へラ磨き 体部下端・底部回転へラ磨り	覆土中	5% 蓋蓋 [□]
2	須恵器	坏	[140]	4.9	8.8	長石・石英・ 針状物質	黄灰	普通	口縁部・体部外・内面口ロナデ 底部回転へラ磨り後ナデ	覆土下層	50% PL40 木蓋下蓋
3	須恵器	坏	-	(4.1)	[8.1]	長石・石英	黄灰	普通	体部外・内面口ロナデ 体部下端回転へラ磨り 底部回転へラ磨り後 一方内ナデ	覆土中層	10% 木蓋下層 へラ記号 [一]
4	須恵器	坏	-	(3.3)	[8.8]	長石・石英	黄灰	普通	体部外・内面口ロナデ 底部回転へラ磨り後	覆土上層	20% 木蓋下層 へラ記号 [W]
5	須恵器	坏	-	(1.9)	[8.8]	長石・石英	黄灰	普通	体部外・内面口ロナデ 底部回転へラ磨り	覆土中層	10% 木蓋下層 へラ記号 [一]
6	須恵器	高台付坏	17.0	7.8	11.2	長石・石英・ 針状物質・組織	黄灰	普通	口縁部・体部外・内面口ロナデ 体部下端回転へラ磨り 底部回転へラ磨り後高台磨り後 底部打ち欠き	覆土下層	80% PL40 木蓋下蓋



第138図 第1321号土坑出土遺物実測図

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
7	須恵器	蓋	[160]	[25]	-	長石・石英	褐色	普通	外周部外・内周クロナデ	覆土中層	10%
8	須恵器	盤	[170]	2.4	96	長石・石英・ 黒色砂子	褐色	良好	口縁部・体部外・内面クロナデ 底部斜転へ う張り後黒白胎付け	底面	40% へう記号「-」
9	須恵器	盤	-	[26]	[90]	長石・石英	褐色	普通	体部外・内面クロナデ 底部斜転へう張り後 黒白胎付け	覆土上層	30% へう記号「V」
10	土師器	甕	[166]	[100]	-	長石・石英	にぶい赤黄	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外・内面ナデ 積み肌	輪 底面	20%

第1394号土坑 (第139図 PL15)

位置 D区南部のM333区、標高44mほどの平坦な台地上に位置している。

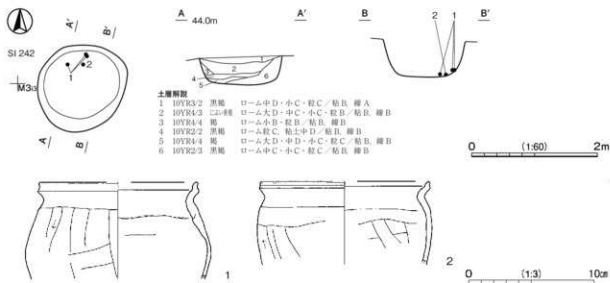
重複関係 第242号竪穴建物跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長径150m、短径134mの楕円形で、長径方向はN-64°-Eである。深さは59cmで、壁は外傾している。底面は平坦である。

覆土 6層に分层できる。ロームブロックや粘土ブロックが含まれていることや不規則な堆積状況から、埋め戻されている。

遺物出土状況 土師器片109点(坏11,皿1,小型甕2,甕類95),須恵器片1点(甕類)が出土している。1・2は底面からそれぞれ出土している。

所見 時期は、重複関係や出土土器から9世紀後葉以前の平安時代と考えられる。



第139図 第1394号土坑・出土遺物実測図

第66表 第1394号土坑出土遺物一覧

番号	種別	図種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考	
1	土師器	小型甕 [124]	(7.7)	-	-	長石・石英・赤色粒子・粗糠	にぶい赤褐色	普通焼	口縁部外・内面横ナデ	体部外面へう張り	輪	底面 30%
2	土師器	小型甕 [133]	(6.6)	-	-	長石・石英・赤色粒子・粗糠	にぶい橙	普通焼	口縁部外・内面横ナデ	体部外面へう張り	内面ナデ	底面 10%

第1395号土坑 (第140・141図 PL15)

位置 D区南部のM33区、標高44mほどの平坦な台地上に位置している。

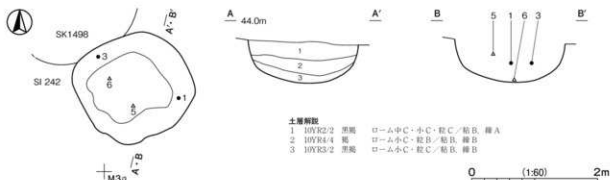
重複関係 第242号堅穴建物跡を掘り込んでいる。第1498号土坑との新旧関係は不明である。

規模と形状 長軸1.74m、短軸1.64mの隅丸方形で、長軸方向はN-64°-Eである。深さは70cmで、壁は外傾している。底面は皿状である。

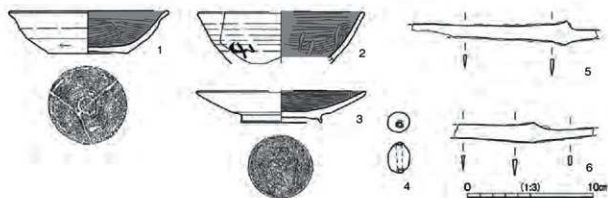
覆土 3層に分層できる。各層にロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。

遺物出土状況 土師器片56点(坏27, 高台付坏2, 高台付皿1, 甕類26), 須恵器片4点(盤2, 甕類2), 土製品1点(土玉), 金属製品2点(刀子)が出土している。6は底面から、1・3は覆土中層から、5は覆土上層から、2・4は覆土中からそれぞれ出土している。

所見 時期は、重複関係や出土土器から9世紀後葉と考えられる。



第140図 第1395号土坑実測図



第 141 図 第 1395 号土坑出土遺物実測図

第 67 表 第 1395 号土坑出土遺物一覧

番号	器種	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考	
1	土師器	杯	124	34	62	長石・石英・赤色粘土	にぶい橙	普通	口縁部・体部外面口ラロナテ 体部下端・底面回転ヘラ削り	内面ヘラ磨き	覆土中層	90% PL40
2	土師器	杯	[130]	(4.1)	-	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部・体部外面口ラロナテ	内面ヘラ磨き	覆土中	10% PL40 基書「子」
3	土師器	高台付碗	[133]	25	64	長石・石英・赤色粘土	にぶい橙	普通	口縁部・体部外面口ラロナテ 底面回転ヘラ削り高台台輪付け	内面ヘラ磨き	覆土中層	50%

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
4	土玉	1.7	2.4	0.4	6.27	長石・石英	にぶい赤相	外面ナテ 穿孔	覆土中	PL42

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
5	刀子	(14.8)	1.9	0.3	(19.29)	鉄	刃部先端部欠損 茎部欠損 刃部断面三角形 両開	覆土上層	PL44
6	刀子	(11.0)	1.6	0.3	(15.82)	鉄	刃部先端部欠損 茎部欠損 刃部断面三角形 両開	底面	PL44

第 1484 号土坑 (第 142 図 PL16)

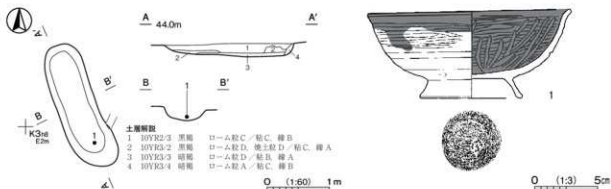
位置 D区北部のK3g8区、標高44mほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 長径2.06m、短径0.62mの楕円形で、長径方向はN-20°-Wである。深さは20cmで、壁は外傾している。底面は皿状である。

覆土 4層に分層できる。不規則な堆積状況から、埋め戻されている。

遺物出土状況 土師器片5点(高台付碗4、甕類1)が出土している。1は覆土下層から出土している。

所見 時期は、出土土器から10世紀前葉と考えられる。



第 142 図 第 1484 号土坑・出土遺物実測図

第 68 表 第 1484 号土坑出土遺物一覧

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師器	高台付碗	160	7.1	7.8	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部・底部内面ロケロナテ外・内面へう磨き 体芯下端回転へう磨り 底部回転へう磨り 縁高直縁付け	覆土下層	90% PL40

第 69 表 奈良・平安時代土坑一覧

番号	位置	長径方向	平面形	規 模		底面	壁面	覆土	主な出土遺物	備 考
				長径×短径 (m)	深さ (cm)					
1240	O 3b4	-	不整形円形	1.01 × 0.93	18	平坦	外傾	自然	土師器, 須恵器	SI207 → 本跡
1241	O 3a4	-	[円形・楕円形]	1.10 × (0.48)	22	平坦	外傾	自然	-	SI207 → 本跡
1242	N 3 j1	-	[円形]	0.94 × 0.94	30	平坦	ほぼ直立	自然	土師器, 須恵器, 管状土師	本跡 → SI204 SK1261 と重複
1264	P 2 e9	N-80°-E	楕円形	1.01 × 0.82	32	平坦	直立	人為	土師器, 須恵器	SI223 → 本跡
1270	O 3d2	-	円形	1.28 × 1.27	28	平坦	外傾	不明	土師器, 須恵器	SK1290 → 本跡
1290	O 3d2	N-48°-E	[楕円形]	[1.94] × [1.71]	104	凹凸	内傾	人為	土師器, 須恵器, 管状土師	本跡 → SK1270
1291	O 2g8	N-80°-W	楕円形	0.70 × 0.63	28	皿状	外傾	自然	土師器	
1297	O 2 j8	-	円形	0.78 × 0.72	18	平坦	外傾	人為	土師器	
1305	O 2 i6	N-82°-W	楕円形	0.65 × 0.48	39	皿状	外傾	人為	土師器	
1309	K 4k2	N-0°	長方形	1.11 × 0.84	24	平坦	ほぼ直立	人為	土師器	SI213 → 本跡
1311	K 4 j1	N-40°-W	不整形円形	0.73 × 0.62	27	皿状	外傾	人為	土師器	本跡 → SI230
1321	N 3 b6	N-65°-E	隅丸長方形	4.73 × 2.28	103	平坦	直立	人為	土師器, 須恵器	SE21-22 → 本跡
1294	M 3 i3	N-64°-E	楕円形	1.50 × 1.34	59	平坦	外傾	人為	土師器, 須恵器	SI242 → 本跡
1305	M 3 i3	N-64°-E	隅丸方形	1.74 × 1.64	70	皿状	外傾	人為	土師器, 須恵器, 土玉, 刀子	SI242 → 本跡 SK1498 と重複
1484	K 3g8	N-20°-W	楕円形	2.06 × 0.62	20	皿状	外傾	人為	土師器	

4 中世の遺構と遺物

当時代の遺構は、掘立柱建物跡 2 棟、井戸跡 1 基、土坑 1 基を確認した。以下、遺構及び遺物について記述する。

(1) 掘立柱建物跡

第 23 号掘立柱建物跡 (第 143 図)

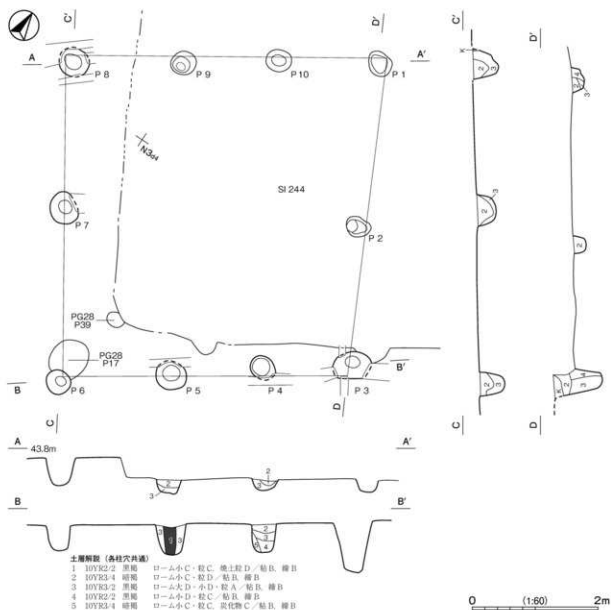
位置 D 区南部の N 3d4 区、標高 44 m ほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第 244 号堅穴建物跡、第 28 号ピット群を掘り込んでいる。

規模と構造 規模は桁行 3 間、梁行 2 間の掘立柱建物跡で、桁行方向が N-31°-W の東西棟と推定できる。確認できた規模は桁行 5.10 m、梁行 5.10 m で、面積は 26.01 m² である。柱間寸法は、桁行が P 1-P 10 間が 1.8 m (6 尺)、P 10-P 9 間が 1.5 m (5 尺)、P 9-P 8 間が 1.8 m (6 尺)、P 3-P 4 間が 1.5 m (5 尺)、P 4-P 5 間が 1.5 m (5 尺)、P 5-P 6 間が 1.5 m (5 尺) で柱筋はほぼ揃っている。また梁行は P 6-P 7 間が 2.7 m (9 尺)、P 7-P 8 間が 2.4 m (8 尺)、P 3-P 2 間が 2.4 m (8 尺)、P 2-P 1 間が 2.7 m (9 尺) で、ばらつきがある。P 2・P 3 はやや内側に位置している。

柱穴 10 か所。平面形は円形または楕円形で、長径 39~62 cm、短径 33~46 cm である。深さ 20~80 cm で、掘方の壁はほぼ直立している。P 5 の第 1 層は柱痕跡、第 3 層は柱材を抜き取った後の覆土である。その他のピットの第 2~5 層は柱材を抜き取った後の覆土である。

所見 時期は、重複関係や周辺の出土遺物から、中世以降と考えられる。



第143図 第23号掘立柱建物跡実測図

第25号掘立柱建物跡 (第144図 PL16)

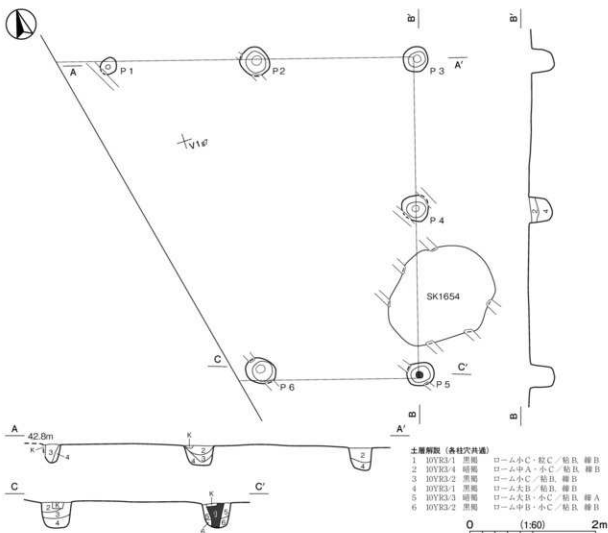
位置 A区南部のV1g7区、標高43mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第1654号土坑と重複しているが、新旧関係は不明である。

規模と構造 南西部が調査区域外のため、規模は桁行2間以上、梁行2間の側柱建物跡で、桁行方向がN-72°-Wの東西棟と推定できる。確認できた規模は桁行4.80m以上、梁行5.10mである。柱間寸法は、桁行がP1-P2間が2.4m(8尺)、P2-P3間が2.4m(8尺)、P5-P6間が2.4m(8尺)で、等間で揃っている。また梁行はP3-P4間が2.4m(8尺)、P4-P5間が2.7m(9尺)で、柱筋は揃っている。

柱穴 6か所。平面形は円形または楕円形で、長径28~49cm、短径25~42cmである。深さ31~40cmで、掘方の壁はほぼ直立している。P5の第1層は柱痕跡、第5・6層は埋土である。その他のピットの第2~4層は柱材を抜き取った後の覆土である。P5の底面で柱のあたりを確認した。

所見 時期は、規模や形状から中世以降と考えられる。



第144図 第25号掘立柱建物跡実測図

第70表 中世の掘立柱建物跡一覧

番号	位置	掘行方向	柱間数	規模 桁×梁間 桁×梁間(m)	面積 (㎡)	柱間寸法		柱穴		主な出土遺物	時期	備考	
						桁間(m)	梁間(m)	構造	柱数				平面形
23	N 344	N-31°-W	3×2	5.10×5.10	26.01	1.5~1.8	2.4~2.7	欄柱	10	円形・楕円形	20~80	-	中世以降 SE244.PG28→本跡
25	V 1g7	N-72°-W	2)×2	(4.80)×5.10	-	2.4	2.4~2.7	欄柱	6	円形・楕円形	31~40	-	中世以降 SK1654と重複

(2) 井戸跡

第6号井戸跡 (第145図)

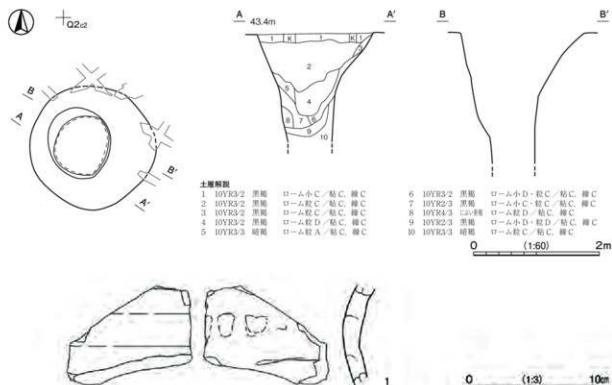
位置 C区中央部のQ2c2区、標高43mほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 長径1.98m、短径1.92mの円形である。確認面から100cmまではほぼ漏斗状に、さらに長径0.98m、短径0.84mの円筒状に掘り込まれている。確認面から深さ200cmほど掘り込まれていることを確認したが、安全面の配慮から下部の調査を断念した。

覆土 確認できた部分は、10層に分層できる。ロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。

遺物出土状況 陶器片6点(甕類)が出土している。1は覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器から中世と考えられる。



第145図 第6号井戸跡・出土遺物実測図

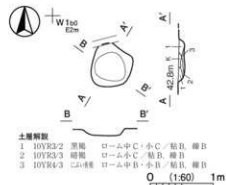
第71表 第6号井戸跡出土遺物一覧

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	文様・特徴	軸差	産地	出土位置	備考
1	陶器	甕	-	(79)	-	長石・石英に多い赤褐色	胴部外面ナデ 内面磨頭痕 輪積み痕	自然軸	常滑	覆土中	5%

(3) 土坑

第1651号土坑 (第146・147図 PL16)

位置 A区南部のW1b0区、標高43mほどの平坦な台地上に位置している。



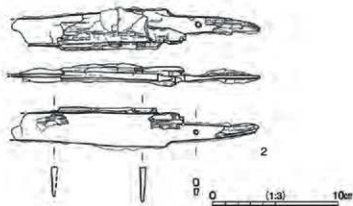
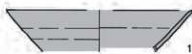
第146図 第1651号土坑実測図

規模と形状 長径0.68m、短径0.65mの不整形である。深さは10cmで、壁は外傾している。底面は平坦である。

覆土 3層に分層できる。各層にロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。

遺物出土状況 磁器片2点(碗、皿)、金属製品1点(短刀)が出土している。1・2は覆土中から出土している。埋め戻しに伴って投棄されたものと考えられる。

所見 時期は、出土遺物から中世と考えられる。



第 147 図 第 1651 号土坑出土遺物実測図

第 72 表 第 1651 号土坑出土遺物一覧

番号	種別	器種	口径	器高	口径	胎土・色調	文様・特徴	胎葉	産地	出土位置	備考
1	銅器	鏡	[14.7]	(3.3)	-	銅青 灰白	ロク口成形	透明軸	龍泉原	覆土中	5%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
2	短刀	(199)	3.4	(1.5)	(102.1)	鉄	刀身部・基部残存 2片折損 木質付着 両側	覆土中	PL44

第 1651 号土坑出土遺物の樹種同定 (短刀付着木質部)

株式会社 イビソク

下大賀遺跡は茨城県那珂市に所在する遺跡で、室町時代とされる短刀が発見された。短刀の一部には鞘とみられる部位に木材構造が残っていることが確認されたため樹種同定を試みた。同定に充てた試料は木材の細胞が二次鋸物に置換され固結した状態であったことから、適宜割取り実体顕微鏡を用いて同定可能な横断面、放射断面、接線断面を選び、反射光式顕微鏡で観察し同定をおこなった。

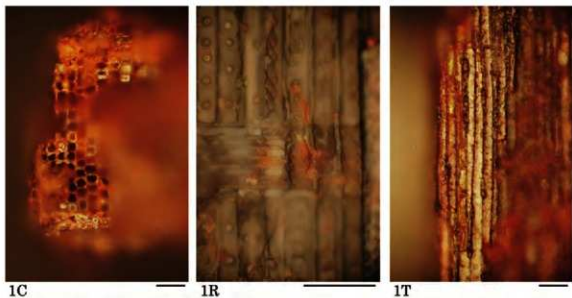
短刀の鞘材として利用されていた木材はヒノキ科のヒノキ (*Chamaecyparis obtusa* Endl.) と同定された。以下に観察結果を示す。

横断面では晩材部の幅がきわめて薄く仮道管は均質緻密である。放射断面で放射組織を確認するとすべて放射柔細胞からなり、分野壁孔はヒノキ型で小さく口孔は斜め縦方向に開き 1 分野に 2 個存在している。接線断面では 1-10 細胞高程度の放射組織が確認できる。

茨城県内の室町時代における刀鞘材の同定例は不明であったが、古墳時代では近隣の千葉県でヒノキ、スギなどの針葉樹が使われており、戦国～江戸時代後半とみられる群馬県の波志江西宿遺跡 I でもヒノキを用いている (伊東ほか 2012)。古墳時代から近世に至るまで時代を下っても鞘材にヒノキが選択的に使われ続けていたと考えられる。

引用文献

伊東隆夫・山田昌久, 2012. 木の考古学 出土木製品データベース. 海青社, 449pp.



図版1 下大賀遺跡出土土刀剣付着木質部の木材組織の顕微鏡写真
 C：横断面，R：放射断面，T：接線断面，スケールは0.1mm

技術協力：吉川純子（古代の森研究舎）



X線透過写真：No 1 平面・断面方向（撮影条件：70-90 kV 5mA 30sec）

5 その他の遺構と遺物

今回の調査では、時期や性格が明確にできなかった柱穴列1条、土坑229基、溝跡19条、道路跡1条、ピット群22か所、掘り込み遺構1基を確認した。以下、遺構及び遺物について記述する。

(1) 柱穴列

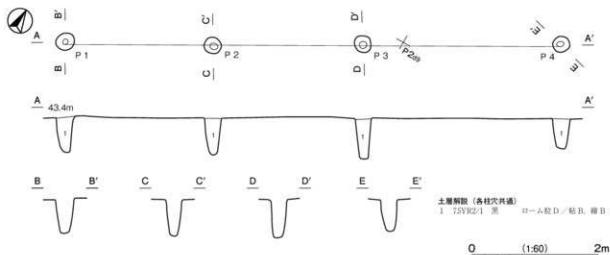
第4号柱穴列 (第148図)

位置 C区中央部のP2d8区、標高43mほどの平坦な台地上に位置している。

規模と構造 東西方向7.80mの間に並ぶ柱穴4か所を確認した。配列方向はN-61°-Eである。柱間寸法はP1-P2とP2-P3間は2.4m(8尺)で等間隔で、P3-P4間は3.0m(10尺)である。

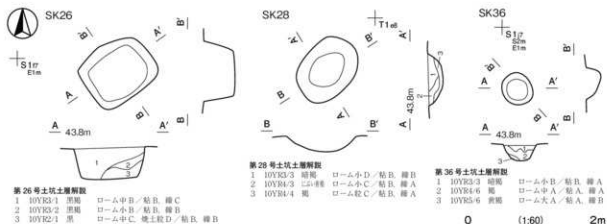
柱穴 4か所。平面形は円形で、長径28~32cm、短径22~29cmである。深さは48~62cmで、掘方の壁はほぼ直立している。第1層は柱材の抜き取り後の覆土である。

所見 時期は、中世以降と考えられるが不明である。

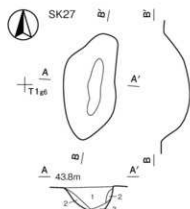


第148図 第4号柱穴列実測図

(2) 土坑 (149~168図)

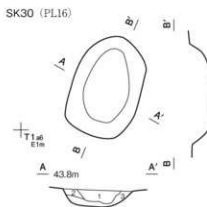


第149図 その他の土坑実測図(1)



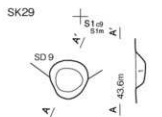
第27号土坑土層解説

- 1 10YR3-1 土層 ローム小D / 粘B、粘B
- 2 10YR4-3 土層 ローム中B / 粘A、粘B
- 3 10YR3-2 土層 ローム小C / 粘B、粘A



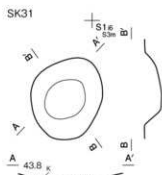
第30号土坑土層解説

- 1 10YR3-2 土層 ローム粒D / 粘B、粘B
- 2 10YR3-4 土層 ローム小C / 粘B、粘B
- 3 10YR3-3 土層 ローム粒D / 粘B、粘B



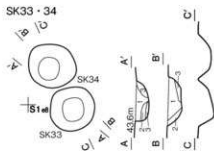
第29号土坑土層解説

- 1 10YR2-1 土層 ローム小C / 粘B、粘B



第31号土坑土層解説

- 1 10YR3-3 土層 ローム小C / 粘B、粘B
- 2 10YR4-3 土層 ローム中B / 粘A、粘B
- 3 10YR3-4 土層 ローム小D / 粘B、粘B



第33号土坑土層解説

- 1 10YR4-3 土層 ローム小A / 粘B、粘A
- 2 10YR4-6 土層 ローム中A / 粘A、粘A
- 3 10YR5-6 土層 ローム大A / 粘B、粘A

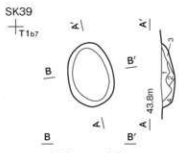
第34号土坑土層解説

- 1 10YR3-3 土層 ローム小A / 粘B、粘A
- 2 10YR5-6 土層 ローム中A / 粘B、粘B
- 3 10YR2-2 土層 ローム小D / 粒C、焼土粒D / 粘B、粘B



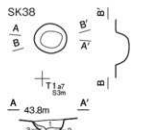
第32号土坑土層解説

- 1 10YR2-1 土層 ローム小C / 粘B、粘B
- 2 10YR3-2 土層 ローム小C / 粘B、粘A



第39号土坑土層解説

- 1 10YR1-1 土層 ローム粒A / 粘B、粘A
- 2 10YR5-4 土層 ローム小C / 粒A / 粘B、粘A
- 3 10YR4-3 土層 ローム中C / 粒A / 粘B、粘A
- 4 10YR5-8 土層 ローム中C / 粒A / 粘B、粘B



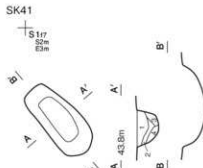
第38号土坑土層解説

- 1 10YR2-2 土層 ローム粒C / 粘B、粘B
- 2 10YR5-6 土層 ローム大B / 粘A、粘B
- 3 10YR5-6 土層 ローム大A / 粘B、粘B



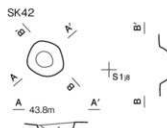
第35号土坑土層解説

- 1 10YR3-3 土層 ローム小C / 粘B、粘B
- 2 10YR4-4 土層 ローム中B / 粘B、粘B
- 3 10YR5-4 土層 ローム大A / 粘B、粘A



第41号土坑土層解説

- 1 10YR4-1 土層 ローム粒A / 粘B、粘A
- 2 10YR5-4 土層 ローム小C / 粒A / 粘B、粘A
- 3 10YR4-3 土層 ローム中C / 粒A / 粘B、粘A
- 4 10YR5-8 土層 ローム中C / 粒A / 粘B、粘B



第42号土坑土層解説

- 1 10YR3-4 土層 ローム粒A / 粘C、粘A
- 2 10YR5-8 土層 ローム粒B / 粘B、粘B

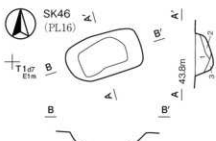


第37号土坑土層解説

- 1 10YR2-1 土層 ローム粒C / 粘B、粘B
- 2 10YR2-2 土層 ローム粒C / 粘A、粘A
- 3 10YR4-6 土層 ローム中B / 粘A、粘A
- 4 10YR4-4 土層 ローム小C / 粘A、粘B

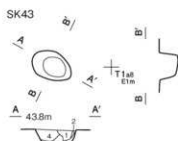
0 (1:60) 2m

第150図 その他の土坑実測図(2)



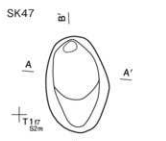
第46号土坑土層解説

- 1 10YR5-8 黄褐色 ローム粒A / 粘C、礫A
- 2 10YR5-6 黄褐色 ローム粒B / 粘B、礫B
- 3 10YR5-8 明黄褐色 ローム粒C / 粘A、礫B



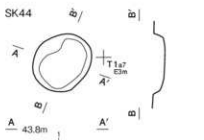
第43号土坑土層解説

- 1 10YR2-2 黒褐色 ローム粒C / 粘C、礫B
- 2 10YR4-4 褐色 ローム粒C / 粘B、礫B
- 3 10YR2-4 黒褐色 ローム大B / 粘B、礫B
- 4 10YR3-1 黒褐色 ローム粒C / 粘C、礫A
- 5 10YR3-4 暗褐色 ローム小B / 粘A、礫B



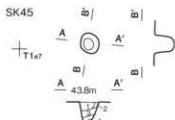
第47号土坑土層解説

- 1 10YR2-1 黒褐色 ローム粒D / 粘C、礫A
- 2 10YR2-2 黒褐色 ローム粒B / 粘C、礫A
- 3 10YR3-1 黒褐色 ローム小C、粒C / 粘C、礫A
- 4 10YR3-1 黒褐色 ローム小B / 粘C、礫A
- 5 10YR3-4 暗褐色 ローム粒C / 粘B、礫B
- 6 10YR4-4 褐色 ローム中B / 粘B、礫B



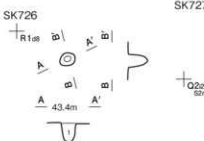
第44号土坑土層解説

- 1 10YR2-2 黒褐色 ローム小C、粒C / 粘B、礫B
- 2 10YR6-6 明黄褐色 ローム大A / 粘B、礫A
- 3 10YR6-3 赤褐色 ローム中B / 粘B、礫B
- 4 10YR3-4 暗褐色 ローム小B、粒C / 粘B、礫B



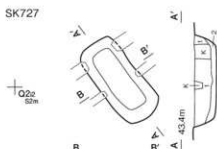
第45号土坑土層解説

- 1 10YR2-1 黒褐色 ローム粒C / 粘C、礫C
- 2 10YR4-4 褐色 ローム小B / 粘B、礫C
- 3 10YR4-4 褐色 ローム大B / 粘B、礫C
- 4 10YR5-6 黄褐色 ローム大A / 粘A、礫B



第726号土坑土層解説

- 1 75YR2-2 黒褐色 ローム小D、粒C / 粘B、礫B



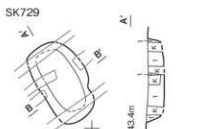
第727号土坑土層解説

- 1 10YR3-1 黒褐色 ローム中C、小B、粒B / 粘B、礫B
- 2 10YR3-1 黒褐色 ローム中C、小C、粒D / 粘B、礫B



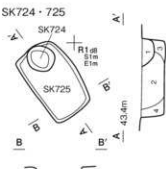
第728号土坑土層解説

- 1 10YR3-1 黒褐色 ローム小C、粒B / 粘B、礫B
- 2 10YR3-1 黒褐色 ローム小C、粒C / 粘B、礫B
- 3 10YR2-2 黒褐色 ローム小B、粒B / 粘B、礫B



第729号土坑土層解説

- 1 10YR3-1 黒褐色 ローム中C、小D、粒D / 粘B、礫B



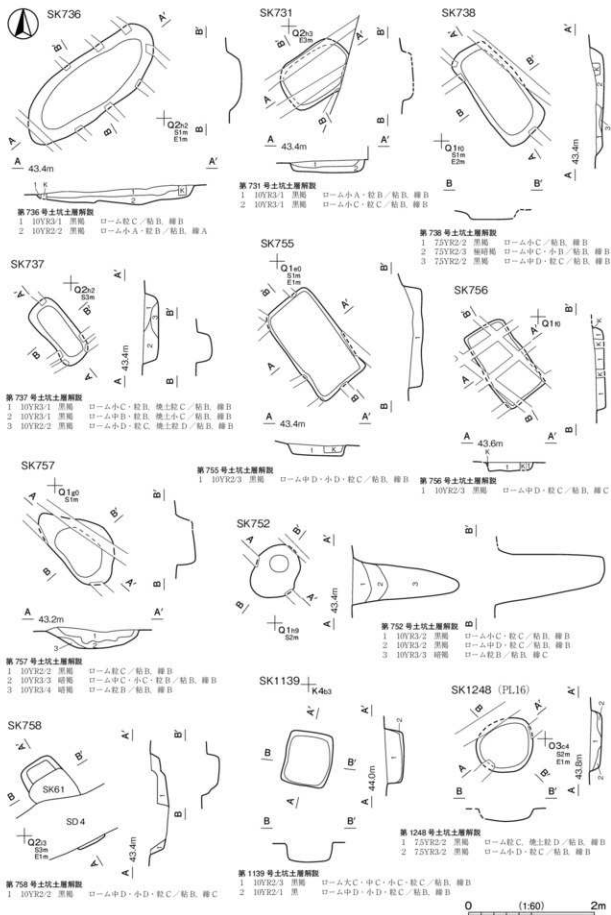
第724・725号土坑土層解説

- 1 75YR3-1 黄褐色 ローム小B、粒C / 粘B、礫B
- 2 75YR3-3 暗褐色 ローム小B / 粘B、礫B
- 3 75YR3-4 暗褐色 ローム中D、粒C / 粘B、礫B
- 4 75YR3-2 黒褐色 ローム中D、粒C / 粘B、礫B



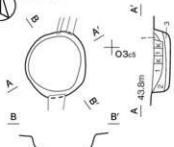
第730号土坑土層解説

- 1 10YR3-1 黒褐色 ローム中C、小C、粒B、炭化粒D / 粘B、礫B
- 2 10YR3-1 黒褐色 ローム中C、粒B、炭化粒D / 粘B、礫B



第 152 図 その他の土坑実測図 (4)

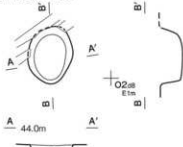
SK1245



第 1245 号土坑土層解説

- 1 10YR2/1 黒 rome 粒 D / 粘 B, 雜 B
- 2 10YR2/2 黒 rome rome 中 D - 小 D - 粒 C / 粘 B, 雜 B
- 3 10YR3/3 赤黒 rome rome 中 D - 小 C - 粒 B / 粘 B, 雜 B

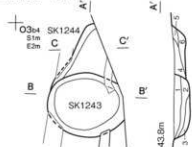
SK1239 (PL16)



第 1239 号土坑土層解説

- 1 7.5YR2/2 黒 rome rome 中 C / 粘 B, 雜 B
- 2 7.5YR3/1 赤黒 rome rome 中 C / 粘 B, 雜 B
- 3 7.5YR2/2 黒 rome rome 中 B / 粘 B, 雜 B

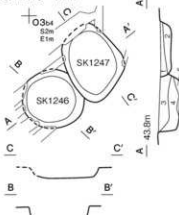
SK1243 - 1244



第 1243 - 1244 号土坑土層解説

- 1 10YR2/1 黒 rome rome 小 D - 粒 C / 粘 B, 雜 B
- 2 10YR3/2 黒 rome rome 中 C - 小 C - 粒 C / 粘 B, 雜 B
- 3 10YR4/4 黒 rome rome 小 B - 粒 B / 粘 B, 雜 B
- 4 10YR2/2 黒 rome rome 中 C / 粘 B, 雜 B
- 5 10YR2/3 黒 rome rome 小 C - 粒 C / 粘 B, 雜 B
- 6 10YR4/3 赤黒 rome rome 小 C - 粒 B / 粘 B, 雜 B

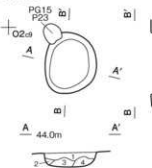
SK1246 - 1247



第 1246 - 1247 号土坑土層解説

- 1 10YR2/3 黒 rome rome 小 C - 粒 B / 粘 B, 雜 B
- 2 10YR2/2 黒 rome rome 小 D - 粒 C / 粘 B, 雜 B
- 3 10YR2/1 黒 rome rome 中 D - 小 C / 粘 B, 雜 B
- 4 10YR2/2 黒 rome rome 中 D - 小 C - 粒 C / 粘 B, 雜 B
- 5 10YR3/3 赤黒 rome rome 中 C - 小 C - 粒 C / 粘 B, 雜 B

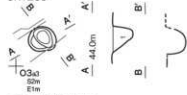
SK1255



第 1255 号土坑土層解説

- 1 10YR3/2 黒 rome rome 中 D - 粒 C / 粘 B, 雜 B
- 2 10YR4/3 赤黒 rome rome 中 B - 粒 B, 雜 B
- 3 10YR2/3 黒 rome rome 中 D - 粒 C / 粘 B, 雜 B
- 4 10YR3/3 赤黒 rome rome 小 C - 粒 C / 粘 B, 雜 B

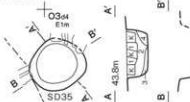
SK1250



第 1250 号土坑土層解説

- 1 7.5YR3/2 黒 rome rome 中 C / 粘 B, 雜 B

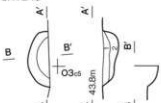
SK1251



第 1251 号土坑土層解説

- 1 10YR3/2 黒 rome rome 中 D - 小 C - 粒 C / 粘 B, 雜 B
- 2 10YR3/4 暗黒 rome rome 大 C - 中 C - 小 C - 粒 B / 粘 B, 雜 B
- 3 10YR2/1 黒 rome rome 小 D - 粒 C / 粘 B, 雜 B
- 4 10YR2/2 黒 rome rome 中 D - 粒 C / 粘 B, 雜 B

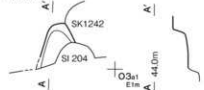
SK1249



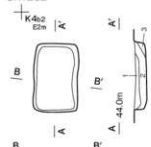
第 1249 号土坑土層解説

- 1 10YR2/2 黒 rome rome 中 C - 小 D - 粒 C / 粘 B, 雜 B
- 2 10YR3/3 赤黒 rome rome 中 D - 小 C - 粒 B / 粘 B, 雜 B

SK1261



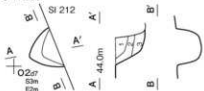
SK1262



第 1262 号土坑土層解説

- 1 10YR3/1 赤黒 rome rome 中 D - 小 C - 粒 C / 粘 B, 雜 B
- 2 10YR2/3 黒 rome rome 大 D - 中 C - 小 C - 粒 C / 粘 B, 雜 B
- 3 10YR2/1 黒 rome rome 小 D - 粒 C / 粘 B, 雜 B

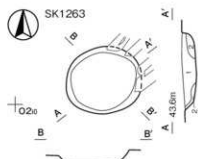
SK1269



第 1269 号土坑土層解説

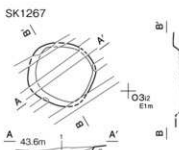
- 1 10YR3/1 赤黒 rome rome 中 C - 粒 B / 粘 B, 雜 B
- 2 10YR3/1 赤黒 rome rome 小 D - 粒 B / 粘 B, 雜 B
- 3 10YR3/1 赤黒 rome rome 中 C - 小 C - 粒 B / 粘 B, 雜 B

第 153 頁 その他の土坑実測図 (5)



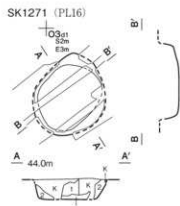
SK1263

- 第 1263 号土坑土層解説
 1 10YR3-1 黒焼土 ローム中・C・粘土 層B
 2 10YR3-2 黒焼土 ローム中・B・粘土 粘土 層B



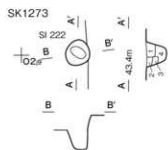
SK1267

- 第 1267 号土坑土層解説
 1 10YK2-3 黒焼土 ローム小・C・粘土 層B
 2 10YR4-4 焼土 ローム小・B・粘土 層B



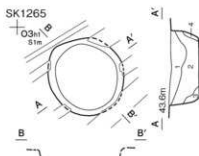
SK1271 (PL16)

- 第 1271 号土坑土層解説
 1 10YR3-1 黒焼土 ローム小・C・粘土 層B
 2 10YR3-1 黒焼土 ローム小・B・粘土 層B



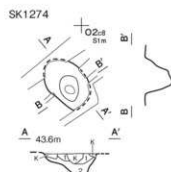
SK1273

- 第 1273 号土坑土層解説
 1 10YK2-1 黒焼土 ローム粘土 粘土 層C
 2 10YK2-3 黒焼土 ローム粘土 粘土 層C
 3 10YR3-1 黒焼土 ローム小・C・粘土 層C
 4 10YK2-2 黒焼土 ローム小・粘土 層B



SK1265

- 第 1265 号土坑土層解説
 1 10YK2-3 黒焼土 ローム中・D・小・C・粘土 層B
 2 10YR3-3 焼土 ローム中・C・粘土 層B
 3 10YR3-4 焼土 ローム大・D・小・粘土 層B
 4 10YR2-1 黒焼土 ローム粘土 層B



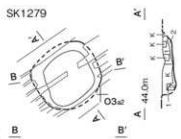
SK1274

- 第 1274 号土坑土層解説
 1 10YR3-3 焼土 ローム小・C・粘土 層B
 2 10YR4-3 焼土 粘土 層B



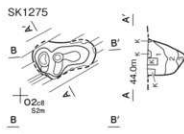
SK1272

- 第 1272 号土坑土層解説
 1 75YK3-2 黒焼土 ローム粘土 粘土 層B
 2 75YR3-3 焼土 ローム粘土 粘土 層B
 3 75YR2-3 焼土 粘土 層B
 4 75YR2-2 黒焼土 ローム小・D・粘土 層B
 5 75YR4-1 焼土 ローム小・粘土 層B



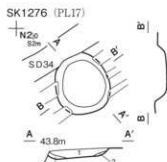
SK1279

- 第 1279 号土坑土層解説
 1 10YR2-2 黒焼土 ローム中・D・粘土 層B
 2 10YR4-3 焼土 粘土 層B



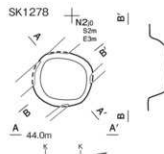
SK1275

- 第 1275 号土坑土層解説
 1 10YR3-2 黒焼土 ローム中・D・粘土 層B
 2 10YR3-4 焼土 ローム小・C・粘土 層B
 3 10YR4-3 焼土 粘土 層B



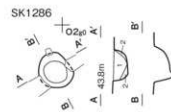
SK1276 (PL17)

- 第 1276 号土坑土層解説
 1 10YR3-2 黒焼土 ローム中・D・粘土 層B
 2 10YR3-3 焼土 ローム小・C・粘土 層B
 3 10YR3-4 焼土 粘土 層B



SK1278

- 第 1278 号土坑土層解説
 1 10YK2-2 黒焼土 ローム中・D・粘土 層B
 2 10YR3-2 黒焼土 ローム小・C・粘土 層B

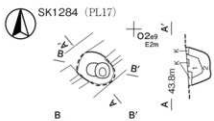


SK1286

- 第 1286 号土坑土層解説
 1 75YK2-2 黒焼土 ローム粘土 層B
 2 75YR4-4 焼土 ローム粘土 層B

0 (1:60) 2m

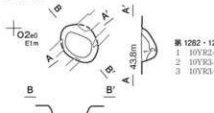
第 154 図 その他の土坑実測図 (6)



第1284号土坑土層解説

- 1 10YR3-2 黒褐色 ローム中B・粒C/粘B、雜B
- 2 10YR3-3 暗褐色 ローム中C・小C・粒C/粘B、雜B

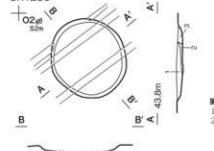
SK1287



第1287号土坑土層解説

- 1 10YR2-2 黒褐色 ローム中C・小C・粒C/粘B、雜B
- 2 10YR3-3 暗褐色 ローム中C・小C・粒C/粘B、雜B

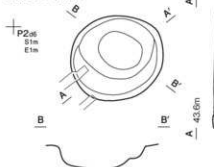
SK1288



第1288号土坑土層解説

- 1 10YR2-1 黒褐色 ローム小D・粒D/粘B、雜A
- 2 10YR3-1 黒褐色 ローム小D・粒C/粘B、雜B
- 3 10YR2-2 黒褐色 ローム粒B/粘B、雜B

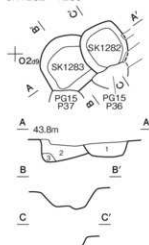
SK1295 (PL17)



第1295号土坑土層解説

- 1 7.5YR2-2 黒褐色 ローム粒D、焼土粒D/粘B、雜A
- 2 7.5YR4-2 灰褐色 ローム粒C/粘B、雜A
- 3 7.5YR4-3 灰褐色 ローム粒C/粘B、雜B
- 4 7.5YR4-4 暗褐色 ローム粒B/粘B、雜B

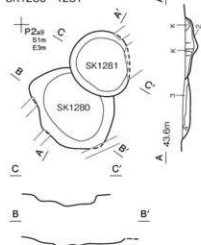
SK1282・1283



第1282・1283号土坑土層解説

- 1 10YR2-3 黒褐色 ローム中D・小C・粒C/粘B、雜B
- 2 10YR3-3 暗褐色 ローム中C・小C・粒C/粘B、雜B
- 3 10YR3-2 黒褐色 ローム小C・粒C/粘B、雜B

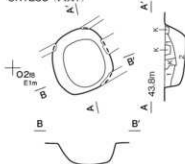
SK1280・1281



第1280・1281号土坑土層解説

- 1 10YR2-2 黒褐色 ローム中D・粒C/粘B、雜B
- 2 10YR3-4 暗褐色 ローム小C・粒B/粘B、雜B
- 3 10YR3-2 黒褐色 ローム中D・小C・粒C/粘B、雜B
- 4 10YR4-4 暗褐色 ローム小C・粒B/粘B、雜B

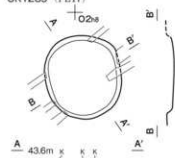
SK1285 (PL17)



第1285号土坑土層解説

- 1 7.5YR3-1 黒褐色 ローム粒D/粘B、雜B
- 2 7.5YR2-1 黒褐色 ローム小D・粒D/粘B、雜B

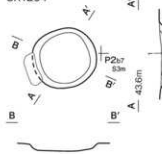
SK1289 (PL17)



第1289号土坑土層解説

- 1 7.5YR2-1 黒褐色 ローム小C・粒C/粘B、雜B

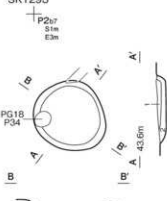
SK1294



第1294号土坑土層解説

- 1 7.5YR3-1 黒褐色 ローム粒D/粘B、雜B
- 2 7.5YR2-2 黒褐色 ローム粒C/粘B、雜B

SK1293



第1293号土坑土層解説

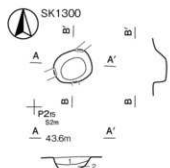
- 1 7.5YR2-2 黒褐色 ローム粒C、焼土粒D/粘B、雜B
- 2 7.5YR2-2 黒褐色 ローム粒C/粘B、雜B

SK1292



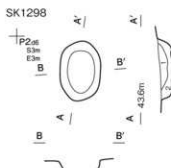
第1292号土坑土層解説

- 1 7.5YR3-2 黒褐色 ローム粒D/粘B、雜B
- 2 10YR4-6 暗褐色 ローム粒B/粘B、雜B



第1300号土坑土層解説

- 1 10YR2/2 赤褐色 ローム粒D / 粘土 層B
- 2 10YR3/2 赤褐色 ローム粒C / 粘土 層A



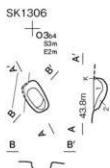
第1298号土坑土層解説

- 1 10YR3/2 赤褐色 ローム粒C / 粘土 層B
- 2 10YR3/3 暗褐色 ローム粒B / 粘土 層B



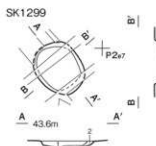
第1303号土坑土層解説

- 1 10YR3/1 赤褐色 ローム粒D / 粘土 層B
- 2 10YR3/2 赤褐色 ローム粒C / 粘土 層A



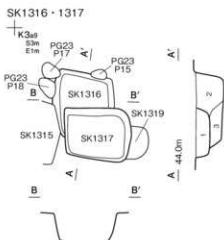
第1306号土坑土層解説

- 1 10YR2/2 赤褐色 ローム大D・中D・小C・粒C / 粘土 層B
- 2 10YR4/3 暗褐色 ローム大C・中C・小C・粒B / 粘土 層B



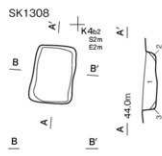
第1299号土坑土層解説

- 1 10YR2/2 赤褐色 ローム粒D / 粘土 層B
- 2 10YR3/2 赤褐色 ローム粒C / 粘土 層B



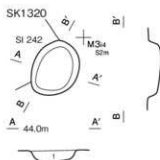
第1316・1317号土坑土層解説

- 1 10YR2/2 赤褐色 ローム中D・小C・粒D / 炭化粒C / 粘土 層B
- 2 10YR2/3 赤褐色 ローム大C・中C・小C・粒C / 粘土 層B
- 3 10YR2/3 赤褐色 ローム中C・小C・粒C / 粘土 層B



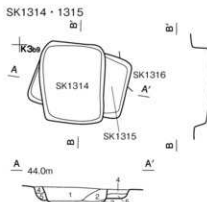
第1308号土坑土層解説

- 1 10YR2/3 赤褐色 ローム大D・中C・小C・粒C / 粘土 層B
- 2 10YR2/1 赤褐色 ローム粒C / 粘土 層B
- 3 10YR3/3 暗褐色 ローム小C・粒C / 粘土 層B



第1320号土坑土層解説

- 1 10YR2/1 赤褐色 ローム中D・粒C / 粘土D / 粘土 層B



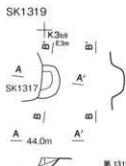
第1314・1315号土坑土層解説

- 1 10YR3/1 赤褐色 ローム中D・小C・粒C / 粘土 層B
- 2 10YR2/2 赤褐色 ローム中C・小C・粒C / 粘土 層B
- 3 10YR4/4 暗褐色 ローム小C・粒B / 粘土 層B
- 4 10YR2/2 赤褐色 ローム粒D / 粘土 層B
- 5 10YR3/2 赤褐色 ローム大D・小C・粒C / 粘土 層B



第1310号土坑土層解説

- 1 10YR2/2 赤褐色 ローム小D・粒C / 炭化粒C / 粘土 層B
- 2 10YR3/4 暗褐色 ローム中C・粒C / 炭化粒D / 粘土 層B

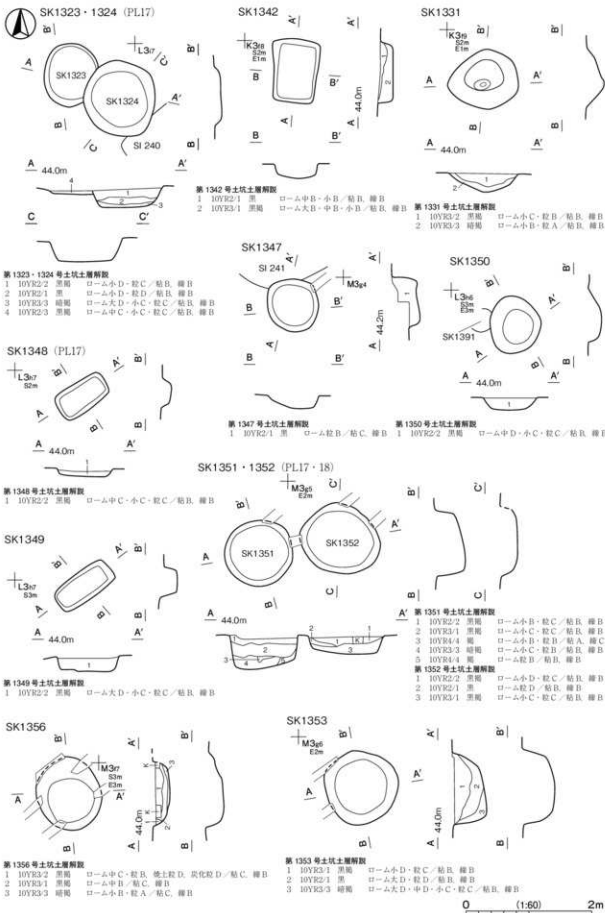


第1319号土坑土層解説

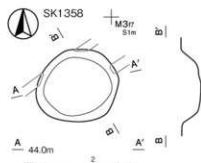
- 1 10YR2/2 赤褐色 ローム小C・粒C / 粘土 層B
- 2 10YR4/3 暗褐色 ローム小C・粒B / 粘土 層B



第156図 その他の土坑実測図(8)

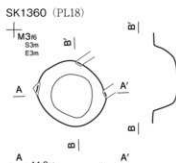


第157図 その他の土坑実測図(9)



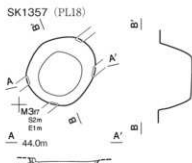
第 1358 号土坑土層解説

- 1 10YR3-2 黒褐色 ローム粒目 / 粘土、礫目
- 2 10YR2/1 黒色 ローム小C / 粘土、礫目
- 3 10YR3-3 暗褐色 ローム小B / 粘土 / 粘土、礫目



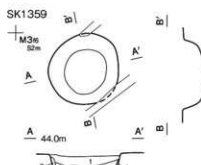
第 1360 号土坑土層解説

- 1 10YR3-1 黒褐色 ローム粒C / 粘土、礫目
- 2 10YR2/2 黒褐色 ローム粒目 / 粘土、礫目
- 3 10YR2/2 黒褐色 ローム小C / 粘土、礫目
- 4 10YR3/1 黒褐色 ローム中C / 粘土、礫目
- 5 10YR3/1 黒褐色 ローム中B / 粘土、礫目



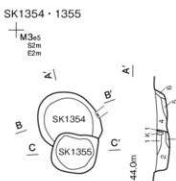
第 1357 号土坑土層解説

- 1 10YR3-1 黒褐色 ローム小C / 粘土 / 粘土、礫目
- 2 10YR2-1 黒褐色 ローム粒C / 粘土、礫目
- 3 10YR3-1 黒褐色 ローム中C / 粘土、礫目、礫目



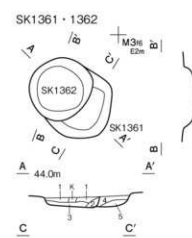
第 1359 号土坑土層解説

- 1 10YR3-1 黒褐色 ローム小C / 粘土、礫目
- 2 10YR2-1 黒褐色 ローム小B / 粘土、礫目
- 3 10YR3-1 黒褐色 ローム小B / 粘土 / 粘土、礫目



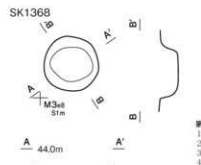
第 1354・1355 号土坑土層解説

- 1 10YR3-2 黒褐色 ローム小C / 粘土 / 粘土、礫目
- 2 10YR2-1 黒褐色 ローム中D / 粘土 / 粘土、礫目
- 3 10YR3-3 暗褐色 ローム中D / 粘土 / 粘土、礫目
- 4 10YR3-1 黒褐色 ローム中D / 粘土 / 粘土、礫目
- 5 10YR2-1 黒褐色 ローム中D / 粘土 / 粘土、礫目
- 6 10YR4/4 褐色 ローム小C / 粘土 / 粘土、礫目



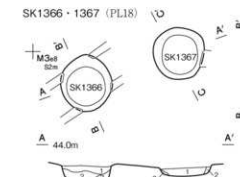
第 1362・1361 号土坑土層解説

- 1 10YR3-1 黒褐色 ローム大C / 粘土、礫目、礫目
- 2 10YR3-2 黒褐色 ローム粒C / 粘土、礫目
- 3 10YR3-3 暗褐色 ローム粒目 / 粘土、礫目
- 4 10YR3-1 黒褐色 ローム中B / 粘土、礫目
- 5 10YR3-1 黒褐色 ローム小B / 粘土、礫目、礫目



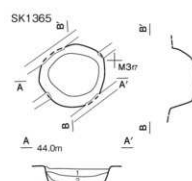
第 1368 号土坑土層解説

- 1 10YR2/1 黒褐色 ローム中C / 粘土 / 粘土、礫目
- 2 10YR3/1 黒褐色 ローム中D / 粘土 / 粘土、礫目



第 1366 号土坑土層解説

- 1 10YR2/1 黒褐色 ローム中C / 粘土 / 粘土、礫目
- 2 10YR3/1 黒褐色 ローム中D / 粘土 / 粘土、礫目



第 1365 号土坑土層解説

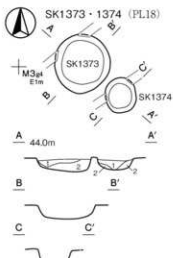
- 1 10YR2/1 黒褐色 ローム小C / 粘土、礫目、炭化粒C / 粘土、礫目
- 2 10YR3/1 黒褐色 ローム中C / 粘土 / 粘土、礫目
- 3 10YR2/1 黒褐色 ローム中B / 粘土、礫目

第 1366 号土坑土層解説

- 1 10YR3-1 黒褐色 ローム中D / 粘土 / 粘土、礫目
 - 2 10YR2/2 黒褐色 ローム中C / 粘土 / 粘土、礫目
 - 3 10YR2/1 黒褐色 ローム粒C / 粘土、礫目
- 第 1367 号土坑土層解説
- 1 10YR3-1 黒褐色 ローム中D / 粘土 / 粘土、礫目
 - 2 10YR4/4 褐色 ローム粒目 / 粘土、礫目
 - 3 10YR4/3 褐色 ローム粒目 / 粘土、礫目



第 158 図 その他の土坑実測図 (0)

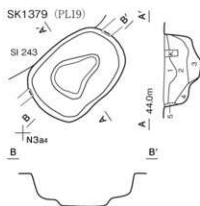


第1373号土坑土層解説

- 1 10YR2/1 黒 rome 粒C / 粘B、雜B
- 2 10YR2/1 黒 rome 中B / 粘C、雜B

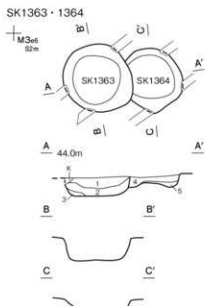
第1374号土坑土層解説

- 1 10YR2/1 黒 rome 粒D / 粘C、雜A
- 2 10YR2/1 黒 rome 粒D / 粘C、雜B



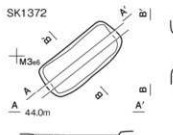
第1379号土坑土層解説

- 1 10YR2/1 黒 rome 小D・粒C / 粘B、雜B
- 2 10YR2/2 黒 rome 中D・小C・粒C / 粘B、雜B
- 3 10YR3/1 黒 rome 中D・小D・粒C / 粘B、雜B
- 4 10YR2/1 黒 rome 粒D / 粘B、雜B
- 5 10YR4/4 黄 rome 小B・粒B / 粘B、雜B



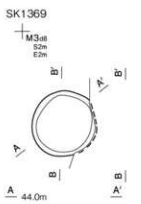
第1363・1364号土坑土層解説

- 1 10YR3/1 黒 rome 小C・粒B、焼土小C / 粘C、雜B
- 2 10YR2/1 黒 rome 中C・小B・粒B、焼土小C / 粘C、雜B
- 3 10YR2/1 黒 rome 中B・小B・粒B / 粘C、雜B
- 4 10YR3/1 黒 rome 小B・粒B、焼土小C / 粘C、雜B
- 5 10YR3/3 暗褐 rome 小B・粒A / 粘C、雜B



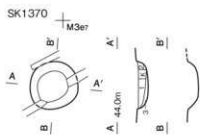
第1372号土坑土層解説

- 1 10YR2/3 黒 rome 中C・小C / 粘B、雜B



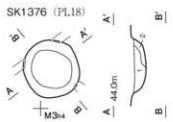
第1369号土坑土層解説

- 1 10YR2/2 黒 rome 小C・粒C / 粘B、雜B
- 2 10YR4/4 黄 rome 粒B / 粘B、雜B



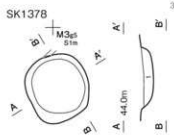
第1370号土坑土層解説

- 1 10YR3/1 黒 rome 小D・粒D / 粘B、雜B
- 2 10YR3/3 暗褐 rome 大D・小C・粒C / 粘B、雜B
- 3 10YR2/3 黒 rome 中D・小C・粒C / 粘B、雜B



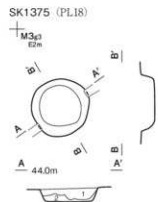
第1376号土坑土層解説

- 1 10YR2/1 黒 rome 粒D / 粘C、雜B
- 2 10YR2/1 黒 rome 粒B / 粘C、雜B



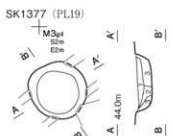
第1378号土坑土層解説

- 1 10YR2/1 黒 rome 粒C / 粘B、雜B



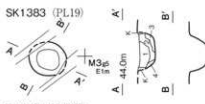
第1375号土坑土層解説

- 1 10YR2/1 黒 rome 粒C / 粘C、雜B
- 2 10YR2/2 黒 rome 粒A / 粘C、雜B



第1377号土坑土層解説

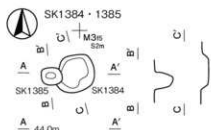
- 1 10YR3/1 黒 rome 粒C / 粘C、雜B
- 2 10YR2/1 黒 rome 粒B / 粘C、雜B
- 3 10YR2/1 黒 rome 中C・粒B / 粘C、雜C



第1383号土坑土層解説

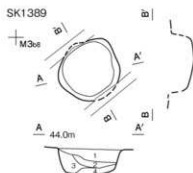
- 1 10YR2/3 暗褐 rome 中D・小D・粒C / 粘B、雜B
- 2 10YR3/1 黒 rome 中C・小C・粒C / 粘B、雜B
- 3 10YR3/3 暗褐 rome 中C・小C・粒B / 粘B、雜B
- 4 10YR4/4 黄 rome 小B・粒B / 粘B、雜B





第 1384・1385 号土坑土層解説

- 1 10YR2/3 赤褐色 ローム中D・小C・粒C/粘土、雜土
- 2 10YR4/4 黒色 ローム粒B/粘土、雜土
- 3 10YR3/2 黒褐色 ローム小C・粒C/粘土、雜土
- 4 10YR4/3 赤褐色 ローム粒B/粘土、雜土



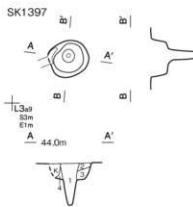
第 1389 号土坑土層解説

- 1 10YR2/2 黒褐色 ローム中D・小C・粒C/粘土、雜土
- 2 10YR2/3 赤褐色 ローム中C・小C・粒B/粘土、雜土
- 3 10YR3/2 黒褐色 ローム大D・小C・粒C/粘土、雜土
- 4 10YR2/1 黒色 ローム小D・粒D/粘土、雜土



第 1391 号土坑土層解説

- 1 10YR2/3 赤褐色 ローム中D・小C・粒C/粘土、雜土
- 2 10YR4/4 黒色 ローム粒B/粘土、雜土



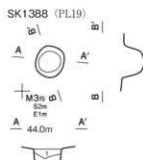
第 1397 号土坑土層解説

- 1 10YR3/2 黒褐色 ローム中D・小C・粒C/粘土、雜土
- 2 10YR3/4 暗褐色 ローム中D・粒B/粘土、雜土
- 3 10YR4/4 黒色 ローム粒B/粘土、雜土
- 4 10YR4/3 赤褐色 ローム小C・粒B/粘土、雜土



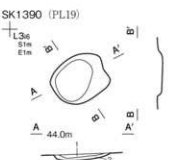
第 1386 号土坑土層解説

- 1 10YR2/2 黒褐色 ローム小C・粒C/粘土、雜土
- 2 10YR4/4 黒色 ローム小B・粒B/粘土、雜土



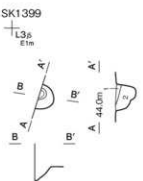
第 1388 号土坑土層解説

- 1 10YR2/2 黒褐色 ローム中D・小D・粒C/粘土、雜土
- 2 10YR3/2 黒褐色 ローム中C・小C・粒C/粘土、雜土



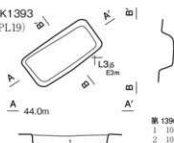
第 1390 号土坑土層解説

- 1 10YR2/2 黒褐色 ローム小D・粒C/粘土、雜土
- 2 10YR4/4 黒色 ローム小C・粒B/粘土、雜土



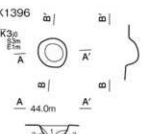
第 1399 号土坑土層解説

- 1 10YR2/1 黒色 ローム粒C/粘土、雜土
- 2 10YR2/1 黒色 ローム大D・粒C/粘土、雜土



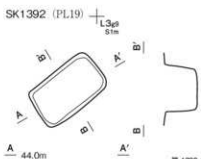
第 1393 号土坑土層解説

- 1 10YR2/3 赤褐色 ローム中C・小C・粒C/粘土、雜土



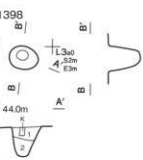
第 1396 号土坑土層解説

- 1 10YR3/4 暗褐色 ローム中D・小C・粒C/粘土、雜土
- 2 10YR4/3 赤褐色 ローム小C・粒B/粘土、雜土
- 3 10YR4/4 黒色 ローム粒B/粘土、雜土



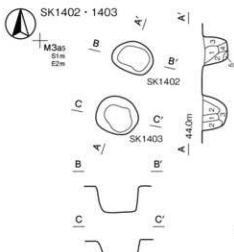
第 1392 号土坑土層解説

- 1 10YR3/2 黒褐色 ローム中C・小C・粒C/粘土、雜土



第 1398 号土坑土層解説

- 1 10YR3/3 暗褐色 ローム中C・小C・粒C/粘土、雜土
- 2 10YR3/2 黒褐色 ローム中D・小C・粒C/粘土、雜土

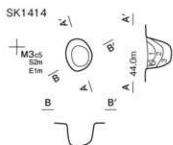


第 1402 号土坑土層解説

- 1 10YR2-1 黒褐色 ローム中粒・粒B / 粘C、締B
- 2 10YR3-1 黒褐色 ローム粒C / 粘C、締B
- 3 10YR3-1 黒褐色 ローム中粒 / 粘C、締B
- 4 10YR3-2 黒褐色 ローム中粒・粒B / 粘C、締B
- 5 10YR4-4 黒褐色 ローム粒B / 粘B、締C

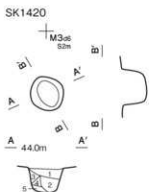
第 1403 号土坑土層解説

- 1 10YR2-2 黒褐色 ローム粒A / 粘C、締A
- 2 10YR2-1 黒褐色 ローム中粒・粒C / 粘C、締A
- 3 10YR3-4 暗褐色 ローム粒D / 粘C、締A



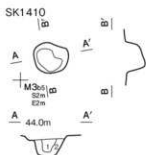
第 1414 号土坑土層解説

- 1 10YR2-3 黒褐色 ローム粒C / 粘C、締B
- 2 10YR3-3 暗褐色 ローム粒B / 粘B、締A
- 3 10YR3-3 暗褐色 ローム粒A / 粘B、締A



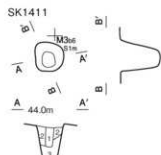
第 1420 号土坑土層解説

- 1 10YR2-3 黒褐色 ローム中D・小C・粒C / 粘B、締B
- 2 10YR3-3 暗褐色 ローム中C・小C・粒C / 粘B、締B
- 3 10YR2-2 黒褐色 ローム中D・粒C / 粘A、締C
- 4 10YR3-2 黒褐色 ローム中D・小D・粒C / 粘B、締B
- 5 10YR4-3 暗褐色 ローム粒B / 粘B、締B



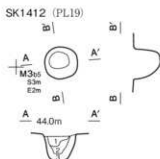
第 1410 号土坑土層解説

- 1 10YR2-2 黒褐色 ローム粒C / 粘C、締B
- 2 10YR3-3 暗褐色 ローム大A / 粘C、締A



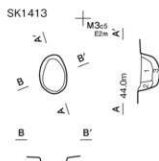
第 1411 号土坑土層解説

- 1 10YR3-2 黒褐色 ローム粒A / 粘C、締B
- 2 10YR2-3 黒褐色 ローム粒C / 粘C、締B
- 3 10YR2-2 黒褐色 ローム大A / 粘C、締C



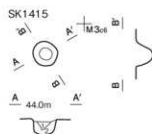
第 1412 号土坑土層解説

- 1 10YR2-2 黒褐色 ローム大D / 粘C、締B
- 2 10YR2-3 黒褐色 ローム大B / 粘C、締A
- 3 10YR3-3 暗褐色 ローム大A / 粘C、締B



第 1413 号土坑土層解説

- 1 10YR2-3 黒褐色 ローム粒C / 粘C、締B
- 2 10YR3-3 暗褐色 ローム中粒・粒B / 粘B、締B
- 3 10YR3-3 暗褐色 ローム大D / 粘B、締B



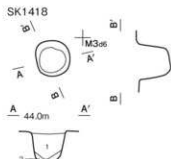
第 1415 号土坑土層解説

- 1 10YR2-2 黒褐色 ローム小D・粒C / 粘B、締B
- 2 10YR4-3 暗褐色 ローム小C・粒B / 粘B、締B



第 1417 号土坑土層解説

- 1 10YR2-3 黒褐色 ローム小C・粒C / 粘B、締B
- 2 10YR2-3 黒褐色 ローム中D・小C・粒B / 粘B、締B



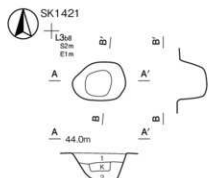
第 1418 号土坑土層解説

- 1 10YR2-3 黒褐色 ローム中C・小C・粒C / 粘B、締B
- 2 10YR2-3 黒褐色 ローム粒B / 粘B、締B



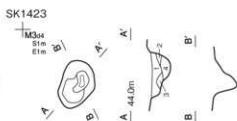
第 1419 号土坑土層解説

- 1 10YR2-3 黒褐色 ローム中D・小C・粒C / 粘B、締B
- 2 10YR4-3 暗褐色 ローム小C・粒C / 粘B、締B



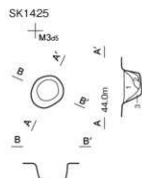
第 1421 号土坑土層解説

- 1 10YR2/2 黒褐色 ローム小C・粒C、炭化物D/粘土、雜土
- 2 10YR4/4 褐色 ローム粘土/粘土、雜土



第 1423 号土坑土層解説

- 1 10YR2/2 黒褐色 ローム中D・小C、粒C/粘土、雜土
- 2 10YR3/3 暗褐色 ローム中C/粘土、雜土
- 3 10YR2/4 暗褐色 ローム粒C/粘土、雜土
- 4 10YR4/4 褐色 ローム粘土/粘土、雜土



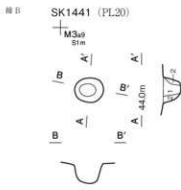
第 1425 号土坑土層解説

- 1 10YR3/1 黒褐色 ローム粒C/粘土、雜土
- 2 10YR2/2 黒褐色 ローム粒B/粘土、雜土
- 3 10YR2/3 黒褐色 ローム大B/粘土、雜土



第 1427 号土坑土層解説

- 1 10YR2/2 黒褐色 ローム粒C/粘土、雜土
- 2 10YR3/2 黒褐色 ローム粘土、焼土粒D/粘土、雜土



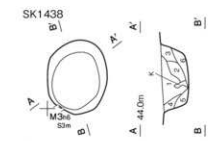
第 1441 号土坑土層解説

- 1 10YR2/1 黒褐色 ローム粒D/粘土、雜土
- 2 10YR3/2 黒褐色 ローム中B/粘土、雜土



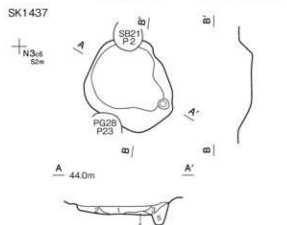
第 1433 号土坑土層解説

- 1 10YR2/1 黒褐色 ローム大B・粒D/粘土、雜土
- 2 10YR2/1 黒褐色 ローム小D・粒D/粘土、雜土



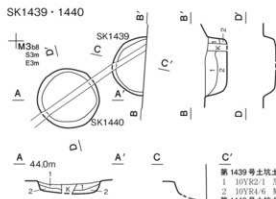
第 1438 号土坑土層解説

- 1 10YR3/2 黒褐色 ローム小B、焼土小D、炭化物C/粘土、雜土
- 2 10YR4/3 暗褐色 ローム粒A/粘土、雜土
- 3 10YR4/4 褐色 ローム粘土/粘土、雜土
- 4 10YR3/3 暗褐色 ローム小B/粘土、雜土
- 5 10YR4/3 暗褐色 ローム小B・粒B/粘土、雜土
- 6 10YR4/4 褐色 ローム粒A/粘土、雜土



第 1437 号土坑土層解説

- 1 10YR3/2 黒褐色 ローム中A・小B・粒C/粘土、雜土
- 2 10YR3/3 暗褐色 ローム粘土/粘土、雜土
- 3 10YR3/4 暗褐色 ローム粒A/粘土、雜土
- 4 10YR3/2 黒褐色 ローム中A・小B・粒C/粘土、雜土
- 5 10YR3/4 暗褐色 ローム粘土/粘土、雜土



第 1439 号土坑土層解説

- 1 10YR2/1 黒褐色 ローム粒D/粘土、雜土
- 2 10YR4/6 褐色 ローム粒D/粘土、雜土

第 1440 号土坑土層解説

- 1 10YR2/3 暗褐色 ローム粒D/粘土、雜土
- 2 10YR4/6 褐色 ローム粒D/粘土、雜土

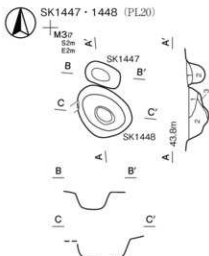


第 1451 号土坑土層解説

- 1 10YR2/4 暗褐色 ローム中A/粘土、雜土
- 2 10YR4/3 暗褐色 ローム粒A/粘土、雜土
- 3 10YR4/2 暗褐色 ローム中B・粒A/粘土、雜土

第 162 図 その他の土坑実測図 04

0 (1:60) 2m



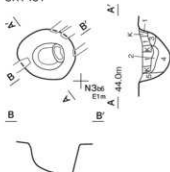
第 1447 号土坑土層解説

- 1 10YR2/1 黒 ローム粒 D / 粘 C、粘 A
- 2 10YR2/2 黒 粘 ローム粒 C / 粘 B

第 1448 号土坑土層解説

- 1 10YR2/3 黒 粘 ローム粒 C / 粘 B
- 2 10YR4/2 灰青 粘 ローム粒 B / 粘 C
- 3 10YR2/1 黒 ローム粒 D / 粘 C、粘 A

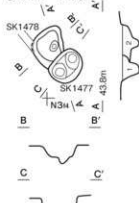
SK1461



第 1461 号土坑土層解説

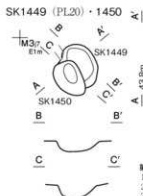
- 1 10YR2/1 黒 ローム粒 C / 粘 B、粘 A
- 2 10YR3/1 黒 粘 ローム小 C / 粘 C、粘 B、粘 B
- 3 10YR3/1 黒 粘 ローム小 C / 粘 B / 粘 B、粘 B
- 4 10YR2/2 黒 粘 ローム小 B / 粘 B / 粘 B、粘 B
- 5 10YR3/2 黒 粘 ローム粒 B / 粘 B、粘 B

SK1477・1478



第 1477・1478 号土坑土層解説

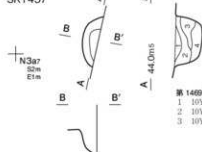
- 1 10YR2/3 黒 粘 ローム粒 C / 粘 B、粘 B
- 2 10YR3/2 黒 粘 ローム粒 C / 粘 C、粘 B



第 1449・1450 号土坑土層解説

- 1 10YR2/2 黒 粘 ローム粒 C / 粘 C、粘 A
- 2 10YR2/2 黒 粘 ローム粒 D / 粘 A、粘 A
- 3 10YR3/3 暗黒 粘 ローム中 A / 粘 C、粘 B
- 4 10YR3/4 暗黒 粘 ローム粒 A / 粘 C、粘 C

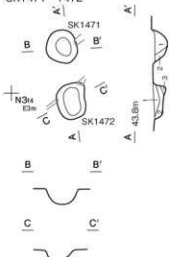
SK1457



第 1457 号土坑土層解説

- 1 10YR2/2 黒 粘 ローム小 C / 粘 C、粘 A
- 2 10YR2/2 黒 粘 ローム中 C / 粘 C、粘 A
- 3 10YR2/3 黒 粘 ローム大 B / 粘 B / 粘 B、粘 A
- 4 10YR2/1 黒 粘 ローム大 B / 粘 B / 粘 C、粘 A

SK1471・1472



第 1471 号土坑土層解説

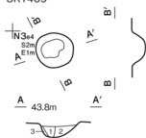
- 1 10YR2/2 黒 粘 ローム粒 C / 粘 C、粘 B
 - 2 10YR2/3 黒 粘 ローム粒 B / 粘 C、粘 B
- 第 1472 号土坑土層解説
- 1 10YR2/2 黒 粘 ローム中 B / 粘 C、粘 A
 - 2 10YR2/2 黒 粘 ローム小 C / 粘 B、粘 A
 - 3 10YR3/3 暗黒 粘 ローム中 B / 粘 A / 粘 B、粘 A



第 1458 号土坑土層解説

- 1 10YR4/4 暗 粘 ローム小 B / 粘 A / 粘 C、粘 B
- 2 10YR3/3 暗 粘 ローム小 C / 粘 C / 粘 C、粘 C
- 3 10YR3/2 暗 粘 ローム小 C / 粘 B、粘土粒 C / 粘 C、粘 B
- 4 10YR2/2 黒 粘 ローム小 C / 粘 B、粘 B

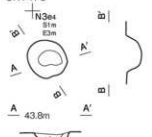
SK1469



第 1469 号土坑土層解説

- 1 10YR2/3 黒 粘 ローム粒 C、粘土粒 D / 粘 C、粘 B
- 2 10YR3/3 暗 粘 ローム粒 B / 粘 C、粘 A
- 3 10YR2/3 黒 粘 ローム粒 C / 粘 C、粘 C

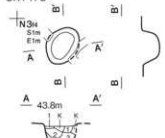
SK1470



第 1470 号土坑土層解説

- 1 10YR4/3 暗 粘 ローム中 B、粘土粒 D / 粘 A、粘 C
- 2 10YR4/4 暗 粘 ローム大 A / 粘 A、粘 A

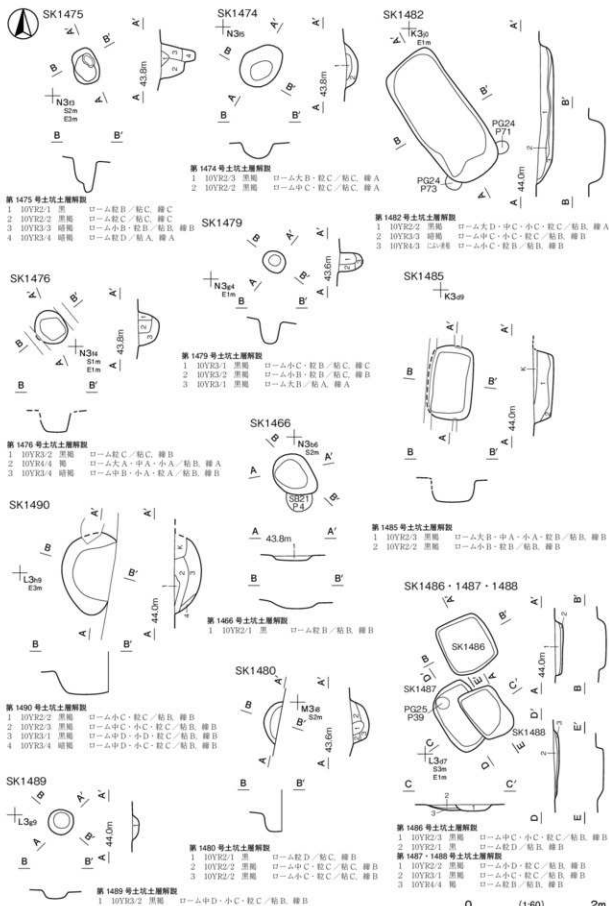
SK1473



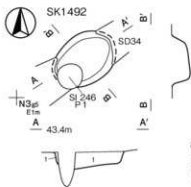
第 1473 号土坑土層解説

- 1 10YR2/3 黒 粘 ローム中 C / 粘 C / 粘 C、粘 B
- 2 10YR3/3 暗 粘 ローム中 B / 粘 A / 粘 C、粘 B
- 3 10YR2/3 黒 粘 ローム大 A / 粘 B、粘 B

0 (1:60) 2m

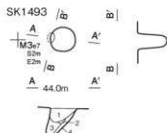


第 164 図 その他の土坑実測図 ⑥



第 1492 号土坑土層解説

- 1 10YR2/3 黒褐色 ローム中C・小C・粒C/粘土 雜C



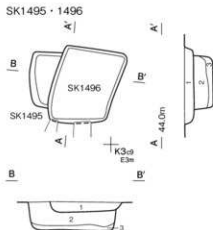
第 1493 号土坑土層解説

- 1 10YR3/2 黒褐色 ローム粒B・焼土粒D/粘土 雜B
2 10YR3/3 暗褐色 ローム小B・粒A/粘土 雜B
3 10YR4/4 暗褐色 ローム粒D/粘土 雜B
4 10YR4/4 暗褐色 ローム大A/粘土 雜A



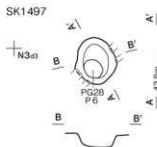
第 1494 号土坑土層解説

- 1 10YR3/3 暗褐色 ローム中C・小C・粒C/粘土 雜B
2 10YR2/2 黒褐色 ローム小C・粒C/粘土 雜B
3 10YR4/4 暗褐色 ローム粒B/粘土 雜B
4 10YR4/3 暗褐色 ローム小C・粒B/粘土 雜B



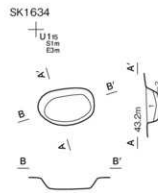
第 1495・1496 号土坑土層解説

- 1 10YR2/2 黒褐色 ローム中C・小C・粒C/粘土 雜B
2 10YR2/2 黒褐色 ローム中B・小C・粒C/粘土 雜B
3 10YR2/1 黒褐色 ローム中D・中D・小C・粒C/粘土 雜B



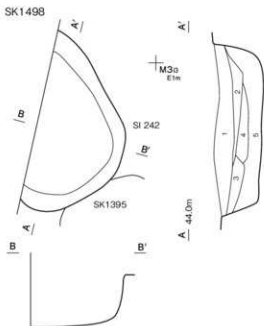
第 1497 号土坑土層解説

- 1 10YR2/2 黒褐色 ローム中B/粘土 雜A
2 10YR2/1 黒褐色 ローム中B・小C/粘土 雜A
3 10YR2/3 黒褐色 ローム粒B/粘土 雜B
4 10YR3/4 暗褐色 ローム粒A/粘土 雜B
5 10YR4/4 暗褐色 ローム粒A/粘土 雜C



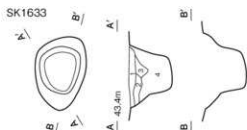
第 1634 号土坑土層解説

- 1 10YR3/1 黒褐色 ローム小D/粘土 雜B
2 10YR4/3 暗褐色 ローム小C・粒B/粘土 雜B



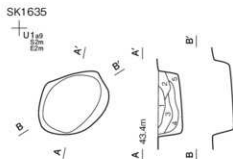
第 1498 号土坑土層解説

- 1 10YR3/2 黒褐色 ローム小C・粒C・焼土粒D・中C・粒C/粘土 雜C
2 10YR4/4 暗褐色 ローム中C・小C・粒C/粘土 雜B
3 10YR3/3 暗褐色 ローム小C・粒C/粘土 雜B
4 10YR3/4 暗褐色 ローム大D・中D・小C・粒C/粘土 雜B粘土 雜B
5 10YR2/3 黒褐色 ローム中D・小C・粒C・焼土中C・小D/粘土 雜B



第 1633 号土坑土層解説

- 1 10YR4/2 灰褐色 ローム小C・粒C/粘土 雜B
2 10YR4/3 暗褐色 ローム小C・粒C/粘土 雜B
3 10YR3/2 黒褐色 ローム中B・小C・粒B/粘土 雜B
4 10YR5/4 暗褐色 ローム小C・粒B/粘土 雜B

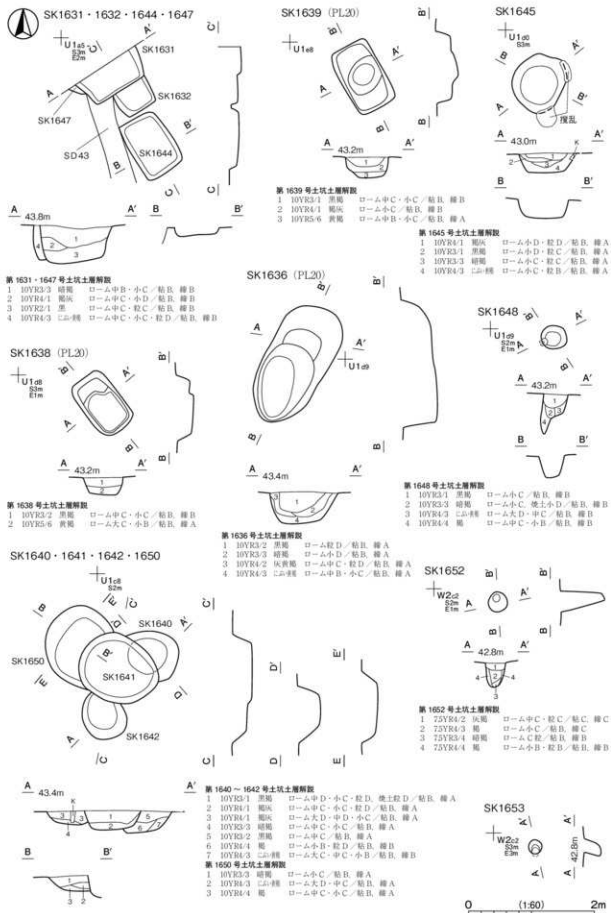


第 1635 号土坑土層解説

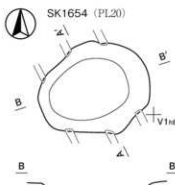
- 1 10YR2/3 黒褐色 ローム粒C・焼土粒D/粘土 雜B
2 10YR3/3 暗褐色 ローム小C・焼土粒D/粘土 雜B
3 10YR4/2 灰褐色 ローム中D・粒C/粘土 雜A
4 10YR4/4 暗褐色 ローム粒A/粘土 雜A
5 10YR4/6 暗褐色 ローム粒A/粘土 雜A

第 165 図 その他の土坑実測図(切)

0 (1:60) 2m

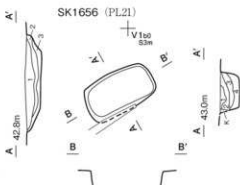


第 166 図 その他の土坑実測図 (8)



第 1654 号土坑土層解説

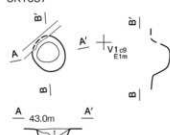
- 1 10YR4/3 土砂層 ローム粒B / 粘B. 障A
- 2 10YR6/3 土砂層 ローム粒B / 粘B. 障A
- 3 10YR5/3 土砂層 ローム粒A / 粘B. 障A



第 1656 号土坑土層解説

- 1 25YR4/1 泥灰 ローム小C・粒C / 粘C. 障B
- 2 25YR3/1 黒層 ローム粒C / 粘C. 障B
- 3 25YR2/1 黒層 ローム小D / 粘C. 障B
- 4 25YR2/2 黒層 ローム小D / 粘B. 障B

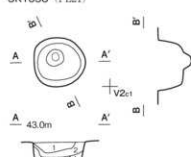
SK1657



第 1657 号土坑土層解説

- 1 25YR2/1 黒層 ローム小C・粒C. 障B
- 2 25YR4/4 泥 ローム粒C / 粘C. 障B
- 3 25YR3/2 黒層 ローム小D / 粘B. 障B

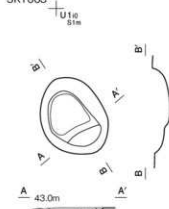
SK1658 (PL21)



第 1659 号土坑土層解説

- 1 10YR4/2 灰黄層 ローム小C / 粘B. 障B
- 2 10YR4/3 土砂層 ローム小C / 粘B. 障B
- 3 10YR4/1 泥灰 ローム小C・粒D / 粘B. 障B
- 4 10YR3/3 土砂層 ローム中D・小C・粒D / 粘B. 障B

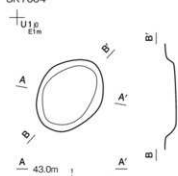
SK1663



第 1663 号土坑土層解説

- 1 10YR4/2 灰黄層 ローム小D・粒C / 粘B. 障A
- 2 10YR4/3 土砂層 ローム小C・粒C / 粘B. 障A
- 3 10YR4/4 泥 ローム中D・粒D / 粘B. 障A

SK1664



第 1664 号土坑土層解説

- 1 10YR2/1 黒層 ローム小C・粒D / 粘B. 障A
- 2 10YR4/2 灰黄層 ローム中D・粒C / 粘B. 障B

SK1659・1662



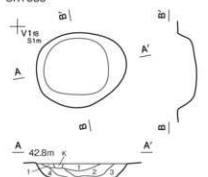
第 1659 号土坑土層解説

- 1 10YR4/2 灰黄層 ローム粒D / 粘B. 障A
- 2 10YR4/3 土砂層 ローム中D・粒C / 粘B. 障A
- 3 10YR4/4 泥 ローム中D・粒C / 粘B. 障A
- 4 10YR5/4 土砂層 ローム小C / 粘B. 障A
- 5 10YR6/4 土砂層 ローム中D・粒C / 粘B. 障B
- 6 10YR4/4 泥 ローム小C・粒B / 障A
- 7 10YR4/3 土砂層 ローム小C・粒B / 障A

第 1662 号土坑土層解説

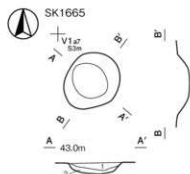
- 1 10YR4/1 泥灰 ローム小C / 粘B. 障B
- 2 10YR3/3 粘層 ローム小B / 粘B. 障B
- 3 10YR2/1 黒層 ローム小C / 粘B. 障A
- 4 10YR3/1 黒層 ローム小D・粒D / 粘B. 障B
- 5 10YR3/1 黒層 ローム中C・小B / 粘B. 障B

SK1655



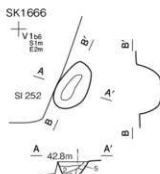
第 1655 号土坑土層解説

- 1 10YR3/2 黒層 ローム小C・粒D / 粘B. 障A
- 2 10YR4/1 泥灰 ローム小C・粒D / 粘B. 障A
- 3 10YR4/2 灰黄層 ローム中C・小C・粒C / 粘B. 障A
- 4 10YR4/3 土砂層 ローム小B・粒C / 粘B. 障A



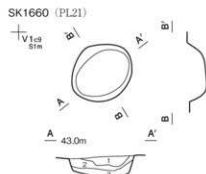
第 1665 号土坑土層解説

- 1 10YR4/2 灰青 土層 土層小C / 粘土、礫土
2 10YR4/3 土層 土層中D・小C / 粘土、礫土



第 1666 号土坑土層解説

- 1 7.5YR2/2 赤褐色 土層 土層粒D / 粘土、礫土
2 7.5YR3/1 赤褐色 土層 土層粒D / 粘土、礫土
3 7.5YR3/2 赤褐色 土層 土層粒C / 粘土、礫土
4 7.5YR3/4 暗褐色 土層 土層粒C / 粘土、礫土
5 7.5YR2/3 暗褐色 土層 土層粒D / 粘土、礫土
6 7.5YR4/3 暗褐色 土層 土層粒B / 粘土、礫土



第 1660 号土坑土層解説

- 1 7.5YR4/1 暗褐色 土層 土層小C / 粘土、礫土
2 7.5YR4/4 暗褐色 土層 土層小C・粒D / 粘土、礫土
3 7.5YR4/6 暗褐色 土層 土層粒A / 粘土、礫土

0 (1:60) 2m

第 168 図 その他の土坑実測図 20

第 73 表 その他の土坑一覧

番号	位置	長径方向	平面形状	規模		壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備考
				長径×短径(m)	深さ(cm)					
26	S 1 f7	N-55°-E	隅丸長方形	1.12 × 0.94	49	ほぼ直立	平坦	自然		
27	T 1 g6	N-9°-E	不整形円形	1.72 × 0.84	44	外傾	凹状	自然		
28	T 1 e7	N-30°-E	楕円形	1.12 × 0.82	23	縦斜	凹状	人為		
29	S 1 c9	-	円形	0.61 × 0.61	16	縦斜	凹状	自然		SD 9→本跡
30	S 1 j6	N-13°-E	楕円形	1.62 × 1.08	31	外傾	凹状	人為		PL16
31	S 1 i6	N-33°-E	楕円形	1.32 × 1.12	26	縦斜	凹状	人為		
32	T 1 g7	N-13°-W	楕円形	1.12 × 0.70	58	ほぼ直立	凹状	人為		
33	S 1 e8	-	円形	0.74 × 0.70	26	外傾	平坦	人為		
34	S 1 d8	-	円形	0.78 × 0.72	20	外傾	平坦	人為		
35	S 1 j7	N-45°-E	楕円形	0.58 × 0.50	20	外傾	凹状	人為		
36	S 1 j7	N-24°-W	楕円形	0.51 × 0.46	22	ほぼ直立	凹状	自然		
37	T 1 a7	N-34°-W	楕円形	0.44 × 0.40	34	外傾	凹状	人為		
38	T 1 a7	N-84°-E	楕円形	0.52 × 0.47	21	外傾	凹状	人為		
39	T 1 b7	N-1°-E	楕円形	1.00 × 0.72	19	外傾	凹状	人為		
41	S 1 f7	N-40°-W	楕円形	1.31 × 0.58	34	外傾	凹状	人為		
42	S 1 i7	-	円形	0.60 × 0.56	22	外傾	凹状	自然		
43	T 1 a8	N-40°-W	楕円形	0.67 × 0.45	28	外傾	平坦	人為		
44	T 1 a6	N-55°-E	楕円形	0.98 × 0.84	18	ほぼ直立	平坦	人為		
45	T 1 d7	-	円形	0.32 × 0.30	32	直立	凹状	自然	須恵器	
46	T 1 d7	N-73°-E	長方形	1.20 × 0.68	28	外傾	平坦	自然		PL16
47	T 1 f7	N-11°-W	楕円形	1.52 × 1.00	86	縦斜	凹状	人為		
724	R 1 d8	N-50°-W	楕円形	0.46 × 0.40	19	外傾 縦斜	凹状	人為		本跡→SK725
725	R 1 d8	N-35°-W	長方形	1.26 × 0.78	37	直立	平坦	人為		SK724→本跡
726	R 1 d8	N-64°-E	楕円形	0.26 × 0.21	30	ほぼ直立	凹状	自然		
727	Q 2 i2	N-38°-W	長方形	1.45 × 0.64	31	外傾	平坦	人為		
728	Q 2 i3	N-30°-W	長方形	1.14 × 0.62	22	外傾	平坦	人為		
729	Q 2 h2	N-30°-W	長方形	1.30 × 0.75	28	外傾	平坦	人為		
730	Q 2 h2	N-32°-W	長方形	0.87 × 0.63	13	外傾	平坦	自然		

番号	位置	長径方向	平面形	規 模		壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備 考
				長径×短径(m)	深さ(cm)					
731	Q 2h3	N-58°-E	長方形	1.18 × 0.77	17	外傾	平坦	自然		
736	Q 2h2	N-51°-E	精円形	2.50 × 0.94	30	緩斜	平坦	人為		
737	Q 2h1	N-40°-W	長方形	1.12 × 0.51	24	外傾	平坦	人為		
738	Q 2f0	N-35°-W	長方形	1.70 × 0.80	20	外傾	平坦	人為		
752	Q 1h9	N-37°-E	精円形	[0.90] × 0.74	170	直立	平坦	自然		
755	Q 1e0	N-37°-W	長方形	1.62 × 0.92	28	1/12直立	平坦	自然		
756	Q 1f9	N-36°-W	長方形	1.32 × 0.76	16	外傾	平坦	自然		
757	Q 1g0	N-50°-W	精円形	1.46 × 0.83	32	1/12直立	平坦	自然		
758	Q 2i3	N-34°-W	[長方形]	1.58 × 0.68	28	1/12直立	平坦	自然	本跡→SK61, SD 4	
1139	K 4h3	N-12°-E	長方形	0.86 × 0.74	30	1/12直立	平坦	自然		
1239	O 2c8	N-7°-E	精円形	0.94 × 0.68	36	1/12直立	皿状	自然	土師器、須恵器	PL16
1243	O 3b4	N-85°-W	[精円形]	(1.20) × [1.03]	27	外傾	平坦	自然		SK1244 → 本跡
1244	O 3b4	-	-	-	19	外傾	平坦	人為	土師器、須恵器	本跡→SK1243
1245	O 3c4	N-15°-E	精円形	1.08 × 0.95	30	1/12直立	平坦	自然	土師器、須恵器	
1246	O 3b4	-	円形	0.95 × (0.89)	34	1/12直立	平坦	自然		本跡→SK1247
1247	O 3b4	N-3°-W	精円形	1.25 × 0.94	16	外傾	平坦	自然	土師器、須恵器	SK1246 → 本跡
1248	O 3c4	N-50°-E	精円形	0.98 × [0.85]	20	外傾	平坦	人為		PL16
1249	O 3c4	-	円形・楕円形	(0.88) × (0.34)	(24)	緩斜	皿状	自然		
1250	O 3a3	-	円形	0.43 × (0.43)	30	外傾	皿状	自然		
1251	O 3d4	-	円形	0.84 × 0.29	35	1/12直立	平坦	人為	須恵器	SD35 → 本跡
1255	O 2c9	N-22°-E	精円形	0.98 × 0.85	28	外傾	平坦	人為		本跡→PG15
1261	N 3j1	N-12°-E	[精円形]	(0.68) × (0.36)	22	外傾	平坦	不明		本跡→SI204 SK1242 上重埋
1262	K 4b2	N-2°-E	長方形	1.08 × 0.68	30	1/12直立	平坦	自然		
1263	O 2h0	N-55°-E	精円形	1.22 × 1.07	20	外傾	平坦	自然		
1265	O 3h1	N-50°-W	精円形	[1.34] × 1.18	50	1/12直立	平坦	自然	土師器	
1266	O 3h1	-	円形	0.98 × 0.97	10	外傾	平坦	自然		
1267	O 3i2	-	円形	1.06 × 0.98	11	外傾	平坦	自然		
1269	O 2d7	N-71°-E	円形・楕円形	0.65 × (0.48)	45	1/12直立	皿状	自然		本跡→SI212
1271	O 3d1	N-7°-E	[精円形]	1.30 × [1.18]	32	1/12直立	平坦	自然	土師器、須恵器	PL16
1272	O 2i9	N-18°-E	精円形	0.58 × 0.44	24	1/12直立	平坦	人為	土師器、須恵器	SZ222 → 本跡
1273	O 2j9	N-18°-E	精円形	0.42 × 0.38	32	外傾	皿状	人為	土師器	SZ222 → 本跡
1274	O 2c8	N-42°-W	[精円形]	[0.90] × 0.60	45	外傾	皿状	自然	須恵器	
1275	O 2c8	N-84°-E	精円形	1.00 × 0.60	59	外傾	円凸	自然		
1276	N 2j0	N-6°-E	精円形	1.00 × 0.88	18	外傾	平坦	自然	土師器、須恵器	本跡→SD34 PL17
1278	N 2j0	N-85°-E	隅丸方形	[0.94] × [0.88]	28	外傾	平坦	自然	土師器、須恵器	
1279	N 3j1	N-55°-E	[隅丸方形]	1.02 × [1.00]	20	外傾	平坦	自然	土師器	
1280	P 2a9	N-57°-W	精円形	1.48 × (0.92)	18	平坦	円凸	自然	土師器、須恵器	本跡→SK1281
1281	P 2a9	N-24°-W	精円形	1.07 × [0.94]	20	外傾	円凸	自然		SK1280 → 本跡
1282	O 2d9	-	円形	(0.70) × [0.72]	28	外傾	皿状	自然		SK1280-1281 → 本跡 PG15 上重埋
1283	O 2d9	-	円形	(0.68) × 0.88	30	外傾	皿状	自然	土師器、須恵器	本跡→SK1282 PG15 上重埋
1284	O 2e9	N-58°-W	精円形	[0.61] × 0.46	44	外傾	皿状	人為	土師器、須恵器	PL17
1285	O 2f8	-	円形	0.97 × 0.92	34	外傾	平坦	自然	土師器、須恵器、陶器	PL17
1286	O 2g9	N-40°-W	精円形	0.60 × [0.50]	28	外傾	皿状	自然	土師器	
1287	O 2e0	N-41°-W	精円形	0.67 × 0.54	26	外傾	皿状	自然	土師器	
1288	O 2g8	-	円形	1.28 × 1.18	12	緩斜	平坦	人為	須恵器	
1289	O 2h8	N-3°-W	精円形	1.34 × 1.20	12	緩斜	平坦	自然	土師器	PL17

番号	位置	長短方向	平面形	規 模		壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備 考
				長径×短径(m)	深さ(cm)					
1292	P 2 a8	N-51°-E	楕円形	0.45 × 0.36	18	外傾	風状	自然		
1293	P 2 b7	-	円形	1.19 × 1.10	16	外傾	平坦	自然		PG18と重複
1294	P 2 b6	-	円形	[1.00] × 0.95	11	外傾	平坦	自然		
1295	P 2 c6	-	円形	1.52 × 1.39	38	外傾	平坦	自然	磁石	PL17
1298	P 2 a6	N-6°-E	楕円形	0.96 × 0.66	25	外傾	平坦	自然		
1299	O 2 e6	N-34°-W	楕円形	0.85 × 0.71	11	外傾	平坦	自然		
1300	O 2 f5	N-71°-E	楕円形	[0.58] × 0.50	20	直立	平坦	自然		
1303	P 2 g6	N-26°-W	楕円形	0.60 × 0.42	36	ほぼ直立	風状	自然		
1306	O 3 c4	N-30°-W	楕円形	0.52 × 0.32	20	外傾	風状	自然		
1308	K 4 b2	N-7°-E	長方形	0.93 × 0.66	22	直立	平坦	自然	須恵器	
1310	K 3 c0	N-57°-E	[楕円形]	[0.54] × [0.32]	49	直立	風状	自然		本跡→SI227
1314	K 3 b9	N-2°-W	長方形	1.26 × 1.02	27	外傾	平坦	人為		SK1315→本跡
1315	K 3 b9	N-75°-W	長方形	1.46 × 0.96	19	外傾	平坦	自然		SK1316→本跡 →SK1314
1316	K 3 b9	N-6°-E	方形	1.06 × 1.00	47	ほぼ直立	平坦	人為		本跡→SK1315、 1317、PG23
1317	K 3 b9	N-81°-W	長方形	1.06 × 0.84	22	外傾	平坦	人為		SK1316・1319→ 本跡
1319	K 3 b9	-	[円形・楕円形]	0.52 × 0.30	18	外傾	平坦	自然		本跡→SK1317
1320	M 3 i3	N-29°-E	楕円形	0.94 × 0.71	20	外傾	風状	自然		SI242→本跡
1323	L 3 i6	N-15°-E	[楕円形]	1.00 × 0.83	12	風斜	平坦	自然		本跡→SK1324 PL17
1324	L 3 i6	-	円形	1.26 × 1.16	32	外傾	平坦	人為	土師器	SI240、SK1323→ 本跡 PL17
1331	K 3 f9	N-84°-E	楕円形	1.12 × 0.92	30	風斜	風状	自然		
1342	K 3 f8	N-3°-E	長方形	1.00 × 0.74	23	直立	平坦	自然		
1347	M 3 g3	-	円形	0.88 × 0.84	38	ほぼ直立	平坦	自然		SI241→本跡
1348	L 3 b7	N-57°-E	長方形	0.86 × 0.47	14	外傾	平坦	自然		PL17
1349	L 3 b7	N-53°-E	長方形	1.00 × 0.46	24	外傾	平坦	自然		
1350	L 3 b6	N-26°-W	楕円形	0.90 × 0.80	20	外傾	風状	自然	土師器	SK1391と重複
1351	M 3 g5	-	円形	1.08 × 1.04	46	直立	平坦	人為		PL17
1352	M 3 g5	N-65°-W	楕円形	1.25 × 1.11	27	外傾	平坦	人為	土師器、須恵器	PL18
1353	M 3 g6	-	円形	1.18 × 1.16	50	外傾	平坦	不明	土師器、須恵器	
1354	M 3 e5	N-61°-W	[楕円形]	1.06 × 0.91	17	外傾	平坦	人為	土師器	本跡→SK1355
1355	M 3 e5	N-78°-W	隅丸長方形	0.70 × 0.60	23	外傾	平坦	人為	土師器	SK1354→本跡
1356	M 3 f7	N-3°-W	楕円形	1.15 × 1.00	27	外傾	平坦	人為	土師器	
1357	M 3 f7	N-43°-E	楕円形	1.14 × 1.02	52	外傾 直立	平坦	人為		PL18
1358	M 3 f6	N-70°-E	楕円形	1.30 × 1.18	30	外傾 風斜	平坦	人為		
1359	M 3 f6	-	円形	1.12 × 1.09	34	外傾	平坦	人為		
1360	M 3 f6	-	円形	1.08 × 0.96	40	外傾	平坦	人為	土師器	PL18
1361	M 3 f1	-	[円形・楕円形]	1.00 × 0.46	22	外傾	平坦	人為		本跡→SK1362
1362	M 3 f1	-	円形	0.92 × 0.85	18	風斜	平坦	人為	土師器	SK1361→本跡
1363	M 3 e6	N-53°-W	楕円形	1.17 × 1.05	36	外傾	平坦	自然	土師器	SK1364→本跡
1364	M 3 e6	N-7°-W	[円形]	0.97 × 0.94	20	外傾	平坦	自然		本跡→SK1363
1365	M 3 f6	-	円形	1.01 × 1.00	33	外傾	平坦	自然	土師器、須恵器	
1366	M 3 e8	-	円形	0.85 × 0.81	26	外傾	平坦	人為		PL18
1367	M 3 e8	-	円形	0.83 × 0.83	17	外傾	平坦	自然	陶器	PL18
1368	M 3 e8	-	円形	0.86 × 0.84	29	外傾	平坦	自然		
1369	M 3 d8	-	[円形・楕円形]	1.08 × [1.00]	15	外傾	平坦	人為	土師器、須恵器	
1370	M 3 e6	-	円形	0.76 × 0.76	17	外傾	平坦	人為		
1372	M 3 e6	N-52°-E	長方形	1.38 × 0.61	17	外傾	平坦	自然		

番号	位置	長径方向	平面形	規 模		壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備 考
				長径×短径(m)	深さ(cm)					
1373	M 3 g4	-	円形	0.90 × 0.90	22	外傾	平坦	人為		
1374	M 3 g4	-	円形	0.53 × 0.50	22	外傾	平坦	自然		PL18
1375	M 3 g3	-	円形	0.90 × 0.90	23	外傾	平坦	人為	土師器	PL18
1376	M 3 g4	-	円形	0.93 × 0.86	22	外傾	平坦	自然		PL18
1377	M 3 g4	-	円形	0.92 × 0.88	28	外傾	平坦	人為	土師器	PL19
1378	M 3 g5	-	円形	1.04 × 0.99	30	外傾	皿状	自然	土師器	
1379	M 3 j4	N-47'-E	楕円形	1.60 × 1.12	52	ほぼ直立	平坦	人為	土師器、須恵器	SZ43 → 本跡 PL19
1383	M 3 g5	N-81'-W	楕円形	0.60 × 0.54	28	外傾	平坦	人為		PL19
1384	M 3 f5	N-35'-E	楕円形	0.68 × 0.60	10	外傾	平坦	自然		本跡 → SK1385
1385	M 3 f4	N-86'-W	楕円形	0.34 × 0.27	28	ほぼ直立	皿状	自然		SK1384 → 本跡
1386	M 3 f4	N-1'-W	楕円形	0.68 × 0.45	17	外傾	平坦	不明		SK1387 上重複
1387	M 3 f4	N-45'-W	楕円形	0.34 × 0.28	37	ほぼ直立	平坦	自然		SK1386 上重複
1388	M 3 f5	N-30'-E	楕円形	0.49 × 0.44	33	直立	皿状	自然		PL19
1389	M 3 b8	-	[円形]	1.00 × [0.94]	38	ほぼ直立	皿状	人為	土師器	
1390	L 3 i6	N-51'-E	不整楕円形	0.90 × 0.72	8	外傾	平坦	自然	土師器	PL19
1391	L 3 b6	N-55'-E	楕円形	0.40 × 0.34	10	外傾	平坦	自然		SK1350 上重複
1392	L 3 g8	N-52'-E	長方形	1.20 × 0.72	50	直立	平坦	人為		PL19
1393	L 3 j5	N-57'-W	長方形	1.21 × 0.58	20	直立	平坦	人為		PL19
1396	K 3 i0	-	円形	0.48 × 0.45	20	外傾	皿状	自然		
1397	L 3 a9	N-47'-E	楕円形	0.63 × 0.56	76	ほぼ直立	平坦	人為		
1398	L 3 a0	N-68'-W	楕円形	0.46 × 0.38	49	外傾	皿状	人為		
1399	L 3 j5	N-19'-E	[円形・楕円形]	0.29 × 0.23	21	ほぼ直立	皿状	自然		
1402	M 3 a5	N-77'-W	楕円形	0.66 × 0.50	41	直立	平坦	人為		
1403	M 3 a5	N-66'-W	楕円形	0.66 × 0.58	40	外傾	皿状	人為		
1410	M 3 b5	N-68'-W	不整楕円形	0.56 × 0.48	29	外傾	皿状	人為		
1411	M 3 b5	N-10'-E	方形	0.46 × 0.46	62	ほぼ直立	皿状	人為	土師器	
1412	M 3 b5	-	円形	0.52 × 0.50	42	外傾	皿状	人為		PL19
1413	M 3 c5	N-1'-E	楕円形	0.62 × 0.42	25	ほぼ直立	皿状	人為		
1414	M 3 c5	N-13'-W	楕円形	0.52 × 0.42	36	ほぼ直立	皿状	自然		
1415	M 3 c5	N-33'-W	楕円形	0.40 × 0.36	36	外傾	皿状	自然		
1417	M 3 c6	N-21'-W	隅丸長方形	0.56 × 0.46	34	外傾	皿状	自然	土師器	PL20
1418	M 3 d5	-	円形	0.58 × 0.58	33	直立	皿状	自然		
1419	M 3 d5	N-67'-E	不定形	0.50 × 0.42	28	直立	平坦	自然		
1420	M 3 d6	N-28'-W	楕円形	0.57 × 0.54	41	ほぼ直立	平坦	人為		
1421	L 3 b8	N-87'-W	楕円形	0.84 × 0.62	48	外傾	皿状	自然	土師器、須恵器、磁石	
1423	M 3 d4	N-18'-E	楕円形	0.78 × 0.52	36	外傾	皿状	人為		
1425	M 3 d5	N-32'-E	楕円形	0.54 × 0.47	33	ほぼ直立	平坦	自然		
1427	M 3 d5	N-33'-E	楕円形	0.52 × 0.41	29	ほぼ直立	平坦	自然	土師器	
1433	M 3 d6	N-49'-E	隅丸長方形	1.30 × 0.56	16	外傾	皿状	人為		
1437	N 3 c6	N-34'-E	楕円形	1.51 × 1.29	35	外傾	平坦	人為	土師器、須恵器、陶器	本跡 → SR21, PG28
1438	M 3 b6	N-8'-E	楕円形	1.18 × 0.96	47	外傾	皿状	人為		
1439	M 3 b9	N-3'-E	[円形・楕円形]	0.93 × 0.50	31	外傾	皿状	自然		
1440	M 3 b9	-	円形	0.96 × 0.96	21	外傾	平坦	自然	須恵器	
1441	M 3 a9	N-88'-E	楕円形	0.46 × 0.41	31	外傾	皿状	人為		PL20
1447	M 3 i7	N-62'-E	楕円形	0.58 × 0.36	27	外傾	平坦	人為		
1448	M 3 i7	N-45'-W	楕円形	0.93 × 0.70	36	外傾	皿状	人為	土師器、須恵器、陶器	PL20

番号	位置	長径方向	平面形	規		壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備考
				長径×短径(m)	深さ(cm)					
1449	M 3 J7	N-33'-W	[楕円形]	0.73 × 0.31	18	外植	風状	人為	土師器	本跡→SK1450 PL20
1450	M 3 J7	N-32'-E	楕円形	0.60 × 0.41	21	外植	風状	人為	土師器、須恵器	SK1449→本跡
1451	M 3 J7	N-5'-E	楕円形	0.42 × 0.38	44	法柱直立	平坦	自然		
1457	N 3 a7	N-12'-E	[円形・楕円形]	0.80 × 0.24	42	外植	平坦	人為		
1458	N 3 a6	-	円形	0.81 × 0.80	34	外植	平坦	人為	土師器、須恵器	PL20
1461	N 3 a6	N-89'-W	楕円形	0.91 × 0.80	58	外植	平坦	人為	土師器、須恵器、陶器	
1466	N 3 b6	N-52'-W	楕円形	0.78 × 0.59	12	縦斜	平坦	自然	土師器、須恵器、陶器	SB21・22→本跡
1469	N 3 e4	-	円形	0.59 × 0.55	22	外植	風状	人為		
1470	N 3 e4	-	円形	0.65 × 0.61	24	外植	風状	自然		
1471	N 3 e4	-	円形	0.53 × 0.50	24	外植	風状	自然		
1472	N 3 f4	N-39'-W	楕円形	0.56 × 0.44	15	外植	風状	人為		
1473	N 3 f4	N-29'-E	[楕円形]	0.62 × [0.48]	28	外植	風状	人為		
1474	N 3 f5	N-41'-E	楕円形	0.76 × 0.59	30	外植	風状	自然	土師器	
1475	N 3 f3	N-24'-W	楕円形	0.56 × 0.40	30	法柱直立	平坦	人為		
1476	N 3 f4	N-29'-W	[楕円形]	0.55 × [0.48]	33	法柱直立	平坦	人為		
1477	N 3 e4	N-49'-E	楕円形	0.55 × 0.44	30	外植	凹凸	自然		SK1478→本跡
1478	N 3 e4	N-41'-W	[楕円形]	[0.48] × 0.50	30	外植	平坦	自然		本跡→SK1477
1479	N 3 f4	N-45'-W	楕円形	0.36 × 0.32	38	法柱直立	風状	人為		
1480	M 3 J7	N-11'-E	[円形・楕円形]	0.67 × 0.24	29	外植	風状	人為	土師器、須恵器	
1482	K 3 J0	N-34'-W	隅丸長方形	2.18 × 0.98	23	外植	平坦	人為		PG24→本跡
1485	K 3 d9	N-4'-E	長方形	1.19 × [0.68]	37	外植	平坦	人為		
1486	L 3 d7	N-26'-W	方形	0.89 × 0.82	14	外植	平坦	人為		
1487	L 3 d7	N-31'-W	長方形	1.07 × 0.69	9	外植	平坦	人為	土師器	本跡→SK1488 PG25上重複
1488	L 3 d7	N-30'-W	長方形	0.85 × 0.57	12	法柱直立	平坦	人為		SK1487→本跡
1489	L 3 g9	-	円形	0.40 × 0.40	14	外植	平坦	自然		
1490	L 3 b9	N-7'-E	[楕円形]	1.32 × 0.81	34	外植	平坦	人為		
1492	N 3 f5	N-55'-E	楕円形	[1.08] × 0.78	30	法柱直立	平坦	自然	土師器	本跡→SK206, SK304
1493	M 3 e7	-	円形	0.39 × 0.39	46	直立	風状	人為		
1494	M 3 d8	N-2'-E	長方形	1.01 × 0.76	20	法柱直立	平坦	人為	土製品	
1495	K 3 b9	N-85'-W	長方形	1.39 × 0.88	44	法柱直立	平坦	人為	土師器、陶器	本跡→SK1496
1496	K 3 b9	N-11'-E	長方形	1.22 × 0.98	16	外植	平坦	人為		SK1495→本跡
1497	N 3 d3	N-3'-W	楕円形	0.75 × 0.63	22	外植	平坦	人為		本跡→PG28
1498	M 3 i2	N-31'-W	[楕円形]	2.80 × (1.96)	52	外植	平坦	人為	土師器、須恵器	SK242→本跡 SK1786上重複 SK36E, SK3C→本跡 SK1652上重複
1631	U 1 a5	N-57'-E	[方形・長方形]	1.14 × 0.48	60	直立	平坦	人為	須恵器	PG32→本跡 SK1631上重複
1632	U 1 a5	N-57'-E	[方形・長方形]	0.61 × 0.45	12	直立	平坦	人為		
1633	U 1 c8	N-5'-E	楕円形	1.16 × 0.82	66	外植	風状	人為		
1634	U 1 f5	N-73'-E	楕円形	0.88 × 0.57	20	外植	平坦	人為		
1635	U 1 a9	N-58'-E	楕円形	1.20 × 0.96	38	直立	平坦	人為		
1636	U 1 d8	N-27'-E	楕円形	2.02 × 0.98	54	縦斜 外植	平坦	人為		PL20
1638	U 1 d8	N-40'-W	長方形	1.02 × 0.63	28	法柱直立	平坦	人為	土師器、須恵器、陶器	PL20
1639	U 1 e8	N-15'-W	長方形	1.12 × 0.70	33	直立	平坦	人為	土師器、陶器	PL20
1640	U 1 c8	-	[円形・楕円形]	0.92 × 0.70	36	外植	平坦	自然		本跡→SK1641
1641	U 1 c8	N-65'-W	[楕円形]	1.20 × 1.04	29	外植	平坦	自然		SK1640・1642・ 1650→本跡
1642	U 1 d8	N-18'-W	[楕円形]	0.80 × 0.66	23	外植	平坦	自然		本跡→SK1641
1644	U 1 b5	N-28'-W	長方形	1.00 × 0.72	17	直立	平坦	不明		PG32→本跡
1645	U 1 d0	N-25'-E	楕円形	0.94 × 0.82	30	外植	平坦	人為		

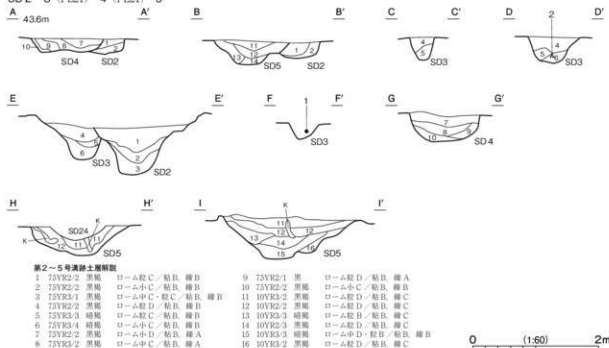
番号	位置	長径方向	平面形	規模		底面	壁面	覆土	主な出土遺物	備考
				長径×短径(m)	深さ(cm)					
1647	U 1 a5	不明	円形・楕円形	(0.22) × (0.10)	54	直立	-	不明	土師器	PG32 → 本跡 → SK1631, SD43
1648	U 1 d9	-	円形	0.41 × 0.39	38	直立	平坦	人為		
1650	U 1 c7	-	円形・楕円形	1.17 × (0.76)	26	外傾	平坦	人為		本跡 → SK1641
1652	W 2 c2	-	円形	0.32 × 0.30	70	直立	平坦	人為		
1653	W 2 c1	-	円形	0.23 × 0.22	28	外傾	皿状	不明		
1654	V 1 g7	N-68°-E	楕円形	1.78 × 1.53	24	緩斜	平坦	自然		PL20
1655	V 1 f8	N-80°-E	楕円形	1.43 × 1.18	34	外傾	平坦	人為		
1656	V 1 b9	N-62°-E	長方形	1.15 × 0.65	30	直立	平坦	自然		PL21
1657	V 1 c9	N-28°-W	楕円形	0.56 × 0.48	30	ほぼ直立	平坦	自然		
1658	V 1 b0	-	円形	0.80 × 0.77	52	直立	平坦	人為		PL21
1659	U 1 j9	N-86°-W	長方形	1.37 × 1.05	64	外傾	平坦	人為		SK1662 と重複
1660	U 1 c9	N-51°-E	楕円形	1.04 × 0.90	34	ほぼ直立	平坦	自然		PL21
1662	V 1 a9	-	不整形円形	1.01 × 0.98	39	外傾	平坦	人為		SK1659 と重複
1663	U 1 i0	N-33°-W	楕円形	1.34 × 1.02	26	外傾	平坦	人為		
1664	U 1 j0	N-36°-E	楕円形	1.25 × 0.96	17	外傾	平坦	自然		
1665	V 1 a7	N-42°-E	楕円形	0.98 × 0.86	17	緩斜	平坦	自然		
1666	V 1 b6	N-21°-E	楕円形	0.80 × 0.48	34	外傾	平坦	人為		

(3) 溝跡

今回の調査で、溝跡19条を確認した。その中で、第2～5・7～9・12～15号溝跡は、平成24・25年一度に調査し、当財団調査報告「第399集」において報告している。今回の調査区域に延びているものである。

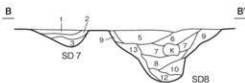
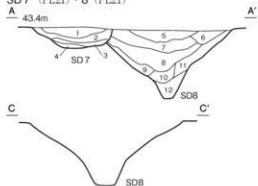
平面図は遺構全体図（付図）に記載し、規模は一覧（第78表）で記載した。ここでは土層断面図（第169・170図）及び出土遺物実測図（第171図）と出土遺物一覧（第74～77表）を記載する。

SD2・3 (PL21)・4 (PL21)・5



第169図 その他の溝跡実測図(1)

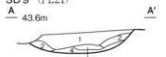
SD7 (PL21)・8 (PL21)



第7・8号溝跡土層解説

- | | | | | |
|----|-------------|----------------|---------|----|
| 1 | 10YR3/1 黒褐色 | ローム小D・粘土 | 炭化物D/粘土 | 雜土 |
| 2 | 10YR4/1 褐色 | ローム粘土 | | 雜土 |
| 3 | 10YR3/3 暗褐色 | ローム小C/粘土 | | 雜土 |
| 4 | 10YR3/1 黒褐色 | ローム小C/粘土 | | 雜土 |
| 5 | 10YR2/1 黒 | ローム粘土 | | 雜土 |
| 6 | 10YR3/2 黒褐色 | ローム小D/粘土 | | 雜土 |
| 7 | 10YR2/2 黒褐色 | ローム小C・焼土小C/粘土 | | 雜土 |
| 8 | 10YR3/2 黒褐色 | ローム小C・焼土小B/粘土 | | 雜土 |
| 9 | 10YR5/3 土砂 | ローム小C/粘土 | | 雜土 |
| 10 | 10YR3/3 暗褐色 | ローム小D/粘土 | | 雜土 |
| 11 | 10YR5/4 土砂 | ローム小C・粘土 | | 雜土 |
| 12 | 10YR2/3 黒褐色 | ローム大D・中C・小D/粘土 | | 雜土 |
| 13 | 10YR3/3 暗褐色 | ローム小C・粘土 | | 雜土 |

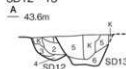
SD9 (PL21)



第9号溝跡土層解説

- | | | | |
|---|-------------|----------|----|
| 1 | 10YR2/1 黒 | ローム粘土/粘土 | 雜土 |
| 2 | 10YR2/2 黒褐色 | ローム小C/粘土 | 雜土 |
| 3 | 10YR3/3 暗褐色 | ローム中B/粘土 | 雜土 |
| 4 | 10YR4/4 褐色 | ローム大B/粘土 | 雜土 |

SD12・13



第12・13号溝跡土層解説

- | | | | |
|---|--------------|----------|----|
| 1 | 7.5YR3/1 黒褐色 | ローム小C/粘土 | 雜土 |
| 2 | 7.5YR3/1 黒褐色 | ローム粘土 | 雜土 |
| 3 | 7.5YR3/2 黒褐色 | ローム粘土 | 雜土 |



- | | | | |
|---|--------------|----------|----|
| 4 | 7.5YR4/3 褐色 | ローム小B・粘土 | 雜土 |
| 5 | 7.5YR3/1 黒褐色 | ローム粘土 | 雜土 |
| 6 | 7.5YR3/2 黒褐色 | ローム小D・粘土 | 雜土 |

SD14 (PL22)



第14号溝跡土層解説

- | | | | |
|---|--------------|----------|----|
| 1 | 7.5YR2/1 黒 | ローム粘土/粘土 | 雜土 |
| 2 | 7.5YR3/1 黒褐色 | ローム粘土/粘土 | 雜土 |
| 3 | 7.5YR2/2 黒褐色 | ローム粘土/粘土 | 雜土 |
| 4 | 7.5YR3/2 黒褐色 | ローム粘土/粘土 | 雜土 |
| 5 | 7.5YR2/2 黒褐色 | ローム小D/粘土 | 雜土 |

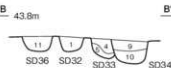
SD15 (PL22)



第15号溝跡土層解説

- | | | | |
|---|--------------|----------|----|
| 1 | 7.5YR2/1 黒 | ローム粘土/粘土 | 雜土 |
| 2 | 7.5YR3/1 黒褐色 | ローム粘土/粘土 | 雜土 |
| 3 | 7.5YR3/2 黒褐色 | ローム粘土/粘土 | 雜土 |

SD32 (PL22)・33 (PL22)・34・36



第32～34号溝跡土層解説

- | | | | |
|----|-------------|-------------|----|
| 1 | 10YR3/1 黒褐色 | ローム粘土/粘土 | 雜土 |
| 2 | 10YR3/2 黒褐色 | ローム中B・粘土 | 雜土 |
| 3 | 10YR3/2 黒褐色 | ローム中B・粘土 | 雜土 |
| 4 | 10YR3/1 黒褐色 | ローム小C・粘土 | 雜土 |
| 5 | 10YR3/2 黒褐色 | ローム中C・小C・粘土 | 雜土 |
| 6 | 10YR3/3 暗褐色 | ローム粘土/粘土 | 雜土 |
| 7 | 10YR3/3 暗褐色 | ローム小C・粘土 | 雜土 |
| 8 | 10YR3/2 黒褐色 | ローム中B・粘土 | 雜土 |
| 9 | 10YR3/1 黒褐色 | ローム中D・粘土 | 雜土 |
| 10 | 10YR3/2 黒褐色 | ローム小C・粘土 | 雜土 |
| 11 | 10YR2/1 黒 | ローム中C・小C・粘土 | 雜土 |
| 12 | 10YR2/2 黒褐色 | ローム中D・小C・粘土 | 雜土 |

SD24 (PL22)・25 (PL22)



第24・25号溝跡土層解説

- | | | | |
|---|--------------|---------------|----|
| 1 | 7.5YR2/2 黒褐色 | ローム小C・粘土 | 雜土 |
| 2 | 7.5YR3/2 黒褐色 | ローム中C/粘土 | 雜土 |
| 3 | 7.5YR2/1 黒 | ローム小D・炭化物D/粘土 | 雜土 |
| 4 | 7.5YR2/2 黒褐色 | ローム中C/粘土 | 雜土 |
| 5 | 7.5YR3/2 黒褐色 | ローム粘土/粘土 | 雜土 |
| 6 | 7.5YR4/3 褐色 | ローム粘土/粘土 | 雜土 |

SD35 (PL22)



第35号溝跡土層解説

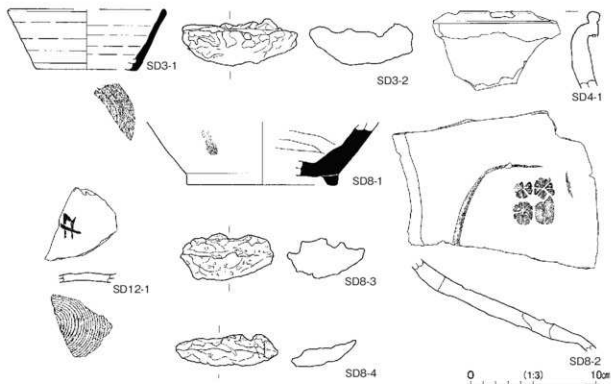
- | | | | |
|---|-------------|----------------|----|
| 1 | 10YR3/1 黒褐色 | ローム大D・中C・小C・粘土 | 雜土 |
| 2 | 10YR4/4 褐色 | ローム粘土/粘土 | 雜土 |

SD43 (PL22)



第43号溝跡土層解説

- | | | | |
|---|-------------|-------------|----|
| 1 | 10YR3/1 黒褐色 | ローム小D・粘土 | 雜土 |
| 2 | 10YR3/2 黒褐色 | ローム中D・小C・粘土 | 雜土 |
| 3 | 10YR4/1 褐色 | ローム中B・粘土 | 雜土 |
| 4 | 10YR4/3 褐色 | ローム小C・粘土 | 雜土 |



第171図 第3・4・8・12号溝跡出土遺物実測図

第74表 第3号溝跡出土遺物一覧

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	須臾器	坏	[123]	48	[80]	長石・石英	灰黄緑	普通	口縁部ラ開り 体部外・内面ロクロナデ 底部回転へ	覆土下層	30%
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴			出土位置	備考
2	輪彩洋	8.2	90	3.8	33994	鉄	一部発泡 全面錆化 着磁性あり			覆土下層	

第75表 第4号溝跡出土遺物一覧

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	文様・特徴		釉薬	産地	出土位置	備考
1	陶器	甕	-	(6.3)	-	長石・石英 磁石焼	口縁部外・内面ナデ	口縁部と肩部 に印画	自然釉	常滑	覆土中	5%

第76表 第8号溝跡出土遺物一覧

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	文様・特徴		釉薬	産地	出土位置	備考
1	須臾器	短頸甕	-	(5.0)	[11.8]	長石・石英	体部外面ロクロナデ	内面ナデ 底部回転へ	普通	体部外側白粉付け 難垂れ	覆土中	5%
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	文様・特徴		釉薬	産地	出土位置	備考
2	陶器	甕	-	(7.3)	-	長石・石英 にふい赤焼	体部外・内面ナデ	輪模み頭 押印花文	自然釉	瀬美・常滑系	覆土中	5%
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴			出土位置	備考	
3	輪彩洋	6.2	7.4	3.8	18091	鉄	一部発泡 全面錆化 着磁性なし			覆土中		
4	輪彩洋	5.2	8.1	2.5	9907	鉄	一部発泡 全面錆化 着磁性なし			覆土中		

第77表 第12号溝跡出土遺物一覧

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師器	甕	-	-	-	長石・石英・ 赤色粒子	にぶい橙	普通	内面ロクロナデ 底部回転糸切り	覆土中	10% PL40 磁書 [1]

第78表 その他の溝跡一覧

番号	位置	方向	平面形	規 模				断面	壁面	覆土	主な出土遺物	備 考
				長さ(m)	上幅(cm)	下幅(cm)	深さ(cm)					
2	Q1j8-R242	N-125°-E	直線状	(228)	54-96	12-54	22-104	U字状 逆台形	外堀	自然		SD3→本跡→SD4・5 PL21
3	R1a8-R242	N-130°-E	直線状	(2088)	28-92	6-44	12-78	U字状	外堀	人為	須恵器、陶器	本跡→SD2・4・5 PL21
4	R1b7-Q2j3	N-65°-E	直線状	(3654)	68-126	8-70	38-43	U字状	外堀	人為	土師器、須恵器、陶器	SK758、SD2・3 →本跡 PL21
5	R1c7-Q2j3	N-63°-E	直線状	(2684)	88-136	16-56	40-62	U字状	縦斜	人為	土師器、須恵器、砥石	SD2・3→本跡 →SD24
7	V2h2-W1a7	N-125°-W	直線状	(1232)	46-140	20-56	30-58	U字状	外堀	人為	土師器、須恵器、陶器	SD8、SF1→本跡 PL21
8	V2h2-W2f1	N-125°-W N-145°-E	L字状	(390)	144-244	20-48	78-110	逆台形	外堀	人為	縄文土器、土師器、須恵器、 陶器、銅製洋	本跡→SD7、SF1 PL21
9	S1e9-S1b8	N-55°-W	L字状	(45)	118-145	40-65	32-58	逆台形	外堀	人為	土師器、須恵器	本跡→SK29 PL21
12	P2j2-P2j7	N-88°-E	直線状	(2208)	60-100	16-60	30-39	U字状	外堀	自然	土師器、須恵器	本跡→SD13
13	P2j1-P2j7	N-82°-E	直線状	(2322)	56-100	30-76	40-54	逆台形	外堀	自然	陶器	SD12→本跡
14	P2a4-P2f8	N-139°-E	直線状	(2300)	40-90	20-56	12-28	U字状	外堀	人為	土師器、須恵器、陶器	PL22
15	P2b2-P2b8	N-86°-E	直線状	(2296)	40-72	14-42	17-28	U字状	外堀	人為		PL22
24	R1b7-R1d9	N-131°-E	直線状	(1166)	40-92	14-52	16-52	U字状	外堀	自然		SD5→本跡 PL22
25	R1b8-R1d9	N-128°-E	直線状	(816)	28-60	10-40	12-53	U字状	外堀	自然		PL22
32	O2a8-N3f6	N-58°-E	直線状	(2876)	20-74	12-40	6-27	U字状	外堀	自然	土師器、須恵器、陶器	SD30-246、SD306→ 本跡 PL22
33	O2a8-N3f6	N-58°-E	直線状	(2780)	26-110	18-42	7-60	U字状	山形直立	自然	土師器、須恵器	SD306→本跡→ SD34 PL22
34	O2a8-N3f5	N-58°-E	直線状	(2706)	38-72	12-40	26-40	逆台形	外堀	自然	土師器、須恵器	SD306、SK1276、 SD333→本跡 PL22
35	O3c3-O3d4	N-34°-W	直線状	(38)	40-88	20-64	16-22	U字状	外堀	自然		本跡→SK1251 PL22
36	N3f4-N3e6	N-58°-E	直線状	(78)	42-63	21-38	7-24	U字状	外堀	自然		SD306→本跡→ SD32
43	U1a5-U1e5	N-160°-E N-106°-W	L字状	(182)	33-65	7-34	37-60	逆台形	外堀	自然	土師器、須恵器	本跡→SK1631 1647、PL22

(4) 道路跡

今回の調査で、道路跡1条を確認したが、平成24・25年度による調査で、当財団調査報告「第399集」において報告している。第1号道路跡は、今回の調査区域に延びているものである。

第1号道路跡（第172図・付図 PL22）

位置 A区南部のV2h2～W1g0区、標高43mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第8号溝跡の後に構築され、第7号溝に掘り込まれている。

規模と形状 W1f0区から北西方向（N-30°-W）へ直線状に、V2h2区から北東方向（N-55°-E）へL字状に延び、前回の調査区域へ延びている。今回確認できた長さは2294m、幅0.18～0.55m、深さ7cmである。断面は緩やかなU字状である。

覆土 2層に分層できる。路面は第1層上面で、よく踏み固められている。

所見 出土遺物がなく、時期は不明である。



第172図 第1号道路跡実測図

(5) ビット群

22か所を確認した。平面図は遺構全体図(付図)に記載し、規模は一覧で記載した。遺物が出土しているビット群については出土遺物実測図(第173図)と出土遺物一覧(第93表)を付加する。

第79表 第6号ビット群一覧

ビット 番号	位 置	形 状	規 模 (cm)			ビット 番号	位 置	形 状	規 模 (cm)			ビット 番号	位 置	形 状	規 模 (cm)		
			長径	短径	深さ				長径	短径	深さ				長径	短径	深さ
1	S 1 c8	楕円形	59	46	18	29	T 1 b6	楕円形	46	40	21	57	T 1 e7	楕円形	19	17	39
2	S 1 d7	楕円形	48	40	21	30	T 1 a6	楕円形	35	31	21	58	T 1 d7	円形	28	26	41
3	S 1 c7	[楕円形]	43	(25)	19	31	T 1 b7	楕円形	48	40	14	59	S 1 j8	円形	36	35	23
4	S 1 d8	楕円形	69	54	18	32	T 1 a8	楕円形	64	57	25	60	T 1 a7	楕円形	23	20	20
5	S 1 d8	円形	57	52	24	33	S 1 b7	円形	43	42	14	61	S 1 j7	楕円形	40	35	32
6	S 1 e7	円形	54	50	9	34	S 1 b8	楕円形	48	39	6	62	S 1 d8	楕円形	30	27	29
7	S 1 f8	楕円形	51	43	12	35	S 1 g8	円形	43	42	15	63	T 1 c6	楕円形	36	27	28
8	S 1 f7	円形	31	29	15	36	S 1 g7	円形	51	50	7	64	T 1 d7	円形	28	26	15
9	S 1 e7	楕円形	47	26	20	37	S 1 i7	円形	57	54	16	65	T 1 c6	円形	28	27	27
10	S 1 e7	楕円形	54	40	5	38	T 1 a7	楕円形	48	42	24	66	T 1 d7	楕円形	26	22	29
11	S 1 e6	楕円形	54	46	18	39	S 1 g8	円形	41	40	11	67	T 1 d7	円形	36	33	21
12	S 1 f8	円形	22	21	9	40	S 1 i7	円形	42	39	18	68	T 1 d6	楕円形	65	50	19
13	S 1 b7	楕円形	55	42	9	41	T 1 a7	楕円形	37	31	37	69	T 1 d6	楕円形	52	33	47
14	S 1 b7	楕円形	58	44	21	42	T 1 c8	楕円形	38	34	25	70	T 1 d7	楕円形	26	23	28
15	S 1 i7	円形	34	33	31	43	S 1 b8	楕円形	58	43	16	71	T 1 c7	円形	31	30	24
16	S 1 i6	円形	39	36	15	44	T 1 d7	楕円形	68	54	23	72	T 1 d6	楕円形	38	28	12
17	S 1 i6	円形	45	41	20	45	T 1 d6	楕円形	59	52	20	73	T 1 c7	楕円形	40	36	35
18	S 1 e8	円形	34	34	25	46	T 1 a7	楕円形	37	33	18	74	T 1 c7	楕円形	35	25	35
19	S 1 e8	楕円形	74	61	25	47	T 1 a6	楕円形	55	48	20	75	T 1 e8	円形	34	32	36
20	S 1 b7	楕円形	29	24	25	48	S 1 i7	円形	44	41	16	76	T 1 c7	円形	29	28	23
21	S 1 d8	楕円形	68	61	21	49	S 1 i7	楕円形	60	44	16	77	T 1 c7	楕円形	26	18	22
22	S 1 j7	円形	42	42	17	50	S 1 j7	円形	40	38	16	78	T 1 c7	楕円形	36	22	29
23	T 1 a7	楕円形	62	50	15	51	S 1 i7	円形	57	53	25	79	T 1 c7	楕円形	28	25	32
24	T 1 a7	楕円形	52	41	22	52	S 1 i7	円形	37	36	24	80	T 1 e8	円形	34	34	29
25	T 1 a7	楕円形	53	44	12	53	S 1 j8	楕円形	26	20	18	81	T 1 e6	楕円形	28	32	12
26	T 1 a7	円形	40	37	10	54	T 1 a8	楕円形	48	40	20	82	T 1 e6	円形	28	26	30
27	T 1 c7	楕円形	42	36	32	55	T 1 d6	楕円形	43	36	15						
28	T 1 c7	楕円形	62	50	24	56	T 1 d6	楕円形	36	20	42						

第80表 第11号ビット群一覧

ビット 番号	位 置	形 状	規 模 (cm)			ビット 番号	位 置	形 状	規 模 (cm)			ビット 番号	位 置	形 状	規 模 (cm)		
			長径	短径	深さ				長径	短径	深さ				長径	短径	深さ
1	R 2 e1	円形	13	13	35	8	R 2 f1	円形	12	12	41	15	R 2 f1	円形	16	16	4
2	R 1 f0	円形	12	12	17	9	R 2 f1	円形	14	14	28	16	R 2 f1	楕円形	16	14	9
3	R 2 f1	円形	13	12	10	10	R 2 f1	楕円形	20	18	42	17	R 2 f2	円形	26	26	13
4	R 2 f1	楕円形	12	10	4	11	R 2 f1	円形	14	14	30	18	R 2 f2	円形	20	20	17
5	R 2 f1	楕円形	14	12	12	12	R 2 f1	円形	22	22	8	19	R 2 g1	円形	14	14	13
6	R 2 e1	円形	20	20	31	13	R 2 f1	円形	20	19	8	20	R 2 g1	円形	14	13	14
7	R 2 f1	楕円形	16	12	48	14	R 2 f1	楕円形	17	15	7	21	R 2 g1	円形	16	16	9

ビット番号	位置	形状	規 模 (cm)		
			長径	短径	深さ
22	R 2 g1	円形	12	12	6
23	R 2 g1	楕円形	16	14	13
24	R 2 g2	円形	20	20	14
25	R 1 f0	円形	46	42	11
26	R 1 f0	楕円形	37	36	10
27	R 1 f0 [楕円形]	(23)	20	38	
28	R 1 f0	楕円形	32	24	36
29	R 1 f0	円形	51	48	18
30	R 2 f1	円形	32	32	17
31	R 2 f1	楕円形	32	16	22

ビット番号	位置	形状	規 模 (cm)		
			長径	短径	深さ
32	R 1 f0	楕円形	36	27	17
33	R 2 f1	楕円形	42	23	36
34	R 2 f1	円形	34	31	15
35	R 1 f0	[楕円形]	52	(20)	12
36	R 2 f1	楕円形	32	24	14
37	R 2 f1	楕円形	31	24	34
38	R 2 f1	円形	40	40	23
39	R 2 g1	円形	29	28	14
40	R 2 g1	円形	31	30	12
41	R 2 g1	楕円形	37	24	22

ビット番号	位置	形状	規 模 (cm)		
			長径	短径	深さ
42	R 2 g1	[楕円形]	28	(17)	24
43	R 2 g1	楕円形	38	34	14
44	R 2 g1	円形	34	31	31
45	R 2 g1	楕円形	38	31	20
46	R 2 g1	[楕円形]	(40)	(28)	50
47	R 2 g1	[楕円形]	26	(16)	54
48	R 2 g1	[楕円形]	24	(18)	46
49	R 2 g2	[楕円形]	30	(35)	51

第81表 第12号ビット群一覧 (PL22)

ビット番号	位置	形状	規 模 (cm)		
			長径	短径	深さ
1	R 1 b0	楕円形	25	19	46
2	R 1 b0	円形	27	26	77
3	R 1 b0	楕円形	30	24	68
4	R 1 b0	円形	20	20	35
5	R 1 b0	円形	17	16	34
6	R 1 b0	楕円形	30	18	46
7	R 1 c0	楕円形	22	20	34
8	R 1 c0	楕円形	31	28	28
9	R 1 c0	楕円形	26	22	24
10	R 1 c0	円形	23	21	23
11	R 2 c1 [楕円形]	27	(16)	24	
12	R 1 b9	円形	21	21	22
13	R 1 b9	円形	16	16	23
14	R 1 b9	楕円形	20	18	26
15	R 1 b9	円形	14	14	11
16	R 1 b9	円形	14	14	21
17	R 1 b9	楕円形	22	20	30

ビット番号	位置	形状	規 模 (cm)		
			長径	短径	深さ
18	R 1 b9	楕円形	16	14	21
19	R 1 b9	円形	18	17	16
20	R 1 b9	楕円形	32	26	26
21	R 1 c0	楕円形	28	21	28
22	R 1 b9	楕円形	34	25	22
23	R 1 b9	[楕円形]	32	(20)	38
24	R 1 b9	楕円形	38	26	50
25	R 1 c0	楕円形	23	20	28
26	R 1 b0	楕円形	51	27	44
27	R 1 c0	楕円形	20	18	38
28	R 2 c1	円形	22	22	21
29	R 2 c1	円形	24	24	26
30	R 2 c1	楕円形	32	18	40
31	R 2 c1	楕円形	18	16	14
32	R 2 c1	楕円形	26	22	24
33	R 1 b0	楕円形	36	31	43
34	R 1 b0	楕円形	28	24	45

ビット番号	位置	形状	規 模 (cm)		
			長径	短径	深さ
35	R 1 b0	円形	37	34	64
36	R 2 b1	円形	48	45	22
37	R 1 b0	楕円形	33	30	54
38	R 1 c0	楕円形	27	24	23
39	R 1 c0	楕円形	30	24	46
40	R 1 c0	円形	29	27	30
41	R 2 c1	楕円形	36	32	52
42	R 2 d1	楕円形	35	30	58
43	R 1 a9	楕円形	28	23	30
44	R 1 a9	楕円形	56	24	17
45	R 1 b9	楕円形	59	24	24
46	R 1 b9	[円形]	(34)	32	23
47	R 1 a9	楕円形	29	26	62
48	R 1 a9	円形	36	26	30
49	R 1 a9	円形	30	20	21
50	R 1 a9	円形	24	22	22
51	R 1 a9	楕円形	44	30	46

第82表 第15号ビット群一覧 (PL23)

ビット番号	位置	形状	規 模 (cm)		
			長径	短径	深さ
1	O 2 d9	円形	32	30	18
2	O 2 d9	楕円形	36	28	22
3	O 2 c9	楕円形	27	23	18
4	O 2 c9	楕円形	34	30	32
5	O 2 c9	楕円形	30	22	42
6	O 2 e8	円形	22	22	12
7	O 2 c9	楕円形	30	27	18
8	O 2 c0	円形	36	33	14
9	O 2 b0	楕円形	38	34	20

ビット番号	位置	形状	規 模 (cm)		
			長径	短径	深さ
10	O 2 b0	円形	40	37	25
11	O 2 b0	円形	32	30	40
12	O 3 b1	楕円形	24	20	19
13	O 3 b1	円形	18	18	14
14	O 3 a1	楕円形	34	30	28
15	O 3 a1	円形	40	40	30
16	O 2 a0	楕円形	60	52	47
17	O 2 a0	楕円形	65	54	42
18	O 2 b0	楕円形	30	25	18

ビット番号	位置	形状	規 模 (cm)		
			長径	短径	深さ
19	O 2 b0	楕円形	28	24	20
20	O 2 b0	楕円形	34	28	14
21	O 2 b0	楕円形	28	24	22
22	O 2 b9	楕円形	29	25	34
23	O 2 c9	楕円形	32	27	34
24	O 3 a1	楕円形	44	40	47
25	O 3 a1	楕円形	53	44	42
26	O 2 a0	楕円形	42	38	82
27	O 2 b8	楕円形	38	30	44

ビット 番号	位 置	形 状	規 模 (cm)		
			長径	短径	深さ
28	O 2 b8	楕円形	46	30	20
29	O 2 b8	楕円形	50	34	29
30	O 2 c8	楕円形	34	30	26
31	O 2 b9	楕円形	34	28	28
32	O 2 c9	円形	30	28	35
33	O 2 e9	円形	32	30	25
34	O 2 c9	楕円形	30	24	28
35	O 2 d9	楕円形	59	44	26

ビット 番号	位 置	形 状	規 模 (cm)		
			長径	短径	深さ
36	O 2 d9	楕円形	54	45	14
37	O 2 d9	楕円形	30	27	23
38	O 2 e8	楕円形	40	36	30
39	O 2 e9	楕円形	26	20	13
40	O 2 e9	円形	36	36	20
41	O 2 e0	楕円形	28	24	15
42	O 2 e0	楕円形	32	28	12
43	O 2 f0	楕円形	52	34	28

ビット 番号	位 置	形 状	規 模 (cm)		
			長径	短径	深さ
44	O 2 f9	楕円形	38	32	12
45	O 2 f9	楕円形	30	24	25
46	O 2 f9	円形	35	34	23
47	O 2 f0	楕円形	31	28	20
48	O 2 g0	楕円形	34	28	34
49	O 2 f8	楕円形	50	40	29
50	O 3 f1	円形	30	29	16

第 83 表 第 17 号ビット群一覧 (PL23)

ビット 番号	位 置	形 状	規 模 (cm)		
			長径	短径	深さ
1	O 3 h1	楕円形	21	16	28
2	O 3 h1	楕円形	23	16	14
3	O 3 h1	楕円形	21	19	10

ビット 番号	位 置	形 状	規 模 (cm)		
			長径	短径	深さ
4	O 2 h0	円形	25	24	20
5	O 2 h0	楕円形	26	20	31
6	O 2 h0	円形	18	18	21

ビット 番号	位 置	形 状	規 模 (cm)		
			長径	短径	深さ
7	O 2 h0	楕円形	27	22	27
8	O 2 g0	楕円形	30	22	31

第 84 表 第 18 号ビット群一覧 (PL23)

ビット 番号	位 置	形 状	規 模 (cm)		
			長径	短径	深さ
1	P 2 b0	円形	26	25	24
2	P 2 b9	楕円形	32	27	60
3	P 2 b0	円形	28	26	15
4	P 2 b9	円形	28	27	38
5	P 2 b9	楕円形	33	30	44
6	P 2 b9	楕円形	32	28	20
7	P 2 c9	円形	40	38	41
8	P 2 c9	円形	42	40	36
9	P 2 c9	楕円形	36	32	26
10	P 2 c9	楕円形	33	28	26
11	P 2 d9	円形	27	25	21
12	P 2 e8	楕円形	21	18	14
13	P 2 e8	楕円形	32	22	51
14	P 2 e8	楕円形	28	22	17
15	P 2 e8	楕円形	36	22	31
16	P 2 e8	楕円形	29	26	45
17	P 2 a9	円形	29	27	34

ビット 番号	位 置	形 状	規 模 (cm)		
			長径	短径	深さ
18	P 2 a9	楕円形	30	25	26
19	P 2 a9	楕円形	24	21	23
20	P 2 a9	楕円形	22	17	23
21	P 2 a9	円形	18	18	23
22	P 2 a8	楕円形	30	26	19
23	P 2 a9	楕円形	23	20	22
24	P 2 a8	円形	22	21	14
25	P 2 a8	円形	21	21	25
26	P 2 b8	円形	22	21	16
27	P 2 a7	楕円形	24	20	16
28	P 2 a7	円形	30	29	18
29	P 2 a7	円形	36	35	18
30	P 2 b7	楕円形	40	36	24
31	P 2 a7	円形	32	30	18
32	P 2 b8	円形	24	22	30
33	P 2 b7	楕円形	44	37	21
34	P 2 b7	楕円形	30	25	32

ビット 番号	位 置	形 状	規 模 (cm)		
			長径	短径	深さ
35	P 2 b8	円形	28	26	36
36	P 2 d8	楕円形	28	22	50
37	P 2 d8	楕円形	44	27	31
38	P 2 d8	楕円形	27	24	57
39	P 2 c8	楕円形	64	51	16
40	O 2 j5	楕円形	46	41	30
41	O 2 j6	[楕円形]	(46)	52	32
42	O 2 j6	円形	45	44	42
43	O 2 j6	楕円形	45	40	34
44	O 2 j6	楕円形	36	29	17
45	O 2 a5	楕円形	36	30	20
46	P 2 a5	楕円形	73	43	25
47	P 2 a6	円形	38	35	22
48	P 2 a6	楕円形	74	46	40
49	P 2 a6	楕円形	33	27	18
50	P 2 a6	円形	50	50	35
51	P 2 a6	楕円形	28	24	22

第 85 表 第 20 号ビット群一覧 (PL23)

ビット 番号	位 置	形 状	規 模 (cm)		
			長径	短径	深さ
1	P 2 g7	楕円形	32	26	16
2	P 2 g7	円形	26	26	30

ビット 番号	位 置	形 状	規 模 (cm)		
			長径	短径	深さ
3	P 2 g7	楕円形	29	22	16
4	P 2 g7	楕円形	28	24	24

ビット 番号	位 置	形 状	規 模 (cm)		
			長径	短径	深さ
5	P 2 g7	楕円形	34	30	19
6	P 2 g6	円形	28	26	26

ビット 番号	位 置	形 状	規 模 (cm)		
			長径	短径	深さ
7	P 2 g6	楕円形	28	24	20
8	P 2 g6	楕円形	28	25	21
9	P 2 g6	楕円形	48	40	21
10	P 2 g6	楕円形	30	24	14
11	P 2 g6	楕円形	28	25	15
12	P 2 g6	円形	28	27	17

ビット 番号	位 置	形 状	規 模 (cm)		
			長径	短径	深さ
13	P 2 g6	楕円形	34	21	28
14	P 2 g6	楕円形	26	22	12
15	P 2 f6	円形	22	22	16
16	P 2 g6	楕円形	26	32	56
17	P 2 g6	楕円形	28	21	10
18	P 2 g6	円形	32	31	52

ビット 番号	位 置	形 状	規 模 (cm)		
			長径	短径	深さ
19	P 2 g6	円形	28	26	27
20	P 2 e7	楕円形	34	28	55
21	P 2 e7	円形	30	30	20
22	P 2 e7	楕円形	44	34	20
23	P 2 e6	円形	33	32	50

第86表 第21号ビット群一覧 (PL23)

ビット 番号	位 置	形 状	規 模 (cm)		
			長径	短径	深さ
1	O 2 f8	楕円形	42	36	24
2	O 2 g8	楕円形	26	23	28
3	O 2 g7	円形	25	24	50
4	O 2 g7	円形	26	25	12
5	O 2 g7	楕円形	32	29	29

ビット 番号	位 置	形 状	規 模 (cm)		
			長径	短径	深さ
6	O 2 g7	円形	29	28	22
7	O 2 h7	楕円形	35	31	22
8	O 2 h7	楕円形	23	18	24
9	O 2 i7	円形	27	25	16
10	O 2 i7	円形	32	30	21

ビット 番号	位 置	形 状	規 模 (cm)		
			長径	短径	深さ
11	O 2 h7	楕円形	42	33	26
12	O 2 g7	円形	25	24	18
13	O 2 g7	円形	32	30	15
14	O 2 g7	円形	33	33	24
15	O 2 g7	円形	19	18	30

第87表 第23号ビット群一覧 (PL23)

ビット 番号	位 置	形 状	規 模 (cm)		
			長径	短径	深さ
1	K 3 a9 [楕円形]	32	(19)	47	
2	K 3 a9	楕円形	28	24	47
3	K 3 a9	円形	32	30	56
4	K 3 a9 [楕円形]	21	(11)	33	
5	K 3 a9	楕円形	21	19	33
6	K 3 a9	楕円形	36	23	54
7	K 3 a9	楕円形	34	30	45
8	K 3 a9	円形	23	23	18
9	K 3 a9	円形	24	24	34
10	K 3 a9 [楕円形]	(30)	20	16	

ビット 番号	位 置	形 状	規 模 (cm)		
			長径	短径	深さ
11	K 3 b9	楕円形	37	27	36
12	K 3 b9	楕円形	16	13	26
13	K 3 a9	円形	12	12	19
14	K 3 a9	楕円形	31	24	48
15	K 3 a9 [楕円形]	26	(12)	14	
16	K 3 a9	楕円形	46	35	66
17	K 3 a9	楕円形	33	22	23
18	K 3 a9	楕円形	30	19	55
19	K 3 a9	楕円形	20	13	32
20	K 3 a9	楕円形	32	19	22

ビット 番号	位 置	形 状	規 模 (cm)		
			長径	短径	深さ
21	K 3 a9	楕円形	22	20	47
22	K 3 a9	楕円形	25	22	15
23	K 3 a9	楕円形	36	28	37
24	K 3 a9 [楕円形]	(18)	16	13	
25	K 3 a9	楕円形	26	21	40
26	K 3 a9	円形	28	26	10
27	K 3 a9	楕円形	22	20	28
28	K 3 a9	楕円形	17	14	15
29	K 3 a9	楕円形	22	14	35

第88表 第24号ビット群一覧

ビット 番号	位 置	形 状	規 模 (cm)		
			長径	短径	深さ
1	K 4 h1	楕円形	22	20	41
2	K 4 b1	円形	34	33	62
3	K 4 i1	楕円形	34	30	39
4	K 4 i1	楕円形	26	19	29
5	K 4 i1 [楕円形]	(22)	17	24	
6	K 4 i1	楕円形	45	29	43
7	K 3 i0	楕円形	21	17	12
8	K 3 i0	楕円形	22	17	9
9	K 3 i0	楕円形	31	19	31

ビット 番号	位 置	形 状	規 模 (cm)		
			長径	短径	深さ
10	K 3 j0	円形	29	27	20
11	K 3 j0	楕円形	28	23	15
12	K 4 j1	楕円形	25	21	54
13	K 3 i0	円形	25	23	36
14	K 3 j0 [楕円形]	(27)	20	32	
15	K 3 j0	楕円形	26	20	25
16	K 3 i0	楕円形	32	26	20
17	K 3 j0	楕円形	19	17	14
18	L 3 b9	円形	41	38	19

ビット 番号	位 置	形 状	規 模 (cm)		
			長径	短径	深さ
19	K 3 j0	楕円形	25	21	44
20	K 3 j0	楕円形	22	15	36
21	K 3 j0	円形	21	21	15
22	K 3 j0	楕円形	23	16	19
23	K 3 j0	円形	31	30	22
24	K 3 j0	円形	18	18	27
25	K 3 j0	円形	23	21	19
26	K 3 j0	楕円形	30	26	18
27	K 3 i0	円形	29	28	27

ビット番号	位置	形状	規 模 (cm)			ビット番号	位置	形状	規 模 (cm)			ビット番号	位置	形状	規 模 (cm)		
			長径	短径	深さ				長径	短径	深さ				長径	短径	深さ
28	K 3 j9	楕円形	26	21	7	46	K 3 j9	楕円形	33	28	19	64	K 3 j9	円形	25	25	29
29	K 3 j9	円形	45	45	35	47	K 3 j9	円形	17	16	15	65	J 3 j0	円形	29	27	21
30	K 3 j0	楕円形	23	19	19	48	L 3 a9	円形	22	21	15	66	L 3 a0	楕円形	33	23	21
31	K 3 j0	楕円形	19	17	26	49	L 3 a9	楕円形	24	18	33	67	K 3 i0	楕円形	22	19	14
32	K 3 j0	円形・楕円形	(16)	16	8	50	L 3 a9	円形	33	32	47	68	K 3 i0	円形	20	20	9
33	K 3 j0	円形	27	26	25	51	L 3 a9	不定形	29	28	25	69	K 3 i0	円形	24	22	12
34	K 3 j0	楕円形	30	24	29	52	L 3 a9	円形	25	23	23	70	K 3 i0	楕円形	33	30	19
35	K 3 j0	楕円形	21	19	22	53	J 3 j9	円形	22	22	21	71	K 3 j0	楕円形	28	19	27
36	L 3 a0	円形	21	21	11	54	L 3 a9	円形	27	25	24	72	K 3 j0	円形	22	21	24
37	L 3 a0	円形	33	33	28	55	K 3 i0	円形	25	24	15	73	K 3 j0	円形	24	23	49
38	L 3 a0	円形	23	21	21	56	K 3 j0	楕円形	21	19	57	74	K 3 j0	[楕円形]	38	(28)	22
39	K 3 j9	楕円形	26	23	20	57	K 4 j1	楕円形	21	18	36	75	K 3 j0	円形	18	17	17
40	K 3 j9	円形	25	23	13	58	K 4 i1	楕円形	49	(26)	28	76	K 3 j0	楕円形	36	32	34
41	K 3 j9	楕円形	41	33	14	59	K 4 i1	楕円形	43	25	19	77	L 3 b9	[楕円形]	25	(21)	9
42	K 3 j9	円形	31	29	31	60	J 3 j9	円形	23	21	25	78	L 3 b9	円形	40	37	36
43	K 3 j9	楕円形	34	29	24	61	K 4 j1	円形	19	19	10	79	L 3 b0	円形	29	27	39
44	K 3 j9	円形	21	21	28	62	K 4 j1	楕円形	31	28	17	80	K 3 j9	円形	19	19	14
45	K 3 j9	円形	18	18	31	63	K 3 j9	楕円形	29	25	13	81	K 3 i7	楕円形	32	29	45

第89表 第25号ビット群一覧

ビット番号	位置	形状	規 模 (cm)			ビット番号	位置	形状	規 模 (cm)			ビット番号	位置	形状	規 模 (cm)		
			長径	短径	深さ				長径	短径	深さ				長径	短径	深さ
1	L 3 a0	円形	26	24	59	14	L 3 c8	円形	33	31	16	27	L 3 a8	楕円形	30	26	23
2	L 3 a9	楕円形	52	47	25	15	L 3 c8	楕円形	31	25	31	28	L 3 b8	楕円形	36	30	49
3	L 3 a9	楕円形	34	28	33	16	L 3 c8	楕円形	61	51	15	29	L 3 b9	円形	29	29	11
4	L 3 a9	楕円形	42	29	27	17	L 3 c8	楕円形	41	35	28	30	L 3 b9	円形	21	19	13
5	L 3 a9	円形	26	26	14	18	L 3 c8	楕円形	40	32	35	31	L 3 b9	楕円形	27	23	16
6	L 3 a8	楕円形	32	29	48	19	L 3 c8	楕円形	65	45	28	32	L 3 b9	楕円形	25	18	6
7	L 3 a7	円形	39	37	21	20	L 3 c8	[楕円形]	(52)	48	29	33	L 3 b9	楕円形	42	30	24
8	L 3 a7	楕円形	49	(43)	16	21	L 3 c8	円形	38	36	33	34	L 3 a9	円形	26	24	19
9	L 3 a7	楕円形	43	36	23	22	L 3 f8	楕円形	32	28	54	35	L 3 a9	円形	22	22	10
10	L 3 i7	円形	42	39	15	23	L 3 g0	[円形]	23	(22)	19	36	L 3 g8	楕円形	31	28	34
11	L 3 a8	円形	27	26	34	24	L 3 b7	楕円形	29	26	32	37	L 3 g8	楕円形	24	19	17
12	L 3 c9	楕円形	41	35	38	25	L 3 b8	円形	31	29	43	38	L 3 f8	円形	22	22	27
13	L 3 c9	楕円形	32	28	31	26	L 3 b8	円形	48	44	34	39	L 3 d7	楕円形	29	26	25

第90表 第26号ビット群一覧 (PL23)

ビット番号	位置	形状	規 模 (cm)			ビット番号	位置	形状	規 模 (cm)			ビット番号	位置	形状	規 模 (cm)		
			長径	短径	深さ				長径	短径	深さ				長径	短径	深さ
1	M 3 b6	円形	37	36	22	6	M 3 c6	楕円形	36	32	48	11	M 3 e6	楕円形	60	38	21
2	M 3 c7	楕円形	20	17	33	7	M 3 c6	円形	34	34	39	12	M 3 e5	楕円形	42	38	46
3	M 3 c7	楕円形	34	28	20	8	M 3 d6	楕円形	40	31	21	13	M 3 f5	不定形	74	51	23
4	M 3 c7	楕円形	36	28	30	9	M 3 d6	円形	28	27	17	14	M 3 f5	楕円形	28	18	33
5	M 3 c6	楕円形	32	26	25	10	M 3 d6	円形	27	25	27	15	M 3 e4	楕円形	65	38	14

ピット 番号	位置	形状	規 模 (cm)		
			長径	短径	深さ
16	M 3e4	円形	48	48	18
17	M 3e4	円形	38	35	10
18	M 3e4	楕円形	40	36	23
19	M 3e5	円形	32	31	15
20	M 3d4	円形	38	38	42
21	M 3d4	楕円形	38	28	22
22	M 3c6	円形	38	36	38

ピット 番号	位置	形状	規 模 (cm)		
			長径	短径	深さ
23	M 3b5	楕円形	44	40	32
24	M 3a5	[円形]	(42)	40	24
25	M 3a5	楕円形	46	42	24
26	M 3a5	楕円形	44	40	34
27	M 3a5	楕円形	42	38	22
28	M 3a5	楕円形	58	50	32
29	L 3j5	楕円形	49	42	44

ピット 番号	位置	形状	規 模 (cm)		
			長径	短径	深さ
30	L 3j5	楕円形	42	35	20
31	L 3j8	楕円形	37	33	44
32	L 3j8	円形	40	37	39
33	L 3j8	円形	46	46	34
34	L 3j8	円形	35	35	39
35	L 3j9	[部・部]	40	(20)	26

第91表 第27号ピット群一覽

ピット 番号	位置	形状	規 模 (cm)		
			長径	短径	深さ
1	M 3h3	楕円形	50	42	21
2	M 3h4	楕円形	35	27	22
3	M 3h4	楕円形	41	37	25
4	M 3i5	楕円形	33	28	21
5	M 3i5	円形	28	28	15

ピット 番号	位置	形状	規 模 (cm)		
			長径	短径	深さ
6	M 3j5	円形	27	25	27
7	M 3j5	楕円形	28	25	11
8	M 3j4	楕円形	40	32	24
9	N 3a4	楕円形	26	22	51
10	N 3a4	楕円形	42	[30]	23

ピット 番号	位置	形状	規 模 (cm)		
			長径	短径	深さ
11	N 3a3	円形	28	(26)	20
12	N 3a3	円形	32	31	13
13	N 3a4	円形	35	32	21

第92表 第28号ピット群一覽 (PL23)

ピット 番号	位置	形状	規 模 (cm)		
			長径	短径	深さ
1	N 3d3	円形	32	30	25
2	N 3d3	楕円形	56	38	52
3	N 3d3	楕円形	32	28	9
4	N 3c3	円形	34	31	19
5	N 3e3	円形	29	27	45
6	N 3e3	楕円形	28	21	13
7	N 3d4	[円形]	(24)	22	18
8	N 3e3	円形	28	27	35
9	N 3e3	楕円形	52	49	36
10	N 3c3	円形	52	52	26
11	N 3c3	[部・部]	44	(32)	25
12	N 3c3	[楕円形]	56	[45]	25
13	N 3d3	楕円形	61	52	45

ピット 番号	位置	形状	規 模 (cm)		
			長径	短径	深さ
14	N 3d4	[楕円形]	(60)	59	34
15	N 3e4	楕円形	32	27	24
16	N 3e5	円形	34	31	19
17	N 3e5	円形	45	41	48
18	N 3d5	円形	58	58	38
19	N 3c6	楕円形	55	51	49
20	N 3e3	楕円形	55	49	39
21	N 3e3	楕円形	43	35	13
22	N 3d4	円形	25	25	28
23	N 3d5	[楕円形]	43	[35]	62
24	N 3d5	楕円形	29	23	19
25	N 3d5	楕円形	30	27	17
26	N 3c6	[楕円形]	45	[30]	24

ピット 番号	位置	形状	規 模 (cm)		
			長径	短径	深さ
27	N 3c6	楕円形	36	23	25
28	N 3c6	[楕円形]	(62)	38	47
29	N 3c5	楕円形	47	42	39
30	N 3c5	[円形]	46	(42)	16
31	N 3c3	円形	28	27	32
32	N 3d3	楕円形	34	28	42
33	N 3c5	楕円形	52	48	20
34	N 3c6	[円形]	36	32	48
35	N 3d4	円形	26	26	12
36	N 3b5	[楕円形]	(80)	(69)	46
37	N 3e4	楕円形	42	39	23
38	N 3c5	[楕円形]	(82)	58	55



第173図 第28号ピット群出土遺物実測図

第93表 第28号ピット群出土遺物一覧

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師器	坏	-	-	-	長石・石英	にぶい・肌	普通	内面へう磨き 底部回転へう削り	P22 覆土中	5% 部費 [□]
2	須恵器	甕	(79)	-	-	長石・石英・ 黒母	にぶい・肌	普通	体部外面斜位の平行叩き後、縦位の平行叩き 内面ナデ	P39 覆土中	5%

第94表 第32号ピット群一覧 (PI.24)

ピット 番号	位置	形状	規模 (cm)			ピット 番号	位置	形状	規模 (cm)			ピット 番号	位置	形状	規模 (cm)		
			長径	短径	深さ				長径	短径	深さ				長径	短径	深さ
1	U 1 a6	楕円形	26	18	30	40	U 1 d6	円形	30	20	23	79	U 1 e5	楕円形	30	24	27
2	U 1 b5	円形	23	22	33	41	U 1 d6	楕円形	16	14	11	80	U 1 e5	円形	21	20	18
3	U 1 a6	楕円形	20	16	15	42	U 1 d6	円形	21	21	24	81	U 1 e5	円形	18	17	48
4	U 1 a6	楕円形	30	24	18	43	U 1 d6	楕円形	20	17	29	82	U 1 e6	楕円形	68	48	24
5	U 1 a6	楕円形	22	18	34	44	U 1 d6	楕円形	23	20	30	83	U 1 e7	楕円形	18	14	16
6	U 1 b6	円形	20	19	31	45	U 1 d6	円形	15	14	13	84	U 1 e7	楕円形	25	21	17
7	U 1 b6	楕円形	44	30	31	46	U 1 d6	楕円形	28	22	18	85	U 1 e7	楕円形	31	20	26
8	U 1 b6	楕円形	20	18	20	47	U 1 d6	楕円形	24	20	28	86	U 1 e7	楕円形	21	19	28
9	U 1 b6	楕円形	28	22	15	48	U 1 d6	楕円形	22	18	33	87	U 1 e7	楕円形	27	16	30
10	U 1 b6	楕円形	18	16	25	49	U 1 d6	円形	26	24	24	88	U 1 e7	楕円形	18	15	30
11	U 1 b6	楕円形	25	18	21	50	U 1 d6	楕円形	23	18	17	89	U 1 e7	楕円形	29	18	28
12	U 1 b6	楕円形	24	20	24	51	U 1 d6	円形	18	18	11	90	U 1 e7	楕円形	21	19	26
13	U 1 b6	楕円形	22	18	13	52	U 1 d7	円形	20	19	43	91	U 1 d6	円形	36	35	47
14	U 1 b6	楕円形	29	25	16	53	U 1 d7	楕円形	23	20	32	92	U 1 a5	[楕円形]	16	(15)	43
15	U 1 b6	楕円形	22	17	24	54	U 1 d7	円形	21	20	21	93	U 1 a5	[円形]	14	(7)	20
16	U 1 b6	円形	25	24	41	55	U 1 d7	楕円形	26	21	34	94	U 1 a5	楕円形	26	19	30
17	U 1 b6	円形	16	15	26	56	U 1 d7	楕円形	18	16	18	95	U 1 b5	楕円形	25	14	22
18	U 1 b6	楕円形	16	14	23	57	U 1 d7	楕円形	21	18	26	96	U 1 b5	楕円形	31	19	54
19	U 1 b6	楕円形	20	16	20	58	U 1 d7	楕円形	24	18	40	97	U 1 b5	楕円形	22	14	51
20	U 1 b6	楕円形	18	14	15	59	U 1 d7	楕円形	34	31	33	98	U 1 b5	楕円形	21	15	40
21	U 1 e6	円形	35	24	13	60	U 1 d7	円形	18	17	15	99	U 1 e6	楕円形	25	17	49
22	U 1 e6	円形	17	17	15	61	U 1 d7	楕円形	28	16	19	100	U 1 d6	楕円形	30	19	43
23	U 1 e6	円形	17	16	13	62	U 1 d6	円形	19	18	36	101	U 1 d6	円形	17	17	64
24	U 1 e6	楕円形	21	19	22	63	U 1 d6	楕円形	30	26	32	102	U 1 d6	楕円形	20	17	68
25	U 1 e7	円形	14	14	15	64	U 1 e6	楕円形	26	23	27	103	U 1 d6	楕円形	27	22	69
26	U 1 e7	楕円形	20	15	18	65	U 1 e6	楕円形	25	22	32	104	U 1 e5	円形	20	20	63
27	U 1 e6	楕円形	20	18	27	66	U 1 d7	楕円形	20	18	40	105	U 1 e5	楕円形	28	21	55
28	U 1 e6	楕円形	30	22	37	67	U 1 e6	楕円形	30	18	36	106	U 1 a5	[楕円形]	(12)	11	17
29	U 1 e6	楕円形	21	19	29	68	U 1 e6	円形	28	27	16	107	U 1 a5	楕円形	18	16	60
30	U 1 e6	楕円形	20	16	18	69	U 1 e6	楕円形	18	16	15	108	U 1 a5	楕円形	23	14	0
31	U 1 e7	円形	17	17	22	70	U 1 e6	円形	28	27	48	109	U 1 b5	円形	20	19	49
32	U 1 e7	楕円形	22	20	16	71	U 1 e6	円形	21	20	31	110	U 1 b5	楕円形	40	18	65
33	U 1 e7	楕円形	20	17	22	72	U 1 e6	円形	23	21	43	111	U 1 b5	楕円形	26	13	58
34	U 1 e7	楕円形	21	19	29	73	U 1 e6	楕円形	30	18	24	112	U 1 b5	楕円形	40	21	55
35	U 1 e7	楕円形	24	18	25	74	U 1 e6	円形	21	21	21	113	U 1 b5	楕円形	34	34	36
36	U 1 d7	円形	18	17	16	75	U 1 e5	楕円形	37	27	71	114	U 1 b5	楕円形	39	28	74
37	U 1 d7	楕円形	15	12	15	76	U 1 e5	円形	28	28	51	115	U 1 b5	楕円形	31	23	44
38	U 1 d6	楕円形	26	20	26	77	U 1 e5	楕円形	20	16	10	116	U 1 b5	楕円形	25	19	60
39	U 1 d6	楕円形	17	10	13	78	U 1 e5	楕円形	32	26	19	117	U 1 e6	楕円形	17	15	26

ビット番号	位置	形状	規 模 (cm)			ビット番号	位置	形状	規 模 (cm)			ビット番号	位置	形状	規 模 (cm)		
			長径	短径	深さ				長径	短径	深さ				長径	短径	深さ
118	U 1 c6	楕円形	41	28	18	133	U 1 d6	円形	27	27	34	148	U 1 d6	円形	36	34	57
119	U 1 c5	楕円形	28	21	50	134	U 1 d6	楕円形	27	24	46	149	U 1 d6	円形	27	27	42
120	U 1 c6	楕円形	19	16	43	135	U 1 d6	円形	23	21	56	150	U 1 d6	楕円形	28	23	39
121	U 1 c6	楕円形	40	26	75	136	U 1 e5	楕円形	38	30	55	151	U 1 d5	楕円形	27	24	40
122	U 1 c6	楕円形	27	23	37	137	U 1 b5	楕円形	41	25	68	152	U 1 d5	円形	29	27	49
123	U 1 c6	楕円形	26	19	30	138	U 1 b5	楕円形	34	30	56	153	U 1 d5	楕円形	22	19	26
124	U 1 c6	楕円形	26	21	49	139	U 1 b5	楕円形	43	30	51	154	U 1 d5	円形	18	18	17
125	U 1 c6	楕円形	24	17	75	140	U 1 b5	楕円形	45	31	46	155	U 1 b5	円形	28	26	48
126	U 1 d6	楕円形	33	27	36	141	U 1 c5	楕円形	22	18	43	156	U 1 b5	楕円形	21	19	28
127	U 1 d6	楕円形	32	25	44	142	U 1 c5	楕円形	35	27	18	157	U 1 c5	円形	23	22	23
128	U 1 d6	楕円形	22	20	30	143	U 1 c5	楕円形	34	25	18	158	U 1 c5	楕円形	23	16	70
129	U 1 d6	楕円形	32	28	61	144	U 1 c6	楕円形	26	21	26	159	U 1 c5	楕円形	18	14	22
130	U 1 d6	楕円形	24	16	40	145	U 1 c6	楕円形	37	25	76	160	U 1 c5	楕円形	18	15	26
131	U 1 d6	楕円形	28	24	34	146	U 1 d6	楕円形	35	25	18	161	U 1 c5	円形	25	25	57
132	U 1 d6	楕円形	25	21	59	147	U 1 d6	楕円形	22	20	24	162	U 1 d6	円形	14	14	25

第95表 第33号ビット群一覧 (PL24)

ビット番号	位置	形状	規 模 (cm)			ビット番号	位置	形状	規 模 (cm)			ビット番号	位置	形状	規 模 (cm)		
			長径	短径	深さ				長径	短径	深さ				長径	短径	深さ
1	U 1 f5	楕円形	48	(34)	15	9	U 1 f8	楕円形	28	18	17	17	U 1 i7	楕円形	25	20	30
2	U 1 f6	楕円形	21	19	22	10	U 1 g7	円形	21	20	16	18	U 1 i7	円形	19	19	33
3	U 1 f6	楕円形	51	39	20	11	U 1 g7	楕円形	27	19	17	19	U 1 b7	円形	21	20	18
4	U 1 f6	楕円形	50	40	22	12	U 1 h7	楕円形	24	18	32	20	U 1 b6	楕円形	55	36	28
5	U 1 f6	楕円形	19	16	16	13	U 1 h7	円形	22	22	21	21	U 1 i6	楕円形	30	16	47
6	U 1 f7	円形	20	20	34	14	U 1 h8	円形	25	25	28	22	U 1 i6	円形	24	22	45
7	U 1 f7	円形	18	18	20	15	U 1 h8	楕円形	28	20	25	23	U 1 i6	円形	20	20	29
8	U 1 f7	楕円形	26	16	18	16	U 1 i7	楕円形	33	26	27	24	U 1 i6	円形	19	18	23

第96表 第36号ビット群一覧 (PL24)

ビット番号	位置	形状	規 模 (cm)			ビット番号	位置	形状	規 模 (cm)			ビット番号	位置	形状	規 模 (cm)		
			長径	短径	深さ				長径	短径	深さ				長径	短径	深さ
1	U 1 d0	円形	32	30	26	10	U 1 e9	円形	19	19	34	19	U 1 b8	円形	41	38	40
2	U 1 d9	楕円形	35	28	20	11	U 1 f9	楕円形	22	16	24	20	U 1 b7	楕円形	22	19	30
3	U 1 d9	円形	20	20	22	12	U 1 f9	楕円形	21	19	39	21	U 1 b7	円形	23	22	36
4	U 1 d0	楕円形	34	26	61	13	U 1 f9	楕円形	29	24	19	22	U 1 b8	楕円形	26	22	25
5	U 1 e9	円形	26	26	37	14	U 1 f9	円形	24	22	20	23	U 1 c8	円形	24	24	31
6	U 1 e9	楕円形	26	20	31	15	U 1 f9	楕円形	33	22	21	24	U 1 c8	円形	24	22	42
7	U 1 e8	楕円形	20	15	7	16	T 1 j8	楕円形	38	32	51	25	U 1 c9	楕円形	22	18	30
8	U 1 e8	楕円形	24	17	39	17	T 1 j9	楕円形	42	31	50						
9	U 1 e9	円形	26	24	46	18	T 1 j8	円形	36	33	29						

第97表 第37号ビット群一覧 (PL24)

ビット番号	位置	形状	規 模 (cm)			ビット番号	位置	形状	規 模 (cm)			ビット番号	位置	形状	規 模 (cm)		
			長径	短径	深さ				長径	短径	深さ				長径	短径	深さ
1	V 1 b0	楕円形	45	30	33	7	V 2 g1	円形	21	20	39	13	V 2 e1	楕円形	23	20	29
2	V 1 b0	楕円形	46	34	70	8	V 2 g1	楕円形	30	24	61	14	V 1 f9	円形	30	30	22
3	V 1 b0	円形	28	27	58	9	V 2 f2	円形	30	30	58	15	V 1 d9	楕円形	18	15	40
4	V 1 b0	楕円形	60	37	58	10	V 1 g0	楕円形	38	32	39	16	V 1 d9	楕円形	26	20	63
5	V 1 b0	円形	26	24	43	11	V 2 e1	円形	15	15	34	17	V 1 d9	楕円形	26	18	28
6	V 1 b0	楕円形	34	23	50	12	V 2 e1	楕円形	20	16	44	18	V 1 d9	楕円形	24	20	24

第98表 第38号ビット群一覧 (PL24)

ビット番号	位置	形状	規 模 (cm)			ビット番号	位置	形状	規 模 (cm)			ビット番号	位置	形状	規 模 (cm)		
			長径	短径	深さ				長径	短径	深さ				長径	短径	深さ
1	V 1 b7	楕円形	22	16	14	9	V 1 c7	楕円形	27	16	23	17	V 1 d7	円形	23	21	28
2	V 1 c7	[楕円形]	23	[19]	26	10	V 1 b6	楕円形	36	29	39	18	V 1 e7	円形	24	22	10
3	V 1 c7	楕円形	32	21	32	11	V 1 b6	円形	16	16	20	19	V 1 e6	楕円形	29	23	24
4	V 1 c8	楕円形	21	19	38	12	V 1 c6	円形	35	33	56	20	V 1 a6	楕円形	38	27	12
5	V 1 c8	円形	26	25	64	13	V 1 c6	円形	27	27	22	21	V 1 b6	円形	20	19	37
6	V 1 c8	円形	19	18	25	14	V 1 c6	円形	25	23	55	22	V 1 b6	楕円形	30	24	24
7	V 1 c7	楕円形	26	18	25	15	V 1 d6	楕円形	27	22	24	23	V 1 b6	楕円形	29	21	33
8	V 1 c7	楕円形	21	17	22	16	V 1 d6	楕円形	28	22	33	24	V 1 b6	円形	22	21	17

第99表 第39号ビット群一覧 (PL24)

ビット番号	位置	形状	規 模 (cm)			ビット番号	位置	形状	規 模 (cm)			ビット番号	位置	形状	規 模 (cm)		
			長径	短径	深さ				長径	短径	深さ				長径	短径	深さ
1	U 1 i9	円形	21	21	32	19	V 2 a1	円形	17	16	29	37	V 1 a8	楕円形	24	21	42
2	U 1 i0	円形	22	22	21	20	V 2 a1	円形	19	18	32	38	V 1 a7	円形	20	20	38
3	U 1 i0	円形	20	20	22	21	V 2 b1	楕円形	27	13	22	39	V 1 a8	円形	20	20	21
4	U 1 i0	楕円形	21	19	12	22	V 1 b0	円形	18	18	21	40	V 1 a9	円形	20	20	26
5	U 1 i0	円形	25	24	22	23	V 2 b1	楕円形	18	10	22	41	V 1 a9	円形	20	10	37
6	U 1 i9	楕円形	32	22	19	24	V 2 b1	楕円形	18	11	33	42	V 1 a9	円形	30	30	25
7	U 1 i9	円形	20	19	17	25	V 2 b1	円形	20	20	25	43	V 1 a9	円形	16	16	32
8	V 1 a9	楕円形	21	19	17	26	V 1 b0	楕円形	32	22	28	44	V 1 a9	楕円形	27	24	22
9	V 1 a9	楕円形	26	19	28	27	V 1 b0	円形	26	24	35	45	V 1 c9	楕円形	20	18	38
10	V 1 a0	楕円形	27	24	28	28	V 1 b0	楕円形	30	26	31	46	U 1 i0	楕円形	30	19	23
11	V 1 a0	楕円形	31	20	21	29	V 1 b0	円形	16	16	23	47	U 2 i1	円形	21	21	26
12	V 1 a0	楕円形	20	18	22	30	V 1 c0	楕円形	24	21	28	48	U 1 i0	楕円形	24	20	19
13	V 1 a0	楕円形	24	20	25	31	V 1 c0	楕円形	22	18	19	49	U 1 i0	楕円形	30	18	56
14	V 1 a0	楕円形	18	15	17	32	V 1 c9	円形	19	18	15	50	U 1 i0	円形	23	23	25
15	V 1 b0	円形	32	30	40	33	V 1 c9	円形	20	19	44	51	U 2 i1	楕円形	25	21	41
16	V 1 b0	円形	40	37	53	34	V 1 a8	楕円形	22	16	18	52	U 1 b0	円形	17	16	33
17	V 1 b0	楕円形	24	18	32	35	V 1 b8	楕円形	29	26	21	53	V 1 c9	楕円形	19	17	31
18	V 1 b0	楕円形	28	24	28	36	V 1 a8	楕円形	21	12	20						

第100表 第40号ピット群一覧 (PL24)

ピット 番号	位置	形状	規模 (cm)			ピット 番号	位置	形状	規模 (cm)			ピット 番号	位置	形状	規模 (cm)		
			長径	短径	深さ				長径	短径	深さ				長径	短径	深さ
1	W 2 d3	楕円形	22	19	33	12	W 2 e2	楕円形	27	24	16	23	W 1 a9	楕円形	29	26	26
2	W 2 e3	楕円形	32	26	38	13	W 2 e2	円形	18	18	23	24	W 1 b9	円形	24	24	13
3	W 2 e3	楕円形	36	32	79	14	W 2 e2	円形	22	21	22	25	W 1 b9	円形	26	24	10
4	W 2 e3	楕円形	19	14	32	15	W 2 e2	円形	17	16	13	26	W 1 b0	楕円形	24	20	25
5	W 2 e3	円形	20	19	40	16	W 2 e1	円形	20	20	27	27	W 1 b9	楕円形	22	18	28
6	W 2 f3	円形	25	24	42	17	W 2 e1	円形	31	29	28	28	W 1 c0	楕円形	37	38	24
7	W 2 f3	楕円形	19	14	17	18	W 2 b3	円形	28	27	33	29	W 1 c0	円形	29	28	31
8	W 2 f2	楕円形	19	19	26	19	W 2 b2	楕円形	30	26	33	30	W 1 c0	楕円形	20	18	18
9	W 2 f2	楕円形	19	16	28	20	W 2 b2	楕円形	28	20	19	31	W 2 d1	楕円形	37	30	13
10	W 2 f2	楕円形	29	23	40	21	W 2 c2	円形	24	24	22						
11	W 2 f2	楕円形	21	16	18	22	W 2 d3	楕円形	36	24	45						

第101表 第41号ピット群一覧

ピット 番号	位置	形状	規模 (cm)			ピット 番号	位置	形状	規模 (cm)			ピット 番号	位置	形状	規模 (cm)		
			長径	短径	深さ				長径	短径	深さ				長径	短径	深さ
1	K 3 e9	円形	32	30	17	8	K 3 f9	円形	24	22	13	15	K 3 h0	円形	26	24	23
2	K 3 e9	楕円形	58	50	28	9	K 3 f9	円形	34	32	17	16	K 4 h1	楕円形	68	35	38
3	K 3 e9	円形	30	28	18	10	K 3 g0	楕円形	34	29	32	17	K 3 h0	円形	25	24	27
4	K 3 e0	[楕円形]	25	[22]	13	11	K 3 g0	[円形]	31	[30]	37	18	K 4 h1	楕円形	29	26	47
5	K 3 g9	楕円形	54	43	21	12	K 3 g0	楕円形	35	31	41	19	K 4 h1	楕円形	36	24	49
6	K 3 e0	円形	36	35	19	13	K 3 g0	円形	21	21	23	20	K 4 h1	楕円形	36	28	31
7	K 3 f9	楕円形	30	24	47	14	K 3 h0	円形	29	27	41						

(6) 掘り込み遺構

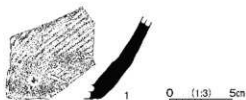
第1号掘り込み遺構 (第174・175図 PL24)

位置 C区北部のO2h6区、標高44mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第218号堅穴建物跡を掘り込んでいる。

規模と形状 西部が調査区域外のため、南北径11.60m、東西径2.14mしか確認できなかった。平面形は円形または楕円形と推定できる。確認できた深さは80cmで、壁は緩やかに立ち上がっている。底面は皿状である。

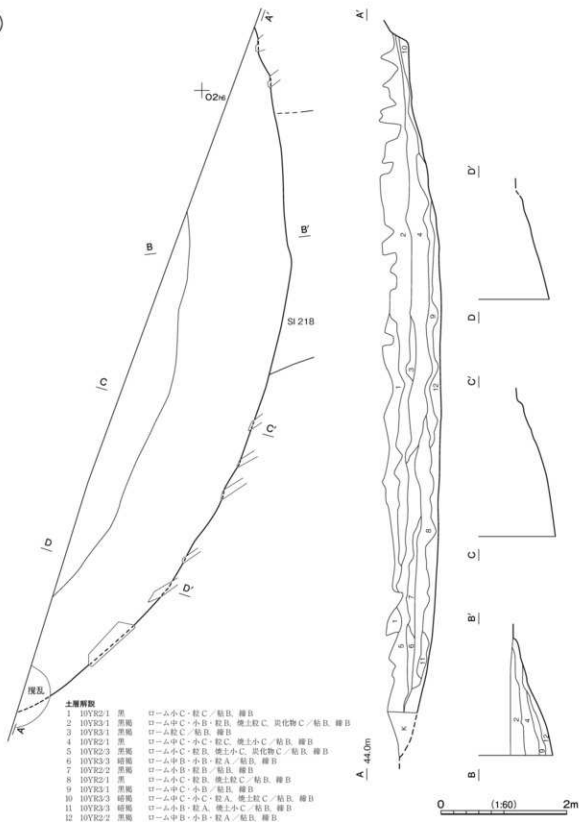
覆土 12層に分层できる。各層にロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。



第174図 第1号掘り込み遺構出土遺物実測図

遺物出土状況 土師器片92点(坏22、甕類70)、須恵器片16点(坏5、高台付坏1、甕類10)が出土している。1は覆土中から出土している。埋め戻しに伴って投棄されたものと考えられる。

所見 時期は、出土土器から9世紀以降と考えられるが、詳細は不明である。



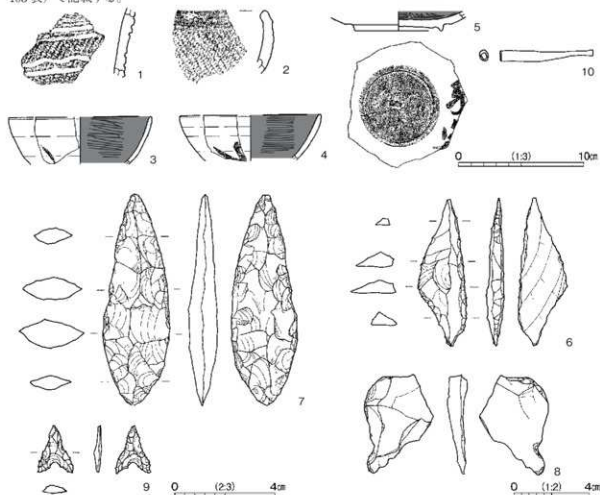
第175図 第1号掘り込み遺構実測図

第102表 第1号掘り込み遺構出土遺物一覧

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	須恵器	甕	-	(6.5)	-	長石・石英	褐色	普通	体部外面斜位の平行叩き	覆土中	5%

6 遺構外出土遺物

今回の調査で出土した遺構に伴わない遺物について、出土遺物実測図（第176図）と出土遺物一覧（第103表）で記載する。



第176図 遺構外出土遺物実測図

第103表 遺構外出土遺物一覧

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	-	(55)	-	長石・石英・赤色砂子	黒黒	普通	地縄文LR 施文後に割部に沈縄文	SI13	5% PL40 加割形止式
2	縄文土器	深鉢	-	(49)	-	長石・石英・赤色砂子	にぶい橙	普通	単純縄文RL 磨酒	表土	5% PL40 加割形止式
3	土師器	杯	[112]	(38)	-	長石・石英	にぶい靑	普通	口縁部・体部外面口クロナゲ 内面へラ磨き	表土	5% PL40 加割形止式
4	土師器	杯	[111]	(36)	-	長石・石英・赤色砂子	にぶい橙	普通	口縁部・体部外面口クロナゲ 内面へラ磨き	表土	5% PL40 加割形止式
5	土師器	高台付皿	-	(15)	70	長石・石英・赤色砂子	にぶい橙	普通	体部外面口クロナゲ 内面へラ磨き 底部回転へラ削り 高台部分付け残ナゲ	表土	30% PL40 加割形止式
6	ナイフ形石器	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特 徴			出土位置	備考
6	ナイフ形石器	7.8	2.6	1.0	1216	瑪瑙	縦型石刃側縁と反対側基部の刃直し加工			SK1321	PL42
7	尖頭器	11.1	3.5	1.5	46.06	頁岩	神子型尖頭器 ソフトハンマー直接打撃による調整			SD8	PL42
8	割片	5.2	3.7	1.1	12.96	瑪瑙	自然面残存			SI288	PL42
9	鏃	1.9	1.4	0.3	0.42	チャート	円基式無茎鏃			SI243	PL42
10	燧管	(7.4)	0.7	0.9	(5.63)	銅	視口部一部欠損 断面円形			表土	PL44

第4節 総 括

1 はじめに

今回の調査は、平成25年5・6月、平成28年10月～平成29年3月、平成29年4月～平成30年3月、平成31年4月～令和元年6月にわたって実施したものであり、前回の当財団「第399集」報告の西側の延長部分や調査区南部を中心にした整理報告である¹⁾。調査した遺構数は、縄文時代の陥し穴6基、古墳時代の堅穴建物跡1棟、奈良・平安時代の堅穴建物跡52棟、掘立柱建物跡2棟、土坑15基、中世の掘立柱建物跡2棟、井戸跡1基、土坑1基、時期不明の柱穴列1条、土坑229基、溝跡19条、道路跡1条、ピット群22か所、掘り込み遺構1基である。出土した遺物は、旧石器時代の石器、縄文時代の土器片、古墳時代の土師器、奈良・平安時代の土師器・須恵器・灰軸陶器・土製品・石製品（腰帯具）・金属製品（刀子、鎌、腰帯具）、中世の陶器片・金属製品（短刀）などである。

今回報告した調査A～D区で中心となる主な遺構としては、古墳時代後期、奈良・平安時代の堅穴建物跡である。全ての区内で確認でき、北部に向かって集落の広がりを見せている。これらの堅穴建物跡からは、多くの墨書土器が出土しているが、それらが出土した堅穴建物跡は限定されるなどの特徴を見出した。

また、C区第197・220号堅穴建物跡、D区第235・242・244号堅穴建物跡は、壁際に柱穴のある堅穴建物跡であり、平成25年度調査の第5号堅穴建物跡と合わせると、6棟になる。よって、ここでは当遺跡における古墳時代後期から平安時代の堅穴建物跡を5期に分類し、各期の建物規模や竈の位置・特殊建物からその特徴を考察するとともに、文字資料についての若干の考察を行い、まとめたい。

2 調査区の概要（付図）

平成24年9月～11月、平成25年5・6月にかけて行われた発掘調査をまとめた当財団「第399集」の報告で確認できた堅穴建物跡は、調査区北端の5棟である。第3・4号堅穴建物跡は東竈、第2・5号堅穴建物跡は北竈である。第1号堅穴建物跡は竈の付設が不明である。第5号堅穴建物跡は9世紀前葉に、他は9世紀後葉に位置づけられている。

今回の発掘調査では、A～C区の調査区域が西側に広がり、更にD区が北側に延びたことで、集落の様相が少しずつ分かってきた²⁾。

3 集落の様相

今回の調査で確認できた堅穴建物跡は53棟である。所在の内訳は、A区2棟、B区1棟、C区28棟、D区22棟である。

(1) 建物の規模や竈の位置などについて

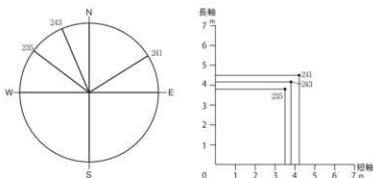
I期（7世紀～8世紀前葉）

本期にあたる堅穴建物跡は3棟（第235・241・243号）で、いずれもD区の南部から北部にかけて確認されており、この時期の集落の中心は北側にあると考えられる。第241号堅穴建物跡は西部



第177図 遺跡周辺（静神社、玉川、久慈川）

が調査区域外のため、竈の付設位置が不明であり、第243号竈穴建物跡は竈が北壁のやや東寄りに付設されている。2棟は近接している。竈が北西壁のやや北寄りに付設されている第235号竈穴建物跡は壁際に柱穴をもつ竈穴建物跡である。第235・243号竈穴建物跡の主軸方向は、 $N-23^{\circ}-53^{\circ}-W$ の狭い範囲にあり、北



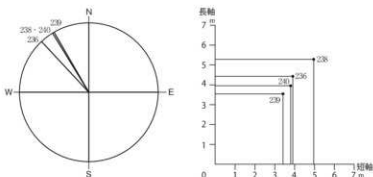
第178図 I期竈穴建物跡の規模・主軸方向

方向を意識して構築している。平面形は方形または長方形で、規模は第235号竈穴建物跡は132㎡、第241号竈穴建物跡は189㎡、第243号竈穴建物跡は157㎡で、小型の竈穴建物跡である³⁾。規則性はあまりない⁴⁾。

II期（8世紀中葉～8世紀後葉）

本期にあたる竈穴建物跡は7棟（第197・199・206・236・238～240号）である。D区で4棟、C区で3棟確認されている。

D区で確認された4棟の第236・238～240号竈穴建物跡はいずれも竈が北壁の中央部に付設されている。これらの竈穴建物跡の主軸方向は $N-31^{\circ}-43^{\circ}-W$ の狭い範囲にあり、北方向を意識して構築されている。平面形は方形または長方形で、第238・240号竈穴建物跡の2棟は隣接しているため、ある程度の時期差で小型から中型の竈穴建物に建て替えられたものと考えられる。第238号竈穴建物跡からは丸柄が覆土下層から出土していることから、役人層の存在する集落であるか郡家との関連も考えられる。建て替えを含めたこれら

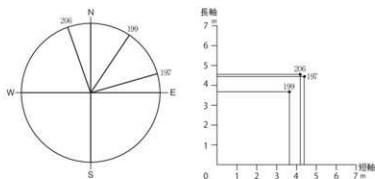


第179図 II期D区4棟 竈穴建物跡の規模・主軸方向

4棟は近接していて規則性がある。規模は第238号竈穴建物跡は中型で262㎡である。第236号竈穴建物跡は172㎡、第239号竈穴建物跡は122㎡、第240号竈穴建物跡は150㎡で小型の竈穴建物跡である。

C区で確認された3棟のうち、第199号竈穴建物跡は竈が北壁のやや東寄りに付設され、覆土中から管状土錘20点が出土している。第206号竈穴建物跡は竈が北壁中央部に付設され、覆土中から管状土錘16点が出土している。これらは細形管状土錘であり、アユを狙った刺網漁に用いられたとも考えられ、玉川・久慈川の落ちアユの漁場において網漁が行われたことを示している可能性がある⁵⁾。2棟は隣接しているため、多少の時期差で網漁を行う同一と思われる家族が建て替えた竈穴建物跡と考えられる。第197号竈穴建物跡は竈が東壁やや南寄りと北壁中央部に付設されている。3棟の竈穴建物跡の主軸方向は $N-17^{\circ}-W$

N - 75° - E の範囲にあり、平面形は方形である。規模は第 197 号堅穴建物跡は 19.5 m²、第 199 号堅穴建物跡は推定 13.5 m²、第 206 号堅穴建物跡は 19.2 m² でいずれも小型の堅穴建物である。第 197 号堅穴建物跡は壁際に柱穴をもつ堅穴建物跡であり、中核をなす堅穴建物跡と考えられる⁶¹。

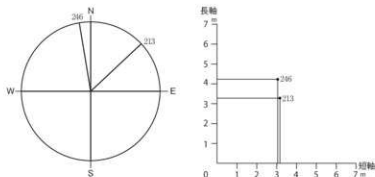


第 180 図 Ⅱ期 C 区 3 棟 堅穴建物跡の規模・主軸方向

Ⅲ期（9 世紀前葉～9 世紀中葉）

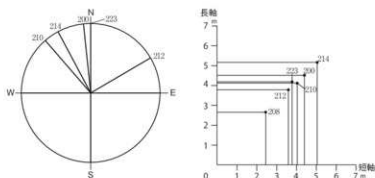
本期にあたる堅穴建物跡は 8 棟（第 200・208・210・212～214・223・246 号）である。D 区で 2 棟、C 区で 6 棟確認されている。

D 区で確認された第 246 号堅穴建物跡は竈が北壁に付設されている。第 213 号堅穴建物跡は竈が北東壁に付設され、出土した副部が影らむ形をした管状土錘 1 点は、礫の多い久慈川中流域に適し、漁獲対象はアユなどと考えられる。第 246 号堅穴建物跡からも 1 点ではあるが、細形管状土錘が出土していることから、網漁が行われていた可能性がある。堅穴建物跡の主軸方向は N - 9° - W ～ N - 43° - E の範囲でばらつきがある。平面形は方形または長方形である。規模は第 213 号堅穴建物跡は 10.3 m²、第 246 号堅穴建物跡は 12.8 m² で小型の堅穴建物跡である。いずれも北方向を意識して構築している。



第 181 図 Ⅲ期 D 区 2 棟 堅穴建物跡の規模・主軸方向

C 区で確認された 6 棟のうち、第 200・210・214・223 号堅穴建物跡の竈は北壁に、第 212 号堅穴建物跡は東壁に付設されている。第 208 号堅穴建物跡は不明である。堅穴建物跡の主軸方向は N - 41° - W ～ N - 62° - E の範囲でばらつきがある。平面形は方形または長方形で、第 200・214 号堅穴建物跡は隣接しているため、多少の時期差で広い堅穴建物に建て替えが行われたものと考えられる。第 214 号堅穴建物跡の覆土から 12 点の細形管状土錘が出土していることから、網漁が行われていた可能性がある。鎌も出土し、水田や畑地の開墾が盛んにおこなわれていたことも考えられる。また、覆土から紡錘車が出土しており、糸の



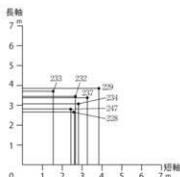
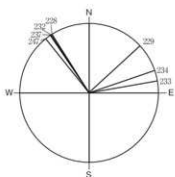
第 182 図 Ⅲ期 C 区 6 棟 堅穴建物跡の規模・主軸方向

生産も考えられる。第210号竪穴建物跡の覆土から細形よりやや大きい管状土錘1点が出土していることから、網漁が行われていた可能性がある。第212号竪穴建物跡の覆土からは石製の丸柄が出土していることから、集落内やその周辺で役人層や特定の身分の存在が考えられる。また、鎌や鋤先が出土していることから、水田や畑地の開墾をしていたと考えられる。規模は第200号竪穴建物跡は19.5㎡、第214号竪穴建物跡は推定25.9㎡で中型である。第208号竪穴建物跡は推定6.5㎡、第210号竪穴建物跡は16.6㎡、第212号竪穴建物跡は13.6㎡、第223号竪穴建物跡は15.8㎡でいずれも小型の竪穴建物跡である。

Ⅳ期（9世紀中葉～9世紀後葉）

本期にあたる竪穴建物跡は27棟（第13・198・202～205・207・209・211・218～222・225・228・229・232～234・237・242・244・245・247・251・252号）である。本調査区の中心となる時期である。D区で10棟、C区で14棟、A・B区で3棟確認されている。

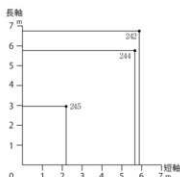
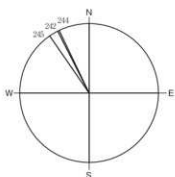
D区の10棟のうち、7棟は北部で確認された。第228・232・237・247号竪穴建物跡は竈が北壁に付設され、北方向を意識して構築している。第232・237号竪穴建物跡はこの時期に相当するものと考えた。第229号竪穴建物跡は北西壁と北東壁に付設され、北西竈から北東竈に移築している。第233・234号竪穴建物跡は東壁に付設され、東方向を意識して構築している。竪穴建物跡の主軸方向はN-38°-W～N-80°-Eで、平面形は方形または長方形である。第234号竪穴建物跡の覆土から細形管状土錘2点が出土している。第Ⅲ期に引き続き、網漁が行われていた可能性がある。規模は第228号竪穴建物跡は7.4㎡、第229号竪穴建物



第183図 Ⅳ期D区北部7棟 竪穴建物跡の規模・主軸方向

跡は14.6㎡、第232号竪穴建物跡は9.5㎡、第233号竪穴建物跡は推定5.6㎡以上で、第234号竪穴建物跡は推定8.6㎡、第237号竪穴建物跡は11.0㎡、第247号竪穴建物跡は7.4㎡でいずれも小型の竪穴建物である。7棟は近接している。

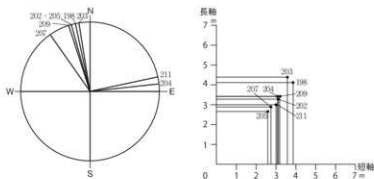
D区の残り3棟は南部で確認された。第244・245号竪穴建物跡は竈が北壁に付設されている。第242号竪穴建物跡は不明である。これらの竪穴建物跡の主軸方向はN-26°～35°-Wで狭い範囲にあり、北方向を意識して構築している。平面形は方形または長方形である。第242号竪穴建物跡からは紡錘車1点が出土し、糸の生産が考えられる。また、鎌1点も出土していることから、水田や畑地の開墾をしていたとも考えられる。第244号竪穴建物跡からは細形管状土錘1点が出土し、網漁をしていた可能性がある。規模は



第184図 Ⅳ期D区南部3棟 竪穴建物跡の規模・主軸方向

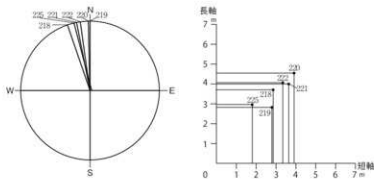
第 242 号堅穴建物跡は推定 40.2 m²、第 244 号堅穴建物跡は 32.7 m² で壁柱をもつ大型の堅穴建物跡である。中核をなす堅穴建物跡であると考えられる。第 245 号堅穴建物跡は推定 6.5 m² 以上で、小型の堅穴建物跡である。大型の堅穴建物跡の周辺に小型の堅穴建物跡が配置されていたと考えられる。

C区の14棟のうち、8棟は北部で確認された。第198・202・203・205・207・209号堅穴建物跡は竈が北壁に付設されている。第207号堅穴建物跡はこの時期に相当するものと考えた。第204号堅穴建物跡は北壁と東壁に付設されている。第211号堅穴建物跡は東壁に付設されている。これらの堅穴建物跡は主軸方向がN-35°-W~N-83°-Eで、平面形は方形または長方形である。第204・211号堅穴建物跡は東竈であり、他は北竈でそれぞれが北方向や東方向を意識して構築していることなどから、規則性が感じられる。第198号堅穴建物跡の覆土からは紡錘車が出土しており、糸の生産が考えられる。第204・209号堅穴建物跡の床面などからは細形管状土錘がそれぞれ1点出土しており、網漁が行われていた可能性がある。規模は第198号堅穴建物跡は15.8 m²、第202号堅穴建物跡は10.3 m²、第203号堅穴建物跡は推定15.8 m²、第204号堅穴建物跡は10.5 m²、第205号堅穴建物跡は6.8 m²、第207号堅穴建物跡は8.0 m²、第209号堅穴建物跡は10.7 m²、第211号堅穴建物跡は8.8 m²で、すべて小型の堅穴建物跡である。



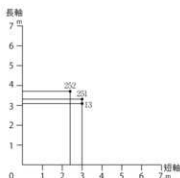
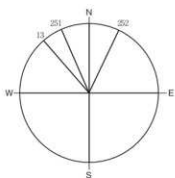
第 185 図 IV期C区北部8棟 堅穴建物跡の規模・主軸方向

C区北部で集中して確認された残り6棟のうち、第218～222号堅穴建物跡は竈が北壁に付設されている。第225号堅穴建物跡は不明である。これらの堅穴建物跡の主軸方向はN-0°~19°-Wで、北方向を意識して構築している。平面形は方形または長方形である。第218・220・222号堅穴建物跡の覆土から細形管状土錘がそれぞれ1点出土している。これらの堅穴建物跡で網漁が行われていた可能性がある。第218号堅穴建物跡はこの時期に相当するものと考えた。第220・222号堅穴建物跡の床面や覆土から紡錘車が出土していることから、糸の生産も考えられる。規模は第218号堅穴建物跡は推定10.5 m²、第219号堅穴建物跡は7.9 m²、第220号堅穴建物跡は17.8 m²、第221号堅穴建物跡は14.6 m²、第222号堅穴建物跡は13.8 m²で、小型の堅穴建物跡であり、規則性があると考えられる。第225号堅穴建物跡は推定4.8 m²以上で、正確な規模は不明である。第220号堅穴建物跡は壁柱をもつ堅穴建物跡であり、中核をなす堅穴建物跡と考えられる。その周辺にある小型の堅穴建物跡との関連した配置が考えられる。



第 186 図 IV期C区北部6棟 堅穴建物跡の規模・主軸方向

A・B区で確認された3棟のうち、第13・251号竪穴建物跡は竈が北壁にあり、第252号竪穴建物跡は不明である。3棟ともこの時期に相当するものと考えた。竪穴建物跡の主軸方向はN-32°-W~24°-Eの



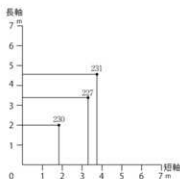
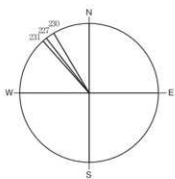
第187図 IV期A・B区3棟 竪穴建物跡の規模・主軸方向

狭い範囲にあり、北方向を意識して構築している。第251号竪穴建物跡の床面から紡錘車2点が出土していることから、糸の生産が考えられる。規模は第13号竪穴建物跡は9.3㎡、第251号竪穴建物跡は推定10.1㎡、第252号竪穴建物跡は推定8.9㎡で、小型の竪穴建物跡である。

V期 (10世紀前葉・10世紀代)

本期にあたる竪穴建物跡は8棟(第201・215~217・226・227・230・231号)である。D区で3棟、C区で5棟確認されている。

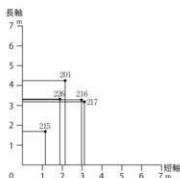
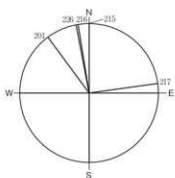
D区で確認された3棟のうち、第227・230号竪穴建物跡は、竈が北壁に付設されている。第231号竪穴建物跡は北壁と東壁に付設されている。これらの竪穴建物跡は主軸方向がN-31°~38°-Wの狭い範囲に



第188図 V期D区3棟 竪穴建物跡の規模・主軸方向

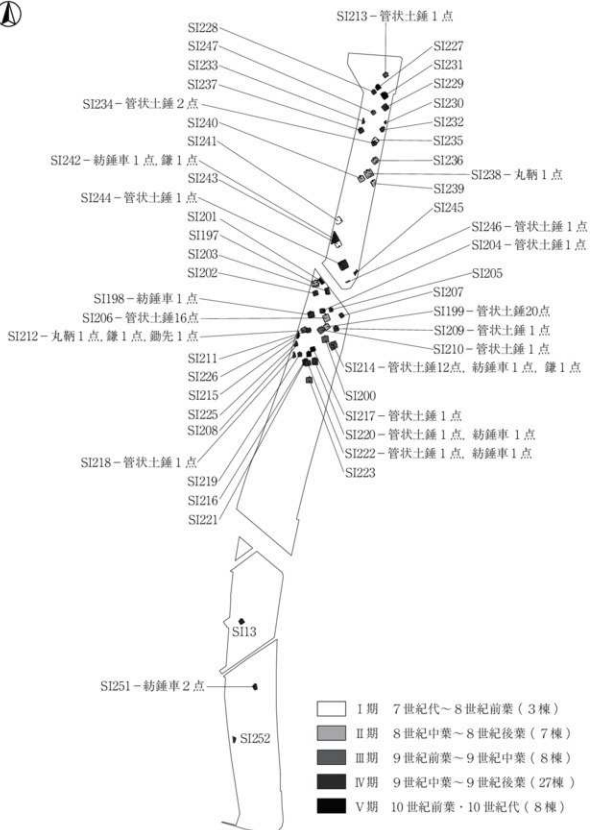
あり、北方向を意識して構築し、規則性があると考えられる。平面形は方形または長方形である。規模は第227号竪穴建物跡は推定11.1㎡、第230号竪穴建物跡は推定3.6㎡以上、第231号竪穴建物跡は推定17.0㎡で、すべて小型の竪穴建物跡である。

C区で確認された5棟のうち、第201・216号竪穴建物跡は竈を北壁に、第217号竪穴建物跡は東壁に付設されている。第215・226号竪穴建物跡は不明である。これらの竪穴建物跡の主軸方向はN-36°-W~N-82°-Eで、



第189図 V期C区5棟 竪穴建物跡の規模・主軸方向

平面形は方形または長方形である。第217号竪穴建物跡を除いて北方向を意識して構築している。第217号竪穴建物跡の覆土からは細り管状土錘1点が出土している。第IV期に引き続き網漁が行われていた可能性がある。また、炭化材が出土していることから焼失した家屋と考えられる。第216・217号竪穴建物跡は重複し、新



0 (1:2500) 50m

第190図 集落変遷図と出土遺物(管状土錘, 紡錘車, 丸鞘, 鎌, 鋤先)

旧関係から第217号堅穴建物が焼失後、第216号堅穴建物に建て替えられたものと考えられる。規模は、第216号堅穴建物跡は9.7㎡、第217号堅穴建物跡は9.7㎡で、小型の堅穴建物跡である。第201号堅穴建物跡は推定9.3㎡、第215号堅穴建物跡は推定1.9㎡、第226号堅穴建物跡は推定6.3㎡以上で、正確な規模は不明である。

このように、当遺跡の集落は古墳時代の後期に形成され、時代と共に人口が増加し、9世紀後葉にそのピークを迎えていると考えられる。時期がほぼ同じで隣接する2種の堅穴建物跡は、建て替えの可能性があることが分かる。堅穴建物跡の主軸方向が北方向や東方向を意識してある程度狭い範囲で構築している。大型・中型の「壁際に柱穴をもつ堅穴建物跡」などの中核の住居跡の周りに、小型の堅穴建物跡がまとまりのある小集団を形成していたと考えられる。また、出土した管状土錘や紡錘車、農具から集落内で網漁を行う人々や糸の生産を行う人々、田や畑に従事する人々の生活を窺うことができる。このことは、玉川や久慈川が合流する地点に近いことや機織りに関連する静神社が集落から近い地域であることから考えられる。

(2) 壁際に柱穴をもつ堅穴建物跡について

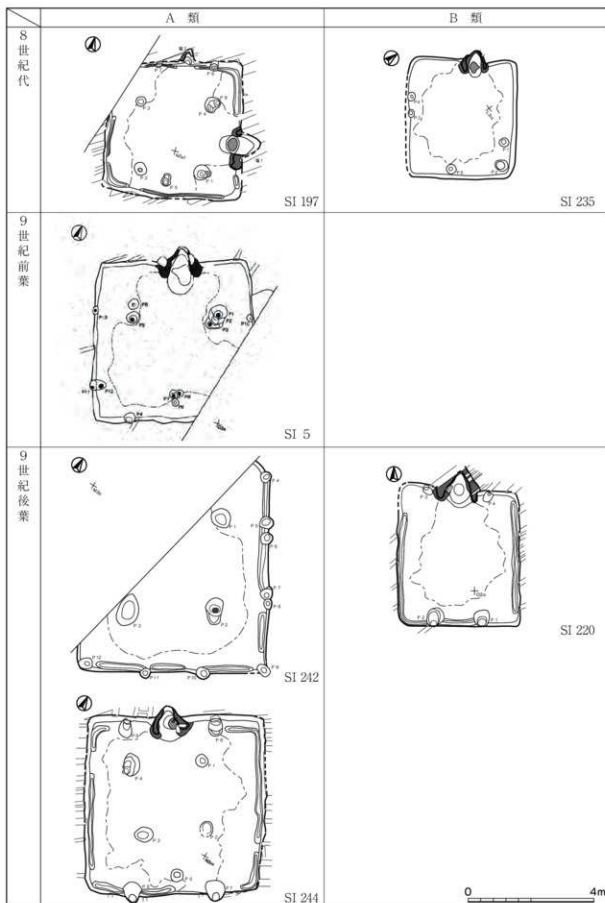
壁際に柱穴をもつ堅穴建物跡については、当財団「第399集」で下大賀遺跡周辺の遺跡から時期と柱穴の配置状況により分類している⁷⁾。一つは、一般的な堅穴建物跡にみられるように4か所の主柱穴を床面にもち、補助的な壁柱穴を備えるもので、A類としている。もう一つは、主柱穴が壁際に作られ、さらに補助的な柱穴を備えるもので、B類としている。今回は分類をした基準をもとに、当遺跡から出土した堅穴建物跡5種について時代別に概観してみる。

8世紀代では、C区から第197号堅穴建物跡が4か所の主柱穴と出入口施設に伴うピットを床面に構築し、北壁の竈脇に壁柱穴を作っていることが確認できた。A類に属し、小型の堅穴建物跡である。D区から第235号堅穴建物跡が北東壁に2か所、南西壁に2か所の不規則な主柱穴と、南東壁に1か所の出入口施設に伴うピットを構築していると考えられる。B類に属し、小型の堅穴建物跡である。

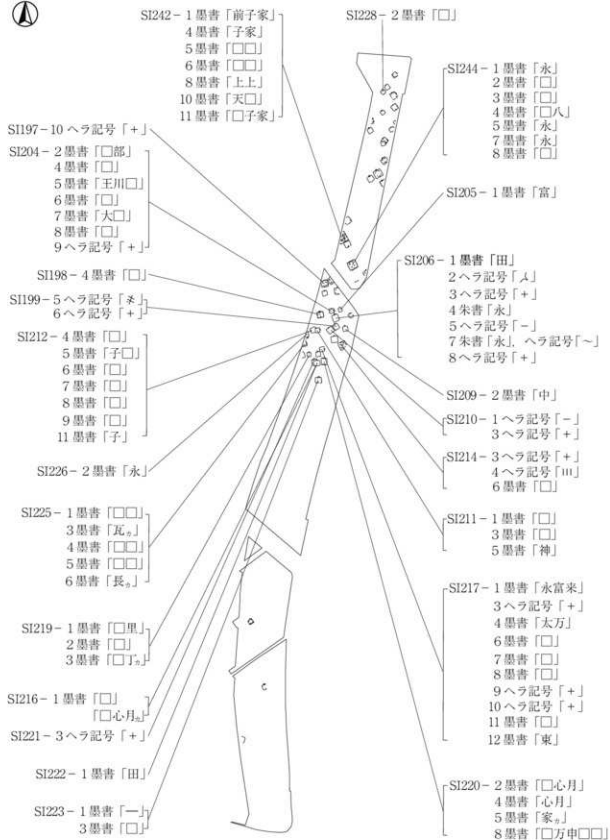
9世紀前葉では、当財団の「第399集」によるC区から第5号堅穴建物跡が確認されており、A類として報告されている⁸⁾。

9世紀後葉では、D区から第242号堅穴建物跡が床面で3か所の主柱穴を確認し、南壁に4か所の柱穴、東壁に5か所の柱穴を作っていることを確認した。それを主柱穴として構築している。D区から第244号堅穴建物跡が4か所の主柱穴と、竈脇の壁柱穴と南壁に対になる壁柱穴を構築している。これらはA類に属し、大型の堅穴建物跡である。C区から第220号堅穴建物跡が竈脇に2か所とそれに対をなす南壁に2か所の柱穴を作り、それを主柱穴としている。これはB類に属し、小型の堅穴建物跡である。

A・B類の堅穴建物跡の規模は、平面形は方形または長方形で、規則性はない。堅穴建物跡の主軸方向はN-1°-53°-Wの範囲内であり、北方向を意識して構築している。大型の第242・244号堅穴建物跡はA類で近接している。他の堅穴建物跡と比べ規模が大きくなることから、生活空間を最大限に利用しようとしたものと思われる。どちらも墨書土器が数点出土し、集落の中における特別な存在であることが伺える。同じようにA類の第5・197号堅穴建物跡とB類の第220・235号堅穴建物跡は、時期差は多少あるが近接して存在している。A・B類の堅穴建物跡がお互いに集落の中で特別な意味をもって数棟を1単位として存在している可能性も考えられる。いずれにしても調査区のC区からD区にかけて堅穴建物跡が多くなり、今後の調査から、集落内の「壁際に柱穴をもつ堅穴建物跡」の存在の意味が明らかになることを期待したい⁹⁾。



第 191 図 当遺跡から出土している壁柱穴を伴う竪穴建物跡



0 (1:2500) 50m

第 192 図 竪穴建物跡から出土した墨書土器、朱書土器、ヘラ記号

4 文字資料について

当遺跡から出土している文字資料は、同一個体の複数記載資料をそれぞれ数えると総数 91 点になる⁹⁹。それらが出土した位置は竪穴建物跡から 77 点、掘立柱建物跡から 1 点、土坑から 8 点、溝跡から 1 点、ピット群から 1 点、遺構外から 3 点である。種別の内訳は、朱書 3 点を含めて墨書 71 点、ヘラ記号 20 点であり、文字が明確なもの、あるいは部分的に判読が可能なもの、ほかは字形の一部だけを残すだけか、墨痕が極めて薄いため判読できないものなどがある¹⁰⁰。材質の内訳は土師器 68 点、須恵器 23 点である。器種の内訳は坏 67 点、高台付坏 8 点、蓋 2 点、皿 7 点、小皿 1 点、高台付皿 2 点、盤 2 点、甕 2 点であり、坏・皿等の供膳具が圧倒的に多いことが分かる。文字資料が出土している竪穴建物跡が 24 棟ある。時期別にみると、8 世紀代 3 棟、9 世紀代 18 棟、10 世紀代 3 棟である。以下、それらの様相を時期ごとに見ていくことにする。

8 世紀代は第 197・199・206 号竪穴建物跡の 3 棟から出土している。須恵器の甕体部外面にヘラ記号「+」、坏底部外面ヘラ記号「※」、土師器の坏底部外面墨書「田」、須恵器の坏底部朱書「永」、底部ヘラ記号「-」、「-」、「+」、「ム」などである。出土遺物を見ると、須恵器は木葉下窯産が多く、新治窯産は数少ない傾向にある¹⁰¹。9 世紀代は第 198・204・205・209～212・214・219～223・225・226・228・242・244 号竪穴建物跡の 18 棟である。土師器の坏の体部墨書「口」、「口部」、「王川口」、「大口」、 「富」、「子口」、「口里」、「口丁」、「心月」、「家」、「田」、「口」、「瓦」、「前子家」、「永」、坏底部墨書「口」、「口心月」、「心月」、「子家」、高台付坏体部墨書「口万甲口口」、「口」、「永」、高台付坏底部墨書「-」、「長」、 「永」、皿体部墨書「子」、「上上」、「口子家」、「天口」、皿底部墨書「口」、「神」、蓋天井部墨書「口」、須恵器の坏体部墨書「中」、「口」、坏底部墨書「口八」、土師器の甕底部ヘラ記号「+」、須恵器の坏底部ヘラ記号「+」、「-」、「III」などである。10 世紀は第 216・217・226 号竪穴建物跡の 3 棟である。土師器の坏体部墨書「永富米」、「太万」、「口」、高台付坏体部墨書「口」、「東」、高台付坏底部墨書「口心月」、 「永」、皿体部墨書「口」、土師器の坏底部ヘラ記号「+」、須恵器の坏底部ヘラ記号「+」などである。8 世紀～10 世紀代の範囲内で共通した墨書「永」や「+」、「-」などのヘラ記号が出土していることも特徴の一つである。文字の内容は吉祥句や方向・場所などのほかに、記号の意味を含めた集団の単位を示す標識文字などと考えられる¹⁰²。当遺跡の竪穴建物跡から出土した墨書土器は、所有者主体がある特定の限られた竪穴建物跡から集中して出土していることが分かる。墨書土器は祭祀や儀礼行為等の際に、付随した形で字形、記号化した文字としての役割があるとも考えられる¹⁰³。

5 おわりに

調査区域が細長く限られていることから推定の域を出ないが、これまでの考察の結果、集落の様相から本遺跡の台地上には、奈良・平安時代を中心とした集落が調査区域の北部に向かって集中して存在していることが分かる。出土した墨書土器及び確認した「壁際に柱穴をもつ竪穴建物跡」の構造や規模から、在地有力者の居宅の可能性がある。また、竪穴建物跡から丸軋が出土していることから、役人層の存在する集落とも考えられる¹⁰⁴。調査区内において、想定される陸路は、古代駅路から離れていると考え、支路に準ずる道と考えられる¹⁰⁵。古代駅伝制において、郡家が駅路沿いとは限らず、駅路とは別に郡家間を結ぶ道としての要所である集落と考えられる¹⁰⁶。また、当遺跡の西側の約 1.5 km にある、常陸国二ノ宮に挙げられる式内社の静神社へ繋がる道の要所としての集落跡とも考えられる¹⁰⁷。

水路では、水の確保と水害を避けるために台地上に集落を發展させ、久慈川や玉川の合流する地点に近いことなどから網漁の場として、あるいは水路交通の要所としての役割を果たしていたとも考えられる。これらことから、古代駅伝制にかかわる陸路と関連する集落跡、久慈川や玉川に近接しているため水場や水路と関連する集落跡の可能性がある。

今後の調査において集落の広がりや交通路について明らかになることを期待したい。

註

- 1) 内田勇樹「下大賀遺跡 一般国道118号道路改築事業地内埋蔵文化財調査報告書」茨城県教育財団文化財調査報告 第399集 2015年3月
- 2) a 荒井保雄「一級河川玉川改修工事地内埋蔵文化財調査報告書 下村田遺跡」茨城県教育財団文化財調査報告 第110集 1996年3月
b 高野節夫 白田正子 仲村浩一郎 島田和宏「中根・金田台特定地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅳ 中原遺跡3」茨城県教育財団文化財調査報告 第170集 2001年3月
- 3) 聖穴建物跡の大・中・小は、30㎡以上を大型、30㎡未満～20㎡までを中型、20㎡未満を小型とした。
- 4) 櫻村宣行「一般国道6号東水戸道路改築工事地内埋蔵文化財調査報告書Ⅱ 梶内遺跡」茨城県教育財団文化財調査報告 第100集 1995年9月
- 5) 佐々木義則「茨城県における奈良・平安時代漁網跡の地域性(前編)」『婆良岐考古』第42号婆良岐考古同人会 2020年5月
- 6) a 佐々木義則「茨城県古代集落研究の試み」茨城県考古学協会誌第23号 茨城県考古学協会 2011年5月
b 佐々木義則「武田遺跡群からみた奈良・平安時代の集落」武田遺跡群 総括・補遺編 抜刷 ひたちなか市教育委員会・財団法人ひたちなか市文化・スポーツ振興公社 2010年3月
- 7) 註1に同じ
- 8) 註1に同じ
- 9) 註1に同じ
- 10) a 奈良文化財研究所編『日本古代木簡字典』八木書店 2008年6月
b 奈良文化財研究所編『改訂新版 日本古代木簡字典』八木書店 2013年4月
- 11) 藤田哲也 三谷正 原信田正夫 川上直登 稲田義弘「鳥名・福田坪一体型特定地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅴ 熊の山遺跡」茨城県教育財団文化財調査報告 第174集 2001年3月
- 12) 平石高和 金指もと子「下大賀遺跡Ⅱ」那珂市文化財調査報告 2018年8月
- 13) a 川井正一「研究ノート 第16号 茨城県域における文字資料集成20」公益財団法人茨城県教育財団 2019年7月
b 平川南 天野努 黒田正典「国立歴史民俗博物館研究報告 第22集 共同研究「古代の集落」古代集落と墨書土器」国立歴史民俗博物館 1989年3月
- 14) 平川南「国立歴史民俗博物館研究報告 第35集 創設10周年記念論文集 墨書土器とその字形-古代村落における文字の実相」国立歴史民俗博物館 1991年11月
- 15) a 田中広明「土曜考古 律令時代の身分表象(Ⅰ) 帯飾具の生産と変遷」土曜考古学研究会 第15号 1990年5月
b 田中広明「土曜考古 律令時代の身分表象(Ⅱ) 腰帯をめぐる人々の奈良・平安時代」土曜考古学研究会 第16号 1991年9月
- 16) 註1に同じ
- 17) 古代交通研究会編『日本古代道路事典』八木書店 2004年5月
- 18) a 註13に同じ
b 註1に同じ

写 真 图 版



出土墨書土器

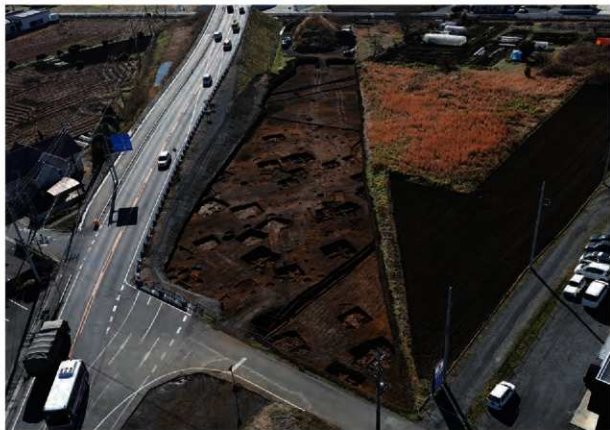


平成31・令和元年度 A区調査終了状況



平成25年度 B区調査終了状況

PL2



平成28・29年度 C区調査終了状況



平成29年度 D区調査終了状況



第3号陥し穴



第4号陥し穴



第5号陥し穴



第6号陥し穴



第7号陥し穴



第8号陥し穴



第243号竪穴建物跡 遺物出土状況



第243号竪穴建物跡



第13号竖穴建物跡 竈



第13号竖穴建物跡



第197号竖穴建物跡 遺物出土状況



第197号竖穴建物跡



第198号竖穴建物跡 遺物出土状況



第198号竖穴建物跡



第199号竖穴建物跡 遺物出土状況



第199号竖穴建物跡



第200号竖穴建物跡 遺物出土状況



第200号竖穴建物跡



第201号竖穴建物跡 遺物出土状況



第201号竖穴建物跡



第202号竖穴建物跡 遺物出土状況



第202号竖穴建物跡



第203号竖穴建物跡



第204号竖穴建物跡



第205号竖穴建物跡 遺物出土状況



第205号竖穴建物跡



第206号竖穴建物跡 遺物出土状況



第206号竖穴建物跡



第207号竖穴建物跡 竈



第207号竖穴建物跡



第209号竖穴建物跡 竈



第209号竖穴建物跡



第210号竖穴建物跡 遺物出土状況



第210号竖穴建物跡



第211号竖穴建物跡



第212号竖穴建物跡 遺物出土状況



第212号竖穴建物跡 竈遺物出土状況



第212号竖穴建物跡



第213号竖穴建物跡 遺物出土状況 (1)



第213号竖穴建物跡 遺物出土状況 (2)



第213号竖穴建物跡



第214号竖穴建物跡 竈遺物出土状況



第214号竖穴建物跡



第214・226号竖穴建物跡



第216号竖穴建物跡 遺物出土状況



第216号竖穴建物跡



第217号竖穴建物跡 遺物出土状況



第217号竖穴建物跡



第218号竖穴建物跡 遺物出土状況



第218号竖穴建物跡



第219号竖穴建物跡 竈遺物出土状況



第219号竖穴建物跡



第220号竖穴建物跡 竈遺物出土状況



第220号竖穴建物跡



第221・222号竖穴建物跡



第223号竖穴建物跡 竈遺物出土状況



第223号竖穴建物跡 掘方



第228号竖穴建物跡 遺物出土状況



第226号竖穴建物跡



第229号竖穴建物跡



第232号竖穴建物跡 遺物出土状況



第232号竖穴建物跡 竈



第232号竖穴建物跡



第233号竖穴建物跡



第234号竖穴建物跡 遺物出土状況



第234号竖穴建物跡



第235号竖穴建物跡



第236号竖穴建物跡 遺物出土状況 (1)



第236号竖穴建物跡 遺物出土状況 (2)



第236号竖穴建物跡



第237号竖穴建物跡 遺物出土状況



第237号竖穴建物跡



第238号竖穴建物跡 遺物出土状況



第238号竖穴建物跡 竈遺物出土状況



第238号竖穴建物跡



第239号竖穴建物跡 竈



第239号竖穴建物跡



第240号竖穴建物跡 遺物出土状況



第240号竖穴建物跡



第241号竖穴建物跡 遺物出土状況



第241号竖穴建物跡



第242号竖穴建物跡



第244号竖穴建物跡 竈遺物出土状況



第244号竖穴建物跡 掘方



第245号竖穴建物跡



第246号竖穴建物跡 竈遺物出土状況



第246号竖穴建物跡



第247号竖穴建物跡 遺物出土状況



第247号竖穴建物跡



第251号竖穴建物跡 竈



第251号竖穴建物跡



第252号竖穴建物跡



第1240号土坑



第1241号土坑 遺物出土状況



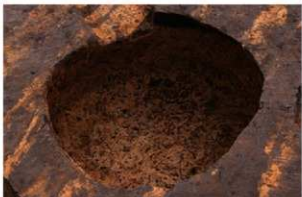
第1242号土坑



第1264号土坑 遺物出土状況



第1270号土坑



第1290号土坑



第1291号土坑



第1305号土坑



第1321号土坑 遗物出土状况



第1321号土坑



第1394号土坑 遗物出土状况



第1395号土坑 遗物出土状况

PL16



第1484号土坑 遗物出土状况



第25号掘立柱建物跡



第1651号土坑



第30号土坑



第46号土坑



第1239号土坑



第1248号土坑



第1271号土坑



第1276号土坑



第1284号土坑



第1285号土坑



第1289号土坑



第1295号土坑



第1323·1324号土坑



第1348号土坑



第1351号土坑

PL18



第1352号土坑



第1357号土坑



第1360号土坑



第1366号土坑



第1367号土坑



第1374号土坑



第1375号土坑



第1376号土坑



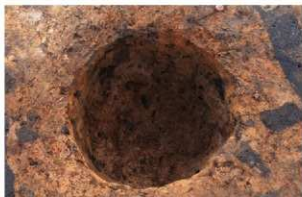
第1377号土坑



第1379号土坑



第1383号土坑



第1388号土坑



第1390号土坑



第1392号土坑



第1393号土坑



第1412号土坑

PL20



第1417号土坑



第1441号土坑



第1448·1449号土坑



第1458号土坑



第1636号土坑



第1638号土坑



第1639号土坑



第1654号土坑



第1656号土坑



第1658号土坑



第1660号土坑



第3号沟跡 遺物出土狀況



第4号沟跡 遺物出土狀況



第7号沟跡



第8号沟跡 尖頭器出土狀況

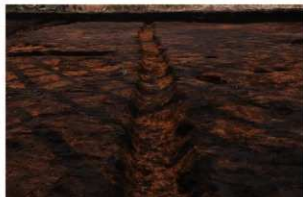


第9号沟跡

PL22



第14号満跡



第15号満跡



第24・25号満跡



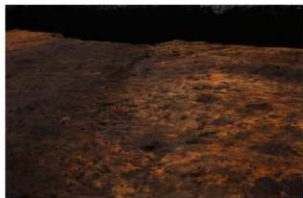
第32・33号満跡



第35号満跡



第43号満跡



第1号道路跡



第12号ビット群



第15号ビット群



第17号ビット群



第18号ビット群



第20号ビット群



第21号ビット群



第23号ビット群



第26号ビット群



第28号ビット群



第32号ピット群



第33号ピット群



第36号ピット群



第37号ピット群



第38号ピット群



第39号ピット群



第40号ピット群



第1号掘り込み遺構



PL26



第199号竖穴建物跡出土土器

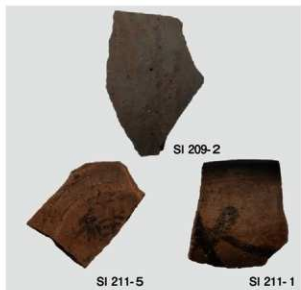


第200·201·202·204号竖穴建物跡出土土器





第206号竖穴建物跡出土土器





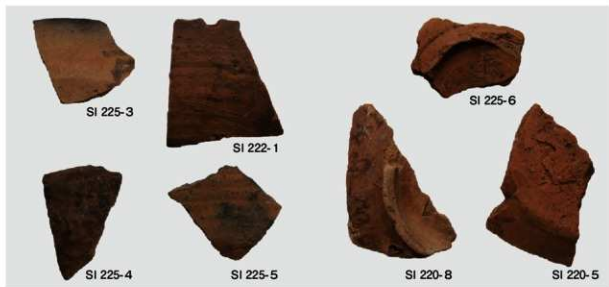
第212・213・214号 竖穴建物跡出土土器



第214·216·217号竖穴建物跡出土土器



第217・219・220号竖穴建物跡出土土器



第220・222・223・225号竪穴建物跡出土土器



第225·226·227·228·229·232号竖穴建物跡出土土器



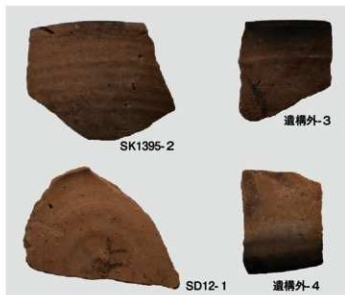


第238・242号竖穴建物跡出土土器

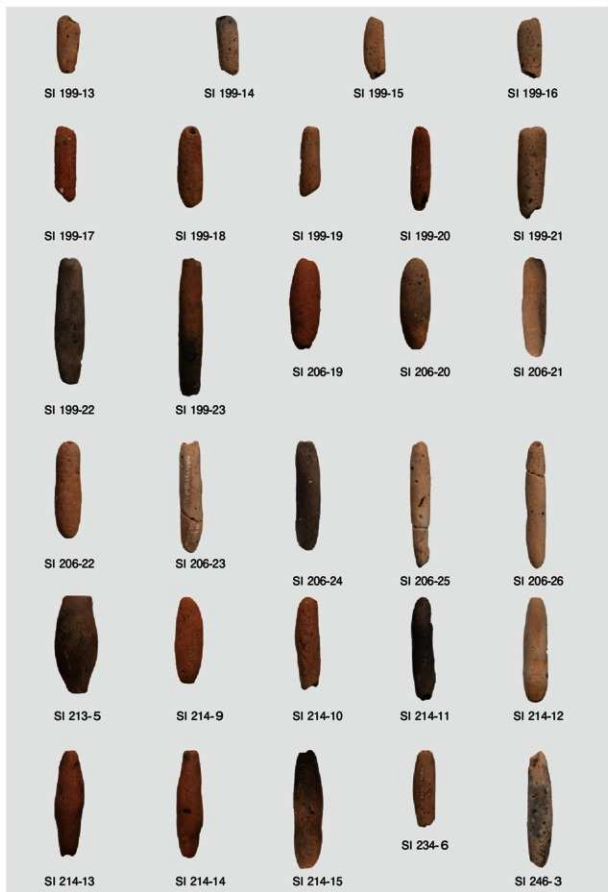


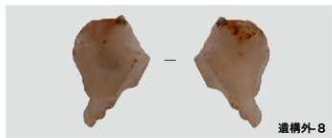
第242・244号竖穴建物跡出土土器





第246号竖穴建物跡，第1321・1395・1484号土坑，第12号溝跡，遺構外出土土器

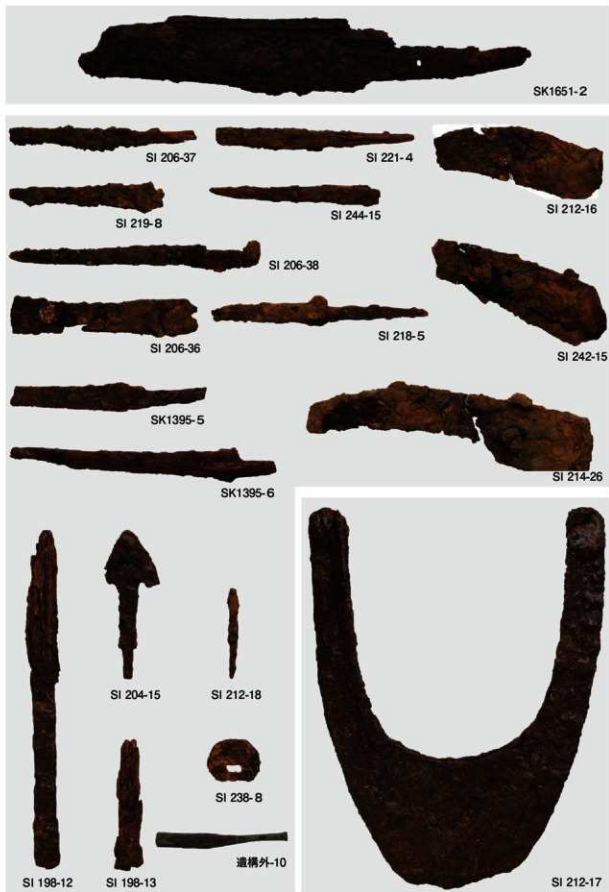




第242・251号竖穴建物跡，第1395号土坑出土土製品
 第199・212・246号竖穴建物跡，遺構外出土石器・石製品



第197・200・210・214・218・220・222・226・229・244・251号豎穴建物跡出土石器
 第198・242・246号豎穴建物跡出土椀形滓



第198・204・206・212・214・218・219・221・238・242・244号竖穴建物跡，
第1395・1651号土坑，遺構外出土金属製品

抄 録

ふりがな	しもおおがいせき2							
書名	下大賀遺跡2							
副書名	一般国道118号道路改築事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅱ							
シリーズ名	茨城県教育財団文化財調査報告第452集							
著者名	野田 良直 株式会社イビソク							
編集機関	公益財団法人茨城県教育財団							
所在地	〒310-0911 茨城県水戸市見和1丁目356番地の2 TEL 029-225-6587							
発行日	2021(令和3)年3月16日							
ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード	北緯	東経	標高	調査期間	調査面積	調査原因
下大賀遺跡	茨城県那珂市瓜連 1476-26番地ほか	08343 1 007	36度 50分 5秒	140度 44分 2秒	43 ～ 44m	20130501 20130631 20161001 20170331 20170403 20180331 20190401 20190630	1,713㎡ 1,080㎡ 6,646㎡ 2,662㎡	一般国道118号道路改築事業に伴う事前調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
下大賀遺跡	狩猟場	縄文	陥し穴 6基					
	集落跡	古墳	堅穴建物跡 1棟		土師器(坏・碗・甕)、須恵器(坏)、石器(砥石)			
		奈良・平安	堅穴建物跡 52棟 掘立柱建物跡 2棟 土坑 15基		土師器(坏・高台付坏・碗・蓋・皿・高台付皿、鉢・壺・甕・小型甕・甌・羽釜)、須恵器(坏・高台付坏・蓋・盤・鉢・壺・短頸壺・長頸壺・甕・小型甕・甌)、灰釉陶器(短頸壺)、土製品(土玉・管状土錘・紡錘車・支脚)、石器(紡錘車・砥石)、石製品(丸柄・支脚)、金属製品(刀子・鉄鎌・鎌・鋤先・釘・丸柄・鷲状工具)、椀形滓・鉄滓			
		中世	掘立柱建物跡 2棟 井戸跡 1基 土坑 1基		陶器(甕)、磁器(碗・皿)、金属製品(短刀)			
	その他	時期不明	柱穴列 1条 土坑 229基 溝跡 19条 道路跡 1条 ピット群 22か所 掘り込み遺構 1基		縄文土器(深鉢)、土師器(坏・皿・小皿)、須恵器(坏・短頸壺・甕)、陶器(甕)、金属製品(煙管)、石器(ナイフ形石器・尖頭器・鎌)			
要約	奈良・平安時代の堅穴建物跡を52棟確認した。堅穴建物跡は調査区域北部に集中しており、集落の南部域にあたる。堅穴建物跡からは、墨書土器・ヘラ記号のある土器などが出土している。文字の内容は吉祥句や方位・記号を含めた文字などを意味するもので、地域の集落様相を考察する上で、貴重な資料になると考えられる。							

印刷仕様

編集	OS	Microsoft Windows 10 Pro
	編集	Adobe InDesign CC 2020
	図版作成	Adobe Illustrator CC 2020
	写真調整	Adobe Photoshop CC 2020
	Scanning	EPSON DS-G20000
使用Font	OpenType	リュウミンPro L-KL, 太ゴB101 Pro Bold 中ゴシックBBB Pro Medium
写真	線数	カラー210線以上
印刷	印刷所へは,	Adobe InDesign CC 2020でデータ入稿

茨城県教育財団文化財調査報告第452集

那珂市

下大賀遺跡 2

一般国道118号道路改築
事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅱ

令和3(2021)年 3月16日 発行

発行 公益財団法人茨城県教育財団
〒310-0911 水戸市見和1丁目356番地の2
茨城県水戸生涯学習センター分館内
TEL 029-225-6587
HP <http://www.ibaraki-maibun.org>

印刷 株式会社高野高速印刷
〒310-0035 水戸市東原2-8-1
TEL 029-231-0989